

國東瀨波郡の東北部。中田町の南に接し東は射水郡に界す。庄川の支流南流に貫流し、村内低き丘陵をなし西に傾斜して瀨波平野に續く。農業を主産業とし米を産す。副産として養蠶行はる。この地は和名抄、瀨波郡小野郷の内なるべく、中世は中田町・般若村・北般若村・南般若村・東般若村・梅樺野村・梅樺山村・細瀬村及び大里村と共に般若野庄に屬す。天文以後は梅樺野と稱せり。般若野庄名は早く東鑑にも見え、承久の亂に北條朝時が兵を鶴後に集め、上京の途、此所に陣せしことあり。

ハンノ

飯能町 埼玉縣武藏國入間郡の西部。名栗川に沿ふ。大部分山地にて北部に多峰山(二七一米)あり。南境もまた約二〇〇米の山地にて南北より町内に傾斜し、町の中央はその割合にて名栗川東流す。東部に至りて川沿ひに稍平地開け、主要部落はこの部分に發達す。農業行はれて米・麥を産するも、主なる産業は養蠶・織物業にして、絹及び絹織物・絹織物の産多し。飯能は町の東部より四方に通じ、社線武蔵野鐵道は東部を北走し、飯能驛(大正四年設置)・天覽山驛(昭和六年設置)を置く。また東南兩加治村に各線八高線の東飯能驛あり。飯能は一に判乃に作り、武蔵七黨の丹黨に列乃氏あり、同氏は高麗親家の第三子に出で此地に住せり。大字中山は丹黨中山氏の居住せし所にして智恵寺はその氏寺なり。

なり。初め北條氏に仕へ、子孫徳川氏に仕へ、信吉の時水戸の藩附家老となり明治に至れり。幕末の勤王家、小川香魚(贈從五位)は本町の人。明治十六年、明治天皇、近衛諸兵衛期小澤習天覽の爲め、能仁寺裏山に御野立あらせらる。(天覽山)本町にあり。海拔一九五米、松・杉・檜などの樹木鬱蒼として茂り、登路には鏡岩・獅子岩等の奇岩あり、十六羅漢の石像を安置す。頂上に登れば背後に秩父の連山を控へ、前面は平野の眺望廣し。もと羅漢山と稱せしが、明治天皇特別演習を觀覽し給ひてより天覽山と改む。頂上にその記念碑あり。中腹の寒地には駒繋の松、手植の金松等あり。

ハンハ

伴波(國) 朝鮮國の古地名。考紀羅禮天皇の七年紀にその名見ゆ。蓋し任那の地にて、いま其地は慶尙南道蔚津江の上流の左岸、百濟の國に接する地を稱せしなるべし。

ハンバ

半原 愛知県(海部郡)の地名。板倉(國) 朝鮮江原道原州郡の中央より稍南部、郡邑原州の南東に隣接す。東部に車嶺山脈に屬する南嶽峰(一一八二米)等が一大障壁を成して相連り、南境には白雲山(一〇八七米)聳えて漸次西北方に低下し、西北部は蔚津の原州平野の一部を成し、地味肥沃にして農業行はる。産物には米・大豆・小豆・蕎麥・胡麻・黄蘗等あり。道路は原州より

東南方堤川に通ずる三等道路の略中部を斜走し、また原州より忠州への二等道路西北部を通じ兼合自動車の便あれども東南一帯は山岳地帯にして險峻にして交通不便を免がれず。蘆葦密度は極めて疎にして西北部低地に僅に散在するに過ぎず。堤川街道沿ひの丹那里は藍色にしてまた文劇あり。

ハンベン

半邊川 朝鮮慶尙北道東北部を流るる河。洛東江支流。上流に二あり、一は英陽郡の北境に近き日月山(一一一九米)に發源して南流して英陽・眞寶を過ぎ、二は青松郡の東南隅に發し北流して青松を過ぎ、此等反對の方向に流れる二川は青松・安東兩郡界にて合流、次で西方に蛇曲流し方より吉安川を入れ安東邑の南部に於て洛東江に合す。大白山脈南縁の山地を開析するを以て沿岸平地に乏しく、上流に亞硫酸(七寶嶺山)・金・高嶺土等の礦産あり外、著しき地産なし。毎夏雨季には沿岸層々氾濫し交通の杜絶すること稀ならず。

ハンホ

反浦 朝鮮忠清南道公州郡の東南部、郡邑公州の東方約一〇軒。東西南の三面は車嶺山脈を以て圍繞し、北部は錦江に臨みて稍廣き低地帯はる。即ち東境には雨倉峯(五七四米)・道徳峯(五三三米)等相連り、西境には明徳山(三二七米)・鶴龍山(八二八米)、南境には冠岩山(五六二米)等聳えて南中部は山岳重疊し、殆んど低地無し。住民は農業を主として、

ハンホク

坂北(郡) 坂井郡 漢江中流の山。忠清北道鎮川郡の西境に近く聳え、標高六一二米。

ハンライ

萬嶺山 朝鮮の中部、車嶺山脈中の山。忠清北道鎮川郡の西境に近く聳え、標高六一二米。

ハンラン

萬嶺山 朝鮮の中部、車嶺山脈中の山。忠清北道鎮川郡の西境に近く聳え、標高六一二米。

ハンロク

半路竹 踏竹庄(臺灣) 漢江中流の山。忠清北道鎮川郡の西境に近く聳え、標高六一二米。

ハンロテン

半路店 集々庄(臺灣) 漢江中流の山。忠清北道鎮川郡の西境に近く聳え、標高六一二米。

ハンワ

阪和電氣鐵道 社線。大阪府より和歌山に至るを以て此名あり。大阪府天王寺區醍醐町の寺線西本線天王寺驛に隣接する阪和天王寺驛より南西に向ひ和歌山吉田の阪和東和歌山驛に至る六一・二軒を本線とし、大阪府泉北郡鳳町の鳳驛より堺市にある阪和濱寺驛まで一・六軒の支線あり。軌間一・〇六七米にて電氣・蒸氣動力運轉、省線とは連帶運輸をなす。この鐵道は社線南海鐵道と同様に大阪方面より和歌山に社線の紀勢西線方面に行くに便宜にて、南海鐵道より一層山側を通る。紀州方面の交通が開發するに從ひ、大阪地方より白濱方面及び勝浦地方に行くには南海鐵道と共に、今後この鐵道を利用する人も増加するものと思はる。現在にても天王寺・東和歌山間には數多の急行電車が運轉し、約一時間にて到着す。沿線の仁徳御陵前驛の西方一〇〇米ばかりには、仁徳天皇御陵があり、また濱寺は海水浴場として名高し。

り。往昔はマカオ・オ族の居住する地なりしが、康熙中葉以後嘉應州の粵人相次で渡來し、謂ゆる六地部落の先鋒地として發展せり。領臺後臺南縣・臺山縣・阿緬廳等に屬せしが大正九年制度改正と共に高雄州潮州郡の管轄に編入され以て今日に及ぶ。産業は農業を宗とし米(一、二期の作付面積三千甲)七十萬圓、甘蔗三十萬圓、甘蔗七萬圓、養蠶額五萬圓、芭蕉十二萬圓、其他果實等、林産は竹材・薪等三萬圓、畜産は牛二十萬圓、豚十四萬圓其他家禽類等、工業は精米・瓦・煉瓦等九萬圓なり。(萬金天主堂)赤山字萬金にあり。成豐九年(一八五九年)マニラより派遣されたる天主教ドミニコ派の宣教師サインズ(Sainz)の開基(一八六二)に地に傳り、同治八年(一八六九)に至りヨロメル師(Cocher)によりて現在の會堂建設せられたり。留臺布教に従事せしを以て、附近善信間に信徒極めて多し。

ハンリ

盤龍山 關東州旅順市の東北方の山。日露役の戦蹟として知らる。これに東堡壘・西堡壘・北堡壘あり、東堡壘は、明治三十七年八月二十一日我が第九師團及び後備歩兵第四旅團の一部隊を以てこれを攻撃し、翌二十二日占領せし處にて、西堡壘の戦ととも、二百三高地戦に次ぐ激戦地なりき。西堡壘は同じく八月二十二日我が第九旅團の一部がこれを攻撃して同日占領し、北堡壘は

は林山と呼ばれ、饒頭形の山の中腹に懸崖があるため斯く呼ばれしものにて明治三十七年十月十六日第九師團の一部隊を以て攻撃し、二十六日にこれを占領せり。

ハンロ

番路庄 臺灣臺南州嘉義郡の東部山地に位置す。東部は臺南州下の蕃地にして、中央山脈の餘脈南北に通互し北は竹崎庄に、西は嘉義市、西南は中埔庄に、南は大埔庄に夫々隣接す。管内は修内山地にして高山屹立し、平地は僅に管内より來りて西に中埔庄との境を流る、八掌溪(八掌溪)の沿邊に是を見らるのみ。産業の主なるものは農業・畜産業。工業にして、農業は其の大宗を占め、米・甘蔗・甘藷を主産し、また鳳梨は此地の特産なり。工業に於ては、管内に豊富なる竹を利用する竹紙製造盛んなり。交通は地勢上、西部嘉義市に接する地方に發達するのみにして、概して不便なるを免れず。本庄名なる番路は、もと番仔路と稱し、往時此地が阿里山蕃に通ずる要路に當りしを以て名付けしところなり。大字觸口の地は乾隆末年、漳州人の手により拓かれ、公田の地には番人通事の草寮を營む者ありしが、概して此地方は番人の外迫と匪徒の内侵とにより永住の移民少なく、道光年間に入りて漸く永住する者出でたり。我が領臺後、清朝の遺制を襲用して本庄一帯の地は嘉義東堡に屬せしめしが、大正九年十月地方制度改正

に際し、本堡中の七庄を探りて一庄を建て、番路庄とし、臺南州嘉義郡の管轄下に屬せしめたり。(紫雲寺) 半天岩山脈に在り。觀音佛を祀る。附近の險絶絶佳なり。

ハンロチク

半路竹 踏竹庄(臺灣) 漢江中流の山。忠清北道鎮川郡の西境に近く聳え、標高六一二米。

ハンロテン

半路店 集々庄(臺灣) 漢江中流の山。忠清北道鎮川郡の西境に近く聳え、標高六一二米。

ハンワ

阪和電氣鐵道 社線。大阪府より和歌山に至るを以て此名あり。大阪府天王寺區醍醐町の寺線西本線天王寺驛に隣接する阪和天王寺驛より南西に向ひ和歌山吉田の阪和東和歌山驛に至る六一・二軒を本線とし、大阪府泉北郡鳳町の鳳驛より堺市にある阪和濱寺驛まで一・六軒の支線あり。軌間一・〇六七米にて電氣・蒸氣動力運轉、省線とは連帶運輸をなす。この鐵道は社線南海鐵道と同様に大阪方面より和歌山に社線の紀勢西線方面に行くに便宜にて、南海鐵道より一層山側を通る。紀州方面の交通が開發するに從ひ、大阪地方より白濱方面及び勝浦地方に行くには南海鐵道と共に、今後この鐵道を利用する人も増加するものと思はる。現在にても天王寺・東和歌山間には數多の急行電車が運轉し、約一時間にて到着す。沿線の仁徳御陵前驛の西方一〇〇米ばかりには、仁徳天皇御陵があり、また濱寺は海水浴場として名高し。

ヒ

ヒ 火國 書紀・神代紀の伊弉諾・伊弉冉の二尊の生みませる大八洲國の中に筑紫國あり。四面ありてその一を火の國といふ。火の國と稱する根據につきては、

ヒ 皮島 島嶼(朝鮮)の別稱。東萊城郡と鹿島郡に跨る。水面は東西に長く面積は二・七五〇方軒、湖岸線は長は二四・八〇軒を算し湖岸は砂濱或は蘆芽に掩はれたる部分多し。北部の石

ヒ

ヒ 樋島 朝鮮西部海岸、大同江口に位する島。實海道股栗郡二道面の北端にイヌ角と相なること一軒なるも、行政上は平安南道龍岡郡新寧面に属す。島とコイヌ角との間は避島水道と稱し、水深く

ヒ 飛騨 朝鮮全羅南道光山郡の北部に位置し、光州府の西北約一〇軒。光州平野の一部を成し土地低平にして地味肥え、梁山江による灌溉の便ありて重要農業地帯をなす。産物には米・大豆・大豆・小豆・棉花・麻等あり、殊に米は品質優良にして光州米として内地に移出せらる。其他煤成金・銀・銅・鉛等ありて金・銀又は砂金を出す。總督府鐵道慶全西部線南部を通じて新羅江(大正十一年設置)あり、道路は東部を京城・木浦間一等道路敷設し、また西政の中心飛騨里を核として湖南線松汀里・林谷驛及び潭陽邑に各三等道路を通じ、何れも道路に

ヒイサキ 比井崎村 和歌山縣紀伊國日高郡の西岸に位する小嶺地。御坊町の西北三軒餘。紀伊水道の東南端に面し、東北約三軒に由良港あり。全村山地をなし東境に東高坪山(二一八米)、西山(三二九米)等聳ゆ。西岸は屈曲に富み西北部に方統崎、中央に小浦崎・南浦に龜出ノ鼻等あり、中間に比井港を抱く。灣心に中嶺の島存ぶ。南西端には三尾村に近く日ノ山(二〇二米)聳りて其先端は日ノ御崎となる。米・薪・柑橘等農産の外に林産・工業・畜産等あれど工業類著し。中部には比井港より東走する鐵道ありて御坊町へバス通ず。大字阿尾に神功皇后御上陸の時針を杖に突かせ給ひし所と傳ふる針突あり、大字産物の産湯井は武内宿禰田皇子を守り此處にて産湯を上れりといふ。また村内に古墳穴多く、早くより文化の開けし處なるべし。日ノ御崎は日ノ山の謂にて王朝の盛時に烽火を置きし址なりといふ。中世は三尾莊に屬せる地なり。(王子神社)大字比井に御座。村社。祭神、天照大神・伊弉冉命外九柱。社賣の銅鐘筒一口は國寶。

ヒウカ 美深町 北海道天鹽國上川支廳中川郡の中部。天鹽川の上流に沿ひ南は智恵文村を経て名寄町に至る。東北はシアクシ山(九〇三米)を以て宗谷・網走兩支廳と界し、北は常盤村に接す。

ヒ

ヒアン 比安面 朝鮮慶尙北道義城郡の中西部、郡邑義城の西方約一五軒。一般に花崗岩の露岩による老年期の丘陵地帯を成し、渭川流域を除きては平地少きも、丘陵面及び傾斜面はよく開墾せらる。住民の多数は農業に従事し、副業として養蠶・養豚をなす。産物の主なるものは大豆・粟にして米及び大麥をも多少産す。其他棉花・烟草・莞草等の特用作物あり。道路は郡邑比安を中心として四通八達し道路網極めて密なり。殊に東方義城、南方軍威、西方洛東等は三等道路により連絡し交通比較的便なり。兼務は普遍的に分布し、渭川左岸に比安あり、大正三年まで比安郡屬ありし地にて、除層二・七の日に開く市場は附近に見る活況を呈す。

ヒイ 肥伊 肥後(熊本縣)の古地名。日本後紀・延暦十八年に宇陀郡肥伊牧を停むと見ゆ。その地いま宇陀郡内牧村大字牧の地なるべし。【肥伊】肥後(熊本縣)の古地名。和名抄に八代郡肥伊郷あり。その地今の八代郡野津村宮原町・有佐村・羅山村等に當る。

ヒイ 毗伊 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に早良郡毗伊郷あり、その地今の福岡市の一部に當る。

ヒウチ 燧 尾瀬沼の北岸、福島縣南會津郡楡枝岐村に屬す。標高三四六米。この山の北麓は大杉山(九二二米)を経て會津駒ヶ岳(二二二二米)に連り、西方は中ノ岳(二〇八五米)、最後駒ヶ岳(二〇〇三米)等利根川水源東岸の山々に續き、また東方は槍高山(一九三二米)・鬼怒沼山(二四一三米)に連り、南麓に尾瀬沼を湛へ、西方に尾瀬ヶ原を横げ、植物景觀上見るべきもの多し。山は圓錐形をなし山頂は三峰に分れ、東峰に三角點及び小祠あり、この峰を倭人祖 嵩と稱す。南峰に巨岩

ヒイ 斐伊

【斐伊川】島根縣の東北部、仁多・飯石、大原の三郡の水を集めて宍道湖の西部湖頭に注ぐ川。仁多郡の東部鳥取縣境の船通山(一四三米)の西側斜面の水を集めて横田盆地に入り、南方三國山の北側に發源する室原川を合す。これより西方に嵌入自注して同郡三成村の中閑盆地に入り、左岸に馬木川を入れて西北に流る。温泉村に來りて阿井川及び一小流を左岸に入れ、これより流路を轉じて北流し、大原・飯石二郡の地上を走り、左岸に三刀屋川、右岸に赤川を入れて、西北に流路を轉じて飯川郡に入り間もなく飯川平野に出づ。ここにて同じく宍道湖に注ぐ新川を分派し、北に向ひ高根村附近より東流し、ここに宍道湖を埋没して三角洲沖積平地を形成し、宍道湖に入る。流程約七〇軒、流域面積約一五三〇方軒。新川は宍道・今市間の斷崖崖下に沿うて流れ、その北に二十間川・定川等の分流あり。この沖積地には米作の外に、大根・茄子等の蔬菜類、柿・梨・葡萄等の果樹の栽培、養蠶、製糸等の工業も行はる。川島より下流はもと西方料葉海岸に流出せしが、寛永十二年の大洪水により東流せしものなり。新川はその治水のため開墾せしものにして、勇斷・馬木の土石堰は河道の變更に備へしものなり。この川はもと日本書紀に飯川、古事記には肥河、風土記は斐伊川に作る。粟津嶋尊が朝鮮

ヒイ—ヒウチ

より歸られ島上山に至りたまひしは蓋しこの川を流りしものなり。

【斐伊村】島根縣出雲國大原郡の西部。斐伊川東岸に沿ひ、南は木次町、北は加茂町、西は川を隔てて飯石郡三刀屋町に開まる。北部・南部は丘陵をなし、中部に東西に細長く低地開け、西境に沿ひて斐伊川北流す。中央にて對岸より三刀屋川合す。米・麥・工業・林産・畜産あり。西北部に鐵道通じて加茂町・三刀屋町を連絡し中央の谷には省線木次橋横走し西部にて南に折れ村内に木次驛(大正五年設置)あり。この地は和名抄、大原郡斐伊郷の地か。出雲風土記には「斐伊郷、屬郡家、稱連日子命坐此處、故云稱、神龜三年改字斐伊」と見ゆ。また出雲風土記に「菟原野、郡家正東、即屬郡家」とある。菟原野は本村の大字里方・山方附近の野を指せるもの如し。もと木次村に屬せしが明治廿四年獨立し、古への地名に因み、斐伊村と名づく。(斐伊神社)大字里方に鎮座。祭神、須佐之男神外二柱。社記に須佐之男命の川上に至り、八俣大蛇を斬り給ひしもの、稻田比賣命と共に宮所を覓め給ひし時、此地に假の宮所を造り給ひしを以て、のち二神を此處に奉祀せりといふ。式内小社に列す。例祭、十月十日。

ヒイガワ 樋井川

福岡縣糸島郡にありし村。昭和四年、原村と共に廢し、その區域を福岡市に編入す。

黒々として薪火口あり。山麓及び山腹は原生林にて掩はれ、一九〇〇米附近より灌木帯をなし、その上部は岳樺・ミヤマハンノキ等多く生育す。山頂附近にはハヒマク・シヤクナガ・ツガザクラ・コクモモ・小イハカガミ等の高山植物を見る。山頂なる三峰間の樺火口よりは温澤流出し、北西流して只見川に注ぐ。頂上よりは南東方に日光白根山・奥日光の山々を望み、北方は會津駒ヶ岳より遠く磐梯山まで視野に入り、北西方は脚下に只見川の峡谷を見下し、その彼方に平ヶ岳を経て中ノ岳・越後駒ヶ岳・八海山等上越國嶺の山々を眺め、南西方は尾瀬ヶ原を隔てて五佛山に對し、南方は脚下に尾瀬沼の銀盆を俯瞰す。この山は尾瀬探勝者の好んで登る所にして、登山路は上越線沼田驛より九沼まで乗合自動車、それより三平峠(最高點一七六二米)を越えて長蔵小屋に至り、小屋より約五折、三時間以内にて登頂す。うち二折、沼尻川沿いに平坦なる道なり、それよりナダクノ澤に沿ひて登高す。又西方尾瀬ヶ原温泉小屋方面よりは約四時間にて登頂す。冬季登山は長蔵小屋を根據地として行はれ、山腹の林間には到る處スキーの滑走に適する斜面あり。

【火打岳】 鳥海火山脈の月山火山群の一峰。主峰月山(一九二四米)の北約一三軒に當り、山形縣最上部角川村と東田川郡立谷澤村との境界に跨る。標高約一〇〇〇米、山腹火山岩より成る。南西方に虚空蔵岳(二〇九〇米)並峙す。
【火打山】 富士火山帯妙高火山群の一峰。新潟縣西頸城郡上早川村と中頸城郡野村・彌山村との境界に跨る。標高二四六二米。東南に妙高・赤倉山あり、西北には岩手山・不動山、北に空澤山・放山あり。西には焼山・雲間山・金山・天狗原山等あり。輝石安山岩より成り、周圍には火山重疊せるを以て圓錐形をなさず。山頂の東北、矢代川の支流には急崖にて昇られたる凹地あり、カールの如くに見ゆ。その南に高谷池・黒澤池の高原平地あり。山頂の北側にはガレー著しく、登山には危険にして、南の鍋倉谷、東の妙高山、西の焼山より峰頂に行くとを得るも、案内者を要す。
【火打山】 鹿野半島の東岸に近く、高知縣高岡郡上ノ加江町と久禮町との境界に跨る山。標高五九一米、山腹白亜層より成る。南段に四道峠最高點(三八七米)連なる。

【日浦村】 廣島縣安藝國安佐郡の中部。太田川の右岸に沿ひ、廣島市の北方約六軒。丘陵・山地に跨る處に起伏し、東段に阿生山(五八六米)聳ゆ。中央は樺火口遺蹟を有し、樹野を長く曳く。
【比叡山】 京都市(二一九五頁)
【比叡山】 社線銅索。滋賀縣滋賀郡坂本村の坂本驛より同村の叡山中堂驛に至る二・〇軒。所要時間十一分、比叡山登山者に利用さる。昭和二年營業開始。軌間一・〇六七米、省線と連絡運輸せず。
【美珠村】 北海道石狩國上川支庁上川郡の西南部。神樂村を隔てて北に旭川市と對し、南に上富良野村、西に空知支庁、東に十勝支庁と界す。面積六七・八五方軒。オプタシケ山(二〇五二米)・十勝岳(二〇七七米)等の群峰東部を歴し、西境また千米に近き踏山連互す。村内概ね山嶽地帯をなすもやや西北に傾く。東部山中に發したる諸川は合して美珠川となり北流す。流域に平坦地存し、耕地拓けて市街發達す。馬鈴薯・米・除蟲菊・甜菜・大豆・澱粉・煉乳等の産多く、また木材・牛・馬を産す。省線富良野線南に貫通し、美珠(大正十五年設置)・美馬牛(明治三十二年設置)の二線を置く。本村は大雪山國立公園の内なり。
【美珠岳】 十勝連峰オプタシケ山脈の一峰。北海道十勝支庁新得町と上川支庁美珠村との境界に跨る山。標高二〇五二米。北段に續く一八八一米峰を美珠富士といひ、南西段に十勝岳(二〇七七米)連る。これ等の間に縱走路通す。山頂部に

山間に小盆地あり。北段に沿ひて太田川東南流す。農業を主として産物に米・麥・用材・薪炭材等あり。又園草・農表の特産あり。河谷に沿ひて縣道走り廣島市及び東方可部町にバス通す。村名はこの地山間にありて日の裏、即ち日照る時の少きに依りかく名付けしものといふ。
【日枝村】 滋賀縣近江國愛知郡の西北部。愛知川村の東北に接し北は太田郡と界す。全村地形低平にして西境に沿ひ河川西北流す。農業を主とし米・麥・穀肥用作物・繭・桑葉・菜種・桑苗等を産し水産・林野産物もあり。中山道中部を東北より西南に横断し之と中央にて十字路をなす街道本村を貫く。社線近江鐵道中部を横断して豊郷驛は東境に接して隣村にあり。この地は和名抄、愛智郡長野郷の内なるべし。大字高野瀬は中世六角氏の將高野瀬氏の居りし處。日枝はもと枝にも作る。(愛知神社) 大字吉田に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命外二柱。社傳に開化天皇の高惠智王の創祀なりといふ。例祭、四月十六日。(天稚彦神社) 大字高瀬に鎮座。郷社。祭神、天稚彦命。延喜式の輕野社に擬せられ、光仁天皇の天應元年の創祀にかかる。例祭、四月十二日。
【比叡】 京都市東北部に當り略南北の方向に長く山脈の稱。東方は琵琶湖に面し、西方は高野川の構造谷を隔てて丹

波高原に對し、その南方には京都市街發達す。北部は和通川を以て比良山脈と界し、南方は天津・山科の丘陵性山地となり、甲賀の地塊に連る。之を全體的に見て一箇の地塊山地なり。即ち東部琵琶湖に面する斜面は複雑なる斷層崖にて、山地より流出する河川は大小の扇狀地を湖岸に發達せしむ。西部の高野川の河谷は略南北の直線的流路を有し、龍華峠を感えて北方は安曇川上流の南北性直線流路に連り、若狭灣沿岸に發達する構造系統と結ばる。なほ高野川南部は京都市の東邊を過ぎ、木津川の中流より奈良盆地の附近に發達する南北性の構造系統に連絡さる。この地溝線は京都の地震に關係深く、殊に寛文二年の地震はこの線の活動にて市内の商家数千戸に達し、伏見城等の崩壊を起せりといふ。貞元元年・文治元年・慶長元年等の地震も同様にこの地溝線の活動と稱せらる。比良山脈とは安曇川によりて分離せらるるが、本質的には同一系統の地塊山地にて、その地質を見れば、古生層とこれを貫く黒雲母花崗岩とより構成せられ、地塊の上部には浸蝕面殘留す。比叡山は山脈の中部に位置し標高八四八米、山頂に延暦寺あり。北方には三石岳(六七六米)・横高山(六九二米)・水井山(七九四米)、南方には大字山(四六六米)・如意ヶ嶽等あり。高野川に沿うては教習街道發達し湖岸には江若鐵道あり、比叡山には東西兩斜面より電

車及びケーブル等設けられ遊覽客の便を圖る。

【比叡山】 京都市(二一九五頁)
【比叡山】 社線銅索。滋賀縣滋賀郡坂本村の坂本驛より同村の叡山中堂驛に至る二・〇軒。所要時間十一分、比叡山登山者に利用さる。昭和二年營業開始。軌間一・〇六七米、省線と連絡運輸せず。

【比叡】 京都市東北部に當り略南北の方向に長く山脈の稱。東方は琵琶湖に面し、西方は高野川の構造谷を隔てて丹

波高原に對し、その南方には京都市街發達す。北部は和通川を以て比良山脈と界し、南方は天津・山科の丘陵性山地となり、甲賀の地塊に連る。之を全體的に見て一箇の地塊山地なり。即ち東部琵琶湖に面する斜面は複雑なる斷層崖にて、山地より流出する河川は大小の扇狀地を湖岸に發達せしむ。西部の高野川の河谷は略南北の直線的流路を有し、龍華峠を感えて北方は安曇川上流の南北性直線流路に連り、若狭灣沿岸に發達する構造系統と結ばる。なほ高野川南部は京都市の東邊を過ぎ、木津川の中流より奈良盆地の附近に發達する南北性の構造系統に連絡さる。この地溝線は京都の地震に關係深く、殊に寛文二年の地震はこの線の活動にて市内の商家数千戸に達し、伏見城等の崩壊を起せりといふ。貞元元年・文治元年・慶長元年等の地震も同様にこの地溝線の活動と稱せらる。比良山脈とは安曇川によりて分離せらるるが、本質的には同一系統の地塊山地にて、その地質を見れば、古生層とこれを貫く黒雲母花崗岩とより構成せられ、地塊の上部には浸蝕面殘留す。比叡山は山脈の中部に位置し標高八四八米、山頂に延暦寺あり。北方には三石岳(六七六米)・横高山(六九二米)・水井山(七九四米)、南方には大字山(四六六米)・如意ヶ嶽等あり。高野川に沿うては教習街道發達し湖岸には江若鐵道あり、比叡山には東西兩斜面より電

波高原に對し、その南方には京都市街發達す。北部は和通川を以て比良山脈と界し、南方は天津・山科の丘陵性山地となり、甲賀の地塊に連る。之を全體的に見て一箇の地塊山地なり。即ち東部琵琶湖に面する斜面は複雑なる斷層崖にて、山地より流出する河川は大小の扇狀地を湖岸に發達せしむ。西部の高野川の河谷は略南北の直線的流路を有し、龍華峠を感えて北方は安曇川上流の南北性直線流路に連り、若狭灣沿岸に發達する構造系統と結ばる。なほ高野川南部は京都市の東邊を過ぎ、木津川の中流より奈良盆地の附近に發達する南北性の構造系統に連絡さる。この地溝線は京都の地震に關係深く、殊に寛文二年の地震はこの線の活動にて市内の商家数千戸に達し、伏見城等の崩壊を起せりといふ。貞元元年・文治元年・慶長元年等の地震も同様にこの地溝線の活動と稱せらる。比良山脈とは安曇川によりて分離せらるるが、本質的には同一系統の地塊山地にて、その地質を見れば、古生層とこれを貫く黒雲母花崗岩とより構成せられ、地塊の上部には浸蝕面殘留す。比叡山は山脈の中部に位置し標高八四八米、山頂に延暦寺あり。北方には三石岳(六七六米)・横高山(六九二米)・水井山(七九四米)、南方には大字山(四六六米)・如意ヶ嶽等あり。高野川に沿うては教習街道發達し湖岸には江若鐵道あり、比叡山には東西兩斜面より電

【比叡山】 京都市(二一九五頁)
【比叡山】 社線銅索。滋賀縣滋賀郡坂本村の坂本驛より同村の叡山中堂驛に至る二・〇軒。所要時間十一分、比叡山登山者に利用さる。昭和二年營業開始。軌間一・〇六七米、省線と連絡運輸せず。
【美珠村】 北海道石狩國上川支庁上川郡の西南部。神樂村を隔てて北に旭川市と對し、南に上富良野村、西に空知支庁、東に十勝支庁と界す。面積六七・八五方軒。オプタシケ山(二〇五二米)・十勝岳(二〇七七米)等の群峰東部を歴し、西境また千米に近き踏山連互す。村内概ね山嶽地帯をなすもやや西北に傾く。東部山中に發したる諸川は合して美珠川となり北流す。流域に平坦地存し、耕地拓けて市街發達す。馬鈴薯・米・除蟲菊・甜菜・大豆・澱粉・煉乳等の産多く、また木材・牛・馬を産す。省線富良野線南に貫通し、美珠(大正十五年設置)・美馬牛(明治三十二年設置)の二線を置く。本村は大雪山國立公園の内なり。
【美珠岳】 十勝連峰オプタシケ山脈の一峰。北海道十勝支庁新得町と上川支庁美珠村との境界に跨る山。標高二〇五二米。北段に續く一八八一米峰を美珠富士といひ、南西段に十勝岳(二〇七七米)連る。これ等の間に縱走路通す。山頂部に

は樺火口遺蹟を有し、樹野を長く曳く。
【ヒエジマ】 稗島 大阪府西成郡にありし村。大正十一年町となり、同十四年大阪市西淀川區に編入す。
【ヒエシヨ】 比延庄村 兵庫縣播磨郡多可郡の東南部。佐治川の東岸に沿ひ、川を隔てて西は西脇町にして南は加東郡、東は多可郡、東北は水上郡とそれぞれ界す。西光寺山(七三三米)東南境に聳え、これより山脈は東北及び西南に連りて東境より南境を限り、南部にてはその山地より山間西方及び北方へ延びて横がる。北境には約六〇〇米の山脈東部より西南に連りて村境を劃す。西境に佐治川ありて南流し西部中央に廣き低地開く。米・麥・繭・果實等の産物の外に畜産・林産・水産及び水産養殖もあり、又工業類著しく木製品・針・瓦物等あり、外に瀧海産の特産あり。西部に縣道及び社線播磨鐵道通じて北延驛(大正十三年設置)あり。播磨風土記にその名見え、應神天皇靈し給へりといふ伊夜丘は本村の邊ならんといふも詳かならず。(緯度標) 大字上比延字戸谷にあり。緯度標と通稱さるるも、實は緯度交叉又標なり。石橋を繞らし、南面に入りを設く。中央より北に偏して高さ三米餘の石標立ち、その表面即ち南面に東經百三十五度北緯三十五度交叉點海抜六十三米標識と刻まれ、左側面に爲學創領布五十周年記念、右側面に大正十二年十月多可郡教育會建

之、裏面に測量者陸地測量所小野原次郎間大野幸太郎等の文字あり。緯度度の交叉を示せるものは、石橋前に存する花崗岩柱の頂部に於ける十字形にして、この石柱の高さ約六〇〇あり。石橋内の松・紅葉・木斛等の樹木は御成婚記念に植栽せられしものなり。石橋の外、入口に接近して白ペンキ塗られたる木製の四方の標識に、緯度標東經一三五度北緯三五度交叉點と標字にて記し、正面に度の字の代りに〇を用ふ。この石柱は旅客の注意を惹くため播磨鐵道會社が大正十四年に建設せしものなり。東經百三十五度の測量は古く行はれ、今明石市の丸山山上に存する子午線通過地標識の示す緯度は誤差ありて同一のものにあらず。
【ヒエスクリ】 稗造村 石川縣能登郡羽咋郡の北部。富來町の東北に隣り、北は鳳至郡に接す。鳳至山地の一部にして全村丘陵起伏し、北部に發源せる富來川中央を西南に流れ、富來町にて日本海に注ぐ。西南部河岸に平地少しあり耕地開く。米を主産物とし、林業・養蠶を副業とす。谷沿に中央を貫通する縣道あり富來町・鳳至郡穴水町間バス往來す。この地は和名抄、羽咋郡穴水郷の内なるべし、もと稗造庄と稱せし地、村名は蓋し庄名の遺稱なるべし。
【ヒエタ】 稗田村 福岡縣豊前國京都郡の中部。行橋町の西南部に接しやや南に延長し。南境には二〇〇—二五〇米

程度の高野川に連り、西北部にも小丘陵ありと中部より東北部にかけては平野開け西北部丘陵の麓を繞りて狭川東流す。米・麥を産す。南部には縣道東西に連りてバスの往來あり。省線田川線豊津驛へは東方一軒餘を距つるのみ。この地は和名抄、京都縣山部郡の内なるべく、大字津原に御所存する古地あり、蓋し横日本紀に見ゆる大宰府所管の廣域たる京都管地なるべし。京都管地は景行天皇の行宮とせし所にして、いま石垣・礎石等存せりといふ。馬嶽に馬嶽城址あり、應永年間新田氏の一族比處にあり、三代の間王事に勤めしが後大内・大友・龍造寺諸氏の間に授受され、更に慶長五年細川氏の有に歸し元和年間廢城となる。(佛山堂) 大字上稗田にあり。この地の儒者、村上津藏(贈正五位)佛山と號し、私塾水鏡園を開きし著蹟なり。學堂環境養蠶を存するもの多し。(大分八幡神社) 大字下稗田に鎮座。郷社。祭神、譽田別命外四柱。應永年中新田義氏馬ヶ嶽の城を築きし際、神託を蒙り、これを勧誘すと傳ふ。例祭、五月十一日。
【ヒエタ】 稗田野村 京都府丹波國南桑田郡の西部。龜岡町の西方約一・五軒にあり龜岡盆地の西部を占む。北・西・南部に約四五〇米たらずの山地あり、中央東部に龜岡盆地の西部に屬する平野開け河川東流し吉川村に入りて大堰川支流の大銅川に合す。田畑よく拓けて米・麥

の産多く外に林産・工業・畜産・水産・礦産あり。龜岡町と西方兵庫縣多紀郡藤山町とを結ぶ鐵道は中央を横斷しバスの便あり。この地は和名抄、桑田郡佐伯郷の内にして大字に佐伯の名を存す。中世以降佐伯と稱す。式内藤田野神社あり、村名はこれより起る。大字太田は鎌倉上杉氏の家宰太田氏の出でし處といふ。(藤田野村重石假島)指定天然記念物。花崗岩と粘板岩が觸接して形成されたものにして六角状の三連晶をなし、礫石の名を興へらる。(藤田野神社)大字佐伯に鎮座。郷社。祭神、保安命外二柱。元明天皇和銅二年の創建に係る。式内小社に列し、後醍醐天皇寛喜二年藤原貞家を勅使として菊御・大松明・辻榮龍を許さる。例祭、十月廿三日。(神藏寺)臨濟宗妙心寺派。本村佐伯院の芝にあり。本尊彌勒如來坐像は國寶にして藤原末期の木像なり。

ヒエツ 日吉津村

鳥取縣西伯郡の北部海岸。日野川吐口右岸に位し美保灣に面す。南は巖村、東は大和村に接す。面積四・四七方軒。日野川吐口沖積平野上に位し全村地勢平坦、且つ水利に富み農業・養蠶盛んなり。米・蕎麥の産大なり。海岸は出入に乏しく水産振はず。富吉・今吉の二字は共に農業村落なり。東方省御山嶽本線松江驛・西方米子驛にそれぞれバス通す。古くは神津(陰徳太平記)にも作る。本村出身の歴史的人物に須山真

あり、勤王の志を懐き京都に至りて長藩士と交はる。元治元年傳馬町の獄に斬らる。年二十三、贈正五位。(紋屋島神社)大字日吉津に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神・天照高比賣神。古來紋屋莊の大社にして武門武將の崇敬厚かりき。例祭、四月十一日。

ヒエツキ 稗貫郡

岩手縣陸中國の中部。北は岩手郡・紫波郡、東北端は下閉伊郡、東南は上閉伊郡、南及び西は和賀郡に隣接す。面積六八八・二四方軒。地形東西に長く、東部は北上山地に属し、西部は奥羽山脈の東斜面、中西部は盛岡斷層盆地に属す。東部には、東北端に早池峯山(九一四米)・藥師岳(一六四五米)、北端に中岳(六七九米)・鴨頭山(一四四五米)・笠森山(九八八米)・權現山(八二八米)、東端に白森山(一三三九米)・土倉山(一〇八四米)、南端に三郎山(五六八米)・鷹巣山(四二七米)あり、中部にもまた山岳起伏して岳川は東北端に、小又川・八木巻川は東端に發源し合して稗貫川となり西流して盆地に出で北上川に合す。郡の西端には青ノ木森(八三一米)・小倉山(八五一米)・赤ヶ森(九一九米)・八方山(七一七米)あり、東方に傾斜し、豊澤川は西端に發源して東南に流れ盆地に出でて北上川に合す。盛岡斷層盆地の東端には北上川蛇行しつつ南流す。一般に米・麥・大豆・馬鈴薯等を産し、東部・西部の山地には蕎麥を産

す。陸羽街道は盆地の中部を略南北に通じ、バスの便あり。盆地南部なる花巻町より東に釜石街道、西南に瀬畑街道分岐す。陸羽街道に並行して東北本線通じ石鳥谷、二枚橋、花巻等の驛あり。花巻驛より東方に釜石線、西方に花巻温泉電線分岐す。雄略天皇の弘仁二年初めて稗貫郡を置く。東鑑・文治五年の條には稗貫又は部貢と作り、拾芥抄は稗貫に作る。近世稗貫として今日に至る。

ヒエノツジ 比叡辻

↓坂本村(浪賀縣) 鳥取縣出雲國廣川郡の東南部。東南は飯石郡一宮村、南は同郡鍋山に接す。西端に大袋山(三五九米)聳え、西北部・南部にも三百米餘の山地あり。神戸川の一分支は中部を北西流し沿岸に積り低地ありて耕地開け、なほ西部山地はよく開かれ、山頂近くまで耕地となる。米・蕎麥の外に木炭を出す。街道は小川に沿って走りバスを通す。この地は和名抄、神門郡朝山郷の内なりといふ。出雲風土記に「土極地、神門郡家東四里」とある。土極地は、戸倉山を指せるものにして、ここに烽火臺あり、有事の烽火を揚げて合圍せし處と傳ふ。(火守神社)大字字部手に鎮座。郷社。祭神、徳八五命。祭神は水戸神の御子にして、大國主命國巡りまして、神等住山に御り給ひし時字部手にて火を鑽出し、朝山郡宇比多岐山にて火を焚上げ

て大神へ大御饗飲り給ひし神にして、火を鑽り給ひし處に即ち本社を勧請すといふ。例祭、十月二十日。

ヒオカ 氷丘

兵庫縣加古郡にありし村。昭和十二年加古川町に編入す。

ヒオキ 日置

【日置】安房國(千葉縣)の古地名。和名抄に長狭郡日置郷あり、その地今の安房郡大海村の邊か。

【日置】越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に蒲原郡日置郷あり、その地今詳かならざるも中蒲原郡内なるべし。

【日置】伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に志保郡日置郷あり、比於木と調す。その地今の一志郡戸木村・久居町の邊に當る。

【日置村】京都府丹波國與謝郡の中部。與謝半島東岸を占め宮津灣口に臨む。西部は西方に聳ゆる成相山(五六九米)の東麓山地をなす。東北隅にも小山あり。他は概して平野にして数條の河川東南に流る。海岸は平直なり。田畑よく拓けて米・麥を産し山地は薪炭を供給し外に工業あり。海岸には鐵道走り途中西北方へ走る鐵道ありて世屋村に入る。宮津町へ巡視船あり。城址あり、日置氏の居りし處といふも詳ならず。(金剛心院)大字上寺驛にあり。眞言宗高野派。本尊覺皇明王坐像は木造にて厨子内に安置せられ鎌倉時代末期の作に係り國寶たり。(禪海寺)大字上にあり。臨濟宗妙心寺派。

江指郡の同例に係り、日置氏の菩提所たり。本尊の阿彌陀三尊及び千手觀音像は何れも木造にして國寶たり。

【日置】丹波國(京都府)の古地名。和名抄に與謝郡日置郷あり、その地今の與謝郡日置村の邊に當る。

【日置村】兵庫縣丹波國多紀郡の東南部。藤山川の上流に沿ひ藤山町の東方二軒餘にあり西南隅は有馬郡に接す。三國ヶ嶽(六四八米)西南端に聳えてそれより東方へ延ぶる山嶽は西端を限り、東方へ連る山嶽は南端を劃す。東南部には彌十郎ヶ嶽(七一五米)一帯の山地聳る。東北端には約三〇〇米の丘陵ありて其西麓を南下し、村内に入り来る藤山川は西に折れ北端に沿ひて西流す。中央にて三國ヶ嶽に源流して東北流する支流を合す。川に沿ひて廣潤なる低地あり、田畑よく拓けて農産多く米・蕎麥・大豆・粟・花芥・果實・食用農産・製茶・果樹苗・鶏卵等を出したる木製品・薬製・醬油・瓦・瓦物等の工業品あり。北部に鐵道東西に走り藤山町へバスを通じ、また大阪府豊能郡田町に至る鐵道あり。此地は和名抄、多紀郡藤原郷の地にて日置郷にあらず。中世に宗部・藤原等を日置郷と呼びしより村制實施の際に日置村と改む。流山城址は大字辻の北方にあり、元弘の頃波々伯都爲光の居りし所なり、子孫波多野氏に従ひ、明智氏の爲に滅さる。八上城は永正年中波多野秀忠此地に來り朝霧山に築

きて城下を八上と稱す。幾多の變遷を経て慶長十三年松平康重封ぜられ、のち康重孫山に築くに及び城廢す。曾地は今、曾地口・曾地中・曾地奥に分れ共に大字名たり。建武三年正月廿九日足利尊氏京都の戦に敗れて落城し地。(日置村標)指定天然記念物。八幡神社境内にあり、一棟。果實は硬き内殻を缺き種子は多肉なる外殻のみを包むる、學術上珍奇なるものとして重んぜらる。(波々伯都神社)大字波々伯部に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴命。天平五年の創建と傳ふ。天正十七年丹波領主豊後秀勝その臣淺野和守をして社殿を再興せしむ。例祭八月五日。(八幡神社)村社。祭神、應神天皇外二柱。別稱、磯ノ宮。朱雀天皇承平三年山城國男山の分靈を勧請せるに創り當郡四箇庄の總社たり。古來國守領主の尊崇厚し。社寶の特國天・各開天立像(木造)は共に國寶。例祭十月十五日。(西光寺)大字畑市にあり。曹洞宗。本尊藥師如來坐像及び寺寶の特國天・增長天・各開天立像の四尊は何れも藤原時代の作として國寶たり。

【日置】丹波國(兵庫縣)の古地名。和名抄に多紀郡日置郷あり、その地今の多紀郡藤山町・城北村の邊に當る。

【日置】但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に氣多郡日置郷あり、比於岐と調す。その地今の城崎郡日高町の邊に當る。大字日置はその遺稱。

【日置】↓日高町(兵庫縣城崎郡)

【日置村】鳥取縣因幡國氣高郡の西部。東部池の東岸を限る約九軒の東方に位置し、地形南北に長き山村なり。南は滑石峠を以て東伯郡と界し、北は日置谷村、東南は小笠河村、西は勝部村に接す。面積一三・八二方軒。二條の小山東西兩端を北に延び村内地勢高峻なるも北に低下す。日置川は兩山間の谷を北流し北界附近に小平地を展く。耕地及び交通路は沿岸に開く。製材業最も盛んなり。米・蕎麥・木材に次ぐ。省線山陰本線青谷驛へ約五軒、バスの便あり。本村は日置谷村と共に和名抄、氣多郡日置郷の地とす。(利川神社)大字早牛に鎮座。郷社。祭神、速開津比咩命外二神。延喜式の氣多郡利川神社は即ち當社にして、古くは大森明神とも稱し、當村の鎮守たり。古來領主の崇敬厚し。例祭、十月十九日。

【日置】出雲國(鳥取縣)の古地名。和名抄に神門郡日置郷あり、その地今の廣川郡鹽冶村に當る。

【日置】周防國(山口縣)の古地名。和名抄に佐波郡日置郷あり、比於木と調す。その地今の佐波郡八坂村の邊に當る。

【日置郡】鹿兒島縣十二郡の一。薩摩半島の西斜面に位し東支那海に臨む。東端には金峯山脈南北に連り、東北部に高くして三重嶽・花尾山(五四〇米)等あり。之より西に延ぶる山嶽は北端を限り八重山(六七七米)・中岳・矢岳・東嶽・西嶽

等聳え、西北隅には神財天山(五一九米)聳りて山脈海に迫り西南麓に羽鳥崎をつくる。金峯山脈より略西方へ幾多の山脚延びて高さを減ずるも凹凸多く郡内處處に小山あり。河川は概して西に流れ南端には萬瀬川あり、中部には小野川・永吉川・大川・神之川・江口川等あり。北部には湊川・五反田川あり。河川流域に平地をつくる。海岸は概して平直なる弓型の砂濱をなし中部より南部を吹上瀆と稱し砂丘の發達を見る。中央北端に戸崎鼻突出し其北にも砂濱連り、附近より海岸線は西北へ延びて羽鳥崎に至る、途中長崎あり。河川沿岸は田畑よく拓けて甘薯を始め農産物多きも郡北部は金・銀の産地をなす。郡内串木野町・市來町・伊集院町・伊作町の四町外八箇村を含み人口一二四・七四二人にして密度は二六二人なり。鹿兒島街道北方より入り來りて北部を東南に走り鹿兒島市に向ひ、それより分るる鐵道は伊集院町を過ぎ西南方へ走り川邊郡に入る。途中伊作町にて鹿兒島灣岸に出づる鐵道を分つ。省線鹿兒島線西北部より本郡に入り來り東南に走りて中央東部より鹿兒島郡に入る。その伊集院驛より社線南薩鐵道出でて西部を南走す。日置はまたへきとも調す。往昔日置郡の居所か。和名抄は比於岐と調じ富多・納薩・合良・日置・市來の五郷を管す。明治三十年四月南方の阿多郡を併せて今日に至る。

【日置】↓日高町(兵庫縣城崎郡)

【日置村】鳥取縣因幡國氣高郡の西部。東部池の東岸を限る約九軒の東方に位置し、地形南北に長き山村なり。南は滑石峠を以て東伯郡と界し、北は日置谷村、東南は小笠河村、西は勝部村に接す。面積一三・八二方軒。二條の小山東西兩端を北に延び村内地勢高峻なるも北に低下す。日置川は兩山間の谷を北流し北界附近に小平地を展く。耕地及び交通路は沿岸に開く。製材業最も盛んなり。米・蕎麥・木材に次ぐ。省線山陰本線青谷驛へ約五軒、バスの便あり。本村は日置谷村と共に和名抄、氣多郡日置郷の地とす。(利川神社)大字早牛に鎮座。郷社。祭神、速開津比咩命外二神。延喜式の氣多郡利川神社は即ち當社にして、古くは大森明神とも稱し、當村の鎮守たり。古來領主の崇敬厚し。例祭、十月十九日。

【日置】出雲國(鳥取縣)の古地名。和名抄に神門郡日置郷あり、その地今の廣川郡鹽冶村に當る。

【日置】周防國(山口縣)の古地名。和名抄に佐波郡日置郷あり、比於木と調す。その地今の佐波郡八坂村の邊に當る。

【日置郡】鹿兒島縣十二郡の一。薩摩半島の西斜面に位し東支那海に臨む。東端には金峯山脈南北に連り、東北部に高くして三重嶽・花尾山(五四〇米)等あり。之より西に延ぶる山嶽は北端を限り八重山(六七七米)・中岳・矢岳・東嶽・西嶽

等聳え、西北隅には神財天山(五一九米)聳りて山脈海に迫り西南麓に羽鳥崎をつくる。金峯山脈より略西方へ幾多の山脚延びて高さを減ずるも凹凸多く郡内處處に小山あり。河川は概して西に流れ南端には萬瀬川あり、中部には小野川・永吉川・大川・神之川・江口川等あり。北部には湊川・五反田川あり。河川流域に平地をつくる。海岸は概して平直なる弓型の砂濱をなし中部より南部を吹上瀆と稱し砂丘の發達を見る。中央北端に戸崎鼻突出し其北にも砂濱連り、附近より海岸線は西北へ延びて羽鳥崎に至る、途中長崎あり。河川沿岸は田畑よく拓けて甘薯を始め農産物多きも郡北部は金・銀の産地をなす。郡内串木野町・市來町・伊集院町・伊作町の四町外八箇村を含み人口一二四・七四二人にして密度は二六二人なり。鹿兒島街道北方より入り來りて北部を東南に走り鹿兒島市に向ひ、それより分るる鐵道は伊集院町を過ぎ西南方へ走り川邊郡に入る。途中伊作町にて鹿兒島灣岸に出づる鐵道を分つ。省線鹿兒島線西北部より本郡に入り來り東南に走りて中央東部より鹿兒島郡に入る。その伊集院驛より社線南薩鐵道出でて西部を南走す。日置はまたへきとも調す。往昔日置郡の居所か。和名抄は比於岐と調じ富多・納薩・合良・日置・市來の五郷を管す。明治三十年四月南方の阿多郡を併せて今日に至る。

【日置】↓日高町(兵庫縣城崎郡)

【日置村】鳥取縣因幡國氣高郡の西部。東部池の東岸を限る約九軒の東方に位置し、地形南北に長き山村なり。南は滑石峠を以て東伯郡と界し、北は日置谷村、東南は小笠河村、西は勝部村に接す。面積一三・八二方軒。二條の小山東西兩端を北に延び村内地勢高峻なるも北に低下す。日置川は兩山間の谷を北流し北界附近に小平地を展く。耕地及び交通路は沿岸に開く。製材業最も盛んなり。米・蕎麥・木材に次ぐ。省線山陰本線青谷驛へ約五軒、バスの便あり。本村は日置谷村と共に和名抄、氣多郡日置郷の地とす。(利川神社)大字早牛に鎮座。郷社。祭神、速開津比咩命外二神。延喜式の氣多郡利川神社は即ち當社にして、古くは大森明神とも稱し、當村の鎮守たり。古來領主の崇敬厚し。例祭、十月十九日。

【日置】出雲國(鳥取縣)の古地名。和名抄に神門郡日置郷あり、その地今の廣川郡鹽冶村に當る。

【日置】周防國(山口縣)の古地名。和名抄に佐波郡日置郷あり、比於木と調す。その地今の佐波郡八坂村の邊に當る。

【日置郡】鹿兒島縣十二郡の一。薩摩半島の西斜面に位し東支那海に臨む。東端には金峯山脈南北に連り、東北部に高くして三重嶽・花尾山(五四〇米)等あり。之より西に延ぶる山嶽は北端を限り八重山(六七七米)・中岳・矢岳・東嶽・西嶽

等聳え、西北隅には神財天山(五一九米)聳りて山脈海に迫り西南麓に羽鳥崎をつくる。金峯山脈より略西方へ幾多の山脚延びて高さを減ずるも凹凸多く郡内處處に小山あり。河川は概して西に流れ南端には萬瀬川あり、中部には小野川・永吉川・大川・神之川・江口川等あり。北部には湊川・五反田川あり。河川流域に平地をつくる。海岸は概して平直なる弓型の砂濱をなし中部より南部を吹上瀆と稱し砂丘の發達を見る。中央北端に戸崎鼻突出し其北にも砂濱連り、附近より海岸線は西北へ延びて羽鳥崎に至る、途中長崎あり。河川沿岸は田畑よく拓けて甘薯を始め農産物多きも郡北部は金・銀の産地をなす。郡内串木野町・市來町・伊集院町・伊作町の四町外八箇村を含み人口一二四・七四二人にして密度は二六二人なり。鹿兒島街道北方より入り來りて北部を東南に走り鹿兒島市に向ひ、それより分るる鐵道は伊集院町を過ぎ西南方へ走り川邊郡に入る。途中伊作町にて鹿兒島灣岸に出づる鐵道を分つ。省線鹿兒島線西北部より本郡に入り來り東南に走りて中央東部より鹿兒島郡に入る。その伊集院驛より社線南薩鐵道出でて西部を南走す。日置はまたへきとも調す。往昔日置郡の居所か。和名抄は比於岐と調じ富多・納薩・合良・日置・市來の五郷を管す。明治三十年四月南方の阿多郡を併せて今日に至る。

【日置】↓日高町(兵庫縣城崎郡)

【日置村】鳥取縣因幡國氣高郡の西部。東部池の東岸を限る約九軒の東方に位置し、地形南北に長き山村なり。南は滑石峠を以て東伯郡と界し、北は日置谷村、東南は小笠河村、西は勝部村に接す。面積一三・八二方軒。二條の小山東西兩端を北に延び村内地勢高峻なるも北に低下す。日置川は兩山間の谷を北流し北界附近に小平地を展く。耕地及び交通路は沿岸に開く。製材業最も盛んなり。米・蕎麥・木材に次ぐ。省線山陰本線青谷驛へ約五軒、バスの便あり。本村は日置谷村と共に和名抄、氣多郡日置郷の地とす。(利川神社)大字早牛に鎮座。郷社。祭神、速開津比咩命外二神。延喜式の氣多郡利川神社は即ち當社にして、古くは大森明神とも稱し、當村の鎮守たり。古來領主の崇敬厚し。例祭、十月十九日。

【日置】出雲國(鳥取縣)の古地名。和名抄に神門郡日置郷あり、その地今の廣川郡鹽冶村に當る。

【日置】周防國(山口縣)の古地名。和名抄に佐波郡日置郷あり、比於木と調す。その地今の佐波郡八坂村の邊に當る。

【日置郡】鹿兒島縣十二郡の一。薩摩半島の西斜面に位し東支那海に臨む。東端には金峯山脈南北に連り、東北部に高くして三重嶽・花尾山(五四〇米)等あり。之より西に延ぶる山嶽は北端を限り八重山(六七七米)・中岳・矢岳・東嶽・西嶽

等聳え、西北隅には神財天山(五一九米)聳りて山脈海に迫り西南麓に羽鳥崎をつくる。金峯山脈より略西方へ幾多の山脚延びて高さを減ずるも凹凸多く郡内處處に小山あり。河川は概して西に流れ南端には萬瀬川あり、中部には小野川・永吉川・大川・神之川・江口川等あり。北部には湊川・五反田川あり。河川流域に平地をつくる。海岸は概して平直なる弓型の砂濱をなし中部より南部を吹上瀆と稱し砂丘の發達を見る。中央北端に戸崎鼻突出し其北にも砂濱連り、附近より海岸線は西北へ延びて羽鳥崎に至る、途中長崎あり。河川沿岸は田畑よく拓けて甘薯を始め農産物多きも郡北部は金・銀の産地をなす。郡内串木野町・市來町・伊集院町・伊作町の四町外八箇村を含み人口一二四・七四二人にして密度は二六二人なり。鹿兒島街道北方より入り來りて北部を東南に走り鹿兒島市に向ひ、それより分るる鐵道は伊集院町を過ぎ西南方へ走り川邊郡に入る。途中伊作町にて鹿兒島灣岸に出づる鐵道を分つ。省線鹿兒島線西北部より本郡に入り來り東南に走りて中央東部より鹿兒島郡に入る。その伊集院驛より社線南薩鐵道出でて西部を南走す。日置はまたへきとも調す。往昔日置郡の居所か。和名抄は比於岐と調じ富多・納薩・合良・日置・市來の五郷を管す。明治三十年四月南方の阿多郡を併せて今日に至る。

【日置】↓日高町(兵庫縣城崎郡)

【日置村】鳥取縣因幡國氣高郡の西部。東部池の東岸を限る約九軒の東方に位置し、地形南北に長き山村なり。南は滑石峠を以て東伯郡と界し、北は日置谷村、東南は小笠河村、西は勝部村に接す。面積一三・八二方軒。二條の小山東西兩端を北に延び村内地勢高峻なるも北に低下す。日置川は兩山間の谷を北流し北界附近に小平地を展く。耕地及び交通路は沿岸に開く。製材業最も盛んなり。米・蕎麥・木材に次ぐ。省線山陰本線青谷驛へ約五軒、バスの便あり。本村は日置谷村と共に和名抄、氣多郡日置郷の地とす。(利川神社)大字早牛に鎮座。郷社。祭神、速開津比咩命外二神。延喜式の氣多郡利川神社は即ち當社にして、古くは大森明神とも稱し、當村の鎮守たり。古來領主の崇敬厚し。例祭、十月十九日。

【日置】出雲國(鳥取縣)の古地名。和名抄に神門郡日置郷あり、その地今の廣川郡鹽冶村に當る。

【日置】周防國(山口縣)の古地名。和名抄に佐波郡日置郷あり、比於木と調す。その地今の佐波郡八坂村の邊に當る。

【日置郡】鹿兒島縣十二郡の一。薩摩半島の西斜面に位し東支那海に臨む。東端には金峯山脈南北に連り、東北部に高くして三重嶽・花尾山(五四〇米)等あり。之より西に延ぶる山嶽は北端を限り八重山(六七七米)・中岳・矢岳・東嶽・西嶽

等聳え、西北隅には神財天山(五一九米)聳りて山脈海に迫り西南麓に羽鳥崎をつくる。金峯山脈より略西方へ幾多の山脚延びて高さを減ずるも凹凸多く郡内處處に小山あり。河川は概して西に流れ南端には萬瀬川あり、中部には小野川・永吉川・大川・神之川・江口川等あり。北部には湊川・五反田川あり。河川流域に平地をつくる。海岸は概して平直なる弓型の砂濱をなし中部より南部を吹上瀆と稱し砂丘の發達を見る。中央北端に戸崎鼻突出し其北にも砂濱連り、附近より海岸線は西北へ延びて羽鳥崎に至る、途中長崎あり。河川沿岸は田畑よく拓けて甘薯を始め農産物多きも郡北部は金・銀の産地をなす。郡内串木野町・市來町・伊集院町・伊作町の四町外八箇村を含み人口一二四・七四二人にして密度は二六二人なり。鹿兒島街道北方より入り來りて北部を東南に走り鹿兒島市に向ひ、それより分るる鐵道は伊集院町を過ぎ西南方へ走り川邊郡に入る。途中伊作町にて鹿兒島灣岸に出づる鐵道を分つ。省線鹿兒島線西北部より本郡に入り來り東南に走りて中央東部より鹿兒島郡に入る。その伊集院驛より社線南薩鐵道出でて西部を南走す。日置はまたへきとも調す。往昔日置郡の居所か。和名抄は比於岐と調じ富多・納薩・合良・日置・市來の五郷を管す。明治三十年四月南方の阿多郡を併せて今日に至る。

縣字摩那子山村と關川村との境界に跨る山。標高一七〇七米。西方には西赤石山(六二六米)並ぶ。南西方は吉野川支流湖山川の上源地にして南麓を洗ひて東流す。この山の附近一帯は名高き赤石山をなし、格魯鐵礦を産す。また北東方には伊豫鐵山、北西方には別子銅山あり。

ヒガシアガタ 東英 石川縣河北郡にありし村。明治四十年種谷村と合し英田村を置く。

ヒガシアガノ 東吾野村 埼玉縣武藏國入間郡の西部。飯能町の西北隅にあり。全村山地にて北境に越上山(五〇〇米)あり。南境また約三〇〇米の山地にて何れも村内に傾斜し、南部はその裾合にて高麗川東流す。山地一帯森林ありて林産多し。川沿ひに狭き耕地ありて米を産し、養蠶盛にて繭の産多し。縣道は川沿ひに飯能町に通じ、東落はこれに沿ひて發達す。社線武藏野鐵道これに沿ひて東吾野(昭和四年設置)を置く。この地は古への吾野の内なり。吾野は吾那にも作り、中世の保名にして、今の本村及び吾野村・越生町・梅園村の地をも含みしもの如し。

ヒガシアキル 東秋留村 東京府武藏國西多摩郡の東南部。多摩川・秋川の合流點にあり。南は秋川を隔てて南多摩郡の一部と隣りす。東境を多摩川南流し村の東南隅にて秋川を合す。全村平地にて、麥・米・園藝作物を産し、養蠶盛にて繭の産多し。また織物の製造盛なり。府道は五日市町方面に通じ、また社線五日市鐵道は中央を西走して武藏多摩川(大正十五年設置)・東秋留(大正十四年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、多摩郡小川郷の内にして、大字野邊は横山郷野部氏の古墟なり。

ヒガシアクイ 東阿久比 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年、本村ほか二村を廢し阿久比村を置く。

ヒガシアゴ 東安居村 福井縣越前國足羽郡の西北隅。福井市の西に隣り、西は丹生郡の西安居村と境す。地東西に長く面積五・四五方軒。西安居村との境に高車一〇〇—一五〇米の丘陵地ありて極めて低平、中部西側を日野川北流し、南境を劃する足羽川を穿れてその洪源に地球肥沃なる耕地ひろく。農は主生業とし米・蔬菜の産多し、特に蔬菜は福井市民への供給地にして産額大なり。福井市に起りて丹生郡宿室に至る道路は東西に貫走しバスの便あり。昭和十年の人口二一五二人にして、一方軒の密度三九五に達し、郡中第一の稠密度を示す。大字明里には馬場あり、此處に前福井市長竹内中將筆の歌碑あり。當村は丹生郡西安居村と共に阿久比(西安居村)の號にて且つ阿居王御名代の地として史蹟に富む。即ち村名も之に據り大字下市は足羽川下の市場の跡にて字名に町方等の

町名多く、丘陵地は僅俗龜山天皇の御陵と稱し、頂上の小高き處は石棺を埋めし箇所なりとて人跡の入るを忌む。小石祠あり。其の奥に村社龜山神社あり。龜山天皇を祀り奉る。宇下には朝倉氏に關係深き弘明寺あり。開寺は應永元年朝倉廣景の再興せし所。龜山天皇の勸願所と傳ふ。此處に朝倉一門の墓石あり。大字金屋の宇太開寺は太開陣の誤にて、秀吉が柴田勝家の北庄城(福井)を攻めし時本陣を置きし所。又同區には足羽七城の一なる安居城址あり。今は足羽河川改修の時滅亡せし大字大渡・小渡は太平記に有名なり。同區三味(火葬場)には朝倉一族の墓石數基あり。大字飯塚には飯塚觀音あり。二十五年毎の開扉には福井市よりの參詣特に多し。昭和六年に大字三越を福井市に編入す。

ヒガシアサイ 東淺井郡 滋賀縣(近江國)十二郡の一。縣の東北部にあり。琵琶湖東南岸を占め、東は伊吹山脈を以て岐阜縣美濃國に、西北は伊香郡に、南は坂田郡に接し、西南は琵琶湖に面す。面積二七・八六方軒。東北半には伊吹山脈の諸峰連立し一〇〇〇米前後の山林帯にて姉川本支流を南へ源流す。西南部には姉川の沖積による平野開け、姉川本流は南境をなして西流し、支流高時川は北より南へ合して湖に入る。其他西北部は余呉川河口を扼す。平地には水田・桑園開け農産盛にて、山地は概ね

林業に従事す。また平野には古くより農業盛にて演繹輪を初めピロイド・コルナン・ゴアラン織等の産多く本部の主産物となす。其他、伊吹山の藥草、琵琶湖の淡水魚等の特産物あり。省線北陸本線は郡の西部を南北に貫き虎姫驛を置く。道路は略中央を東南に走る國道を幹に平野には縣道縱横に發達し、自動車の便よく、湖上には船便あり。郡内十二ヶ村を含む。本郡は明治十三年五月淺井郡を分ちて東西二郡に分けて置けるもの。明治二十九年四月西淺井郡は伊香郡に合併し東淺井郡のみ殘る。

ヒガシアサバ 東淺羽村 靜岡縣遠江國磐田郡の南部。袋井町の南方約五軒。太田川左岸アルタの一部を占め、土地平低にして沃田開く。米を主産とし、畜産額・林産額に之に次ぎ、繭・茶の産も多少あり。東部を縣道貫通し、社線中越鐵道淺羽驛に近し。この地は中世の淺羽莊の東部に當る。淺羽(八幡神社)大字梅山に鎮座。村社。春日神社と境内を一にす。祭神、帶仲日子命・譽田別命・息長帶比賣命。江戸時代朱印額、八幡社、春日社は共に三十五石、合せて七十石を有せり。天正八年再建す。

ヒガシアサヒカワ 東旭川村 北海道石狩國上川支庁上川郡の西部。旭川市の東に接し、北は永山村・富麻村、南は東川村に接す。面積一六五・九一平方軒。東部は大雪山山脈の西斜面に

屬し、地高峻なれども西方に傾斜し、西方は旭川盆地の沃野拓く。牛車別川西流して山間に河谷低地をひらき、平地に出でては諸川を合し旭川市に注ぐ。村内耕地甚だ拓け、米・馬鈴薯・除蟲菊・甜菜等の産額大なり。畜産もまた行はる。省線石北線西北を貫通し、東旭川・樺岡驛(共に大正十一年設置)を置き、また社線旭川電氣鐵道の數驛あり。(旭山公園)倉沼川の水面上一二一米に及ぶ丘陵にて、大樹鬱蒼、東方に旭岳を仰ぎ展望雄大、頂上には豊受稻荷を祀る社、八十八ヶ所の靈場あり。(旭川ゴルフ場)落葉松の林を點綴する九ホールは長さ二一四六米、傾斜コースにして、十月より四月までの降雪期には閉鎖さる。附近一帯は苹果・葡萄の名産地なり。

ヒガシアツ 東厚保村 山口縣長門國美祿郡の西南部。伊佐町の西南に接し、稍々東西に長くしてほぼ楕圓の形を呈げたる如き形をなし、東及び東南は厚狭郡に、西北隅は豊浦郡に界す。村内概ね山岳起伏し平地地と稱すべきものなし。厚狭川は中央西側を貫き南流す。地球豊沃、寒熱適き易く耕作に適す。森林多く林業の利あり。河川に沿ひて縣道及び省線美祿線通じ後者の四ヶヶ原驛(明治三十八年設置)あり。西厚保村と共に舊は厚保又は厚と汎稱せし處。

ヒガシアマキ 東天城村 鹿児島縣大隅國大島郡の村。徳之島の東北部に

にて、麥・米・園藝作物を産し、養蠶盛にて繭の産多し。また織物の製造盛なり。府道は五日市町方面に通じ、また社線五日市鐵道は中央を西走して武藏多摩川(大正十五年設置)・東秋留(大正十四年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、多摩郡小川郷の内にして、大字野邊は横山郷野部氏の古墟なり。

町名多く、丘陵地は僅俗龜山天皇の御陵と稱し、頂上の小高き處は石棺を埋めし箇所なりとて人跡の入るを忌む。小石祠あり。其の奥に村社龜山神社あり。龜山天皇を祀り奉る。宇下には朝倉氏に關係深き弘明寺あり。開寺は應永元年朝倉廣景の再興せし所。龜山天皇の勸願所と傳ふ。此處に朝倉一門の墓石あり。大字金屋の宇太開寺は太開陣の誤にて、秀吉が柴田勝家の北庄城(福井)を攻めし時本陣を置きし所。又同區には足羽七城の一なる安居城址あり。今は足羽河川改修の時滅亡せし大字大渡・小渡は太平記に有名なり。同區三味(火葬場)には朝倉一族の墓石數基あり。大字飯塚には飯塚觀音あり。二十五年毎の開扉には福井市よりの參詣特に多し。昭和六年に大字三越を福井市に編入す。

位し、東西約五軒、南北一三軒、面積五五方軒餘。西部の天城村との境には南端の井之川岳(六七三米)を最高とし、美名田山・大和城山・馬ノ嶺岳・大城山・三方通岳・天城岳(五三三米)などの諸嶺南より北に連り東方に傾斜し、海岸には珊瑚石灰岩を載せたる數段の海成段丘ありて海に迫り、また極端よく發達す。東岸の金岡崎の北には山港の灣入ありて良泊をなす。河川は何れも短小なるもその沿岸と海岸地とに耕地よく拓け米・麥の産や多く、養蠶は甚だ盛にして、蠶業試験場徳之島分場及び蠶業採取所出張所の設けあり。山地には林産多し、また大島蝸・黒糖を出し、南部には銅を産す。養蠶は多く段丘屋下に集村をなし、東岸に之等を結ぶ縣道走り、山港よりは名瀬へ定期船あり。昭和十年の人口は八〇三三人にて一方軒に付一四六人に當り之を前回の國勢調査と比較するに、大正九年一〇、〇九〇人、同十四年八、五五七人、昭和五年八、三〇三人と逐年激減し、不況による南島の生活苦を如實に立證す。

ヒガシアイエ 東有家 長崎縣南高來郡にありし村。昭和二年有家町と改む。

ヒガシアリタ 東有田村 大分縣豊後國日田郡の東北部。日田町の東方約〇・五軒にあり、東は玖珠郡に接し東北は下毛郡に界する山村。地形高峻にして

全體に東部に高く西部に低下す。東北端には壹尺八寸山(七〇七米)あり。中央には西南流する河川ありて村内の水を集めて流れ、西方約六軒にて筑後川に合す。山林面積廣し。南部には縣道東西に走り日田町と東方玖珠郡森町とを結ぶ縣道ありてバス往來すれど、其他は概して交通不便なり。この地は和名抄、日高郡在田郷の内。(大藏城)豊後の舊族大藏氏の居城なりしが、文安中、永英の時亡ぶるに及び廢す。

ヒガシアワクラ 東栗倉村 岡山縣美作國岡田郡の東北部。大原町の東北に接し、東及び南は兵庫縣栗原郡及び佐用郡に界する山村。東境に中國山地の一脈南北に連りて縣境を限り東南隅に日名倉山(一〇四七米)聳ゆ。この山脈より西南方へ延びる二條の山脈は南北兩村地を劃し中央に江見川發して西南流し約一軒先に到りて吉野川に合す。東部及び北部は山上に耕地開く。米・麥・繭・木炭を産し生柿・苺の特産あり。河川に沿うて大原町に出づれば、バス南北に通ず。西栗倉村と共にとも栗倉と汎稱せし處なり。

ヒガシイクチ 東生口村 廣島縣安藝國豊田郡の東南端。生口島の東南部。北は名荷村、西は南生口村に接し、東は伊水道を隔てて御調郡因島に、南は愛媛縣岩城島に相對す。北境に鶴山(四〇八米)の山嶺ありて南方に急傾斜し、南

海岸に僅に海岸平地あり。中農中漁にして米・麥・甘藷・養蠶草・繭の外に、魚・蠶を産す。街道は海岸に沿うて通ずるも船による事多く、因島及び岩城島にも渡船の便あり。

ヒガシイサハヤ 東諫早 長崎縣線の一驛(昭和九年設置)。長崎縣北高來郡長田村にあり。

ヒガシイシシグロ 東石黒村 富山縣越中國西礪波郡の東部。小矢部川左岸に沿ひ、西南方約二軒に福光あり。東は東礪波郡に接し、東方約二軒に福野町あり。福野平野の一部を占め、土地平坦にして灌溉の便よく水田多し。農業を主とし、米の産多し、繭・柿等の副産物あり。省線中越線東南部を横切り福野・福光兩驛に近し、縣道にバスを通ず。此地は和名抄、福波郡川上郷の内なるべく、近世は石黒郷と稱し、藤原北家、齋藤氏の族、石黒氏の發祥地なり。

ヒガシイチ 東市村 奈良縣大和國添上郡の西部。奈良市の南に接す。東半部は笠置高原西縁の一部にて高さ二百米内外の臺地性森林地をなす。西半は奈良盆地の東北部を占め土地低平にて田畑よく拓け米・麥を産し、養蠶も行はれて繭を出す。奈良市に起る名張街道北部を通じ、西境近くには上街道南方に通じ省線櫻井線の京終驛・帶御驛にも近し。大字八島に崇道天皇の八嶋陵あり。大字古市は元和五年、伊勢津藩の藩家、障屋を置

りて附近に数多の島嶼浮ぶ。農産・林産、水産あり。郡内西部の嶺峰嶺山より八幡の産出多し。郡内富島町・門川町の二町外十ヶ村を含み、人口密度は六九人なり。東部に日向街道及び省線日豊本線南走し南部の富高驛よりは東方朝島に支線を出す。延岡市より五箇瀬川の谷を西に貫き西北方熊本縣阿蘇郡高森町方面に至る縣道あり。本郡は明治十七年一月日豊本線を東西二郡に分けて置けるもの。昭和八年延岡市本郡の中より獨立す。※臼杵

ヒガシウチ 東内村

長野縣信濃國小縣郡の中。丸子町の西に接し、依田川の一支出内川に沿ふ。東西に長く、南北に千米前後の山地連なり、略中央を内川東北に貫流す。流域に狭き各野平野あり。黍・粟・蕎麥の耕作行はれ、養蠶盛なり。従つて製糸業また發展し、生糸は村の主産物、次いで蕎麥・米の産多し。内川左岸に沿ひ縣道貫流し、丸子町よりバスの便あり。本村は辰ノ口村・和子村・萩窪村の舊三箇村を合併せるものにして新屋の築師堂前に東内村杖垂板あり、幹圍目通五尺二寸に及び、いま指定天然記念物なり。普通榎の化生せるものにして一新變種をなし、學術上珍奇なる植物なり。〔法住寺〕天台宗。嘉祥年中、慈覺大師の開創と傳へ、貞享年間、堂宇を修築して寺觀を改む。虚空藏堂は國寶。

ヒガシウチハラ 東内原村

和歌山縣紀伊國日高郡の西北部。由良村の東

ヒガシウラ 東浦

〔東浦村〕福井縣越前國敦賀郡の東北端。敦賀市に北隣し、西は敦賀灣に臨む。南北に長く一軒なるも、東西は二二三・五軒に過ぎず、面積二五方軒餘。東端に山脈長く連なり中央に鉢伏山(七六二米)あり、その北麓は特に峻しく、山中(三八九米)の嶺を経て、海に至る。山脈は西に急斜するを以て村内平地に乏しく、海岸は北部の横濱附近を除きては海崖をなし、岡崎・松ヶ崎の岬角著はるも良泊に乏し。産物は米・蕎麥の外、林産に阿曾杉あり良材を以て聞え、水産に鰻・鱈等あり、製鹽また行はる。其他北部の山脈に蜜柑を、南部より石炭・木炭・瓦等を産す。省線北陸本線は東部山中を數箇の險道を穿ちて通じ津津(明治二十

ヒガシウラ 東上浦村

未だ鐵道開通せず交通不便を免がれず。本郡は明治十三年五月字和郡を東西南北の四郡に分けて置けるもの。↓字和(郡)の南半を占め、豊後海峽に突出して佐伯灣を擁す。北は北海より海に急斜して細長し。北端に山地連り海岸に急斜して豊後地多し。山地は薪炭を出し、海岸は水産漁獲物あり。村内に嶋尾タタル工場・河本工場等あり。西部には牛馬頭部を通過する省線日豊本線走りて後津井驛(大正五年設置)あり。對岸の各町村との連絡は渡船・發着機船の便による外なし。この地は和名抄、海部郡藤門郡の内なるべく、風土記にある藤門郡も此邊なるべし。

ヒガシエ 東江村

岐阜縣美濃國海津郡の東部。木曾川の右岸に沿ひ、西は高須町に界す。地形極めて平坦にして東端に南流する大河木曾川の川幅大部は當村所屬なり。米の産多外に蕎麥・蕎麥も出ず。北部には高須町に至る縣道及び西北方今尾町方面に出づる縣道ありて自動車の便あり。木曾川は渡船の便あり。〔八幡神社〕大字立野に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。例祭、九月二十日。〔若宮八幡神社〕大字草場に鎮座。郷社。祭神、仁徳天皇。社傳によれば、草創は長享二年と傳ふ。例祭、八月十六日。

ヒガシエハラ 東江原

岡山縣後

九年設置)あり、同縣北の山中險道は延長三軒を越ゆ。また國道北陸道は敦賀市より東り海岸線に沿うて南條郡に入りバスの便あるも、地形の制約を受け交通不便にして、標高約一八〇米の杉津驛より海岸の主要杉津まで二軒驛の道路の如きも車馬の往來に危険を感ず。鉢伏山頂には朝倉の区印收信等の據りし鉢伏山城址あり。大字杉津及び阿曾には天正三年越前一揆の舊蹟を存す。杉津海水浴場は岡崎の奇蹟を控え、敦賀一帯の風光を收め附近は北陸線唯一の好展望を有す。人口は昭和十年二九八一人にして一方軒一九九人に當り、之が累年比較は大正九年三〇五三人、同十四年三〇八五人、昭和五年三〇五六人にして、他郡による過渡の傾向を認む。この地は和名抄、敦賀郡神戶郡の内なるべく、大字田結は萬葉集第三卷に「越の海の 角底の濱ゆ大船の...」我が傍ぎ行けば 丈夫の 手結か浦の...」とある手結浦の地、大字五軒は萬葉集第十八卷に「可敷流越の道行かむ日は五輪の坂に袖振れ香をいそはば」とある地。大字杉津は一に水津にも作り、源平盛衰記に「西は海路新道水津浦...」とあるは此地にして、東鑑・榮和元年九月の條に「木曾冠者、越北陸道、而先陣根井太郎至越前水津、與通盛朝臣、已始合戦」とあるも此地なり。

ヒガシオーアシ 東大蘆村

〔東浦村〕愛知縣尾張國知多郡の東北端。知多半島頭部の東面に位し知多灣の北澳

ヒガシオーイタ 東大分村

大分縣豊後國大分郡の東北部。大分市の東に接して別府灣に臨む。東南部に小丘陵ある外は地形平坦にて、西南方より流れる大分川は西部を北流して別府灣に入り、中部には西南隅にて之より分れて東北に本村を貫きて海に入る裏川あり。津々たる豊後灣に面する北岸一帯は砂濱連りて河口には砂洲發達す。水利の便に富み米・蕎麥・蔬菜・七島菌等の農産多く蠶桑を産出す。中央には大分市より東方鶴崎町及び佐賀國町に通ずる縣道あり。南部には省線日豊線横断して、大分驛(西の方約二軒)と高城驛(東方約一軒)に近く共にバスを通す。本村の大字萩原は元和年中、越前參謀忠直の配流されし地。

ヒガシオーウラ 東大浦村

京都府丹波國加佐郡の東北部。東舞鶴市の東北約四軒にありて若狭灣に臨む。西

衣ヶ浦の北隅に面す。西部は百米以下の丘陵起伏し、東岸に平野開けて數條の小河東流す。東端の北半は南下する鏡川の河川をへだてて對岸陸に續き、南半は衣ヶ浦の北澳に臨むも約一軒の海水をへだてて陸を望む。米・蕎麥の農産及び薪炭の産あり。東部に縣道及び省線武豊線南下し尾張國津島(昭和八年設置)・緒川驛(明治三十三年設置)・尾張生路(昭和八年設置)・藤江(昭和九年設置)あり。この地は和名抄、知多郡美比郷の内なるべく、明治三十九年、藤江村・生路村・石濱村・緒川村・森岡村を廢して本村を新置す。大字生路は舊式に「尾張國、調、生道鹽一斛六斗、又東寺料、生道鹽、日別五合七勺」とあり、古來より生道鹽の産地たり。緒川は一に小川により、承久記の宇治河合戦の條に三浦駿河次郎泰村の乳母の子、小川太郎經村、京方の姉妹の遺着てかれ黒につけたる人の首をなきて、高名せしよしを載す、これ此地に在名を稱せしものなるべし。〔入海神社〕大字緒川に鎮座。郷社。祭神、弟橘比賣命。奉唱國內神名帳に「愛知郡坐名神、天神、從三位入江天神」と見ゆ。例祭、八月九日。

ヒガシウレシノ 東嬉野

佐賀縣藤津郡にありし村。昭和八年嬉野町に編入さる。

ヒガシウワ 東宇和郡

愛媛縣(伊豫國)十二郡の一。縣の西南部に位し

ヒガシオーサイ 東大在

大分縣北部郡にありし村。明治四十年本村ほか一村と合し大在村を置く。

ヒガシオーサキ 東大崎村

宮城縣陸奥國玉造郡の東南端。古川町の西北約四軒。東北は栗原郡、東南及び西南は志田郡に隣接す。陸奥平野に屬し、土地概ね平坦にして荒川川は東部を西北より東南に流る。米・蕎麥・蕎麥を産す。道路は村の略中部を西北より東南に通じ、陸羽東線陸奥古川驛へはバスの便あり。

川上流の地を占め、東西に細長く、西南は豊後水道に臨み、東は高知縣界に及びて高岡郡と界し、西北部は僅かに八幡濱市と接す。郡は殆ど山岳に圍まれ西南岸と雖も低地を見ず。北部には雄形山脈は東に連り北境中央に御在所山、西北境に大野山(七九七米)、東北境には西包山(一一二二米)等あり。南包山より連嶺南へ續きて高知縣界を劃し、南境には宇和山地に屬する山脈が東西に延び東南境にて九九五米の高さを有し南境中央に御在所山(九〇八米)屹立す。北境及び南境の山地は西部にて西南方へ海中に突出して岬となり法花津灣を抱く。沿岸岬曲多く幾多の岬・小灣出入す。歐川は大野山西北麓に發する宇和川となり西を繞りて南下し海岸に小分水嶺ある爲め海岸とは反對の方向に流れ郡内の水を集め中央を東北流し、中部東端にて鏡形に西北折し附近にて東北方より来る松戸川を入れ雄形山脈を切りて喜多郡に出づ。沿岸に極めて僅少なる低地の開くる所もあり。米・蕎麥・蕎麥を産し、山林多く天然資源豊かなり。郡内は宇和町・野村町の二町外十八ヶ村を含む、人口密度は一方軒約一三〇人なり。西部には宇和町を貫きて縣道南北に通じ南方吉田町・宇和島市方面と、北方は數條に分岐して一は八幡濱市、一は平野村、一は大洲町方面とを結び、その中八幡濱市及び平野村よりは吉田・宇和島方面へ愛媛自動車會社のバス通過するも

ヒカシ——ヒカシ

シガシカツシカ 東葛飾郡 千葉

十二郡の一。下徳島の西部。北境を利根川東南に流れ、西境を江戸川南流し南は東京湾に臨む。東部には手賀沼あり。郡の中央部及び手賀沼北岸には低き丘陵地ありて森林あり。その他は平地開け利根川流域には沼澤地多く、江戸川流域は沼田をなす所多し。一般に農業盛にて米を産し、養蠶・養鶏も行はれ、所によりては果實の栽培も盛なり。また醸造業盛にて醤油・味噌等の産多く、江戸川畔の野田町・流山町は殊に有名なり。東京灣に面する地方にては魚類・貝類の産多し。陸前濱街道は中央を東北に走り、また千葉街道は南部を東走す。その他にも鐵道よく發達す。省線常磐線は濱街道に沿ひて東北に走り、我孫子町にて省線成田線を分ち、柏町にて社線武蔵鐵道と交叉す。成田線は我孫子町より手賀沼の北岸を東走して印旛郡に入り、總武鐵道は南部の船橋市より北走し柏町を經、更に野田町を經て埼玉縣に入り大宮町に通じまた常磐線馬橋より分岐する流山鐵道は北走して流山町に通ず。南部は千葉街道に沿ひて省線武蔵本線及び社線京成電氣鐵道東走し、省線船橋線にて總武鐵道と連絡す。利根川・江戸川共に水運の便良く、中部には兩者を連絡する利根運河ありて水運を助く。明治十三年五月千葉縣管下の葛飾郡を改め東葛飾郡(天城縣管下の葛飾郡は西葛飾郡と稱す)と稱せしが、明治三十年四月南相馬郡と合併し三十二年四月茨城縣との間に國境界に若干の変更をなし今日に至る。〔葛飾郡〕

ヒガシカツラ 東桂村 山梨縣甲斐國南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周圍を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に囲まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・麥・野菜・繭を主産とし他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にパスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郷の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる鹿留發電所(出力一六、八〇〇キワット)あり。

ヒガシカツラギ 東葛城村 大阪府和泉國泉南郡の東南部。葛城山の北斜面に位し岸和田市の東南五軒餘。東北は山直町に接し東は泉北郡に界す。葛城山(八五七米)南境に繋え山麓廣く北部に横がり中央を貫きて津田川西北流す。産物は米を主とし、外に工業・林産・畜産あり、なほ絹・蜜柑の特産あり。岸和田市へパス通す。もと西葛城村と共に葛城の汎稱を以て呼ばる。本村より西葛城村に互る葛城山の北面地帯にはアナ林見事に發達し、いま和泉葛城山アナ林として指定天然記念物たり。

ヒガシカナガワ 東神奈川 横濱市神奈川區の町。東海道本線の東神奈川驛(明治四十一年設置)を置く。

ヒガシカナザワ 東金澤 石川縣金澤市にあり。

ヒガシカネコ 東金子村 埼玉縣武蔵國入間郡の南部。豊岡町の西隣にある小村。西北部は丘陵地をなすも大部分は武蔵野臺地の一部にて、北境附近を入間川東北に流る。農業行はれて米・麥を産し養蠶盛にて繭の産額多く、また組織物の製造盛なり。縣道豊岡町に通じ、また社線武蔵野鐵道は北部を西走するも村内に驛なく、豊岡町に豊岡町驛、北隣元加治村に佛子驛あり。

ヒガシカマクラ 東鎌倉 神奈川縣鎌倉郡にありし村。明治二十七年西鎌倉村と合し鎌倉町を置く。

ヒガシカミヤマ 東上山 高知縣幡豆郡にありし村。大正三年に大正村と改む。

ヒガシカモ 東加茂 愛知縣北三郡の一。三河國の北部。北は矢作川を境に岐阜縣美濃國惠那郡に接し、西は西加茂郡、南は額田郡、東は南設楽・北設楽兩郡に界す。西ありて農産年額約八萬圓あり。次に移るとし桐を主とし林業盛に行はれ年産約六萬六千圓、其他には養蠶に依る約四千圓の年收の外、見るべきものなし。字中山に以仁玉の石祠と稱するものあり。正史に玉は平等院の戦に流矢により罪じ給ふとあるも、實は當地に逃れ給ひ美和元年四月、會津春日寺の僧塔に襲はれ自盡し給ふと傳ふ。

【東川村】 高知縣土佐國安藝郡の西北部。安藝町の東北約三軒にある山村。面積一六一・五五方軒。北部は香美郡に、東北隣は徳島縣海部郡に界し、東北より西南に細長し。略々東北より西南に連る山脈四周を圍繞し、東境には鳥帽子ヶ森(一三二〇米)、寶藏山・神巳屋山・綾木森・葉ノ木山等屹立し、北境には久々場山(一四〇四米)外、諸峰聳立す。東北隅に源流する伊尾木川は中央を峡谷を造りて西方へ貫流し西南三軒餘、安藝川となりて土佐灣に注ぐ。木炭・三桧・米・繭等を産し養蠶行はる。河沿ひに南部入河内まで鐵道通じて安藝町へ連絡するも交通不便なり。土佐灣岸より河川に沿ひて走る林用軌道は西北部日浦に及ぶ。本村出身の歴史的人物に小川官次及び岡松惠之助あり、共に幕末の勤王家にて武市瑞山の説を達成せんと清阿道之助等と野根山に屯集し、罪せられて奈半利河原に斬らる。のち共に從五位を贈らる。(天滿宮)大字奈比賀に假座。郷社。祭神、菅原原良。所産の種札に「應永二丁丑二月日、大願主神主佐伯正信」とあり、當村及び近郷の産土神たり。例祭、六月二十八日、十月二十八日。

【東川村】 高知縣土佐國香美郡の東南部。岸本町の東北約四軒に位し、東中は稍々南北に長く、其の東及び南は安藝郡に圍まれ、西部の中央より西南方へ村城嶺がり略々東北より西南に長方形をなす。西部は略々西南より東北に走る二條の山脈が東西兩境を限り河川その中央を西南流す。東境を隔るも北境に東北方へびて本村の中央を横切り北境に東北方へ東北方へ連りて東中の北村城を劃す。東中北部に繋る山地は、東南方より西南方へ彎曲して延び東境を限り、東南部に南流する赤野川あり。山岳深くして耕地面積乏しきも米・繭・甘藷・麥・三桧等を産し山地は林産多くして工業もあり。西部河谷には岸本町より東北方へ走る縣道通過し中部には山嶺を走る縣道ありて西南方夜須村に出で、兩村間にパスの便あり。(天恩徳別神社)大字東川に假座。郷社。祭神、正哉吾勝連日天恩徳耳尊。式内小社に列す。例祭、十月廿六日。

ヒガシカワソエ 東川副村 佐賀縣肥前國佐賀郡の東部。筑後川右岸に沿ひ佐賀市の東方約三軒。北は神崎郡蓮池町に接し、東は川を隔てて福岡縣三浦郡大川町に界す。全村地形低平にて東南境に筑後川西南流し其の西北に川中西

【東川村】 北海道石狩國上川支庁上川郡の中部。大雪山國立公園の内。西は東旭川村を隔て、旭川市に對し、東は大雪山山群の西麓に及ぶ東西に長き山村なり。南境を石狩川支流忠別川西流して美瑛村に界す。面積二四五・六三平方軒。標高二千米を越ゆる大雪山の群峯東境を歴し村内東部は爲に頗る高峻なり。忠別川は白雲・忠別二嶽の麓に發して西流し、上流溪谷に炭酸泉松山温泉の湧出あり。他に殆んど葉落を見ず。西境に平地拓け、東部山中に發したる諸川灌溉し、耕地拓く。馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・甜菜及び穀類・牛・馬等を産す。旭川電軌東川線の東川驛・西川驛あり。(松山温泉)忠別川に臨みて涌出。泉質、炭酸鐵泉。忠別川の上流、天人峽の奥にある温泉場にして、南よりの大雪山登山の準備地として夏期利用せらる。(天人峽)松山温泉への途上、忠別川の溪谷約四軒の間をいひ

ヒガシカワ 東川 北海道石狩國上川支庁上川郡の中部。大雪山國立公園の内。西は東旭川村を隔て、旭川市に對し、東は大雪山山群の西麓に及ぶ東西に長き山村なり。南境を石狩川支流忠別川西流して美瑛村に界す。面積二四五・六三平方軒。標高二千米を越ゆる大雪山の群峯東境を歴し村内東部は爲に頗る高峻なり。忠別川は白雲・忠別二嶽の麓に發して西流し、上流溪谷に炭酸泉松山温泉の湧出あり。他に殆んど葉落を見ず。西境に平地拓け、東部山中に發したる諸川灌溉し、耕地拓く。馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・甜菜及び穀類・牛・馬等を産す。旭川電軌東川線の東川驛・西川驛あり。(松山温泉)忠別川に臨みて涌出。泉質、炭酸鐵泉。忠別川の上流、天人峽の奥にある温泉場にして、南よりの大雪山登山の準備地として夏期利用せらる。(天人峽)松山温泉への途上、忠別川の溪谷約四軒の間をいひ

ヒガシカロリン 群島 東京 東京都葛飾区にありし村。大正三年に大正村と改む。

ヒガシカワ 東川 北海道石狩國上川支庁上川郡の中部。大雪山國立公園の内。西は東旭川村を隔て、旭川市に對し、東は大雪山山群の西麓に及ぶ東西に長き山村なり。南境を石狩川支流忠別川西流して美瑛村に界す。面積二四五・六三平方軒。標高二千米を越ゆる大雪山の群峯東境を歴し村内東部は爲に頗る高峻なり。忠別川は白雲・忠別二嶽の麓に發して西流し、上流溪谷に炭酸泉松山温泉の湧出あり。他に殆んど葉落を見ず。西境に平地拓け、東部山中に發したる諸川灌溉し、耕地拓く。馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・甜菜及び穀類・牛・馬等を産す。旭川電軌東川線の東川驛・西川驛あり。(松山温泉)忠別川に臨みて涌出。泉質、炭酸鐵泉。忠別川の上流、天人峽の奥にある温泉場にして、南よりの大雪山登山の準備地として夏期利用せらる。(天人峽)松山温泉への途上、忠別川の溪谷約四軒の間をいひ

ヒガシカワ 東川 北海道石狩國上川支庁上川郡の中部。大雪山國立公園の内。西は東旭川村を隔て、旭川市に對し、東は大雪山山群の西麓に及ぶ東西に長き山村なり。南境を石狩川支流忠別川西流して美瑛村に界す。面積二四五・六三平方軒。標高二千米を越ゆる大雪山の群峯東境を歴し村内東部は爲に頗る高峻なり。忠別川は白雲・忠別二嶽の麓に發して西流し、上流溪谷に炭酸泉松山温泉の湧出あり。他に殆んど葉落を見ず。西境に平地拓け、東部山中に發したる諸川灌溉し、耕地拓く。馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・甜菜及び穀類・牛・馬等を産す。旭川電軌東川線の東川驛・西川驛あり。(松山温泉)忠別川に臨みて涌出。泉質、炭酸鐵泉。忠別川の上流、天人峽の奥にある温泉場にして、南よりの大雪山登山の準備地として夏期利用せらる。(天人峽)松山温泉への途上、忠別川の溪谷約四軒の間をいひ

ヒガシカワ 東川 北海道石狩國上川支庁上川郡の中部。大雪山國立公園の内。西は東旭川村を隔て、旭川市に對し、東は大雪山山群の西麓に及ぶ東西に長き山村なり。南境を石狩川支流忠別川西流して美瑛村に界す。面積二四五・六三平方軒。標高二千米を越ゆる大雪山の群峯東境を歴し村内東部は爲に頗る高峻なり。忠別川は白雲・忠別二嶽の麓に發して西流し、上流溪谷に炭酸泉松山温泉の湧出あり。他に殆んど葉落を見ず。西境に平地拓け、東部山中に發したる諸川灌溉し、耕地拓く。馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・甜菜及び穀類・牛・馬等を産す。旭川電軌東川線の東川驛・西川驛あり。(松山温泉)忠別川に臨みて涌出。泉質、炭酸鐵泉。忠別川の上流、天人峽の奥にある温泉場にして、南よりの大雪山登山の準備地として夏期利用せらる。(天人峽)松山温泉への途上、忠別川の溪谷約四軒の間をいひ

ヒガシカワ 東川 北海道石狩國上川支庁上川郡の中部。大雪山國立公園の内。西は東旭川村を隔て、旭川市に對し、東は大雪山山群の西麓に及ぶ東西に長き山村なり。南境を石狩川支流忠別川西流して美瑛村に界す。面積二四五・六三平方軒。標高二千米を越ゆる大雪山の群峯東境を歴し村内東部は爲に頗る高峻なり。忠別川は白雲・忠別二嶽の麓に發して西流し、上流溪谷に炭酸泉松山温泉の湧出あり。他に殆んど葉落を見ず。西境に平地拓け、東部山中に發したる諸川灌溉し、耕地拓く。馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・甜菜及び穀類・牛・馬等を産す。旭川電軌東川線の東川驛・西川驛あり。(松山温泉)忠別川に臨みて涌出。泉質、炭酸鐵泉。忠別川の上流、天人峽の奥にある温泉場にして、南よりの大雪山登山の準備地として夏期利用せらる。(天人峽)松山温泉への途上、忠別川の溪谷約四軒の間をいひ

ヒガシカワ 東川 北海道石狩國上川支庁上川郡の中部。大雪山國立公園の内。西は東旭川村を隔て、旭川市に對し、東は大雪山山群の西麓に及ぶ東西に長き山村なり。南境を石狩川支流忠別川西流して美瑛村に界す。面積二四五・六三平方軒。標高二千米を越ゆる大雪山の群峯東境を歴し村内東部は爲に頗る高峻なり。忠別川は白雲・忠別二嶽の麓に發して西流し、上流溪谷に炭酸泉松山温泉の湧出あり。他に殆んど葉落を見ず。西境に平地拓け、東部山中に發したる諸川灌溉し、耕地拓く。馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・甜菜及び穀類・牛・馬等を産す。旭川電軌東川線の東川驛・西川驛あり。(松山温泉)忠別川に臨みて涌出。泉質、炭酸鐵泉。忠別川の上流、天人峽の奥にある温泉場にして、南よりの大雪山登山の準備地として夏期利用せらる。(天人峽)松山温泉への途上、忠別川の溪谷約四軒の間をいひ

ヒガシカワ 東川 北海道石狩國上川支庁上川郡の中部。大雪山國立公園の内。西は東旭川村を隔て、旭川市に對し、東は大雪山山群の西麓に及ぶ東西に長き山村なり。南境を石狩川支流忠別川西流して美瑛村に界す。面積二四五・六三平方軒。標高二千米を越ゆる大雪山の群峯東境を歴し村内東部は爲に頗る高峻なり。忠別川は白雲・忠別二嶽の麓に發して西流し、上流溪谷に炭酸泉松山温泉の湧出あり。他に殆んど葉落を見ず。西境に平地拓け、東部山中に發したる諸川灌溉し、耕地拓く。馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・甜菜及び穀類・牛・馬等を産す。旭川電軌東川線の東川驛・西川驛あり。(松山温泉)忠別川に臨みて涌出。泉質、炭酸鐵泉。忠別川の上流、天人峽の奥にある温泉場にして、南よりの大雪山登山の準備地として夏期利用せらる。(天人峽)松山温泉への途上、忠別川の溪谷約四軒の間をいひ

ヒガシカワ 東川 北海道石狩國上川支庁上川郡の中部。大雪山國立公園の内。西は東旭川村を隔て、旭川市に對し、東は大雪山山群の西麓に及ぶ東西に長き山村なり。南境を石狩川支流忠別川西流して美瑛村に界す。面積二四五・六三平方軒。標高二千米を越ゆる大雪山の群峯東境を歴し村内東部は爲に頗る高峻なり。忠別川は白雲・忠別二嶽の麓に發して西流し、上流溪谷に炭酸泉松山温泉の湧出あり。他に殆んど葉落を見ず。西境に平地拓け、東部山中に發したる諸川灌溉し、耕地拓く。馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・甜菜及び穀類・牛・馬等を産す。旭川電軌東川線の東川驛・西川驛あり。(松山温泉)忠別川に臨みて涌出。泉質、炭酸鐵泉。忠別川の上流、天人峽の奥にある温泉場にして、南よりの大雪山登山の準備地として夏期利用せらる。(天人峽)松山温泉への途上、忠別川の溪谷約四軒の間をいひ

ヒカシ——ヒカシ

ヒカシ——ヒカシ

この地は和名抄、玉造郡府見郷の地なるべく、西大崎村と共に往時より大崎村と稱せしが、明治二十九年東西の二村に分

ヒカシオータ

東大田村 廣島縣後國世羅郡の南部。甲山町の西に接し南は御調郡に界す。北部及び南部は丘陵地をなし東南境に字根山(六九〇米)

ヒカシオート

東大野村 大分縣下國香取郡の北部。佐原町の西隣にして利根川の南岸。北は川を隔てて茨

ヒカシオーノ

東大野村 大分縣下國香取郡の北部。佐原町の西隣にして利根川の南岸。北は川を隔てて茨

ヒカシオクニ

東小園村 山形縣前國最上郡の東部。東は宮城縣、西南は北村山郡に隣接す。面積二〇〇

ヒカシカスガイ

東春日井郡 愛知縣十八郡の一。尾張國の東北部に庄内川に沿ひ、東北は岐阜縣美濃國に

ヒカシカセタ

東加世田 鹿兒島縣川邊郡にありし村。大正十四年萬世町と改稱。

ヒカシカタ

東方 鹿兒島縣大島郡にありし村。昭和十一年に古仁屋町と改稱せらる。

針山に位して愛知川の水源を占め、北は犬上郡に、南は神崎郡にそれく接し、東は山脈を隔てて三重縣員辨郡に界する山村。面積七〇・六二方町。東境には鈴鹿

ヒカシオシタテ

東押立村 滋賀縣近江國愛知郡の中部。愛知川町の東南約三町。東部には鈴鹿山脈西麓の山地

ヒカシカイガン

東海岸線 樺太鐵道線の一。大泊郡大泊町の大泊港より鈴谷川に沿って豊原市を経て榮濱

ヒカシカスミ

東加積村 富山縣越中府新川郡の北部。早月川の左岸。清川町の東南方約五町の地。東は早

シカシカツシカ 東葛飾郡 千葉

シカシカツシカ 東葛飾郡 千葉
十二郡の一。下總國の西部。北境を利根川東南に流れ、西境を江戸川南流し南は東京灣に臨む。東部には手賀沼あり。郡の中央部及び手賀沼北岸には低き丘陵地ありて森林あり。その他は平地開け利根川流域には沼澤地多く、江戸川流域は沼田をなす所多し。一般に農業盛にて米を産し、養蠶・養鶏も行はれ、所によりては果實の栽培も盛なり。また醸造業盛にて醤油・味噌等の産多く、江戸川畔の野田町・流山町は殊に有名なり。東京灣に面する地方にては魚類・貝類の産多し。陸前濱街道は中央を東北に走り、また千葉街道は南部を東走す。その他にも鐵道よく發達す。省線常磐線は濱街道に沿ひて東北に走り、我孫子町にて省線成田線を分ち、柏町にて社線總武鐵道と交叉す。成田線は我孫子町より手賀沼の北岸を東走して印旛郡に入り、總武鐵道は南部の船橋市より北走し柏町を經、更に野田町を經て埼玉縣に入り大宮町に通じまた常磐線馬橋驛より分岐する流山鐵道は北走して流山町に通ず。南部は千葉街道に沿ひて省線總武本線及び社線京成電氣鐵道東走し、省線船橋驛にて總武鐵道と連絡す。利根川・江戸川共に水運の便長く、中部には兩者を連絡する利根運河ありて水運を助く。明治十三年五月千葉縣管下の葛飾郡を改め東葛飾郡(茨城縣管下の葛飾郡は西葛飾郡と稱す)と稱せしが、明治三十年四月南相馬郡と合併し三十二年四月茨城縣との間に國郡境界に若干の変更をなし今日に至る。葛飾郡(郡)

ヒカシカツラ

東桂村 山梨縣甲斐國南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカツラギ

東葛城村 大阪府和泉國泉南郡の東南部。葛城山脈の北斜面に位置し東は泉北郡に界す。葛城山(八五七米)南境に聳え山麓廣く北部に横たがり中央を貫き津田川・林産・畜産あり、なほ蕎麥・粟の特産あり。岸和田市へバス通ず。もと西葛城村と共に葛城の

ヒカシカネコ

東金子村 埼玉縣武藏國入間郡の南部。豊岡町の西隣にある小村。西北部は丘陵地をなすも大部分は武藏野臺地の一部にて、北境附近を入間川東北に流る。農業行はれて米・蕎麥を産し養蠶盛にて繭の産額多く、また粗織物の製造盛なり。縣道豊岡町に通じ、また社線武藏野鐵道は北境を西走するも村内に線なく、豊岡町に豊岡町驛、北隣元加治村に俣子驛あり。

ヒカシカマクラ

東鎌倉 神奈川縣鎌倉郡にありし村。明治二十七年西鎌倉村と合し鎌倉町を置く。

ヒカシカミヤマ

東上山 高知縣倉村と合し倉村町を置く。

ヒカシカモ

東加茂 愛知縣十八郡の一。三河國の北部。北は矢作川を境に岐阜縣美濃國惠那郡に接し、西は西加茂郡、南は額田郡、東は南加茂・北加茂兩郡に界す。面積約六萬六千圓、其他には養蠶に依る約四千圓の年收の外、見るべきものなし。字中山に以仁玉の石祠と稱するものあり。正史に玉は平等院の戦に流失し、より罪に給ふとあるも、實は當地に逃れ給ひ養和元年四月、會津東日寺の僧勝堪に獲はれ自盡し給ふと傳ふ。

ありて養蠶年額約八萬圓あり。次に抄と主とし蠶を副として林業盛んに行はれ年産約六萬六千圓、其他には養蠶に依る約四千圓の年收の外、見るべきものなし。字中山に以仁玉の石祠と稱するものあり。正史に玉は平等院の戦に流失し、より罪に給ふとあるも、實は當地に逃れ給ひ養和元年四月、會津東日寺の僧勝堪に獲はれ自盡し給ふと傳ふ。

ヒカシカワソエ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシカワ

東川副村 山梨縣南都留郡の中部。桂川上流に沿ひ、東北は谷村町に接す。南北に長く周囲を御正體山・杓子山等千數百米の山岳に圍まれ、中央を桂川の一支出より北へ貫流し、北部を東流する桂川と合す。河岸僅かに耕地開け、他は山林なり。農業・養蠶を主産業とし、米・蕎麥・蕎麥を主産とし、他に百日柿・梅等の特産あり。また南部山林には林業行はれ木材・薪炭を産す。北部を東西に國道貫通し、社線富士山麓鐵道之に並走し、十日市場・東桂兩驛(昭和四年設置)を置く。また大月驛・富士吉田間にバスの便もあり。南部へは林用手押鐵道通す。この地は和名抄、都留郡賀美郡の内なるべく、もと桂村と稱せしが明治二十二年東西の二村に分る。村内に相模川水系の桂川を利用せる高留發電所(出力一六、八〇〇キロワット)あり。

ヒカシ——ヒカシ

(宇大中島所在)を挟んで分港早津江川あり。北境に沿ひ佐賀市より流れ来る播磨ありて屈曲しつつ東流し筑後川に入る。米の産多く黍・藁の産もあり。中央には縣道南北に貫通してバスの便あり、河川には蒸氣船の往来するあり。

ヒガシカワツ

東川津 島根 縣八東郡にありし村。明治三十六年西川津村と合併して川津村を建つ。

ヒガシカワテ

東川手村 長野 縣信濃國東筑摩郡の北部。犀川の右岸にて、合田川との合流點を占め、穂高町の東北約四軒。筑摩山脈の餘波を受け土地部して高燥にして山林に富み、平地は西部河原に僅に開く。木材・薪炭・米・黍を産す。省線舊ノ井線中央を東北—西南に貫通し明科驛に近し。

ヒガシカワネ

東川根村 新潟 縣阿賀野郡の北部。大井川の右岸にて、東北より東へかけて赤石の一分脈を境に安倍郡、西は大井川を境に遠江國榎原郡に接す。村内に七ヶ峰(一五三三米)を始め智者山(一〇九二米)などの山岳重疊し、西境を南へ曲流する大井川の谷へ急傾斜をなして迫り、接阻嶽の一部なる断崖絶壁の急流をなす。平地に乏しきも山間の葉落は檜林・杉林・栗林または茶の栽培を主生業とし、川根茶を産す。其他、木工品の産あり。西南部對岸には社線大井川鐵道の崎平・千頭(共に昭和六年設置)の二驛あり、之より東南方面

ヒガシカワノボリ

東川登町 山口 縣阿賀野郡の南部。津津町の西約一軒、西は北賀谷村、西南は南賀谷村に接す。磐王山塊の本嶺部に當り、南部にて二百餘米の高度を示すも北部に緩傾斜し、北部は平地にして廣野の西麓をなす。小矢部川の支流江川は北部を東流し、南部山地より北流し来る溪流を合せ、灌溉の便よく、米を多産す。街道は北部平地を東西に貫通し津津町にバス通す。この地は南賀谷村・北賀谷村と共に蟹谷と稱せし地にして、源平盛衰記の磯波山合戦の條に越中國住人、蟹谷次郎とあるは此地に住せし人なるべし。

ヒガシカワニ

東蟹谷村 富山 縣越中國西砺波郡の中部。津津町の西約一軒、西は北賀谷村、西南は南賀谷村に接す。磐王山塊の本嶺部に當り、南部にて二百餘米の高度を示すも北部に緩傾斜し、北部は平地にして廣野の西麓をなす。小矢部川の支流江川は北部を東流し、南部山地より北流し来る溪流を合せ、灌溉の便よく、米を多産す。街道は北部平地を東西に貫通し津津町にバス通す。この地は南賀谷村・北賀谷村と共に蟹谷と稱せし地にして、源平盛衰記の磯波山合戦の條に越中國住人、蟹谷次郎とあるは此地に住せし人なるべし。

ヒガシカワバ

東蒲原郡 新潟 縣十六郡の一。越後の國の東南部。東より南へかけては越後山脈を以て福島縣岩代國に界し、北は北蒲原郡に、西は中蒲原郡に、西南は南蒲原郡に接す。面積九五九・八方軒。阿賀野川流域を占め、村境はいづれも越後山脈に屬する一千米前後の山岳連立し、村内土地高燥にして山岳重疊す。阿賀野川は中央部を東西に貫流し北より貫流。新谷川を、南より小川・柴倉川・室谷川等の水を聚めたる常流川及び谷津川等の支流を合す。之等本支流の各合は或は峡谷をなし、或は狭き平地開け、粟落これに沿ひて散在す。山地は森林

ヒガシクシラ

東串良町 鹿児島 縣大隅國肝屬郡の東部。肝屬川河口の北岸に位し、東は有明海西岸に臨み、西は串良町に、北は鳴瀬郡に界す。西部の平坦なる臺地を除く外は全村平野にて西境に沿ひ串良川南流し、南境を東流して有明海に注ぐ肝屬川に合す。東岸は平直なる砂濱をなし、砂丘よく発達し松林をなす。耕作の便よく農耕に適し米産多くなす。薪・炭等も出し、臺地は牧畜行はれ外に水産・林産あり。工業も多し。西北部には縣道東西に走りて東北方志布志町及び串良町へバスの便あり。省線古江東線もこれを横切りて、東串良町(昭和十年設置)あり。此地はもと串良町と共に串良郷と稱せしが、明治二十二年町村制施行の際東西に二分し、以て西串良は串良町となる。(唐仁古墳群)指定史蹟。大塚と呼ぶ前方後圓墳を中心とする大小百數十基の古墳群にて、大塚古墳の上には大塚神社の社殿あり、拜殿と本殿との間の渡廊の下に割石積の石室存し、天井石露出す。石室内には割石積の石棺あり、棺外には發掘の際鐵甲が安置せられたりと云ふ。附近に役所・福留塚その他の圓墳・小形前方後圓墳・圓墳約三十基あり方格丁字鏡・直刀等を出土す。宮崎附近の西都原古墳群と南北相對照して顯著なる群集地をなし、且つ上代古墳分布のほぼ南限をなす。

ヒガシクツチャン

東俱知安村 北海道 後志國後志支庁釧路郡の東北隅。俱知安町の東に接し、羊蹄山(蝦夷富士)の東北麓に位す。面積二三〇・五二平方軒。東境は美北内山(一〇六三米)・無意根山(一四六一米)等の諸山南北に連立して石狩川札内郡に界し、村内東中部は極めて高燥なり。西南境にコニテア火山半島山麓をその放射狀斜面の裾と東部山地の裾との間に平地あり。尻別川は東部山中に發したる諸川を集めつつ、此間を西北流し俱知安町を過ぐ。省線京極線また此の平地を買ぎ京極(大正八年設置)、虻方(大正九年設置)の二驛を置き、社線釧路線道京極驛より分岐、南走して、東俱知安(昭和六年設置)・川上温泉(昭和三年設置)の二驛あり。京極線、虻方驛附近の山中には三井經營の鐵山あり。農業また盛んにして、米・馬鈴薯・甜菜・蕎麥・亞麻等を産す。明治四十三年に、俱知安村の大宇東俱知安村を割きて本村を置く。(俱知安鐵山) 本村内に面積一四四萬餘坪を有する鐵山にて重要鐵山に屬す。本鐵山は東俱知安村の市街地の東方約八軒の地點、即ち尻別川の支流なるツツカメチツア川の中流地帯にて、鐵區は傾斜緩慢なる丘陵地又は波狀臺地をなす。地質は主に輝綠石安山岩及び洪積層より成り、ほゞ黃褐色の赤土・砂礫層・沼鐵礦・

ヒガシクニサキ

東國東郡 大分 縣十二郡の一。豊後國の東北部。國東半島の東半を占め半島中央に聳ゆる兩子山諸峯の東半面と東北海上の嶺島を含む。西境中央に兩子山(七二二米)聳えて、四方へ放射谷をつくりて圓錐形に傾斜し、山頂附近に伊美山・黒木山・文珠山・千燈山(以上北方)・小門山・大岳山(以上東方)等群立す。河川は凡て、兩子山の諸峯に發し北に伊美川、東に田深川、東南部に武藏川・安岐川等をばはじめ多数の河川流下して海に注ぐ。低地は放射谷に沿ひて僅に開け、また東部には沿岸低地稍々發達す。兩子山頂を中心として圓周狀に連る海岸は概して風曲乏しく、北部に竹田津、南部に守江港ある外は良港地を見ず。低地は田畑よく拓けて米・黍の外、七島間の産多し。海岸は水産に富む。郡内は竹田津町・來浦町・富來町・國東町・武藏町・西安岐町・安岐町の七町は廿二ヶ村より成る。人口密度は平均一七八人にて最大は安岐町の四九四人、最小は

ヒガシクシロ

東銅路 省線根室 郡の地なり。天正中、別所氏の一族たる根治、本村の地に要害を構へて羽柴秀吉を防ぎしといふ。

ヒガシクニサキ

東國東郡 大分 縣十二郡の一。豊後國の東北部。國東半島の東半を占め半島中央に聳ゆる兩子山諸峯の東半面と東北海上の嶺島を含む。西境中央に兩子山(七二二米)聳えて、四方へ放射谷をつくりて圓錐形に傾斜し、山頂附近に伊美山・黒木山・文珠山・千燈山(以上北方)・小門山・大岳山(以上東方)等群立す。河川は凡て、兩子山の諸峯に發し北に伊美川、東に田深川、東南部に武藏川・安岐川等をばはじめ多数の河川流下して海に注ぐ。低地は放射谷に沿ひて僅に開け、また東部には沿岸低地稍々發達す。兩子山頂を中心として圓周狀に連る海岸は概して風曲乏しく、北部に竹田津、南部に守江港ある外は良港地を見ず。低地は田畑よく拓けて米・黍の外、七島間の産多し。海岸は水産に富む。郡内は竹田津町・來浦町・富來町・國東町・武藏町・西安岐町・安岐町の七町は廿二ヶ村より成る。人口密度は平均一七八人にて最大は安岐町の四九四人、最小は

ヒガシキキ

東城井 大分 縣下毛郡にありし村。大正十五年東耶馬溪村と改稱す。

ヒガシキキ

東貴志村 和歌山 縣紀伊國那賀郡の西部。岩出町の南約三軒にて西は西貴志村との間に中貴志村を挟む。東部に二百米以下の山地あり、西境を北流する貴志川は南境を西流する小川を合す。貴志川沿岸に低地あり、東部山中に他池ありて灌溉の便よく畑開く。米・黍・藁・柑橘を産す。縣道は西南部を穿れ貴志川上を架橋し岩出町に出で、別に貴志川に沿ふ街道あり、岩出町にバス通す。今の中貴志村・西貴志村と共にヒガシキキと呼びし處。

ヒガシキキ

東岐波村 山口 縣周防國古賀郡の南部。西は宇部市との間に西岐波村を挟み、東は周防灘に臨む。粘土砂礫・火成岩盤の順序を以つて累層をなす。鐵床は含鐵冷泉起因にする化學的沈澱床にして鐵石は磁鐵に屬す。昭和十年には鐵礦一四七、〇一八噸(價額六三萬餘圓)を出し、同年六月月の使役鐵夫は九四人にして現在、輪西鐵山會社の經營とす。なほ鐵石は東國東市にある日本製鐵所の輪西製鐵所に送致して合併製鐵せらる。

ヒガシクニサキ

東國東郡 大分 縣十二郡の一。豊後國の東北部。國東半島の東半を占め半島中央に聳ゆる兩子山諸峯の東半面と東北海上の嶺島を含む。西境中央に兩子山(七二二米)聳えて、四方へ放射谷をつくりて圓錐形に傾斜し、山頂附近に伊美山・黒木山・文珠山・千燈山(以上北方)・小門山・大岳山(以上東方)等群立す。河川は凡て、兩子山の諸峯に發し北に伊美川、東に田深川、東南部に武藏川・安岐川等をばはじめ多数の河川流下して海に注ぐ。低地は放射谷に沿ひて僅に開け、また東部には沿岸低地稍々發達す。兩子山頂を中心として圓周狀に連る海岸は概して風曲乏しく、北部に竹田津、南部に守江港ある外は良港地を見ず。低地は田畑よく拓けて米・黍の外、七島間の産多し。海岸は水産に富む。郡内は竹田津町・來浦町・富來町・國東町・武藏町・西安岐町・安岐町の七町は廿二ヶ村より成る。人口密度は平均一七八人にて最大は安岐町の四九四人、最小は

ヒカシ——ヒカシ

西北部には低き丘陵を伏し、東北部に日ノ山(一四六米)の孤立丘陵ありて月崎の小突出となり、東南部の丸尾崎と共に丸尾港を擁す。東部・南部は廣き海岸平地にして、耕地よく開け、米・黍・大豆・甘藷・葉煙草の外に養蠶も盛なり。瓦・煉瓦の製出もあり、魚獲も多し。社線宇都鐵道通じ、岐波驛・丸尾崎(共に大正十三年設置)を置き、縣道これに沿うて走りバスの通す。海岸は遠淺にして月崎海水浴場は知らる。西岐波村と共に岐波の汎舟を以つて呼ばれし處。

ヒガシクサノ

東草野村 滋賀 縣近江國東淺井郡の東部。伊吹山脈の西斜面を占め、湖川の水源をなす。北より東へかけて伊吹山脈連立し岐阜縣美濃國掛斐郡に界し、西北隅の島越峠より出づる一分脈南へ走り西境をなす。湖川は北部に發し西部を南流す。谷沿に東落散在し多少の耕地開かるも村内概ね森林繁茂す。米・黍・稗等の農耕或は養蠶の外、林業に従事し、多く木材・薪炭を出す。また西南部に發電所あり。谷沿に南北に貫通する一條の里道あり、南へは縣道となりて北國歸街道に通じ、北は島越峠より美濃國掛斐川上流に至る。本村は上草野村・下草野村と共に中世、草野莊と呼ばれし處。↓草野

ヒガシクジョー

東九條 京都 府紀伊郡にありし村。大正六年京都市に編入す。

上伊美村の七人なり。海岸に沿ひて...

ヒカシクビキ 東頸城郡 新潟縣

十六郡の一。越後國の西南部。南は一〇...

ヒカシクリス 東栗栖村 兵庫縣

播磨國揖保郡の西北部。新宮町の西に接し...

ヒカシゴイ 東五位村 富山縣

越前國西礪波郡の東北部。小矢部川の右岸...

ヒガシコクア 東國分村 鹿兒島縣

薩摩國薩摩郡の東南部。華人町の東に接し...

小麥・粟・黍・食用農産・蔬菜・花卉・果實...

ヒカシクレハ 東吳羽 富山縣

富山県にありし村。大正十五年本村を廢し...

ヒカシクロト 東黒田村 滋賀縣

近江國坂田郡の中部。長濱町の東南方約六軒...

ヒカシクロベ 東黒部村 三重縣

伊勢國多氣郡の東北部。松阪市の東約三軒...

水産あり。松阪市へハスの便あり。此地は和名抄...

ヒカシシヤカイ 東境 愛知縣

德日花袋平野等を發見せり。此の地は和名抄...

ヒカシサクラジマ 東櫻島村 鹿兒島縣

薩摩國大隅郡鹿兒島郡。櫻島半島の東南半を占む...

ヒカシサカイ 東境 愛知縣

德日花袋平野等を發見せり。此の地は和名抄...

路は村の中部を東西に通じ、西北方奥野本線東根...

ヒカシシヤカイ 東境 愛知縣

德日花袋平野等を發見せり。此の地は和名抄...

ヒカシサクラジマ 東櫻島村 鹿兒島縣

薩摩國大隅郡鹿兒島郡。櫻島半島の東南半を占む...

ヒカシサカイ 東境 愛知縣

德日花袋平野等を發見せり。此の地は和名抄...

奈良市の東北部に接し、西北部は京都府相楽郡に界す。全村山地傾斜地をなし、川の一支流北部を東北流して狭川村に入る。米・麥・蕎麦を産す。南部に月ノ瀬街道あり、省線西線笠置驛(東北方面約四軒)及び奈良市へバスを通ず。この地は和名抄、添上郡船生郷の内なりといふ。

ヒカシサワ

羽前南村山の東北部。山形市の東南に隣り、北は東村山郡、東は宮城縣に接す。面積七一・八五方軒。奥羽山脈の西斜面に属し、東南端に蔵王山(一八四一米)、東端に雁戸山(一四八五米)、南端には澁山(一三六四米)あり、西北方に傾斜し、馬見ヶ崎川は東南端に發源し、村の中部を西北に流る。西北部は山形盆地に属して一部平坦なり。米・麥・蕎麦・木炭・白菜等を産し、また飼羊飼育せらる。使谷街道は村の北部を東西に通じ西方奥羽本線山形驛へバスの便あり。東方は使谷峠を越えて仙臺市に至る。大字園澤は藩政の時香所ありしにして、園根とも稱せり。この使谷峠は一に有也無也の關址なりといふ。亦有也無也關(天満神社)大字小川川に鎮座。郷社。祭神、日本武尊・菅原道真。最上氏は社領二百七十石を寄せ、代々の祈願所となす。例祭四月二十五日。

ヒカシサンジョー

應西南部に接し、寺部町の西南に接し日本海に面す。東は寺部郡、西南は太平洋を以て西島牧村に隣接す。面積一〇九・六九方軒。海都郡界に月越山脈南北に連り東西に幅狭く村内は爲に概れその斜面に属す。西南部は西島牧村の山地打つゞきて稍々高し。太平洋・折尾等の諸川は東部山中に發して西北流し海に注ぐ。海岸に狭少なる平野存す。村内耕地乏しく、鮭等の漁獲約七萬圓を以て主要産物となす。海岸に平地敷道通じ寺部町にバスの便を有す。

ヒカシニューゴー

福井縣越前國坂井郡のほぼ中央。坂井市の北方一〇軒餘。面積一二・三方軒。越前平野中に位して一徳敷里の平地をなし、且つ古来の沿革を誇る十郷用水(神明用水)によりて灌漑の便よろしく、田畑よく拓く。米・麥・大豆・蕎麦等の農産に富み、羽二重・人絹の産出また盛からず。省線北陸本線は中部を南北に走り、丸岡驛(明治三十年設置)ありて東方丸岡町への關門をなし、また社線丸岡線道は省線と直交し新島(大正四年設置)丸岡・東長田(昭和六年設置)の各驛を経て、西隣大石村の西長田驛にて社線三國電線に接続す。村内に縣立坂井農学校あり。昭和十年の人口三九二六人にして密度は一方軒當り三二〇人を算し稍々稠密なり。この地は中世、田宮庄に属し、東大寺聖徳の長徳四年寺領註文に「坂井郡

信越本線の一驛(明治三十年設置)にして彌彦線の接続點。新潟縣三條市田島町にあり。

ヒカシサントー

和歌山縣紀伊國海草郡の東部。西北部は和歌山市東隅との間に僅かに約一・五軒を隔て、西南約二軒には海西市あり、東は那賀郡に界す。四周二五〇米程度の緩傾斜の低き山地を繞らし、中央は盆地をなして、東南部に發する河川西北流し西部中央にて西折し、約六軒先にて和歌山川に注ぐ。低地は田畑よく拓けて米・蕎麦を出し山麓斜面は柑柿の産多く、外に林産・工産・産産及び水産あり。本村と和佐村とに跨りて福宜嶺山あり、車重要嶺山にして、昭和十年には鋼鐵四三七路を出入す(和佐村参照)。縣道横濱に通じてバスの往來あり。西山東村と共に中世は山東莊と云ひし處。

ヒカシサンボンキ

京都市上京區の町名。賀茂川の西崖にして九太町通の北に南北に通ず。その西の西三本木に對する稱。晩年嶺山ここに住む。その書齋の山雲水明處は書齋を存しいま指定史蹟たり。往時は此の邊は旗亭軒を連ねし所なり。

ヒカシシ

鳥取縣東伯郡にありし村。大正六年西志村・福米村と合併して高城村を建つ。

ヒカシシヨナイ

田宮庄田五十三町とあるは之なり。長野縣信濃國埴科郡の東北部。松代町の東に接し、東の一部は上高井郡に隣りす。東部に奇崎山(一〇〇米)ありて西部に傾斜す。平地は西部に僅かあるのみ。村内桑園に富み養蠶業最も盛なり。爾は概れ松代町に集集され生絲となる。其他に米・麥及び南斜面の苹果等の産あり。松代町に近く交通便なり。この地は和名抄、埴科郡美多郷の内にして、東鑑・文治二年の條に「東條庄、八院院御領」とあるは此地なり。天正年間、東條左衛門尉の安堵せし地。(玉依比賣命神社)郷社。祭神、玉依比賣命。崇神天皇の御宇、科野國造の祖、武五百健命の創祀なりといふ。延喜式内の古社にして、當村の産土神たり。例祭、十月七日。

ヒカシシヨナイ

大分縣豊後國大分郡の西南部。大分川の南岸に沿ひ、南は直入郡と大野郡に接する山村。西南部に鳥帽子嶽(七六一米)屹立して北及び東に傾斜し、其東麓には東部丘陵との間に大分川支流北流し北境を東流する大分川に合す。西北境には境界に沿ひて東北流する河川ありて大分川に合す。平地乏しきも北岸の山麓傾斜地に耕地よく拓け米・麥等を産す。東部には南北に走る縣道あり。省線久大本線小野原驛・天神山驛へは共に北方約〇・五軒を隔つ。この地は和名抄、大分郡阿南

接す。西南隅に獨鈷山(二二六六米)屹立して南へ傾斜地をなし、東部には七〇〇米餘の丘陵連立して上田市と界す。この兩山地に挟まれ略々中央部に平地開け、千曲川の一支を源流す。中央部の平原及び山麓には水田、桑園多く、農産を主生業とす。米・麥・蕎麦の産あり。縣道東西に走り別所温泉へバス通ず。この地は和名抄、小縣郡安宗郷の内にして、中世は鹽田庄に属す。東鑑・文治三年の條に「鹽田庄、最勝光院領」とあるはこれなり。此地は天文年間、武田信晴と村上氏の合戦せし所。(生島足島神社)大字下之郷に鎮座。國幣中社。祭神、生島大神・足島大神。神武天皇御即位の砌り、神籬を建てて生島大神を祀り給ふ。式内大社に列し、歴聖の御尊崇厚かりしかば、後世、地頭領家また深くこれを崇敬し、祭祀料として神田若干を寄せ、社殿を造補改修す。例祭、九月十九日。(安曾神社)大字古安曾字石神に鎮座。郷社。祭神、大己貴命外二神。創立年次を詳にせざるも古來本村の産土神たり。

ヒカシシカタ

兵庫縣播磨國印南郡の北部。姫路市東北部より東五軒餘を隔て、北は加西郡に、西北は飾磨郡に界す。東部に城山(二七二米)聳居するを始め、四周低き山地を繞らし中央南端に西北より東方に開く稍々廣闊な谷あり。中央には之より北方へつゞく細長き低地あり。氣候乾燥地なれば灌漑を

ヒカシシラカワ

福島縣磐城國の南部。東は石城郡、北は石川郡、西は西白河郡、南は茨城縣に隣接す。面積七八二・九四方軒。郡はその中西部を南北に走る久慈川地溝帯によりて東西兩山地に分けられ、その東部は阿武隈山地にして東境には北より芝山(八一九米)・大黒山(七八七米)・三株山(八四二米)・朝日山(七九七米)等あり。その西には駿川上流の谷を隔て、北より入道山(六八七米)・葛地石山(五八〇米)・殿山(六三〇米)・弓張堂山(六五八米)・茶笠船山(七七二米)あり、その西斜面は層層崖をなして久慈川及びその支流川上川の谷に傾斜す。駿川は兩山地の間に發源して北流し、北部に於て流路を變じ東南に流る。郡の西南境には八溝山(一〇二二米)あり、東及び東北方久慈川に傾斜す。久慈川は八溝山の北に發源し東北に流れ、郡の北部に於て流路を變じて南流す。沿岸に耕地拓く。久慈川の沿岸には米・蕎麦を産し、東部阿武隈山地には木炭・馬等の産多し。棚倉町は久慈川地溝帯の門戸にして又その中心地をなす。茨城街道は久慈川に沿ひて南北に通

ヒカシシマ

石川縣能登國鹿島郡の北部。能登島の東部を占む。西部が中乃島村に續く外いづれも海に面し、北は大口瀬戸を以て風至郡に、南は小口瀬戸により鹿島半島に對し、東は外海に面す。村内概れ丘陵にて河川・平野等見るべきものなし。桑畑は海岸に散在し概れ漁業に従ふ。鮭の産多し。其他、農耕・養蠶も行はれ米を産し、山林は狩獵地として名あり。七尾港より五瀬、定期船の便あり。道路は海岸を一巡する県道と中央を東西に横斷する縣道とあり。

ヒカシシマキ

北海道日高郡静内郡静内町の大字。日高線の東静内驛(昭和八年設置)あり。

ヒカシシマ

鹿兒島縣薩摩郡にありし村。明治二十四年志布志村を東志布志村・西志布志村・月野村に分けしが、大正二年合併して志布志町と改む。

ヒカシシマ

石川縣能登國鹿島郡の北部。能登島の東部を占む。西部が中乃島村に續く外いづれも海に面し、北は大口瀬戸を以て風至郡に、南は小口瀬戸により鹿島半島に對し、東は外海に面す。村内概れ丘陵にて河川・平野等見るべきものなし。桑畑は海岸に散在し概れ漁業に従ふ。鮭の産多し。其他、農耕・養蠶も行はれ米を産し、山林は狩獵地として名あり。七尾港より五瀬、定期船の便あり。道路は海岸を一巡する県道と中央を東西に横斷する縣道とあり。

ヒカシシマ

北白川郡を東白川郡と改めて今日に至る。↓白河(郡)

ヒカシシマ

岐阜縣美濃國加茂郡の東北部。飛騨川の一支白川の左岸にて、右岸の西白川村に對す。東北より東へかけて惠那郡に接し、付知町の西に隣す。東西に山岳重疊し、東北より西南へ白川貫流す。村内平地乏しく、河岸部の耕地に米・麥・桑を栽培す。養蠶業を主生業とし次いで農耕・林業行はる。米・麥・蕎麦・木材等は主産物にて、松茸・木炭・茶の特産もあり。河沿に白川街道貫通し、高山本線白川口驛へバス通ず。(越原花の木自生地)指定天然記念物。花の木の自生區域の境界並要所にして分布の範圍を表示し學術研究に資す。(神田神社)大字神土に鎮座。祭神、伊弉諾大神外四神。元正天皇養老二年の草創といひ、式内小社たり。例祭、九月二十九日。

ヒカシシマ

廣島縣安藝國賀茂郡の北部。西條町の西北約四軒に位し、東北は豊田郡の西北隅に接す。西南約一七軒には廣島市あり。南境より北境東半にかけて山嶺繞り東境に六六六米の山峰あり。西部にも丘陵聳る。低地は中央より西南及び西北に細く續きて耕

地あり。産産最も多く美濃を副業とし工産・林産・畜産あり。西部を飯道西北一東南に縦断し東南方省線山陽西條驛へパスの便あり。古くは和名抄、賀茂郡志芳郷に属せるもの。中世は志芳庄と稱し大内氏の領地なり。

ヒカシシタチ

東信達村 大阪府和泉国泉南郡の南部。佐野町の南方約五軒に位し、南は和泉山脈を越えて和歌山縣那賀郡に界す。南境には和泉山脈東西に連り、西南境には四石山(三三四米)あり。全村山地の傾斜地にして東南境に發する電氣川は中央を西北に貫流し、約三・五軒西北にて大阪灣に注ぐ。米の産を主とし、林産・工産・畜産あり。根來街道西部を貫き和泉山脈を越えて紀ノ川沿岸に出で、社線南海鐵道線并井野へは西北約三軒にて、社線阪和電氣鐵道も西境近くを走る。中世の信達莊の東部に當るを以て此名あり。紀伊根來領にして、のち岸和田藩領たり。(金熊寺梅渡)字金熊寺にあり。口の千本・一日千本・中の千本・奥の千本の四部に分る。口の千本は南海電氣線并野を距ること約二軒の地より金熊寺まで、中の千本は金熊寺と稱する山寺の背後に位する山谷、一日千本はその東の山腹、奥の千本は之等の奥にあり。また奥の千本の奥、字童子畑に童子の千本あり。金熊寺梅林より産する梅の實は約三六〇軒に達す。

ヒカシスサ

東須佐村 島根縣出雲

國飯石郡の北部。今市町の南方一〇軒餘に位し北は飯川郡に界す。四周山嶽を連れ、北境に黒山(五二五米)・玉院山(五四四米)・南境には鳥屋ヶ丸山(六八七米)等ぞびえ、東境も高さ六〇〇米程度を有す。東北部に發する河川は北部を西南流し、西部にて南部に發して西部を北流する河水を入れて西北折し黒山南麓より隣村に出で神戸川に合す。河岸は耕地をなし米・藁の産及木炭・用材・畜産を出し、醬油その他の工業もあり。道路四方町村へ通じ今市町へパスの便あり。本村は明治二十九年須佐村の東部を分割して置けるもの。(須佐神社)大字宮内に鎮座。國幣小社。祭神、須佐之男命。當社は風土記・延喜式に載せたる古社にして、命、八岐大蛇退治の地と傳ふ。社實中、兵衛旗刀一口は足子晴久の本納にして現に國寶。例祭、四月十八日・十九日。

ヒカシセタナ

東瀬棚村 北海道

後志國網走支庁瀬棚郡の西部。利別川下流に沿ひ、瀬棚町の東及び南に接す。西部の利別河口附近は日本海に面するも他は概れ山中に位し、東は利別川、北は奥牧、南は太輪郡に界す。面積一五〇・三九平方軒。南部に利別川西流して沖積平野を展ぎ、之に合する前川内川は北積山中より南流し沿岸に平地を有するも、他は悉く山地に占められ、北部にメツブ岳(二四七米)・カスベ岳(一〇四九米)あり。地勢、南に傾斜す。米・麥・大豆、馬鈴薯、木材、穀類、牛・馬・鮭の産あれども何れも量は多からず。省線瀬棚線貫通して丹羽・東瀬棚の二驛(昭和七年設置)を置く。

ヒカシセアリ

東倉振村 佐賀縣

肥前國神埼郡の東北部。香取山塊東南部の南斜面を占め、神埼町の東北約一軒にあり。東は三疊基郡に隣り北は福岡縣早良郡及び筑紫郡に界す。北半は山地にして西北方に登ゆる香取山(一〇五五米)の東南斜面地なり。南部には筑紫平野北部を占むる平野開け、小河西南流す。米の産多し藁・藪も多し。南部は交通の便よく、省線長崎本線神埼驛は西南約二軒にして自動車の便あり。(さざんくわ自生北限地帯)指定天然記念物。大字松原字坂本の東香取山にあり。殆ど純林をなして巨樹に富み、幹圍一・二米内外のもの少からず。葉は培養種より小さく、花の色白し。(雲山寺)大字松原にあり。元明天皇御宇、和銅二年漢樂上人の勧願により創立せしものにて、往昔數十の僧坊ありて九州第一と稱せられし大伽藍地なりしと傳へらる。のち伽藍せしを鴛島直茂これを再興せしも、維新後再び頽廢するに至る。

ヒカシセントウ

東仙道村 東北

一驛(昭和七年設置)。宮城縣仙臺市原町寄竹にあり。

ヒカシシリオ

東鴨吹 山口縣

約四軒、西北は北仙道村に接す。概れ三百乃至四百米の山地連互し平地に乏しきも、各溪流に沿うて樹林状に耕地開く。米の外に養蠶も盛にして、山地よりは木村・木炭を出す。街道は中部を東西に走り益田町にパス通す。此地は和名抄、美濃郡益田郷の内なり。もとは北仙道村と共に仙道の汎稱を以て呼ばれし處。(八幡宮)大字仙道に鎮座。祭神、應神天皇。村上天皇の天曆八年、豊前國宇佐宮よりの勸請に係り、往古は勸使の下向あり、のち領主益田氏の祈願所として神領百二十石餘を寄せらる。例祭、十月九・十・十一日。

ヒカシトウミ

東外海村 愛媛

縣伊豫國南宇郡の南部。縣の最西南端に當り、南は豊後水道に臨みて東西に細長く、東は高知縣幡豆郡宿毛町に界し、西北部は御莊町に、北部中央は城邊町に接す。東部は宿毛湾口西北岸をなし、黒崎鼻西南に突出して鼻沖面に面す。西部に宿毛湾の西に當る一灣あり。其西部より天崎鼻東南方へ長く突出して西を限り隣の東北に細長く入るを深浦と言ひ西に久入久良浦と言ふ。前者は四時平穏なれど狭隘にして小船の泊地に過ぎず、後者は潮入凡そ一渾午、水深三〇乃至九〇尋、船舶政艘を入るべき安穩の避泊所なり。全村山地にて沿岸に山地に連綿せ

ヒカシノキ

東彼杵郡 長崎縣

九郡の一。肥前國の中部。佐世保市の南に隣り、大村灣東岸を占めて對岸に西彼杵半島を望み、東は佐賀縣に接す。西北より東南に細長く西北部に針尾島ありて大村灣口を狭め、其西は伊ノ浦瀬戸により西彼杵半島に對す。東南半は郡境に當る多良嶺(九八三米)及びこれに連りて西北方へ延びる經ヶ岳(一〇七六米)、流日山等の諸峯の西斜面にて、河川は皆西流して大村灣に入り、中央に郡川ありて附近は海岸圓周状に西方へ擴がりて低地をなす。西北半は小丘陵略々東北より西南に連りて海岸に終り、即ち西北境には隱居岳の連嶺、その東南に二子山・弘法岳・白岳(三〇〇米)等の諸峯、更に用棚川の谷をへたてて、東南に虚空藏山(六〇八米)・高見岳・香神山等の山々連り、その南東麓には彼杵川流れて河口低地をなす。河川は凡て西南流し沿岸に平野を有す。西北部海岸は扇曲に富み、大崎山海岸に迫り北に小串浦、南に三越浦を抱き何れも良備地あり。狭き早岐瀬戸を距

ヒカシシノヤマ

東巖山 鹿兒島

縣給良郡にありし村。昭和十年鹿島村と改稱。

ヒカシタイハラ

東臺原山 日本

北アルプス常念山脈北部の一峯にて、燕岳(二七六三米)の北東方に峙つ。東斜面は長野縣北安曇郡常盤村に、西斜面は同郡平村高瀬入岡有林地域に、南斜面は南安曇郡有明村に属す。標高二四九七米。燕岳の北方なる臺原山(約二七四〇米、一

ヒカシタカ

東多賀 宮城縣

にありし村。昭和三年閉上町と改稱。

ヒカシタカス

東鷹栖村 北海道

石狩國上川支庁上川郡の西北部。旭川市の北に接し、東境を西流せる石狩川を以て比布村・永山村に界す。西隣に鷹栖村あり。面積八一・九五方軒。旭川盆地の北部を占め、村内概れ肥沃なる平地にして、諸小川南流して水利よく耕地多し。北の一部に山地あり。三角山(九七九米)聳ゆれど、一般に丘陵性にして農場地在す。西南境に近文臺の小丘陵平地中に殘留す。一五〇一・一六〇米の高臺にして陸軍演習地に使用さる。旭川市に接し交通便なり。本村は大正十三年鷹栖村より分割して置けるもの。

ヒカシタカツキ

東高月 岡山縣

赤磐郡にありし村。明治三十五年本村ほか二村を合併して高陽村を置く。

ヒカシタカワ

東田川郡 山口縣

山形縣羽前國の西北部。山形縣十一郡の一。北は飽海郡、東は最上郡、東南は西村山郡、西南は新湯郡、西は西田川郡及び鶴岡市に隣接す。面積一四八・二九方軒。東境には北より土湯山(五七七米)・板敷山(六三〇米)・虚空藏嶺(一〇九〇米)・赤砂山(一〇一五米)・月山(一九二四米)・湯殿山(一五〇四米)・赤見堂嶺(一四四六米)・陣ヶ嶽(一四八一米)・二ツ石山(一三〇九米)・南境には東より以東嶽(一七七米)・化穴山(一五〇六米)・樹形山(一三三米)・重蔵山(一〇三六米)・西境には北より金峰山(四五九米)・母狩山(七五一米)・湯ノ澤嶽(九六四米)・摩耶山(一〇二〇米)・北俣山(九六五米)・大鳥屋嶽(九八九米)あり。南部は

山岳重疊せるも、西北部は庄内平野に属して平坦なり。最上川は北境を西北方に流れ日本海に注ぐ。南境よりは大島川・地字川等發源し峡谷をなして北流し、合して赤川となり庄内平野に出てて郡の西北境をなして北流し、最上川に合す。立谷澤川は東境に發源して西北に流れ、流路を變じて北流し最上川に合す。立谷澤溪谷と庄内平野との間には、羽黒山(四一九米)をはじめ丘陵、南北に横はる。西北部庄内平野には米の産多し、庄内米の名あり。余目町は本郡産出米の集散地として著名なり。また各地に蘆を産し、南部及び東部の山地は木炭の産多し。道路には郡の西部を南北に通ずるもの、東部より東に之に合するもの、及び北部を西北に向ひ之に合するもの等あり。省線羽越本線は西方鶴岡市より東に、庄内平野の中央部を北上し、余目町に於て東南方より来る省線陸羽西線を合す。前者に蘆島・余目等の驛あり。また陸羽西線には狩川・清川の兩驛あり。本郡は明治十三年五月田川郡を東西二部に分けて新置せるもの。※田川(郡)

ヒガシタケサワ 東瀧澤村

秋田縣羽後國山形郡の中部。矢島町の東北に接す。村の北部には檜葉山(三三〇米)、中南部には柴倉山(三二二米)聳え、東部は山地をなすも西北部は平坦なり。子古川は西境を西北に流れ、東境に發源して西流する支流を合す。米・蘆の産あり。

ヒガシタケサワ 東竹澤村

新潟縣越後國古志郡の南部。小千谷町の東約九折。東及び南は北魚沼郡に界す。東山丘陵の一部を占めて、土地一般に高燥、西方平川の谷へ傾斜す。山林地帯多し耕地に乏しく米・麥の耕作、蕎麥等行はる。蘆産多からず。其他、蕎麥を産す。里道により省線上越後小千谷驛・越

ヒガシタケサワ 東多久村

佐賀縣肥前國小城郡の中央南部。小城町の西方約一折にあり。六角川支流牛津川に跨がる。北境には笠頭山そびえ、南境には兩子山(三三八米)聳り、中部より東南部にかけては平野開け、牛津川は中部を東に貫き東境に出で村界に沿ひて東南流す。米の産多し蘆・麥の産もあり。中部低地には縣道四方に通じ、即ち東南方佐賀市、東方小城町、西方唐津市、西南方武雄町(杵島町)方面へ至るもの等ありてバス各地に通じ、省線唐津線北部を横斷して東多久驛(明治三十六年設置)あり。此地は和名抄、小城郡高木郷の内に於て、宇佐大鏡に肥前國宇高米別府とあるは本村大字別府のことなり。

ヒガシタケサワ 東谷村

富山縣越中國中新川郡の中部。五百石町の東南方約四折。白岩川上流に沿ひ、立山連峰の西北山裾を占む。東部・南部に一〇〇米前後の山岳あり、西北部に傾斜す。白岩川は東南隅大辻山(一三六一米)に發源し、幾多の支流を合して西北に流る。粟落の谷に沿ひ林業・養蠶・農耕に従事す。谷沿に南北に貫通する里道ありて險峻なり。五百石町へは縣道通す。

ヒガシタケサワ 東谷村

兵庫縣津路川邊郡の東北東部。龍勢川に跨がり、北及び東は大坂府豊能郡に圍まれ、東南隅は池田町の北隅に接す。村内所屬の所山地起伏し東北隅には妙見山(六六二米)聳ゆ。東境中央には高代寺山(四八九米)あり。總じて地形東北に

ヒガシタケサワ 東谷村

後川口驛へ何れも十軒餘、交通便ならず。【東谷村】 秋田縣羽後國北秋田郡の東部。扇田町の東南に隣る。東境に合宿山(五六三米)あり、西南境は海拔約九百米、東南境は海拔約六百米にして西北方に傾斜し、犀川は村の中央部を西北に流る。西北部は大宿盆地に屬し平坦なり。米・蘆を産す。奥羽本線大宿驛へは西北約一二折、秋田鐵道扇田驛へは約四折、各自動車の便あり。村内に淺利館地あり。淺利實義が天文年中に居りし所なりといふ。【東谷】 福島縣東白川郡豊里村の大字。水郡線の東館驛(昭和五年設置)を置く。

ヒガシタケサワ 東谷村

富山縣越中國中新川郡の中部。五百石町の東南方約四折。白岩川上流に沿ひ、立山連峰の西北山裾を占む。東部・南部に一〇〇米前後の山岳あり、西北部に傾斜す。白岩川は東南隅大辻山(一三六一米)に發源し、幾多の支流を合して西北に流る。粟落の谷に沿ひ林業・養蠶・農耕に従事す。谷沿に南北に貫通する里道ありて險峻なり。五百石町へは縣道通す。

ヒガシタケサワ 東谷村

兵庫縣津路川邊郡の東北東部。龍勢川に跨がり、北及び東は大坂府豊能郡に圍まれ、東南隅は池田町の北隅に接す。村内所屬の所山地起伏し東北隅には妙見山(六六二米)聳ゆ。東境中央には高代寺山(四八九米)あり。總じて地形東北に

ヒガシタケサワ 東谷村

兵庫縣津路川邊郡の東北東部。龍勢川に跨がり、北及び東は大坂府豊能郡に圍まれ、東南隅は池田町の北隅に接す。村内所屬の所山地起伏し東北隅には妙見山(六六二米)聳ゆ。東境中央には高代寺山(四八九米)あり。總じて地形東北に

ヒガシタケサワ 東谷村

高く西南部に低し。龍勢川は北方より南下し來りて中央を西南流し、西南境を出でて紫名川に注ぐ。途中中部にて南下する支流を合す。西南部流域に低地開く。米・麥・蔬菜・花卉・食用農産・果實等の農産物及び鶏卵・林産物・蠶等の産出あり。龍勢街道南北に貫き途中西北方に向ふ丹州街道を分ち各バスの便あり。社線龍勢電氣軌道は東南部を走り野野・山下の兩停留所あり。妙見山にはケーブルカーあり。【小童寺】 大字西野にあり。淨土宗。忠孝山。多田神社の奥の院なりといふ。多田滿仲の季子美丈丸、學を中山寺に修む。時に年十五、山野に涉獵して師父の教を奉ぜず、滿仲怒りて其臣藤原仲光に命じて害せしむ。仲光これを害するに忍びず、美丈丸に勸めて觀山に登らしめ己が子美丸の首を割れて之に代ふ。美丈丸、仲光等の忠節に感じて精勵大いに力め、學成りて源實阿闍梨と號し、のち父に請ひて半壽丸の爲に本寺を建て自ら開基となる。以て本寺の草創となす。阿闍梨二十五菩薩來迎圖(絹本着色)は國寶。境内に源實・仲光・半壽丸・平井保昌・波邊綱等の供養塔あり。

ヒガシタケサワ 東谷村

富山縣越中國中新川郡の中部。五百石町の東南方約四折。白岩川上流に沿ひ、立山連峰の西北山裾を占む。東部・南部に一〇〇米前後の山岳あり、西北部に傾斜す。白岩川は東南隅大辻山(一三六一米)に發源し、幾多の支流を合して西北に流る。粟落の谷に沿ひ林業・養蠶・農耕に従事す。谷沿に南北に貫通する里道ありて險峻なり。五百石町へは縣道通す。

ヒガシタケサワ 東谷村

兵庫縣津路川邊郡の東北東部。龍勢川に跨がり、北及び東は大坂府豊能郡に圍まれ、東南隅は池田町の北隅に接す。村内所屬の所山地起伏し東北隅には妙見山(六六二米)聳ゆ。東境中央には高代寺山(四八九米)あり。總じて地形東北に

ヒガシタケサワ 東谷村

兵庫縣津路川邊郡の東北東部。龍勢川に跨がり、北及び東は大坂府豊能郡に圍まれ、東南隅は池田町の北隅に接す。村内所屬の所山地起伏し東北隅には妙見山(六六二米)聳ゆ。東境中央には高代寺山(四八九米)あり。總じて地形東北に

北部に廣し。米・麥・蕎麥を産す。西部河谷に小倉市より南方田川郡香春町に通ずる縣道走り之と交叉しつゝ社線小倉鐵道南走して母原(昭和八年設置)・石原町(大正四年設置)・木下(昭和八年設置)・下呼野(昭和八年設置)・呼野(大正四年設置)・上呼野(昭和十二年設置)の六驛を有す。【東大野八幡神社】 大字母原に鎮座。郷社。祭神、息長足姫命外七神。舊記に寛文七年の創建と傳ふ。例祭、十一月十日。【千佛窟】 指定天然記念物。平尾臺の東方屋角にあり、最も整ひたる模範的鐘乳洞なり。洞口は多数の鐘乳石垂下し鏡かに出入し得るも、洞内に廣瀨にして石壁僅麗、鐘乳石・石物が完備し損傷せず。【平尾臺】 大字新道寺にあり。全郡第一の高峰、貫山に連りて南走する一脈の高原を平尾臺と云ひ東西二軒、南北四軒、全體石灰岩の一大堆積にして樹木殆どなし。南部は平坦にして陸軍演習地をなすも、北部は風化によりて圭角消磨せし露出石灰岩累積し、起伏隨所あり、怪奇の形状を呈し壯觀なり。【龍ヶ鼻】 平尾臺の高原の南端を云ひ、奇岩怪石累々として聳立し、百尋の峻崖をなす。蒼蒼たる樹林に覆はれ、新緑、紅葉の季は特に佳し。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 新潟縣越後國古志郡の東部。扇田町の東南に接し、東は南魚沼郡に、南は北魚沼郡に界す。東南部は越後山脈の

ヒガシタケサワ 東谷村

一分脈を受け、千米前後の山地西北に向ひ傾斜す。信濃川の支流刈谷田川はこの山地に發源し、村内を西北へ貫流し、流域に多少の平地開かる。農耕・養蠶を主とし、米・蘆の産多し、また木材・薪炭等の林産物あり。西部を南北に貫走する縣道あり。この村はもと物産と稱し、明應六年越後檢地帳の中に、「飯沼遠江守分、高波保泉、飯沼正分、高波保赤谷、金江五郎次郎代官」とありしは此地なり。江戸時代の勸業家、植村角左衛門(贈從五位)は本村の人。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

ヒガシタケサワ 東谷村

【東谷村】 大分縣豊後國下毛郡の東端。西南は西谷村に接し、東は宇佐郡に地す。面積二一・五方折。北・東・南の三面概ね五〇〇米以上の山に圍まれ、東境の鹿山(七五八米)や著はる。中部に盆地を形成し、山間川支流跡田川これを灌溉して西北方に流る。地産に乏しく僅かに米・麥・雜穀及び多少の林産物を出すのみ。邊陲に位するを以て良路を過せず、交通不便なり。昭和十年の人口は一、〇三七人にて、一方軒四八人に過ぎず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の内なり。村内に東谷城址あり、兩豊記・宇佐記等に天正七年、野仲備後、大友家に獲き、東谷口を東谷一黨に守らしむとあるもの即ち此の城寨なるべし。

に出で山麓を迂回して再び三州街道に沿ひ南へ至る。また省線橋ノ井線は東北より来り厚川に沿ひて南下し松本を経て豊尻驛に到り中央本線に會す。其他、松本市より西北に至る省線大嶺南線、西南に至る社線筑摩電線の便あり。鐵道は松本市を中心として、南北に貫通する西街道、梓川に沿ひ飛騨に至る野妻街道、東部を掠める中山道、鹽尻を経て三河に出づる三州街道等は主要なるものなり。郡内鹽尻町ほか三十五箇村を含む。郡名は一にヒカシカマとも訓む。明治十三年五月、筑摩郡を東西二郡に分けて置けるもの。↓筑摩

ヒカシチヨークイ 東島海山

奥羽火山脈の一端。秋田縣雄勝郡須川村と三浦村との境上に在り。標高七七七米、山麓火山岩より成る。島海山(二二三〇米)の東方(約四〇軒)に在り。山名出づ。山頂に小祠あり、五穀の神として近隣農民の信仰厚し。西麓は北流する雄物川、南麓は北西流する高松川に属する。↓筑摩

ヒカシチヨークセン 東朝鮮海

北朝鮮の日本海側面に於ける一大灣入。朝鮮の東海岸は朝鮮沿岸中最も風曲の乏しき地方なるが、東朝鮮灣は本海岸唯一の大灣にて、北は威鎮北道の舞水浦より、南は江原道高城の水源端を結ぶ二五〇軒を底邊とし、元山を頂點とする三角形の一大灣入なり。灣岸には威鎮北

道の南部、威鎮南道及び江原道の一部が臨み、海岸線延長約七〇〇軒に達し、比較的股前に富む。即ち灣頭の永興灣の支灣なる松田・徳源の二灣を始め、以北には威興灣・退潮灣・新昌灣・退潮灣・利原泊地・臨海灣等の支灣が相連り、南部には長筒灣あり。島嶼として馬堂島最も顯はれ、其他、永興灣口の馬島・新島・茅島・熊島等をその主なるものとす。灣の深度は灣頭部に於て凡そ四〇軒の幅を持つ陸棚を有するも、灣頭部を南北に遠ざかるに従ひ其幅漸次減少し、北は楢川・南は高城附近に於ては陸棚を失ひ急に二〇〇米以上の深海に下る。而して二〇〇米の等深線が舌状に本灣頭に向つて突出せるは、西朝鮮灣と比して著しき相違なり。潮干沙灘の差は、元山附近に於て〇・五米にて朝鮮海岸に於ける最小地域なり。灣岸には元山港を始め、西湖津・進湖・城津・長筒等の良港あり。水産物には明太魚・鱈・鰻など最も多く、其他、鱈・鱈・鱈・鱈・鱈及び天草・若布・貝類等あり。

ヒカシチヨークイフ 東調布

京府在東部にありし町。昭和七年東京市に入り、本町ほか四町と合して大森區を編成す。

ヒカシツガル 東津輕郡

青森縣陸奥國の中部。青森灣を圍める津輕半島の東半、八甲田山北麓及び夏泊半島等を含める地域を占め、西に北津輕郡、西南に安易なる従走路通す。二ノ俣小屋場との間に南西支線の尾根筋を下降し、二ノ俣谷を越え西岳小屋にも、また二ノ俣谷を降り梓川の畔にも達し得らる。

ヒカシトキ 東陶器村

大阪府和泉國東北郡の東部。四方福泉町との間に陶器村を挟み、東は南河内郡に界し、西北より東南に稍々細長く、東南部は〇・三軒程の幅に細長く南方へ延ぶ。西北約四軒には堺市あり。和泉山脈北麓の臺地を占め地形略々平坦なり。工業・農産・畜産・林産・水産あり。東北部に西高野街道通じて堺市及び南河内郡へバスを過す。西陶器村と共に中世の陶器産にして、古への陶器なり。和名抄に大島郡大村郷と云ふも之に同じ。↓陶器(産)

ヒカシトリー 東通村

青森縣陸奥國下北郡の東部。南は上北郡の東北北部に接し、西は田名部町に隣り、北は津輕海峽に面し、東は太平洋に臨む。面積二九六平方軒。大部分は第三紀層、東北端部に古生層より成り、概ね高度二百一三百米を有する臺地性山地にして森林・原野あり。分水界は東偏して南北に延び青平川・大川共に東南部に發し西北に流して田名部町に出で、相合して田名部川となり、その流域に沖積地あり耕地拓く。北岸は弧狀の砂濱、東岸はその北部尻屋崎に近く巖石崎・クキドクノ崎等の小突出と岩礁の散在するも其他はまた直線の砂濱をなす。米作・牧場行はれ

ヒカシテシヨークイ 東天井岳

日本北アルプス常念山脈の一峯。長野縣南安曇郡有明村と安曇村との境上に跨がる。標高二八一・一米。南麓は横道(二七六七米)を経て、常念岳(二六六二米)に續き、北西麓は大天井岳(二九二二米)に達す。北西斜面に二ノ俣小屋場あり以前には小屋ありしが今は腐朽し果つ。横道と常念との中間部には常念小屋あり、宿泊可能なり。南斜面には南流する梓川支流一ノ俣谷溪水あり、東斜面には北東流して中房川に合する糠川谷溪水の上源地をなす。大天井・東天井・常念岳間

分ちて置けるもの。明治三十一年四月、青森市が本郡中より獨立し以て今日に至る。↓津輕(郡)

ヒカシツゲ 東柘植村

賀國阿山郡の東北隅。鈴鹿山脈の西斜面に在り伊賀川上流の源流地を占む。東は鈴鹿郡加太村に接し、北は滋賀縣甲賀郡に界す。東境には鈴鹿山脈連なり、東北隅には油日嶺(六九四米)聳ゆ。中央の加太越より以南の連嶺を特に布引山脈といふ。山脈西に傾斜して加太越に發する柘植川中央を貫き西南流し、西柘植村に入り西南部に平野開く。沃野廣く農業を主産業とし全戸數の六割は之に従事し、他は商工・鑛業を營む。主産物は米・繭・鹽・漆・炭にて石灰・磚の産出の特産物あり。東方鈴鹿郡關町と西南方上野町とを結ぶ街道の通過地に當り、加太越を過ぎて中央を横斷し途中より西北に向ひ滋賀縣に入る縣道あり。省線關西本線と省線津線に分岐點に當り中央にその柘植驛(明治二十三年設置)あり。西柘植村と共に和名抄、伊賀郡柘植郷の地なり。兼仁天皇の御代、後醍醐天皇を奉祀されし宮址あり、政都美事宮と稱す。この都美事より柘植の名起りしといふも詳ならず。鹽産と稱す。和名抄は、もと風森と云ひ、源義經京都へ攻上る時、伊賀路に懸り、此處に宿りしといふ(源平盛衰記)。夫木・雄四(うらみ)しな風の森なるさくら花さそあたなる色に成くと

ヒカシトキタ 東外城田村

三重縣伊勢國度會郡の北部。宇治山田市の西北より約四軒西にあり。西は多氣郡に界す。南中には東西に連る約三〇〇米の山脈あり、西南隅には國東山(三七五米)聳ゆ。北部は臺地あれども一般に低平なり。村内處々に湖沼あり。田畑よく拓け米の産多し、外に繭・漆・畜産・林産・鑛産あり。和歌山街道北端を横斷し、東部に南方無野澤沿岸に出づる街道あり。省線參宮線の田丸驛は東北約〇・五軒にしてバスを通す。この地は和名抄、度會郡田部郷に屬す。古の城田郷の外に當るを以て今の下外城田村と共に中世は外城田郷と呼べり。(津布良神社)皇大神宮本社。祭神、津布良比古命・津布良比賣命。(觀音寺)大字田宮寺にあり。曹洞宗。寺賣中、十一面觀音立像(木造)二軀は弘仁期の作にして國寶。

ヒカシトコ 東都甲村

大分縣豊後國國東郡の東部。兩子山の西斜面に在り、東は國東郡に界す。東境には兩子山(七二二米)聳えて、それより延びる山嶺は北境・南境を隔り、北境中央には屋山(八四三米)を起す。

ヒカシツツタ 東土田村

石川縣能登國羽咋郡の東部。高濱町の東北方凡そ四軒。東は鹿島郡に接す。層上山脈の一部なる丘陵南部・東部に達し北へ傾斜し、神代川の上流米町川は本村北部に發源し西へ流る。流域やや平坦にて小盆地を形成す。此處に水田開けを産す。副業として主に養蠶を行ふ。鐵道により高濱町へ約六軒、バスの便あり。此地は和名抄、羽咋郡都知郷の内にして、村内に徳田前地あり、この地は得田佐守盛章の居地にして、盛章の十四郎、得田次郎章通、得田保地頭職に補せられ、是より代々羽咋郡土田・得田の領主となり得田に居城せり。天正年間、謙信の亂入の時、成章及び嫡男伯耆盛芳と共に戦死し絶家となる。また羽咋郡の豪族、土田氏の出でし所にして、文治の頃、土田正忠度なるものあり。

ヒカシツツノ 東津野村

高知縣土佐國高岡郡の西北部。須崎町の西方約一五軒に在り。山村にして北境は愛媛縣上浮名郡に界す。四面山を繞らして地形峻險、猫嶺の平地をも見す。東境に鶴松森(一一〇〇米)、南境に鈴ヶ森・角點山、北方に正木ノ森、中央東北部に不入山(一三三六米)等の高峯處々に聳立す。不入山北麓に發する四萬十川上流の一支流北川は其の西麓を圍りて中央を南下し西南部より隣村藤原村に出づ。東部には南下

中央には河川に流れて沿岸地あり。米・麦の産あり、牧畜も行はれ、山地は薪炭を供給す。...

ヒカシトツカワ

奈良縣吉野郡にありし村。明治二十三年本村ほか五箇村を廢しその地域を以て十津川村を置く。

ヒカシトリ

東鳥取村 大阪府和泉國泉南郡の西南部。大阪府の西南部を占め、北方は約一軒足すを以て大阪灣岸に出で、南は和泉山脈を以て和泉山脈と稱す。...

ヒカシトナミ

東磯波郡 富山縣(越中國)八郡の一。南北に長く南は白山火山脈の一支部を境に岐阜縣飛騨郡に、西南の一部は石川郡加賀國に、西は西濃郡に、北は射水郡に、東は婦負郡に界す。...

ヒカシトモチ

東砥用村 熊本縣肥後國下益城郡の東部。隼川上流に跨り砥用町の東に接し、北及び東は上益城郡に界し、東北約三軒に濱町、西方約二軒に甲佐町あり。...

ヒカシナカウラ

東中浦村 大分縣豊後國南海部郡の東部。豊後水道の西南端に細長く東方へ突出する半島尖端の北斜面を占めて佐伯灣に臨み、東西に細長く、北方海上には大島嶼横たる。...

ヒカシナカシマ

東中島村 愛媛縣伊豫國温泉郡の西北部。海上にある形那七島の最大島中島の東半を占む。西中島村に界する西北部を除き他の三面は齋灘に臨み、東南部は瀬戸海峽を距て陸月島に對す。...

ヒカシナカシマ

東長島村 鹿兒島縣薩摩國出水郡の西北海上に浮ぶ長島の東半及びその東北方に横たる諸浦島・伊唐島・獅子島等を始め附近多数の島嶼を含み、西北に熊本縣天草郡天草下島を...

ヒカシナカスジ

東中筋村 高知縣土佐國幡豆郡の中部。四万十川下流に合流する中筋川に跨り、中筋町の西南約一・五軒にあり。南北兩部は中央へ傾斜する山地をなし、西北隅に大塔山(三八三米)あり。...

ヒカシナカ

東那珂村 茨城縣常陸國西茨城郡の西部。岩瀬町の東端にて産及び林産あり。中央河谷に沿ひて縣道走り、吉野川對岸を通過する國道には高知市及び香川縣・徳島縣へのバス通ふ。...

共に西北境に近くバスを通ず。西南部は紀淡海峽要塞地帯の一部に屬す。この地は和名抄、日根郡鳥取郡の内なり。...

ヒカシトマタ

東苦田村 岡山縣美作國吉田郡の南部。津山市の北に接し村内産地状の丘陵をなし、西部及び中部にやや低地あり。...

ヒカシトモチ

東砥用村 熊本縣肥後國下益城郡の東部。隼川上流に跨り砥用町の東に接し、北及び東は上益城郡に界し、東北約三軒に濱町、西方約二軒に甲佐町あり。...

ヒカシナカウラ

東中浦村 大分縣豊後國南海部郡の東部。豊後水道の西南端に細長く東方へ突出する半島尖端の北斜面を占めて佐伯灣に臨み、東西に細長く、北方海上には大島嶼横たる。...

ヒカシナカシマ

東中島村 愛媛縣伊豫國温泉郡の西北部。海上にある形那七島の最大島中島の東半を占む。西中島村に界する西北部を除き他の三面は齋灘に臨み、東南部は瀬戸海峽を距て陸月島に對す。...

ヒカシナカシマ

東長島村 鹿兒島縣薩摩國出水郡の西北海上に浮ぶ長島の東半及びその東北方に横たる諸浦島・伊唐島・獅子島等を始め附近多数の島嶼を含み、西北に熊本縣天草郡天草下島を...

ヒカシナカスジ

東中筋村 高知縣土佐國幡豆郡の中部。四万十川下流に合流する中筋川に跨り、中筋町の西南約一・五軒にあり。南北兩部は中央へ傾斜する山地をなし、西北隅に大塔山(三八三米)あり。...

ヒカシナカ

東那珂村 茨城縣常陸國西茨城郡の西部。岩瀬町の東端にて産及び林産あり。中央河谷に沿ひて縣道走り、吉野川對岸を通過する國道には高知市及び香川縣・徳島縣へのバス通ふ。...

ふ。途中より一進分れて西南方へ向ふ。〔五社神社〕 大字江ノ村に鎮座。郷社。祭神、苗鹿神外四神。古來當村の鎮護神にして、もと五社大明神と稱せり。例祭、七月二十八日・十月二十九日。

ヒカシナガタ 東長田村

伯耆國西伯郡の西南部。上長田村の東に接し東境は日野郡に界す。北に賀野・法勝寺二村接す。面積二二・〇四平方軒。全村山地に蔽はれ殊に東境日野郡界は南北に渉る四八〇——六六六米の小山脈ありて高し。人口本郡内に於ける最も稀薄なる地にして、中央里道の附近に小数の聚落あり。木材・木炭・米・馬・牛等を産す。北隣法勝寺村へは自動車の便あるも一般に交通不便なる山村なり。本村は上長田村と共に、中世は長田莊と呼ばれし處とす。

ヒカシナカノ 東中野

本郡の一隅(明治三十九年設置)。東京市中野區米川町にあり。〔東野村〕 岐阜縣美濃國惠那郡の中部。大井町の東南に接し阿木川に沿ふ。土地高燥にて東部・南部より西北に傾斜し、西北部に水田・桑園拓かる。農産を主生業とし、繭を主産物とす。その他葛薯・粟・大豆の特産あり。大井町より分岐せる省線明知線南北に貫通し、村内に東野線(昭和八年設置)を置く。口碑によれば吉野朝尹良親王父子の地に難を避け御所を置き御住あらせられしと。いま御父子の墓と稱せらるる五輪塔あり。〔東野〕 愛知縣丹波郡にありし村。明治三十九年、本村外一町六村を廢し、古知野町を置く。〔東野村〕 廣島縣安藝國賀茂郡の東部。竹原町の約三軒西北にあり、西南郡は豊田郡西南の飛地にある木谷村・吉名村に接す。西部一帯は山地にして西南部に高く約五〇〇米の高さを有す。東北部に低

ヶ原の一部にして明治十三年開拓して一村をなせり。

ヒカシナラワ 東成岩

武豊郡の一隅(昭和八年設置)。愛知縣牛田市にあり。

ヒカシナリ 東成(郡)

〔東成郡〕 攝津國(大阪府)の古郡名。古の難波國又は難波郡と稱せしもの。書紀、欽明紀、孝德紀に難波大郡と稱するもこれなり。のち大郡は東生郡となり、難波小郡は西生郡となりしものなるべし。生は即ちナマにして難波の轉訛なり。和名抄は東生に作り比牟我之奈里と註し、古市・郡家・酒人・味原の四郡餘戸一を管す。その生をナリと訓するは例の頃よりなるかば詳かならず。のち東成に作り明治二十九年四月住吉郡を併せ、大正十四年大阪府に入りて東成・住吉二區に分れしが、近く東成區より旭區を分ち以て今日に至る。

ヒカシナリハ 東成羽

岡山縣川上郡にありし村。明治三十四年成羽町と改む。〔東野村〕 廣島縣安藝國豊田郡の西南、大崎上島の東北部。本ノ江町の北に隣り北は生野島に對し、東は愛媛縣大三島を望む。概ね二百米内外の丘陵連なり平地に乏しきも、緩傾斜地はよく拓かれて耕地となる。東北には難波の小突出ありて御嶽に燈臺あり、佐組島との間は好耕地をなす。果樹栽培盛にして、柑類繭を産し、養蠶も行はる。餘時は好漁港をなすを以て水産も多く北海岸に鹽田あり。餘時燈臺は不動白光にて先達距離一哩、二四六度より二七五度迄は紅光を以て東方の神威島浮標より同島南端迄の危険界を示す。但し看守員は常置せず。〔東野村〕 廣島縣安藝國賀茂郡の東部。竹原町の約三軒西北にあり、西南郡は豊田郡西南の飛地にある木谷村・吉名村に接す。西部一帯は山地にして西南部に高く約五〇〇米の高さを有す。東北部に低

圓森山(八九六米)・足倉山(一〇八三米)・高遠森(八五六米)・林嶽(一四二四米)あり、東・北・西の三境には山頂連りて全村概ね山地をなし、成瀬川は南境に發源して村の中央部を北流し、北部に於て流路を變じて西北に流る。村は農を主生業とし、米・繭・糖・糖・糖・糖等を産し、また木炭の産あり。西北方省線奥羽本線十文字驛へは約一二軒。バスの便あり。村内に天勝の瀧(高一八米、巾三米)・不動瀧(高二一米、巾四米)あり。

ヒカシネ 東根

〔東根村〕 宮城縣野城國伊具郡の北部。角田町の東北約七軒。北は柴田郡、東は互理郡に隣接す。地形南北に長く、東境に三門山(二〇九米)・愛宕山あり西方に傾斜し、阿武隈川は西境を北流し沿岸に耕地拓く。繭・米・麥を産す。道路は村の中部を東西に通じ省營バスの角田驛へは西約一軒。東方省線常磐線互理驛へは約四軒。村内に古壘あり、八幡宮と稱す。舊邑主殿又源三郎の居りし所なりとす。〔東根町〕 山形縣羽前國北村山郡の南部。楢岡町の東南に隣り、西南の一部は東村山郡に接す。東北境に飯岳(一〇一六米)あり、西南方に傾斜し、町の中部を白水仙、南部を野川各西流し、町の西南部はその扇狀地をなせり。山形盆地の東北縁を占め、米・麥・繭・糖等を産す。羽州街道は西部を南北に通じバスの便あり。省線東羽本線東根驛(明治四十四年

設置)及び神町驛(明治三十四年設置)を置く。神町驛よりは西方西村山郡西山村に社嶽三山電鐵を通じ、東根驛よりは東南方高崎村關山へバス通す。此地は中世小田島庄に屬し、小田島氏・最上氏・松前氏領となり明治維新に至り、明治二十九年町制を布く。(東根城) 小田島城ともいふ。正平二年小田島長義鎌倉より來りて此處に城寨を築く。後、應永年間坂本頼高これに代り、數代の後里見景佐これに代る。元名八年最上氏改易の際里見氏も連座して阿波に放たる。爾來此地は山形城主に屬し寛文年間に至り城を毀つ。(若宮八幡宮) 大字東根に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・大鷲鷲尊。後冷泉天皇康平年中、鎌倉鶴岡八幡宮神人三浦下野守・平爲澄等の建立といふ。城主小田島、坂本氏、藩主松平氏等の崇敬す。例祭、陰曆三月十一日・六月十四日。(東根温泉) 泉質、鹽類泉。平野に湧出せる温泉にして、明治四十三年堀井井戸を掘りしと噴出せるもの。四段廣瀨、葉山・月山・飯岳など見え、その裾野附近はスキー場として知らる。(東根の大佛) 指定天然記念物。小学校構内にあり。根元の周囲二〇米。樹高約三〇米、全國屈指の大佛なり。

〔東根村〕 山形縣羽前國西置賜郡の東端。長井町の東北約六軒。東及東南は東置賜郡に接す。東境に鷹戸屋山、南境に松葉澤山あり、西北方に傾斜し、西部は長井

町へ至るもの、東南方に西國街道に連絡するもの、東北方龜山町に至るもの、西北東郷村に走るもの等あり。池田町へバス通す。西能勢村と共に能勢と汎稱せし處。↓西能勢村(朝川寺)曹洞宗。推古天皇二十四年、聖德太子の御創建、普門院と號せらる。明治三十九年回祿に罹り、大正元年再建せる。〔東洞院〕 京都の畿の通り名。平安京の東洞院大路の遺稱。西に東風町、東に間の町との中間に在り、南北に通じ北は中京區の九太町通より南は下京區に至る。男色大藏・五ヶ其夜より客の勤めもすて十郎右衛門前は東洞院迄のびて、もしも最前の男達共切込ば、我さきに立て身を捨て、人に難儀は掛じと思ひ定めし心ざし。〔ヒカシノミ 東能美島 廣島縣佐伯郡にある島。廣島灣内に浮かぶ食糧島の西北に在り。北西の西能美島及び東北の江田島とは陸続きなり。島内には大柿町、深江村等あり近時良質の蜜柑を出す。〔ヒカシハカタ 東伯方村 愛媛縣伊豫國越智郡の東北方海上にある伯方島の東半を占め、西北部の西伯方村に接する外は燧灘海洋に開まる。丘陵處々に起伏し海岸出入多く東北部に金ヶ崎、東南部には波戸名の突出ありて其間に東方へ開く灣を抱き灣頭に水ノ浦あり。南部にも有津・矢崎等の聚落を含む灣ありて船折海岸をへだてて灣口に鶴島嶼は、其

ヒカシノ 東野

〔東野村〕 岐阜縣美濃國惠那郡の中部。大井町の東南に接し阿木川に沿ふ。土地高燥にて東部・南部より西北に傾斜し、西北部に水田・桑園拓かる。農産を主生業とし、繭を主産物とす。その他葛薯・粟・大豆の特産あり。大井町より分岐せる省線明知線南北に貫通し、村内に東野線(昭和八年設置)を置く。口碑によれば吉野朝尹良親王父子の地に難を避け御所を置き御住あらせられしと。いま御父子の墓と稱せらるる五輪塔あり。〔東野〕 愛知縣丹波郡にありし村。明治三十九年、本村外一町六村を廢し、古知野町を置く。〔東野村〕 廣島縣安藝國賀茂郡の東部。竹原町の約三軒西北にあり、西南郡は豊田郡西南の飛地にある木谷村・吉名村に接す。西部一帯は山地にして西南部に高く約五〇〇米の高さを有す。東北部に低

ヒカシネオ 東根尾

本郡にありし村。明治三十七年、本村及び中根尾村・西根尾村を廢し、その區域を以て根尾村を置く。

ヒカシノ 東野上町

〔東野上町〕 和歌山縣紀伊國那賀郡の西南部。長峯山脈北斜面の山地を占め貴志川に跨る。南隣は五〇九米の山嶺を距て僅かに有田郡に界す。全村山地をなし西南境に長峯山脈北斜面に在り。東境に丸山(三六四米)あり。貴志川は兩山地の間を西に流れ約一軒西方にて東北折し北方岩出町にて紀ノ川に合す。米・繭・柑類等の産多く工業・畜産・林産及び水産あり。鐵道

ヒカシノガミ

地四けて小河東部を南に流れ竹原町より瀬戸内海に注ぐ。主生業は農業にて米・麥・粟・糖・糖を産し外に薪炭あり。河谷に沿ひて鐵道走り北方一軒にて山陽道に連絡し自動車往來す。〔東野村〕 廣島縣安藝國豊田郡の西南、大崎上島の東北部。本ノ江町の北に隣り北は生野島に對し、東は愛媛縣大三島を望む。概ね二百米内外の丘陵連なり平地に乏しきも、緩傾斜地はよく拓かれて耕地となる。東北には難波の小突出ありて御嶽に燈臺あり、佐組島との間は好耕地をなす。果樹栽培盛にして、柑類繭を産し、養蠶も行はる。餘時は好漁港をなすを以て水産も多く北海岸に鹽田あり。餘時燈臺は不動白光にて先達距離一哩、二四六度より二七五度迄は紅光を以て東方の神威島浮標より同島南端迄の危険界を示す。但し看守員は常置せず。〔東野村〕 廣島縣安藝國賀茂郡の東部。竹原町の約三軒西北にあり、西南郡は豊田郡西南の飛地にある木谷村・吉名村に接す。西部一帯は山地にして西南部に高く約五〇〇米の高さを有す。東北部に低

ヒカシノセ 東能勢村

大阪府攝津國豐能郡の中部。池田町の東北約四軒にあり、東及び南は三島郡に開まれ、北は京都府南桑田郡に界す。周圍山地を繞らし四周より中央に向つて傾斜す。西部に妙見山(六六二米)・山尻山(六四〇米)等あり。林産最も多く工業之に次ぎ農産類は第三位を占む。外に畜産・鐵産・水産あり。鐵道中央より四方に走り西南池田

ヒカシノセ 東能勢村

大阪府攝津國豐能郡の中部。池田町の東北約四軒にあり、東及び南は三島郡に開まれ、北は京都府南桑田郡に界す。周圍山地を繞らし四周より中央に向つて傾斜す。西部に妙見山(六六二米)・山尻山(六四〇米)等あり。林産最も多く工業之に次ぎ農産類は第三位を占む。外に畜産・鐵産・水産あり。鐵道中央より四方に走り西南池田

ヒカシノミ 東能美島

廣島縣佐伯郡にある島。廣島灣内に浮かぶ食糧島の西北に在り。北西の西能美島及び東北の江田島とは陸続きなり。島内には大柿町、深江村等あり近時良質の蜜柑を出す。

ヒカシハカタ 東伯方村

愛媛縣伊豫國越智郡の東北方海上にある伯方島の東半を占め、西北部の西伯方村に接する外は燧灘海洋に開まる。丘陵處々に起伏し海岸出入多く東北部に金ヶ崎、東南部には波戸名の突出ありて其間に東方へ開く灣を抱き灣頭に水ノ浦あり。南部にも有津・矢崎等の聚落を含む灣ありて船折海岸をへだてて灣口に鶴島嶼は、其

ヒカシ——ヒカシ

西南方海上には大島を望む。東北方には岩城島を望み、この間の瀬戸は安藝國忠海より備後灘に赴くもの通路なり。更に東北方に生名島・弓削島・因ノ島、北方には生口島等大小無数の小島嶼散在し多島海の觀を呈す。本村主産業は農業にて閑期には酒造出稼・鹽田稼等に占む。尙船業業者も多けれど多くは若き者船に乗り老人が家に居りて農をなす。主要産物は鹽(五萬四千圓)・粟(五萬七千圓)・麥(五萬九千圓)・除蟲菊(四萬二千圓)・甘藷(三萬五千圓)・米(三萬四千圓)・柑橘(一萬八千圓)・工業藥品(二萬八千圓)——苦汁よりの製品)等なり。今治市へ定期船の便あり。此地は西伯方村と共に北伯方と汎稱せし處。

ヒカシハキ 東萩 山陰本線の驛(大正十四年設置)。山口縣萩市南にあり。

ヒカシハシサキ 東野崎 省報新報の驛(昭和六年設置)。兵庫縣丹波郡神岡村にあり。

ヒカシハズ 東幡豆 愛知縣幡豆郡にありし町。明治三十九年本町と幡豆村とを改し幡豆町を置く。

ヒカシバタ 東端 愛知縣碧野郡にありし村。明治三十九年本村外六箇村を改し明治村を置く。

ヒカシハタノ 東泰野村 神奈川縣相模國中部の西部。泰野町の北隣にあり。北は愛甲郡の一部と隣す。大山(南昇山一四四六米)の南斜面を占め森林多

原郡人吉町にあり。

ヒカシヒラタ 東平田村 山形縣羽後國飽海郡の西南部。酒田市の東方約七軒。東境に堂尾山(三五二米)あり、西方に傾斜し、村の東半部は山地をなすも西部は庄内平野に属して平坦なり。米産多く、また蕎麥・畜産あり。道路は中部を南北に通す。西方羽越本線酒田驛、西南方面線砂越驛へは各バスの便あり。

ヒカシヒラナイ 東平内村 青森縣陸奥國東津輕郡の東部。東は上北郡野邊地町、西は小湊町に接し、北は野邊地町に面す。面積八〇・七九方軒。南境に三角嶺(七四八米)・大毛無山(七三七米)・東境に鳥帽子嶺(七二〇米)、西北境に銅森山(二四一米)聳え、村の東・南・西の三境には山頂達りて北方に傾斜し、全村概ね山地をなす。清水川は南境に發源して西部を北流し、野邊地海に注ぐ。沿岸に耕地拓く。海岸には山地迫りてその先は砂灘をなせり。米・木材・木炭を産す。道路は北部を略東西に通じ、自動車の便あり。東北本線野邊地驛(明治二十七年設置)・清水川驛(昭和十一年設置)を置く。この附近は戊辰の役に激戦のありし地。明治九年、明治天皇、奥羽御巡幸の際この地に御小休あらせらる。

ヒカシヒラノ 東平野 大阪府東成郡にありし町。明治三十年大阪市東區に編入す。

ヒカシフサモト 東總元 省報木

ヒカシ——ヒカシ

し。南部は泰野盆地の一部をなして農業行はれ、麥・甘藷・粟等を産し、養蠶も盛なり。縣道泰野町に通じ、バスの便あり。また東北隣大山町にもバスを通す。村内に専賣局泰野試験場あり。此地は和名抄、餘綾郡幡多郷の内なり。篤農家の安居院庄七(贈從五位)は本村の人なり。(金剛寺)大字東田原にあり。臨濟宗建長寺派。大聖山。承久元年源實朝、公曉に討たれし時、その臣某實朝の首級を持參して當地に葬り、退行行勇を開山として本寺を創すといふ。村内に實朝の墓と稱する五輪塔あり。

ヒカシハマ 東濱 兵庫縣美作郡にありし村。明治二十四年濱坂町と改む。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

ヒカシハマナ 東濱名村 靜岡縣遠江國引佐郡の西南部。東は氣賀町に隣り、東南は濱名湖に臨み、西南部に大崎の突出ありて、西方に支那嶺鼻湖を抱く。北境に三七六米の山ありて南方に傾斜し、また東南境に二六六米の山ありて西方に傾斜す。其兩山地間に西方に開く盆地狀の低地を形成す。主産業は農にして米・蕎麥を出し、若干水産業に従事する者あり。姫街道氣賀町より來りて西方に走りバスの便あり。また省報二俣西線走りて都筑・佐久末の二驛(共に昭和十三年設置)を置く。この地は和名抄、濱名

原嶽の一驛(昭和十二年設置)。千葉縣夷隅郡德元村にあり。

ヒカシフジシマ 東藤島村 山形縣福井縣越前國吉田郡のほぼ中央。福井市の東北約五軒。面積九方軒餘。東南境に百米内外の小丘あり外、北境を流るる丸頭龍川の氾濫原に屬し、地低平にして地味肥沃、田畑廣く連なる。米・麥・菜種・大豆等の産産多く、近時織物業勃興して絹織・羽二重・人絹織物等の工場生産著はれ、其他名産に鉛・鉛・木葉酢等あり。社線越前電鐵は中部を東西に貫き道分口(大正四年設置)・東藤島(大正三年設置)・越前島橋(大正八年設置)の各驛ありて福井市・松岡町に達し、勝山街道これと並走し、交通運輸ともに便なり。人口は昭和十年三三五一一人にして、一方軒三六九人に當り稍々稠密なり。之を前年と比較するに大正九年三六二〇人、同十四年三五二八人、昭和五年三四七五人にして、遞減の傾向にあり。此地は和名抄足羽郡中野郷の地なるべく、のち藤島保と稱せられし地。藤島保の本據は本村大字藤島にして太平記に藤島城とあるも此處なり。藤島城は往時、林六郎太夫光明の築きしにより林が城といふ。のち波多野出雲守居り、朝倉家の時に土肥左馬の居りし所なり。

ヒカシフジハラ 東藤原村 山形縣三重縣伊勢國員辨郡の西部。鈴鹿山脈原嶽の東山麓に位し、東は阿下喜町に接

郡大神郷の内、もと濱名郡の管下なりしが明治二十九年、引佐郡の管下となる。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

及び省報久大本線走り後者の惠良驛(昭和四年設置)あり。バスも往來す。この地は近世は飯田郷の内にして、埴ノ浦に敗戦せし平氏の旗黨この地に隠棲して部落をなせりといふ。(龍門の瀧)大字松木の龍門寺(黃葉宗、吉祥山)境内にあり。柱狀節理をなせる安山岩にかかり、高さ約一五米、幅六米餘、中程にて二段となりて、深潭に入る。瀧の東岸を吐月峰、西岸を歸雲洞と呼び、中段瀧を吐月峰、ところを白雲庭と名づけ、下流巖角に碎けて碧潭に注ぐところを金珠瀧と稱す。(不動尊磨崖佛)龍門の瀧に至る途中、山麓路傍の巖壁に彫出せし磨崖佛なり。中尊不動像は高さ約六尺の坐像にして、左右に二童子及び天部の立像あり、各尊とも殆ど完全に近く、頗る力の籠りし作にして童子及び天部像に彩色殘存し、何れも平安時代の作と思はる。(八幡神社)大字松木に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。養老二年の創建と傳へ、古來崇敬の社。例祭、五月十五日。

ヒカシハルチカ 東春近村 長野縣野縣信濃國上伊那郡の中部。天龍川の右岸にして伊那町の南に接す。天龍川西境を南流し東より西へ河岸段丘發達し、一面に桑園開く。養蠶を主産業とし、米・麥の農耕次いで盛なり。縣道東西に貫通し、對岸を走る社線伊那電鐵澤渡驛へ近し。この地は中世、春近庄と稱せし地にして、いま殿島村・田原村の舊二箇村を含む春近村を置く。村内に本城址あり。江戸時代の地方開拓者、伊藤傳兵衛(贈從五位)は本村の人。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

ヒカシハンタ 東飯田村 大分縣豊後國玖珠郡の中部。玖珠川上流の右岸に沿ひ西野の南に接す。その形東北より西南に細長く略々正方形をなす。東境には平家山(一〇二三米)そびえ、それより西南方へ續く山嶺は南境を限りて西南境に青野山を起し、これ等山地は全體に西北方へ廣く傾斜す。西北境には寶山(八六六米)そびえ、北部には北隣に發して西南流する河川ありて西境を西北流する玖珠川に合す。西部に稍々廣き平野ありて田畑よく拓く。其他山林地廣し。酒の特産あり。北部河谷に沿ひて縣道通じ西南部には久留米市及び大分市を結ぶ縣道

の上述に沿ひ、三日市町の東南凡四軒。立山火山群の西北端を占め東南部より西北に傾斜する山岳地帯にて、東南隅階ヶ岳に發する布施川は西部を流れ西布施村との境界をなして西北流す。沿岸に狭き谷平野あり。また北部は概ね低き臺地をなす。平地には水田開け、山地には林業行はる。米を主産とし蕎麥・薪炭の副産あり。西北部河岸を縣道走り、三日市町へバス通す。此地は和名抄、新川郡布勢郷の地なるべし。村内に大瀨瀧(高二五米、巾二米)・馬渡瀧(高二〇米、巾二米)・ケロシノ瀧(高二〇米、巾二米)・ツサビ谷瀧(高一五米、巾三米)・鏡子口瀧(高一七米、巾四米)・ハテナ瀧(高二〇米、巾六米)等の瀧あり。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

四八五

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

【東濱】香川縣香川郡にありし村。大正九年高松市に編入す。

四八五

ヒカシー—ヒカシ

は平坦となり、水田拓げ農業盛なり。米を主産物とし、繭・菓子等の副産物あり。西部を貫通し福光町に至る国道及び之より分岐し城端町へ至る道路あり、省線中越線福光線へは三軒餘。

ヒカシヘイ 東閉伊(郡) 岩手縣

陸中国の舊郡名。明治十三年五月閉伊郡を東西中南北の五郡に分けし時新置。更に同二十九年四月に至り東・中・北の三郡を合して下閉伊郡となし以て今日に至る(※閉伊(郡))

ヒカシベツイン 東別院村 岩手縣

京都府丹波國南桑田郡の南部。東北郡は龜岡町の西部に接し、南は大阪府三島郡に界す。四周山地を繞らし北隅には龍ヶ尾(四一三米)、東北境には黒根(五二四米)、西南部には湯谷ヶ嶽(六二二米)等屹つ。南方にて神崎川に注ぐ茨木川は西隣西別院村に發して本村の西部山地の北を繞りて南流し、三島郡見山村に出づ。耕地乏し。工業類最も多く林産これに次ぎ、米・麥等の農産第三位を占む。茨木街道南北に横斷し龜岡町へバスを通ず。西別院村と共に中世は別院莊と呼ばし處。大字東掛は江戸時代心學通話の祖石田梅巖の生地なり。

ヒカシベツ 東別府 岩手縣

本縣の一課(明治四十四年設置)。大分縣別府市にあり。

ヒカシホ 東保 石川縣

の講起りしが、たゞ一、大正十一年海軍軍備縮少の令あり、舞鶴鎮守府は舞鶴要港部となり、海軍工廠は一轉して海軍工作部と改められ、その他の施設これに伴ひて縮少され、甚大なる打撃を蒙りしも、その後海軍施設は次第に補充せられ、海軍工作部は舞鶴海軍工廠となり、その他海軍機關學校、海軍火藥廠、海軍部、海軍航空隊の新設等あり、將來益々充實されんとする傾向にあり、殊に海軍各艦隊の滿期後は我が軍備の一層充實されんとするに兼じ、再び市制を布くの議熟し、遂に三町三箇村の結成を見るに至れり。本市の將來を約束せる新舞鶴港はもと白蟻濱と呼ばれし漁港に過ぎざりしが、明治三十四年舞鶴軍港の設置以來、一般船舶の出入を禁止せしむ、大正十一年の軍備に伴ふ町是の革新と、海軍當局の船舶出入禁止の撤廢により再び商港として復活し、こゝに西の舞鶴港と併立するに至れり。爾來臨海鐵道を敷設し岩壁の修築、海底の浚渫、倉庫・荷揚場の設置等、港としての設備を完成するに努めたり。爾來本港は内は本邦商工業の中心地たる大阪・神戸・京都の三大都市を背後に控へ、東は北陸沿岸の諸港を経て北海道・樺太に臨み、西は物資の豊富なる北朝鮮・北滿洲を控へ、外は朝鮮郵船・神戸島谷汽船・大阪商船・北陸汽船等の諸社は、大正十二年以來北海道・朝鮮等の各地と

ヒカシホーヘン 東風福山

共と廢せられ、新に穴水町を置く。中國山脈の一峯。山口市の北西嶺。北斜面は阿武郡佐々並村に延ぶ。標高七三四米、山麓石炭層露出より成る。南西麓に西風福山(七四二米)並發す。

ヒカシホタカ 東徳高 長野縣

海邊石狩國空知支庁空知郡栗澤村にある重要鐵道。鐵道一四八萬餘坪あり。昭和十年には塊炭一七、四六六噸、粉炭二三、六二四噸、切込炭七五五噸、粗炭五、九九五噸、この總價額約二五萬圓を出し同年六月末の使役職員二〇六人、現在東管内炭礦會社の經營とす。

ヒカシホロナイ 東幌内炭嶺

丹波國丹波郡の南部。八木町の西に隣り北約二軒に關部町あり。南は南桑田郡に界す。東北より西南に稍々細長し。東北部・西南部は山地をなし西南境には七七四米の牛山山登ゆ。中部は低地開け岡部川西北に貫きて流る。低地は米・麥・繭の農産を出し山地は林産豊かにまた松茸を多く出し外に鐵産及び磁石の産あり。東南方龜岡町と西方藤山町とを結ぶ縣道中央を横斷しバスの便あり。和名抄に船井郡野口郷と云ふは本村及び西本梅村を指せるもの如し。(※普濟寺) 西洞宗。延文年中足利貞氏の子傳心全正尼の開基。

ヒカシホナメ 東本梅村 京都府

定期航路を開き貨物の集散頗る活潑となり、殊に昭和五年には遂に内務省より乙種重要港灣に指定せらる。こゝに於て府營工事を以て鐵筋コンクリート構橋を築設し、こゝに一萬噸級の大型を横付けにする事を得るに至れり。尙商港として特筆すべきは、海軍當局の諒解により浮水の防護及び船舶修理の思慮ある事なり。また陸上に於ても小濱線により山陰・北陸兩線の連絡成り、京阪・北陸・山陰地方との交通極めて便利にして、臨港線も昭和五年より省線となり新舞鶴港を開設し貨物の取扱を開始したるが如きは本市發展の將來に好影響を與ふるものなり。本市は元來軍港を主とする都邑なりしを以て、市の市街部は海軍に直接間接關係あるもの多く、従つて産業として見るべきものなかりしも、大正十二年以來諸種

ヒカシマイスル 東舞鶴市

寛永年間増天外、中興す。佛殿は國寶。京都府西市の一。本市は昭和十三年八月加佐郡新舞鶴町・中舞鶴町・倉橋村・與保呂村・志樂村の二町三箇村を以て建てたる新市にして、西隣の舞鶴市に對して東舞鶴市と稱す。面積六〇・〇二二方軒。人口三七、〇五五人(昭和十年國勢調査)。

ヒカシマツ 東舞鶴市

市は丹波國加佐郡の東部に人字型に灣入せる舞鶴東部の南部を占め、舞鶴要港の所在地たり。東部は青葉山より三國山に亘る一帯の山地によりて若狭國大飯郡に接し、南は丹波高原に連なり、西南は低き丘陵を以て舞鶴市に接し、北東の一部は朝來村に隣り、西北は舞鶴灣に臨む。中部に低地展開し與保呂川・志樂川これを灌溉す。新舞鶴灣は今も海軍要港のほかに内地航路船舶の出入する乙種重要港灣たり。若狭街道東方の吉坂峠を越えて來り、本市を横斷して舞鶴市に向ふ。省線舞鶴線はその終點を本市の中心なる新舞鶴所在の新舞鶴驛(明治三十七年設置)に置き、此處より西に中舞鶴間に支線を出し、東門驛・中舞鶴驛(共に大正八年設置)を置き、更に臨港線を派出して新舞鶴港(昭和五年設置)に至る。省線小濱線は敦賀方面より來りて新舞鶴驛を終點とし市内に松尾寺驛(大正十一年設置)を置き、海陸の交通極めて便なり。市内の交通機關としては三舞鶴バスありて舞鶴市の舞鶴驛を起點とし中舞鶴・新舞鶴の間

ヒカシマツキ 東舞鶴島

を遷轉して本市の重要交通機關をなす。本市の主要集落は舊新舞鶴町・中舞鶴町にして要港部を中間として東西に並び、新市街のこととて何れも街衢廣闊整然たり。殊に新舞鶴の地は京都に倣ひ、基盤の目の如く、東西に通ずる大門道を中心としてこれと直角に一様通り九條通りを置き、その他鐵道の通りには富士・八島・數島・朝日・朝瀨・三笠等軍艦の名稱を附したるは如何にも軍港町たるに相應しき觀あり。本市の起原は、明治二十二年五月この地に舞鶴軍港設置の件を公布せられ、同三十四年十月舞鶴軍港の開闢あり、海軍中將東郷平八郎を以て初代の司令長官とし、同時に軍港市街を倉橋村大字濱を中心とし市街計畫を立てたるに始まり、同三十五年十一月基盤型市街を完成、三十九年に倉橋村及び志樂村の一部を以て町制を布き之を新舞鶴と稱し、一方要港司令部・舞鶴工廠所在地たる中舞鶴は、はじめ内村の一部なりしが、軍港設置と共に人口額に増加せるを以て遂に明治三十五年五月分離して倉部町と稱し、大正八年十月中舞鶴町と改稱し、この二町は軍港の隆替とその盛衰と共にせり。爾後海軍施設の擴張に伴ひ兩町の戸口著しく増加し、また省線山陰・北陸兩線の連絡成りて益々發展の途を辿り、大正十年には、二町の人口を合算すればまさに三萬に達するに至れり。こゝに於て隣接せる村落をも合併して市制施行

ヒカシマツ 東益津村

中古寂類、のち持庭これを再興して現宗に改め以て中興の祖となる。奉安の毘沙門天立像一軀はその手法に藤原末期の特徴を存し國寶たり。(松尾寺) 大字松尾にあり。眞言宗醍醐派。青葉山と號し西國三十三所第二十九番札所たり。慶雲年間唐僧成光の草創に依り養老年間以後歴朝の勧進道場たり。のち織田氏の兵火に罹りて一山悉く烏有に歸せしが、細川幽齋本堂を再建。その後漸次諸堂の復興成り、現に當宗中本寺格として寺運隆盛たり。寺寶中、胡本磨色普賢延命像一軀・同孔雀明王像一軀は共に國寶。

ヒカシマツ 東舞鶴島

州民政署管内大鏡家屯會の一屬島。西岸を距る約八軒の海上に横ばり、西方約一軒にある西舞鶴島と一島群をなす。略Y字状をなし長さ約一・五軒、西部の高處は八〇米内外を示し中部に低地あるも定住者なし。

Table with 3 columns: 米, 麥, 繭. Rows for 西部, 東部, 計. Data includes production values for rice, wheat, and silk.

Table with 3 columns: 計, 東部(村部), 西部(市街部). Rows for 面積, 人口, 農産, 畜産, 林産, 礦産, 水産, 工産, 合計. Data includes area, population, and various agricultural/industrial products.

ヒカシー—ヒカシ

他工業・畜産・林産等あり。海沿に一條の...

ヒガシマス木 東益穂村

能登國羽咋郡の北部。和名抄、羽咋郡...

ヒガシマタ 東又村

高岡郡の南部。窪川町の東に接して東は...

ヒガシミスズキ 東水引

沿ひ、縣道四通し富山縣へはオスの便あり...

ヒガシミズヒキ 東水引

鹿兒島縣薩摩郡にありし村。明治二十四...

ヒガシミズヒキ 東水引

縣宇部市の東南部にあり。鐵道は登壇...

産も多く胡瓜の産もあり、海岸は水産多...

ヒガシマツウラ 東松浦

〔東松浦郡〕 佐賀縣八郡の一。肥前國の...

ヒガシミナト 東湊村

この地價は四三一萬餘圓とす。本炭礦...

ヒガシミヤシタ 東宮下

山岳起伏し、西部河原には耕地拓く。...

ヒガシミヤナガ 東宮永村

電線は對岸中箕輪村を貫通し、澤原に近...

ヒガシムゲ 東武藝村

武藝村の西部。武儀川に沿ふ。關町...

ヒガシムラ 東村

省線越前南線美濃町驛へ約十二軒。...

ヒガシムラサキ 東紫

には値賣時・油時・大時等のびて假屋俣あり...

ヒガシマツモト 東松本

松島村(長崎縣) 松島村(長崎縣)...

ヒガシミズハシ 東水橋町

〔東村山郡〕 山形縣羽前國の東部。東は...

ヒガシムラヤマ 東村山

〔東村山郡〕 山形縣羽前國の東部。東は...

ヒガシムラヤマ 東村山

〔東村山郡〕 山形縣羽前國の東部。東は...

ヒガシムラヤマ 東村山

〔東村山郡〕 山形縣羽前國の東部。東は...

ヒガシムラヤマ 東村山

の系統をなしたる山脈は認め難し。主として...

ヒガシムラヤマ 東村山

〔東村山郡〕 山形縣羽前國の東部。東は...

ヒガシムラヤマ 東村山

〔東村山郡〕 山形縣羽前國の東部。東は...

ヒガシムラヤマ 東村山

〔東村山郡〕 山形縣羽前國の東部。東は...

ヒガシムラヤマ 東村山

〔東村山郡〕 山形縣羽前國の東部。東は...

ヒガシムラヤマ 東村山

〔東村山郡〕 山形縣羽前國の東部。東は...

ヒガシムラヤマ 東村山

の等あり。羽州街道に並行して省線奥羽本線通じ天童・津山等の驛あり。省線左津線は山形市より西北に分岐し、羽前山邊・羽前長崎等の驛あり。本郡は明治十三年村山郡を東西南北の四郡に分けて新置、以て今日に至る。※村山(郡)

【東村山村】 東京府武蔵國北多摩郡の北部。狭山丘陵の東南麓を占め、北は埼玉縣入間郡に隣接す。西境に村山貯水池あり。西部は狭山丘陵の東端をなすも、他は武蔵野臺地の一部にして畑地多く、甘藷・小麦・大豆・米を産し、また荳蔻産にて織の産多し。府道よく発達し、社線西武鐵道は東山より入り、中央を北走して久米川(昭和二年設置)・東村山(明治二十八年設置)の二驛を置き、村山貯水池へ支線を分ちて、村山貯水池前驛(昭和五年設置)を置く。また東村山驛より南走して省線中央線國分寺驛に至る同社線ありて、汽車の他にバスの便もあり。其他社線武蔵野鐵道は東北隅を掠めて西北に走り、秋津驛(大正六年設置)を置く。社線多摩湖鐵道の萩山驛(昭和三年設置)・武蔵大和驛・村山貯水池驛(共に昭和十一年設置)あり。本村は近世、村山郷山口領の東偏たり。往時は武蔵七黨の一なる村山黨の根據地なり。明治十六年、明治天皇、假能行幸の際この地に御野立あらせらる。大字久米川は上野より府中を経て鎌倉に通ずる街道に當る。元弘三年五月新田義貞鎌倉打入りのとき、十四日

【東村山村】 東京府武蔵國北多摩郡の北部。狭山丘陵の東南麓を占め、北は埼玉縣入間郡に隣接す。西境に村山貯水池あり。西部は狭山丘陵の東端をなすも、他は武蔵野臺地の一部にして畑地多く、甘藷・小麦・大豆・米を産し、また荳蔻産にて織の産多し。府道よく発達し、社線西武鐵道は東山より入り、中央を北走して久米川(昭和二年設置)・東村山(明治二十八年設置)の二驛を置き、村山貯水池へ支線を分ちて、村山貯水池前驛(昭和五年設置)を置く。また東村山驛より南走して省線中央線國分寺驛に至る同社線ありて、汽車の他にバスの便もあり。其他社線武蔵野鐵道は東北隅を掠めて西北に走り、秋津驛(大正六年設置)を置く。社線多摩湖鐵道の萩山驛(昭和三年設置)・武蔵大和驛・村山貯水池驛(共に昭和十一年設置)あり。本村は近世、村山郷山口領の東偏たり。往時は武蔵七黨の一なる村山黨の根據地なり。明治十六年、明治天皇、假能行幸の際この地に御野立あらせらる。大字久米川は上野より府中を経て鎌倉に通ずる街道に當る。元弘三年五月新田義貞鎌倉打入りのとき、十四日

【東村山村】 東京府武蔵國北多摩郡の北部。狭山丘陵の東南麓を占め、北は埼玉縣入間郡に隣接す。西境に村山貯水池あり。西部は狭山丘陵の東端をなすも、他は武蔵野臺地の一部にして畑地多く、甘藷・小麦・大豆・米を産し、また荳蔻産にて織の産多し。府道よく発達し、社線西武鐵道は東山より入り、中央を北走して久米川(昭和二年設置)・東村山(明治二十八年設置)の二驛を置き、村山貯水池へ支線を分ちて、村山貯水池前驛(昭和五年設置)を置く。また東村山驛より南走して省線中央線國分寺驛に至る同社線ありて、汽車の他にバスの便もあり。其他社線武蔵野鐵道は東北隅を掠めて西北に走り、秋津驛(大正六年設置)を置く。社線多摩湖鐵道の萩山驛(昭和三年設置)・武蔵大和驛・村山貯水池驛(共に昭和十一年設置)あり。本村は近世、村山郷山口領の東偏たり。往時は武蔵七黨の一なる村山黨の根據地なり。明治十六年、明治天皇、假能行幸の際この地に御野立あらせらる。大字久米川は上野より府中を経て鎌倉に通ずる街道に當る。元弘三年五月新田義貞鎌倉打入りのとき、十四日

ヒカシ—ヒカシ

鎌倉勢と入間川に戦つて克ち翌日またこの地に戦つてこれを破る(太平記)。今、久米川と野口の間に將軍塚と稱するものあり。往時の血戦場と傳ふ。(徳藏寺) 大字野口にあり。臨濟宗大徳寺派。福壽山と號す。東京市赤坂區福壽寺末。寛永年中、僧徒英及び方光、もとの寶積寺並に無量寺の遺址を再興して本寺及び永春庵を建つと傳へらる。板碑(石造)一基は國寶たり。(正福寺) 大字野口にあり。臨濟宗建長寺派。金剛山と號す。開山は心月禪師にして、開基は北條時頼なり。近世朱印十石を寄せらる。地藏堂は國寶たり。

【東牟婁郡】 和歌山縣(紀伊國)七郡の一。縣の東南部。熊野川西岸に位して東南部は新宮市に接し、南は熊野灘に臨む。東は川を隔てて三重縣南牟婁郡に接し、北は奈良縣吉野郡に接す。本郡は謂ゆる奥熊野地方にて山高く、深く険に北部の奈良縣界及び西部西牟婁郡界は界線立して殆ど平地を見ず。即ち西北部は果敢山脈の東部に屬する山地にして、櫻尾山(九二五米)・百前山・要害ノ森山等聳ゆ。中央部一帯には那智山脈及び踏切山に屹立する最高峰大塔山(一二二二米)を以て足尾山・赤倉山・大倉山・高尾山・大森山・笠置山・那智山・大雲取山・小雲取山一帯の山地等の高峯峻嶺重疊す。東北方より来る北山川は東境に沿ひて南下し、奈良縣より來

【東牟婁郡】 和歌山縣(紀伊國)七郡の一。縣の東南部。熊野川西岸に位して東南部は新宮市に接し、南は熊野灘に臨む。東は川を隔てて三重縣南牟婁郡に接し、北は奈良縣吉野郡に接す。本郡は謂ゆる奥熊野地方にて山高く、深く険に北部の奈良縣界及び西部西牟婁郡界は界線立して殆ど平地を見ず。即ち西北部は果敢山脈の東部に屬する山地にして、櫻尾山(九二五米)・百前山・要害ノ森山等聳ゆ。中央部一帯には那智山脈及び踏切山に屹立する最高峰大塔山(一二二二米)を以て足尾山・赤倉山・大倉山・高尾山・大森山・笠置山・那智山・大雲取山・小雲取山一帯の山地等の高峯峻嶺重疊す。東北方より来る北山川は東境に沿ひて南下し、奈良縣より來

【東牟婁郡】 和歌山縣(紀伊國)七郡の一。縣の東南部。熊野川西岸に位して東南部は新宮市に接し、南は熊野灘に臨む。東は川を隔てて三重縣南牟婁郡に接し、北は奈良縣吉野郡に接す。本郡は謂ゆる奥熊野地方にて山高く、深く険に北部の奈良縣界及び西部西牟婁郡界は界線立して殆ど平地を見ず。即ち西北部は果敢山脈の東部に屬する山地にして、櫻尾山(九二五米)・百前山・要害ノ森山等聳ゆ。中央部一帯には那智山脈及び踏切山に屹立する最高峰大塔山(一二二二米)を以て足尾山・赤倉山・大倉山・高尾山・大森山・笠置山・那智山・大雲取山・小雲取山一帯の山地等の高峯峻嶺重疊す。東北方より来る北山川は東境に沿ひて南下し、奈良縣より來

ヒカシ—ヒカシ

る十津川は北部中央を約八折南流し、それより東流して東北境に出で北山川と合流して熊野川となり、和田川初め略々東北流する幾多の支流を集めて郡境に沿ひ東流し、流下流は新宮市東境より熊野灘に注ぐ。西南部には古座川ありて南下し中流以下は東流し南下する支流を集めて南部古座町にて海に入る。熊野川・古座川の間には東流する那智川・太田川等あり。東北方には北山川の右岸に沿ひ當郡に有名な遊八丁の勝地あり。海岸は屈曲多く胸ヶ崎・鷲ノ尾崎・燈明崎・龍取崎(燈臺あり)・耳ノ鼻・釜戸崎等の突出ありて勝浦・古座等の好勝地あり。西南方海上には大島浮びて西方西牟婁郡の湖岬と對す。大島の東岸に、櫻野崎の燈臺あり。海岸所々に燈臺あり。農産・水産等あれど謂ゆる木ノ國にして林産類最も著し。國有林もあり。郡内は那智町・勝浦町・下里町・太地町・古座町・西向町・高池町・七町外二十一箇村を含み、人口密度は平均六〇人に最低は小川村の一四人なれども勝浦町の如きは四、四八〇人の多きを算す。海岸に沿ひ熊野街道通じ、西南部には古座川に沿ひて走る古座街道あり。西北部には熊野街道中流路ありて田邊町方面に通じ、北方奈良縣に至る縣道もあり。東南部には那智登山路あり。省線紀勢中線海岸に沿ひて通過す。牟婁郡は明治の始め頃より二分して東部は三

【東牟婁郡】 和歌山縣(紀伊國)七郡の一。縣の東南部。熊野川西岸に位して東南部は新宮市に接し、南は熊野灘に臨む。東は川を隔てて三重縣南牟婁郡に接し、北は奈良縣吉野郡に接す。本郡は謂ゆる奥熊野地方にて山高く、深く険に北部の奈良縣界及び西部西牟婁郡界は界線立して殆ど平地を見ず。即ち西北部は果敢山脈の東部に屬する山地にして、櫻尾山(九二五米)・百前山・要害ノ森山等聳ゆ。中央部一帯には那智山脈及び踏切山に屹立する最高峰大塔山(一二二二米)を以て足尾山・赤倉山・大倉山・高尾山・大森山・笠置山・那智山・大雲取山・小雲取山一帯の山地等の高峯峻嶺重疊す。東北方より来る北山川は東境に沿ひて南下し、奈良縣より來

【東牟婁郡】 和歌山縣(紀伊國)七郡の一。縣の東南部。熊野川西岸に位して東南部は新宮市に接し、南は熊野灘に臨む。東は川を隔てて三重縣南牟婁郡に接し、北は奈良縣吉野郡に接す。本郡は謂ゆる奥熊野地方にて山高く、深く険に北部の奈良縣界及び西部西牟婁郡界は界線立して殆ど平地を見ず。即ち西北部は果敢山脈の東部に屬する山地にして、櫻尾山(九二五米)・百前山・要害ノ森山等聳ゆ。中央部一帯には那智山脈及び踏切山に屹立する最高峰大塔山(一二二二米)を以て足尾山・赤倉山・大倉山・高尾山・大森山・笠置山・那智山・大雲取山・小雲取山一帯の山地等の高峯峻嶺重疊す。東北方より来る北山川は東境に沿ひて南下し、奈良縣より來

ヒカシ—ヒカシ

重縣に屬し西部は和歌山縣に屬す。明治十三年五月和歌山縣に屬する牟婁郡を東西二郡に分ち、三重縣に屬する分を南北牟婁郡に分つ。※牟婁(郡)

【東室蘭】 室蘭本線の一驛(明治二十五年設置)。北海道室蘭市にあり。

【東目屋村】 青森縣陸奥國中津輕郡の中部。弘前市の西方約一〇軒。地形東西に稍長く矩形をなし、北部及び南部は山地、中部は稍平坦にて岩木川は中部を東流す。米・林産を産す。道路は中部を東西に通じ、弘前市へは自動車・車馬の便あり。また岩木川舟楫の便あり。

【東米良村】 宮崎縣日向國兒湯郡の西北部。一ツ瀬川北岸に沿ひ東北は小丸川西岸に沿ひ、北は東臼杵郡に接し西北は西臼杵郡に接し、面積一七四・七九七平方町。全村山嶽重疊し石堂山(一五四七米)・樋口山・五郎ヶ崎・空野山等北境に連りて村境を劃し其南にオサレ山・高塚山・杖木山等ありて全體に東南方へ高さを減す。西境には石堂山より西の島帽子嶽・赤嶺山等東南方へ連りて境界をなし其東麓に沿ひ西北隅樋口山より發する瀬川ありて東南流し南境を屈曲しつつ東々南流する一ツ瀬川に合す。東北境には小丸川中流の南流するあり。村内低地乏しく農地は一戸平均水田三反歩・正畑二反歩・山畑一反歩に過ぎ

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

ヒカシ—ヒカシ

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

ヒカシ—ヒカシ

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

ヒカシ—ヒカシ

【東八田村】 京都府丹波國河原郡の北部。舞鶴市の南に隣接し西南約三軒には綾部町あり。山村なり。東境には山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東北隅には彌仙山屹つ。西境にも南北に連る山地あり。中部は河谷をなせども、その中央に小分水嶺ありて日本海斜面と山内斜面とに分つ。即ち、中央より西南流する河川は約五軒西南方にて由良川に合し、北部の水は東北境に發して西南流し、北境東部の山地を繞りて西北部に北折し舞鶴市を流れて舞鶴灣に入る。農業を主業とし米・藁の産多し。その他竹材・薪炭・木材・清酒を産し特産物には黒谷の和紙あり。舞鶴市街地と綾部町とを結ぶ縣道中央を縦貫し、東西に走る縣道もあり。省線舞鶴線中央を貫き梅迫驛(明治廿七年設置)あり。中世は西八田村を以て、八田莊或は八田郷と呼びし處。大字上杉は足利氏の幸執上杉氏の出でし處。(安國寺) 眞言宗東寺派。堂徳山と號す。草創不詳。足利直義の安國寺建立の際これに充つ。國寶、木造地藏菩薩(木造)・天老和尚入寺山門礎。

(六五九米)屹立す。中央には東南隅に發する尾形川ありて西北流し、山岡川に合す。川に沿ひて積々耕地發達す。農産最も多く、米・麥・蔬菜・花卉・果實等を出し畜産に次ぎ工業・水産もあり。山岡川に沿ひて縣道走り中津市へパスの便あり。同じく北部には社線耶馬溪鐵道通過して御門驛(大正二年設置)・藤澤寺驛(大正三年設置)あり。この地古くは和名抄、下毛郡山岡郷の内にして、もと東城井村と稱せしが、大正十五年東耶馬溪村と改稱す。

ヒカシヤバセ

東八橋 省線山陰本線の一驛。鳥取縣東伯郡八橋町大字徳萬にあり。昭和十三年八月舊八橋驛を現名に改む。

ヒガシヤマ

東山 福島縣岩代國北會津郡の中郡若松市の東南に隣り、南は岩瀬郡に接す。地形西北より東南に長く約一八軒あり。南境に安藤峠(一〇二七米)、東境には北より羽黒山(六四六米)・香中尖山・大高山(八〇八米)、西境には吹矢山(八二〇米)・笠野山(八七六米)・高嶺山(九三三米)あり、湯川は南境に發源し、村の略中央部を西北に流る。村の西北部には平地あり。東山温泉は湯川に沿ひて村の北部にあり。米・蕎麥・蕪・薪炭等を産す。道路は村の西部を南北に通じ、若松市へはパスの便あり。往昔、黒川會(若松城)の東方の山を東山と呼べるより

村名となりしもの。(東山温泉)湯川に臨みて湧出。泉質、無色透明無臭。いまより約一千二百年前僧行基の發見と傳ふ。四面殆ど翠巒に圍繞され、西の一方のみ僅に湯川の溪流湯本の中央を貫流し、風光の美を恣にする。古來有名なる温泉にして、羽前の湯野濱・上ノ山と共に奥羽三樂郷の一として著名なり。(湯上神社) 郷社。祭神、倉稻魂命。別稱、湯上羽黒神社。例祭、九月三日。

【東山村】新潟縣越後國古志郡の西南部に在り。北境に金山(五八一米)および南部に四三四米の山あり。その他村内諸處に二百一四米の山ありて概ね山地をなす。芋川東端を南流して信濃川に入り、北部にまた小流西流して信濃川に合す。耕地はこの兩川沿岸及び諸處に點在せる谷合に發達するも、産物見るべきものなく、僅に米・蕪を出す。省線越後線後川口驛(北魚沼郡川口村)に出づるを最も便とす。

【東山田】越後(新潟)油田五區域中の一。新潟縣古志郡にありて凡そ荷嶺・山本・新吉・竹澤・上北谷・北谷の諸村に跨る。長岡市を去る東方約八軒、南北に亘る油田にして、地質構造は南北に近き一様背斜にして、西翼の傾斜は頗る急、東翼は反對に頗る緩なり、而して油田區域は北軸に沿うて發達す。地質は背斜軸

の中心に推谷層露出し、周圍に牛ヶ首層露出す。本油層の背斜層の主要部分を構成する地質は砂岩と頁岩との互層なるが油層は推谷層中の砂岩にして、油井の深度は五〇—六〇〇米なり。(沿革) 古へ此地方にては草生水(臭水の意)の名を以て稱され地上に洩出し居たりき、今の山本村大字油沼の字に腐澤あり、これ等も石油に縁ある名とす。越後七不思議の隨一なりし燃ゆる水は勿論石油にして、燃ゆる土と云はれしはアスファルトなるべく、天然瓦斯も出で竹管などにより導きて燃料に利用されたるが明治維新前後より採油を試みるもの出でたり。されど企業的になりしは明治二十一年今の山本村大字油沼字腐澤の地に手掘井より多量の油を見たる以後のこととす。次で同二十六年今の山本村大字加津保澤の地に之も手掘井より日産數百石といふ噴油を見るに及び急な急進的發展を遂げたるが、同四十年頃を以て最盛時とすべし。(なほ註に特筆すべきは、本邦に於て最も多くの手掘井を見たるは本油田にして手掘井は現在なほ多く存す) 其後本油田は一帶に非常に衰微したれども、諸山山中の東山田山のみは今も重要油山に屬し、昭和十年には原油一、一六五軒、瓦斯一、一〇二軒、粗製揮發油二七一軒を出し、この總價額五一萬餘圓とす。なほ同年六月末の使役鐵夫一八三人にして、精製は柏崎製油所にて行ふ。この東山田山

は日本石油會社の經營なるも、東山田に於ける其他多くの石油山も日本石油の經營なり。東山田山の外に宮路・北郷・日勝・乙吉・竹澤などの諸山あれど何れも振はず。

【東山村】靜岡縣遠江國小笠郡の東北部。掛川町の東北約八軒、東は藤原郡金谷町に接す。北境に栗ヶ岳(無間山)聳えて南方に傾斜し、村内概ね山地を成す。遊川は北部山地に發源して南流し、その沿岸に部落及び耕地發達す。地形上産業見べきものなきも茶の産最も多く、米・蕪の産これに次ぐ。南隣日坂村に出づれば縣道走り金谷町及び掛川町にパスの便あり。この地は和名抄、佐野郡日根郷の内にして、中世は小高御厨に屬せし地なり。

【東山】愛知縣愛知郡にありし村。大正十年名古屋市内に編入さる。

【東山】↓京都市(二一九五米)

【東山村】奈良縣大和國添上郡の東部。奈良市の東方約四軒にて南は山邊郡に界す。全村山地をなし東南境に神野山(六一九米)あり。西南境は六五二米の高さを有する山地なり。中部には南方より来る布目川村を北に貫きて流水約一軒北方にて木津川に合す。米・蕪・麥の農産を主とし林産之に次ぎ外に工業あり。東部を笠置街道駛走し、之より分れて四方奈良市へ向ふ道路もあり、各パスの便あり。この地は和名抄、添上郡湯生郷の内

なるべし。(天神社) 大字北野に鎮座。村社。祭神、天御中主命。殿宇中本殿は國東たり。

【東山村】徳島縣阿波國麻植郡の東北部。川島町の南に接し、南及び東は名西郡に界す。北・東・南の三面山嶺を以て圍まれ、東部に發する河川中央を西流するも沿岸低地を見ず。麥・蕪を産し、米の僅少な産あり。東北部は東山田山の麓區の一部にして、含銅硫化鐵礦を出す。谷によりて西方に出づる道路あれど、交通不便して不便なり。

【東山田山】徳島縣麻植郡東山村・西尾村・森山村・名西郡阿野村に跨る重要鐵山。鐵區八〇萬餘坪にて鐵種は銅・硫化鐵なり。鐵區は徳島本線阿波川島驛の南方約四軒、東山に存して標高約三三〇米の地點とす。地質は綠泥片岩・石炭片岩・胡蝶片岩・紅泥片岩の五層より成り、鐵床は綠泥片岩中に介在する二條の含銅硫化鐵床を主とし、母岩とその層位を同じうす、而してうち一條は紅泥片岩の上層敷尺に、他の一條は下層敷尺の所に存す。隨伴鐵物としては石英最も多く折々磁鐵礦を伴ふ。昭和十年には含銅硫化鐵五、九四五噸、銅鐵三、三二二噸、沈澱銅六七噸を出し、同年六月末の使役鐵夫二七二人とす。なほ銅鐵及び含銅硫化鐵中の銅分は、佐賀國製鐵所に送附して合併製鍊す。本鐵山はもと太郎鐵山・五郎鐵山の二に分れ居り、何れも元禄年

ヒカシ—ヒカシ

間の發見に係り、神領鐵山と共に阿波の三大鐵山として盛大なりしものとす。明治維新前後には廢坑となりしが明治初期再び事業を開始し、現在は日本鐵業會社の經營たり。

【東山村】高知縣土佐國幡多郡の中央東部。中村町の東北に接し、東南は約二軒餘にて土佐海岸に出づ。東北境に石見寺山(四二二米)ありて中部及び北部は其傾斜地をなす。東南部に小丘陵あり。西境に沿ひて北方より来る渡川南下し、中央にて西北方より来る岩田川を入れて中村町との間を東南流し、南隅に於て中村町の南境を東南流する四方十川に合す。沿岸に低地發達す。米・蕪・麥の産あり。

【東山村】福岡縣筑後國山門郡の東北部。筑後川の南岸に沿ひ瀬高町の東に接し北及び東は八女郡に界す。東南境に清水山(三五二米)聳え東南部は其斜面地をなすも其他は筑紫平野の一部に屬する平地地にて北境に沿ひて筑後川西流す。水田よく拓け米産多く麥・蕪の産もあり。中央を東西に貫く縣道あり。西南部に社線九州肥後鐵道通過して本吉驛(大正九年設置)あり。西方約〇・五軒たらずに省線鹿兒島本線矢部川驛あり。(女山神龜石)

ヒカシ—ヒカシ

清水寺の西北にあり。石嶺が清水山女山の西麓より上りて山頂に掛けて繞り、四面地形を呈し、四谷の谷を過りて水門四箇所に存す。雷山・高良山等のものと同様に、上代の一種の城郭の址なるべし。

【諏訪神社】大字本吉に鎮座。郷社。祭神、武御名方神。神功皇后、當郡大塚里に土蜘蛛田油津原征伐の時諏訪神を祀り、守護を請ひ給へるに起るといふ。領主立花氏崇事。例祭二月四日・八月廿四日。

【清水寺】大字本吉にあり。天台宗。本吉山。九州國國三十三所第十六番札所たり。大同元年最澄の開創と傳ふ。のち圓仁來りて堂塔伽藍を増築し、其規模洛東の清水寺に擬す。天正年中兵火に罹りしを、寶永三年柳川城主立花左近將監伽藍を再建し、寺領三百六十石を附して新願所となす。寺域清水山の麓にありて風致に富み二十有餘の堂宇輪奐の美を饒ふ。

【清水寺本坊庭園】指定名勝。元禄年間之作といひ、築造年代明かならざるも、明治初年多少の廢壞ありしのみにて舊態を存す。三方回廊を以て包まれ、後方は臺地の下に池を設け、右方遙に瀨瀨を望み、左方近く直瀨あり。池畔の島嶼に石を配し松樹・楓樹あり、山に倚りて清涼なる泉庭をなす。

【東山】阿里山嶺の一驛(昭和七年設置)。臺灣臺南州嘉義郡番地東山にあり。

ヒカシヤマカ 東山香村 大分縣豊後國遠見郡の東北部、杵築町の西約七

ヒカシ—ヒカシ

【東山】阿里山嶺の一驛(昭和七年設置)。臺灣臺南州嘉義郡番地東山にあり。

ヒカシヤマカ 東山香村 大分縣豊後國遠見郡の東北部、杵築町の西約七

【東山村】靜岡縣遠江國小笠郡の東北部。掛川町の東北約八軒、東は藤原郡金谷町に接す。北境に栗ヶ岳(無間山)聳えて南方に傾斜し、村内概ね山地を成す。遊川は北部山地に發源して南流し、その沿岸に部落及び耕地發達す。地形上産業見べきものなきも茶の産最も多く、米・蕪の産これに次ぐ。南隣日坂村に出づれば縣道走り金谷町及び掛川町にパスの便あり。この地は和名抄、佐野郡日根郷の内にして、中世は小高御厨に屬せし地なり。

【東山】愛知縣愛知郡にありし村。大正十年名古屋市内に編入さる。

【東山】↓京都市(二一九五米)

【東山村】奈良縣大和國添上郡の東部。奈良市の東方約四軒にて南は山邊郡に界す。全村山地をなし東南境に神野山(六一九米)あり。西南境は六五二米の高さを有する山地なり。中部には南方より来る布目川村を北に貫きて流水約一軒北方にて木津川に合す。米・蕪・麥の農産を主とし林産之に次ぎ外に工業あり。東部を笠置街道駛走し、之より分れて四方奈良市へ向ふ道路もあり、各パスの便あり。この地は和名抄、添上郡湯生郷の内

には小高御厨に属せしものなり。明治天皇、明治元年東京行幸の際及び同二年東京御再行の際、この地に御小休あらせらる。〔八幡神社〕大字八坂に鎮座。社記に大同二年、或は延暦二年に、坂上田村麿勳を奉じて再興すと見ゆ。式内小社。例祭、九月十五日。

ヒカシヤマシロ 東山代村 佐賀 縣肥前國西松浦郡の西部。伊萬里海西岸を占め對岸は伊萬里町なり。北は山代町に接し、西は北松浦郡に界す。南境に國見山をびえて南部一帯に山麓がかり山腹に烏帽子山・大通山等あり。西北部にも約五〇〇米餘の連山、西北より東南に連る。兩山地の間には西北部に西北流する志佐川ありて北松浦郡に出づ。東部伊萬里海岸には平野開け米・麥・蕎麥等の農産物を産す。東岸に縣道及び有線伊萬里線走りて東山代村(明治三十一年設置)あり。又パスの便あり。この地に松浦宮の一家居り山代氏を稱し山代又三郎兼、弘安蒙古の役に、壹岐に出戦す。〔大久保家〕東山代村と山代町とに跨る重要鎮。鎮區三五萬餘坪にして昭和十年には境炭五、〇一二畝、粗炭一六、三五六畝(この地價約十二萬圓)を出し、同年六月末の使役鐵夫二一人とす。鎮山名は東山代村の大字大久保・東大久保、山代町の大字西大久保を含む汎稱大久保に因めるとす。

ヒカシヤマナシ 東山梨郡 山梨 縣甲斐國の北部。山梨縣九郡の一。北は關東山脈の諸峰を境に埼玉縣武蔵國秩父郡・長野縣信濃國南佐久郡に接し、東は大吾嶺・小金澤山等を以て北都留郡、南は笛吹川の一支日川により東八代郡、西は中巨摩・西山梨兩郡及び甲府市に界す。面積五三七・一三方軒。東・北・西の三境界は何れも一〇〇〇米より二五〇〇米に及ぶ山脈連なり、略中央を南流する笛吹川の谷を抱き、南部日川との合成による扇状地開け甲府盆地の一部をなす。山地は概ね森林繁茂し、木材・薪炭等の林産物に富む外、東部山地よりば花崗岩・石灰岩等の石材を出し、鹽山町は其中心地なり。また南斜面・西斜面をなす山裾の一帯は葡萄栽培に適し、甲州葡萄の大産地は本郡に産す。鹽沼町はその抽出地なり。南部の扇状地帯は桑園多く蠶業・製糸業盛にして、日下部・加納町・鹽山の各町はいづれもその中心地をなす。その他米・麥の農産物あり、笛吹川・日川の土流は主要なる發電地帯をなす。省線中央本線は南部低地の周邊を山麓に沿うて通じ、東南隅佐子隧道を経て北都留郡に入る。石和・初直野間五驛を置く。主要縣道は笛吹川に沿ふ秩父往還を初め、日川に沿ふ縣道、鹽山町より重川に沿ひて北上し多摩川の上流に通ずる青柳街道の一部等その他平地部に縱横し走り、パスの便よし。郡内下部・鹽沼・加納町・

鹽山四町外二十五箇村を含む。本郡は明治十三年五月、新置せるもの。
ヒカシヤマミ 東山見村 富山 縣越中國東礪波郡の東部。庄川に沿ふ。井波町の東に接し西は山脈を境に婦負郡に界す。村内山林に富み、南より来る庄川村内にて西へ曲流し西北に流る。西北部に東洋に跨る小牧の大ダムあり、上流風山へ舟楫の便あり。ダムに近く湯山の温泉も湧出す。山村は養蠶・林業に従事し西北部には、農耕を主産業とするものあり。青島町・井波町へは社線加越鐵道の便あり、之より小牧埠頭までは貨物線により交通し、パスの便もあり。〔湯谷温泉〕庄川の急流に臨む。泉質、無色透明の鹽化土類含有泉。〔鳥越温泉〕泉質は遊離水結合及び結合泉。〔湯谷温泉〕水戸線の驛名。結城町・川島驛の間に位置し茨城縣結城郡結城町大字結城にあり。昭和十二年十二月一日設置。
ヒカシユノ 東湯野村 福島 縣岩代國伊達郡の西部。南は信夫郡に接し、瀬上町の西北二軒。面積二・六七方軒。地勢西北部に高き外概ね平坦にして福島盆地に属す。南境を相上川東流す。米・蕎麥の産あり。道路は北部を東西に通じ、西方飯坂町へはパスの便あり。社線福島電線東湯野驛を置く。本村は明治三十四年湯野村より分立せるもの。

ヒカシヨカ 東與賀村 佐賀 縣肥前國佐賀郡の南部。佐賀市の南方約二軒にあり有明海北岸に臨む。地形極めて低平にて周圍河川を以て繞らされ、東境にて分れ北及び西北流を流れて海に注ぐ分流あり。地形平坦肥沃なる爲水田廣く米の産多し。外に麥・蕎麥の産もあり。佐賀市へパスの便あり。この地は和名抄、佐賀郡城崎の内なるべく、近世は與賀庄に屬し、寛正年間に今川伊豫守胤秋の地を領せり。大字飯盛に龍造寺氏の館址あり、鎮西要路に文明十四年、少貳政資肥前與賀城を築くとあり、これも飯盛の館のことなるべし。

傳に應神天皇九年武内宿禰筑紫下向の御勅に依りて西家多山上に社祠を營みしをその創祀となす。式内名神大社に列し豊後五社の首座として富國一の宮たり。社頭繪馬の美積年に備はりその景観國內に冠たり。例祭、四月十五日。〔高瀬石佛〕指定史蹟。大字高瀬にあり。七瀬川の南岸に臨む凝灰岩の低き丘陵端に、水面より約三米の所に、高さ約二米、幅四米の龜洞を開き、中央に圓形に近き手法にて刻り出せし大日如來坐像あり。向つて右側に如意輪觀音、次に馬頭觀音の各坐像を、また向つて左側に大威徳明王坐像および深沙大將立像を、いづれも高彫に近き牛内彫にて表はす。この龜の右方三米に長方形の小龜ありて、古式造像の形式を示せる一椀三尊の蓮座上に三尊佛を浮彫せしものあり。石佛は仁圓善圓の作と傳ふるも、平安時代の造像ならん。なほ附近に横穴存す。

ヒカシヨコ 東吉富村 福岡 縣豊前國上郡の東部。山國川を挟みて中津市の西に隣り周防灘に臨む。中津平野の一部なる爲地形極めて平坦にして東

通ずるも交通不便なり。中和東村・西和東村と共に中世は和東莊と呼びし處。鷲峰山の金胎寺は後醍醐天皇の御願あるを以て名高し。〔天満宮〕大字園に鎮座。神社。祭神、菅原道真。創立年代詳かならず。例祭、十一月二十八日。〔金胎寺境内〕指定史蹟。寺は白鳳年間役小角の開創に係り、奉還再び險難を開きて講堂を建立せりと稱し修驗道の靈場なり。元弘元年八月二十六日、後醍醐天皇奈良より此地に幸幸ありしが、山深く思慮くして大兵を爲すに不便なるを以て、翌日更に笠置山に向はせられたり。
ヒカタ 干潟 徳武本線の一驛(明治三十一年設置)。千葉縣海上郡旭町にあり。附近は干潟八萬石と稱して寛文年間椿湖を干拓して得たる新田。※椿新田
ヒカタ 日方 和歌山縣海南郡にありし町。昭和九年黒江町・内海町及び大野村と共に海南市を建つ。
〔日方〕筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に御原郡日方郷あり、その地今の三井郡立石村・三國村の邊に當る。
ヒカタ 日形村 岩手縣陸中國西磐井郡の東端。一關町の東南約一五軒に位置し、東境を劃する北上川を堰て東磐井郡黄海村と相對す。村は不規則なる倒三角形をなし、面積一二・五方軒。西境に最高一四〇〇米の丘陵長く連り、北部にも五〇一〇〇米の丘陵起伏し、中部に稍

境に山國川、西部には佐井川それぞれ北流して海に入る。地味肥沃にして米の産多し。日向街道及び省線日豊線中部を横斷し中津驛は東方約一・六軒にてパスの便よく交通は凡て中津市による。また水運の便よし。本村は中世、吉富郷と稱せし地にして、海岸は古來吹出濱と稱し歌枕の名所たり。夫木・二五、秋の夜はさそ寒からし浦風の吹出の濱の千鳥鳴くなり。鹽司院跡。大字廣津に城址あり。天慶年間源經基この國の守護たりし時築きし三城の一といふ。大字小大丸は天正年中、中津城主黒田長政、城井城主宇宮宮儀房を誘殺せし處とす。〔八幡古表神社〕大字小大丸に鎮座。社記。祭神、息長帯姫命・虚空津比賣命。欽明天皇御宇の創建といひ、初め息長大神宮と稱す。國寶女神騎牛像(木造)一軀。例祭、九月二十一日。〔鈴鹿寺〕大字鈴鹿にあり。古義眞言宗。高野山金剛峯寺直末、天平六年行基の開創に係り、中古七堂伽藍完備し塔頭六坊ありしも、天正中大夫宗麟の兵火に罹りてより寺勢頓に衰ふ。國寶、本尊藥師如來坐像(木造)一軀。
ヒカシヨシノ 東吉見村 埼玉 縣武蔵國比企郡の東部。松山町の東方約五軒にて荒川の西岸にあり。東は川を隔て北足立郡と相對す。全村平地にして米の産を産し、また養蠶盛にして繭の産額大なり。松山町及び東北北足立郡鴻巣町に縣道を通じ何れも自動車便あり。鴻巣

町には省線高崎線鴻巣驛、松山町には社線東武鐵道東上線武州松山驛を置く。此地は和名抄、横見郡餘戸郷の内なりと稱せられ、東鑑に寛喜二年、横見庄内新野新聞とあるも此地なるべし。
ヒカシロクゴ 東六郷 大阪府 中河内郡にありし村。昭和六年西六郷村・北江村と合併して府津村を建つ。
ヒカシワカ 東和賀 ↓和賀郡
ヒカシワカマ 東若山 石川 縣珠洲郡にありし村。明治四十二年西若山村と合し若山村をなす。
ヒカシワカヤマ 東和歌山 省線紀勢西線の一驛(大正十三年設置)にして社線和歌山鐵道に接續す。和歌山市太田にあり。
ヒカシワサタ 東植田村 大分 縣豊後國大分郡の中部。北部は大分川を距つて大分市に接す。南大半は山地をなし北方は傾斜地なり。西南部に靈山(五九六米)聳ゆ。西北境に沿ひて河川東北流し、北境を東北流する大分川に合す。沿岸低地廣くして田畑よく拓く。米・麥の産あり、山地は薪炭を供す。東部を日向街道縱斷しまた省線日豊本線走りて瀧尾驛へは東北約一・五軒、中列田驛へは東南約二軒なり。此地は和名抄、大分郡植田郷の内にて、弘安國田帳に「植田庄三百三十五町三段、領家大納言二位御局」とある地なり。〔西家多神社〕大字寒田に鎮座。國幣中社。祭神、西家多神。社

傳に應神天皇九年武内宿禰筑紫下向の御勅に依りて西家多山上に社祠を營みしをその創祀となす。式内名神大社に列し豊後五社の首座として富國一の宮たり。社頭繪馬の美積年に備はりその景観國內に冠たり。例祭、四月十五日。〔高瀬石佛〕指定史蹟。大字高瀬にあり。七瀬川の南岸に臨む凝灰岩の低き丘陵端に、水面より約三米の所に、高さ約二米、幅四米の龜洞を開き、中央に圓形に近き手法にて刻り出せし大日如來坐像あり。向つて右側に如意輪觀音、次に馬頭觀音の各坐像を、また向つて左側に大威徳明王坐像および深沙大將立像を、いづれも高彫に近き牛内彫にて表はす。この龜の右方三米に長方形の小龜ありて、古式造像の形式を示せる一椀三尊の蓮座上に三尊佛を浮彫せしものあり。石佛は仁圓善圓の作と傳ふるも、平安時代の造像ならん。なほ附近に横穴存す。

通ずるも交通不便なり。中和東村・西和東村と共に中世は和東莊と呼びし處。鷲峰山の金胎寺は後醍醐天皇の御願あるを以て名高し。〔天満宮〕大字園に鎮座。神社。祭神、菅原道真。創立年代詳かならず。例祭、十一月二十八日。〔金胎寺境内〕指定史蹟。寺は白鳳年間役小角の開創に係り、奉還再び險難を開きて講堂を建立せりと稱し修驗道の靈場なり。元弘元年八月二十六日、後醍醐天皇奈良より此地に幸幸ありしが、山深く思慮くして大兵を爲すに不便なるを以て、翌日更に笠置山に向はせられたり。
ヒカタ 干潟 徳武本線の一驛(明治三十一年設置)。千葉縣海上郡旭町にあり。附近は干潟八萬石と稱して寛文年間椿湖を干拓して得たる新田。※椿新田
ヒカタ 日方 和歌山縣海南郡にありし町。昭和九年黒江町・内海町及び大野村と共に海南市を建つ。
〔日方〕筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に御原郡日方郷あり、その地今の三井郡立石村・三國村の邊に當る。
ヒカタ 日形村 岩手縣陸中國西磐井郡の東端。一關町の東南約一五軒に位置し、東境を劃する北上川を堰て東磐井郡黄海村と相對す。村は不規則なる倒三角形をなし、面積一二・五方軒。西境に最高一四〇〇米の丘陵長く連り、北部にも五〇一〇〇米の丘陵起伏し、中部に稍

ヒカタ——ヒカワ

廣き沼澤原あり、なほ北境には北上川の...

ヒカタニ 日ヶ谷村

京都府丹波國 丹波郡の北部。奥山半島の東北を占め...

ヒカタマチ 日方町

省報紀勢西條 の一(大正十三年設置)にして社報野上...

ヒカチ 日勝村

埼玉郡武蔵國南埼玉郡の中部。久喜町の南方にて岩槻町と...

ヒカワ 氷川

【氷川村】 東京府武蔵國西多摩郡の西北...

ヒカワ——ヒキ

米・麥・蕎麦を産す。縣道は久喜町・岩槻...

ヒカナ 氷鉋

信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に更級郡水鉋郷あり、比加奈...

ヒガネ 日金山

兵庫縣二十五郡の一。丹波國の東部。...

ヒカミ 氷上

【氷上郡】 兵庫縣二十五郡の一。丹波國の東部。...

ヒカン 飛雁島

【飛雁島】 朝鮮全羅南道靈巖郡の西南部に位置し、郡邑靈巖の西南方...

四六六

ありて之に合す。篠山川の南は老坂山脈...

ヒカリ 日光

【日光】 石川縣珠洲郡にありし村。明治...

ヒキ 日岐

【日岐】 和歌山縣西牟婁郡の東部にあり...

ヒキ 比木村

【比木村】 静岡縣遠江國小笠郡の東南部...

四六七

は茶園よく拓けて茶の産多し。此地は和名抄、城側郡朝夷部の内にして、中世は比較庄と稱し上賀茂領たりし由、東寺書に見ゆ。幣帳君の高孫の居住せし地か。

ヒキ 比企郡

埼玉縣九郡の一。武蔵國の中郡。荒川の西岸にて、東は北足立郡、北は大里郡、西は秩父郡、南は入間郡と隣す。西部は關東山脈に續く低き山地をなし、森林多く林産あり。中部より東部にかけては平地開け、東端を荒川南流し、南端を東流する越邊川は郡の東南隅にて荒川に合流す。その他にも支流多く中部は畑地、東部は水田をなし、農業盛にして米の産多し、また一般に養蠶盛にて繭の産多く其他生糸・絹織物の製造も盛なり。縣道よく發達し、また社線東武鐵道東上線は南方入間郡より入り、郡の中央の松山町より西折して走り、省線八高線また西部を北走す。郡内に松山、小川の二町外二十六箇村を含む。和名抄は比較と註し郡家・清後・郡家・關瀬の四郷を管す。名稱は低地の意ならんといふ。明治二十九年四月一部を入間郡に移し、横見郡を併せて今日に至る。

ヒキ 箕箕島

關東州青森県店民政署管下老翁廟會の一屬島。北岸を去る約一軒に浮び、南北約二軒、東西一軒内外を有す。最高處は五八米にして東西に狭き低地あるも定住者なし。

ヒキウマ 引馬峠

那須火山帯帯釋山脈を南北に貫通する交通路の一。栃木山地より北へ山をなす。街道はほほは馬見川に沿ひ益田町にパス通す。馬見上村と共に馬見と呼ばれし處。

ヒキメ 箕目

岩手縣下閉伊郡茂市村の大字。省線山田線の箕目驛(昭和九年設置)を置く。

ヒキモト 引本町

三重縣紀伊國北牟婁郡の中郡。相賀町の東に接し其東北に尾鷲灣東北澳を圍みて東南方へ突出せる半島の西側に互る地域を占む。周圍山地を繞らし尾鷲灣の一部を占むる引本浦地は四方より海岸に向つて傾斜す。海岸低地なし。市街地は引本浦浦口の西部を占め良泊地なり。水産類最も多く工業これに次ぎ、繭・黍・米等の農産類は第三位にして尙林産・畜産あり。引本町市街地より縣道によりて相賀町に出づれば省線紀勢東線相賀驛(四方約二軒)ありてバス通ふ。その他海上の便多し。この地は和名抄、美濃郡二色郡の内なり。中世は相賀荘の内に屬し、粉本浦と云ひ、南牟婁郡の本と區別する爲め東本浦とも云へり。明治三十二年町制を布く。

ヒキン 飛鶴面

朝鮮全羅南道務安郡の西方海上に横たはる羅州群島中の飛鶴島及び神雄島・老大島・侍郎島・飛鶴島・鼓島・松浦島・土莫島・牛洗島・大曲島・七發島を管内に容れ、飛鶴・神雄兩島の他は概ね無人島を爲す。飛鶴は最大島にして東西に細長く周回約三〇軒、

今八頭郡八上村・西郷村に當る。ヒキタ 疋田 ↓愛登村(福井縣)ヒキヌマ 蟾沼 ↓遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に長上郡蟾沼郷あり、比木奴萬と訓す。その地の今の名郡内ならんも詳かならず。

ヒキノ 引野村

廣島縣備後國深安郡の南部。福山市の東に隣接し、南は瀬戸内海に臨む。東部・南部に丘陵性山地あり、南部の海岸地帯最も高し。西部・中部は土地低平にして濠田川の構成する沖積低地に續く。一般に農業盛にて米・麥・蕎麥を産し、西南海岸に沖津の漁業盛あり。また沖津は好海水浴場として知らる。省線山陽本線は中部を東西に貫通し、縣道また之に沿うて走り福山市に交通便なり。

ヒキノシヨ 日置莊村

大坂府河内國河南内郡の西北部。富田林町の西北方約六軒あり、西は泉北郡に界す。南部にやや臺地ある外は地形平坦にして西部には濠田川池沼あり。農産・工業・畜産あり。東部に富田林街道通じ、中央には社線南海線道高野線西北より東南に横切つて萩原天神(大正元年設置)・西村(明治廿一年設置)の二驛あり。この地は和名抄に丹比郡土師郷とある地なり。

ヒキミカミ 匹見上村

鳥根縣石見國美濃郡の南端。西北は匹見下村に、西南は鹿足郡日原村・七日市村に、南はて、大約東經一六五度三〇分、北緯一四度四〇分。模式的の環礁をなし、カナカ族居住し、農産に從ふ。

ヒクサ 乾草沼

千葉縣匝原郡の西部にある沼。東北より西南に狭長なり。長さ約三・二軒、幅約〇・二軒。須賀・東郡二村に跨る。

ヒクチ 樋口

【樋口村】埼玉縣武蔵國秩父郡の東北部。荒川の北岸にして、北は兒玉郡と隣す。北端には不動山(五四九米)・陣見山(五三一米)等連り、何れも村内に傾斜す。南部はその山脈にして、南端を荒川東流し、流域の狭き平地には米・麥を産し、農産盛にして繭の産多し、生糸・絹織物をも産す。山地には林産あり。縣道は川沿ひに通じ、社線秩父鐵道また之に沿ひ中央部に樋口驛(明治四十四年設置)を置く。村内に仲山城址あり、正和年間、新田氏の臣、能登國の武士、阿仁和助橋基保の築城にかゝる。のち其の子直家、兒玉郡秋山城主の攻むる所となり自殺す。【野上下郷石塔婆】指定史蹟。鎌洗片岩の板碑なり。應安二年己酉十月日の銘あり。高さ約五米、幅一米、厚さ約一二厘米、この石塔婆として、最大なるものの一なり。

【樋口山】

九州山脈市房山塊の一峯。主要市房山(七二二米)の西方約八軒、宮崎縣兒湯郡東米良村と西臼杵郡權葉村との境上に位し、標高一四三三米。南段に

鹿足郡藏木村及び一部は山口縣玖珂郡高根村に、東は廣島縣佐伯郡吉和村に各隣接す。面積は一三一・〇九方軒にて本郡第一の大村。東端に五里山・冠山(一三三九米)、西南端に燕嶽(一〇七九米)、安藏寺山(二六三三米)聳立す。北部にも一千米に及ぶ山嶺ありて高山地の隔絶村をなすも、山地の諸水を集め西北部より流出する馬見川によりて漸く他村に通ず。

馬見川溪流には盆地狀の小低地ありて耕地よく拓け、米・蕎麥の外に木材・木炭を産し、匹見川には水力電氣を發電す。なほ山地には積を積み、紙を製し石見牛紙として古くより知られ、山間溪流に山葵を産す。街道は匹見川に沿うて五里山の鞍部(九六四米)を越えて廣島縣に至り、西北方益田町にパス通す。匹見下村と共にもと匹見と汎稱せし處。(八幡宮)大字匹見に鎮座。郡社・祭神、聖田別命外二神。口碑に據れば往昔前近江丸なるもの國家保護神降伏のために勧請すと傳ふ。例祭、九月二十五日。

ヒキミシモ 匹見下村

鳥根縣石見國美濃郡の南部。匹見上村の西北に接し、西南は鹿足郡日原村に隣る。面積八九・四三方軒にて本郡第二の大村。四周は八百米餘の山地にて圍繞され、東北端に春日山(九八九米)、西南端に三子山(八〇〇米)あり。匹見川はほほは中部を東西に貫流し、沿岸に僅に低地ありて耕地拓く。米・蕎麥の外に木材・木炭を産し、

ヒクニ 美國

【美國町】北海道後志支庁支庁管下一四郡の一たる美國郡の町。一郡一町。後志國の北端積丹半島の北東部に位し、小樽灣に面す。東南は古平町に、西北は積丹郡に隣接す。面積九五・五五方軒。北東を除く三方は山脈に圍繞せられ、西南端に高くゴアアンネアンチン山(一四三三米)・積丹岳(二五五五米)等聳立し、郡内地勢皆東北に傾く。美國川山間を東北流し中流以下に平地を展く。河口に市街地發達し美國港を有す。近海海産物船の泊地なり。海岸は一般に山地迫りて險崖をなし良港灣なく、河口東部にのみ漁業盛集るを見る。鯉・鱒・帆立貝・柔魚の産あり。また馬鈴薯・大豆・木材・牛・馬等を産す。地方道を以て余市町にパス通じ、海上航行の便もあり。此地は幕末には美國領または美國場所と稱せし所。(美國神社)大字船泊村に鎮座。郡社・祭神、保食神。享保十年郡中の住民京都伏見の稻荷神社より分祀し、一部の崇敬社とせしに始まるといふ。もと稻荷神社と云へり。例祭、七月十七日。

【美國郡】

↓美國町

ヒクマ 日限山

大分縣日田郡日田町にある山。一に龜岩山、また龜山。三隈川に臨み、龜石安山岩より成る水鏡殘丘にて、文祿・寛永の頃の城址あり、水郷日田はこの丘陵を中心として發達す。地

ヒクマ——ヒコ

はいま日隈公園となる。

ヒクマ 曳馬 靜岡縣濱名郡にありし町。この町はもと曳馬下村と稱せしが、明治二十四年に曳馬村と改め、大正五年その一部を濱松市に編入、昭和八年野口町・元濱町・中津町の各一部を曳馬村に編入、昭和九年町制を布き、同十一年本町を廢し濱松市に編入す。曳馬は古語名にして東鑑には引馬と見ゆ。徳川家康ここに引馬の名を減じたり。萬葉・一「引馬野」にほふ藤原入り亂り衣にほはせ旅のしるしに「長忌す奥麻呂」

ヒクラ 日倉山 越後山系朝日山塊西端部の一峰。新潟縣岩船郡高根村に屬す。一に高根山と云ふ。標高九五三米。山麓秩父古生層より成る如し。西麓を三浦川支流高原川南流し、北麓高原川の支流に鈴ヶ澤あり。

ヒクラシ 日暮 新潟を轉じて日暮里に作り、更にこれを調製せしものか。堀は城の規模の小なるもの、碧の類なり。日暮里は東京府北豊島郡の町なりしが、昭和七年東京市に入り荒川區の町名となる。世説新語茶「笠森稻荷の兒手柏におせんが面を恥ぶ、見はてぬ夢は感應寺の見得となり、きのふもけふも日暮の里にうかれて又入相の上野の鐘に云々」

【肥後】 西海道十二箇國の一。九州國の中部にあり。今は國內を熊本府及び鹿野・宇土・玉名・鹿本・菊池・阿蘇・上益城・下益城・八代・草北・球磨・天草の一市十二郡に分ち、全部熊本縣の管轄に屬す。この國は上世火國と稱し書紀發行紀には、天皇草北より船を登して火國に至りたまふ記事あり、國造本紀によれば火國及び阿蘇國ありて崇神天皇の朝には草北の國造を、成務天皇の朝には天草國造を夫々置き給ひしが、これ等は國郡制定の時いづれも火國に統一せられて肥後と稱し、これを前後二國に分けて肥前・肥後とせられたるもの如し。肥後國府は最初託摩郡内にありしが、のち龜田郡に移りしがその址は何れも今熊本市の城内に當る。史を按ずるに、續日本紀文武天皇の二年に大宰府に命じて修治せしめし筑紫の三城の中に鞠智城あり。後三修天皇の延久二年大宰權帥たりし藤原隆家五世の孫則隆が菊池郡を賜はり、菊池城に居り菊池氏を稱す。則隆六世の孫隆直の時平氏を援け肥後守に任ぜしがのち平氏と絶つ。その子隆定後鳥羽天

皇に仕へ、爾後三傳して武府に至れば、聖古入寇の事あり、武功を以て國守となる。その孫武時が元弘年中後醍醐天皇のため勤王の節を起し、北條時時と戦つて戦死す。その子武重國守にして守護を兼ね、出でて隈郡城(後の隈府)に居る。足利軍の叛くや、九州の諸豪傑これに屬せしが、ひとり武重はこれに従はず、草兵衛の少貳頼朝等と結託す。征西將軍懐良親王の薩摩よりこの國に來りたまふや、これを八代に奉じて武光と共に大いに少貳を大友二代に破り、九州の北部を領へなほ日向を二攻略し官軍の威大に九州に振ふ。ここに於て足利氏は今川貞世・大内義弘を九州探題としてこれに對せしめ爾後官方の勢漸く振はず。元年中武光の孫武朝に至りなほ本國を領せしむ、後七世を經て武包の時には州人服せず遂に州人のために逐はれ、出でて肥前に走る。州人すなはち豊後の大友義隆の弟義武を迎へて菊池氏を嗣がしむ。天文年間に至り大友義隆は義武を誘殺してその地を併すに及び、赤風親家を隈府に置きて州内を鎮せしむ。この時阿蘇大宮司は自立して阿蘇郡を領し、龍造寺氏は北方より來り、島津氏は北上していづれも肥後國を平定せんとせしが、天正の初め頃に五津の全部殆んど島津氏の領有するところとなる。天正十五年豊臣秀吉の九州を征伐するや、島津氏の侵地を収め、阿蘇氏の邑を没し、佐々成政にこ

の國を與へて隈本(後、熊本に改む)に居らしむ。ついで成政の罪を得て誅せらるるに及び、秀吉は加藤清正を隈本二十五萬石に、小西行長を宇土二十萬石に封す。既にして秀吉薨じて慶長五年關ヶ原役起るや行長は西軍に屬せしを以て、役後行長の封地を加藤清正に加へ、行長の領地の中なる天草は別にこれを寺澤廣高に與ふ。寛永年間、天草に天主教徒の亂あり爾後鎮撫となる。寛永九年清正の子忠廣罪あり出羽に移され、細川忠利代りて隈本に封ぜられ、弟立孝を宇土に封す。ついで忠利の孫利時、弟利重を新田三萬五千石に分封し高瀬に陣屋を置く。これより先球磨郡には鎌倉時代より相良氏あり、累代人吉に居る。明治維新の際には隈本(細川氏五十四萬石)・宇土(細川氏三萬石)・高瀬(細川氏三萬五千石)・人吉(相良氏二萬二千石)の四藩ありしが明治三年九月、隈本・宇土・高瀬の三藩は封土を奉還す。同四年七月に至り一般廢藩置縣の際には隈本・人吉の二縣が置かれ、人吉縣は十一月には八代に移りて八代縣と稱し、肥後の南部六郡を管し、熊本縣は肥後の北部九郡を管す。同五年六月、隈本縣は一旦龜田郡の二本樹村に移りて白川縣と稱せしが、翌六年一月八代縣を併せて肥後十五郡を管し、同九年二月には隈本に復歸して隈本縣の舊稱を復す。同十三年五月、龜田・託摩二郡の中より隈本區分れ、これが同二十二年四

月に至り、市制を布きて隈本市となり、同二十九年四月には龜田・託摩二郡を合して龜田郡とし、山鹿・山本二郡を合して鹿本郡とし、菊池・合志二郡を合して菊池郡として以て今日の一市十二郡となる。

【肥後二見】 鹿兒島本線の一驛(大正十四年設置)。熊本縣熊本郡二見村にあり。

【肥後深川】 山形西線の一驛(昭和九年設置)。熊本縣熊本郡深川村にあり。

【肥後伊倉】 鹿兒島本線の一驛(昭和十年設置)。熊本縣玉名郡伊倉町にあり。

【肥後大津】 豊肥本線の一驛(大正三年設置)。熊本縣菊池郡大津町にあり。

【肥後高田】 鹿兒島本線の一驛(昭和八年設置)。熊本縣八代郡高田村にあり。

ヒケタ

八阪村と柳野村との境上に峙つ。標高六九四米、山麓玄武岩より成る如し。西麓を佐渡川上流南流す。南東斜面に柳野村字日暮あり。

ヒケ 引島 日本書紀・仲哀天皇八年の條に伊弉諾主が仲哀天皇を出迎ひし穴門の地點なりと見ゆ。今の彦島に當る。※彦島

ヒケタ 引田町 香川縣讚岐國大用郡の東部。和名抄、大内郡引田郷の地。東北は播磨灘に面し、白島本町の東に接す。全村所々に小丘陵起伏し、其間に平地あり。海岸北部に安戸港あり。中部には小半島突出して、その先端に女郎島浮ぶ。半島南に引田町市街地發達し附近海岸は平直なり。古來漁港として知られ生魚の收穫多く、水産製造物も豊かなり。外に米・菓子・メシマス・漁具等を産し醬油・清酒の特産あり。國道市街地を貫きて中央を走りて自動車往來し、香高線鐵道また此地を通過して引田驛(昭和三年設置)あり。阪神方面へは便船あり。明治四十二年町制を布く。引田城址あり、永正年中赤川氏の將、四宮右近こころ守る。元龜年間赤川氏、三好氏の爲に追はれ爾後三好氏の將矢野三武これを守る。天正九年長曾我部氏これを陥る。天正十一年仙石秀久、同十五年尾藤甚右衛門を経て生駒正親此國に封ぜられ初め此城に居りしが後、宇多津城に移り城廢す。城址を今は城山公園と呼ぶ。

島取縣八頭郡にありし村。明治四十四年八上村と改む。ヒケタ 群田 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に城上郡群田郷あり、その地の磯城郡初瀬町の邊か。

ヒケロット Peagot I. 南洋群島中カロリン群島のほぼ中央、ヤップ支廳管内諸島の東端に位する小島。

ヒケン 批峴面 朝鮮平安北道義州郡の西南端に位置し、郡邑義州の東南約二〇軒、新義州の東方鐵路二八・三軒にあり。東南端に天頂峰(六六七米)、東北端に月出山(二九一米)聳え、殊に天頂山は急傾斜を以て城内に下り南部は山地を成せども其他は一般に二〇米乃至三〇米内外の起伏少なき臺地をなし、北部の三橋川沿岸地帯は土地極めて低平なり。産物は玉蜀黍・粟・大豆を主とし、馬鈴薯等あるに過ぎず。總督府鐵道京義本線は面の西部を南北に通じ西境近く批峴驛(龍川郡楊光面内)あり。道路は批峴驛を起點として、北方義州、南方東寧、宜川に一等道路を通じ車馬の往來自由なり。其他の路線も此地を起點として面内主要聚落と連絡し、揚子市・永山市へはバスの便あり。聚落は南部は集村型、北部は散村型を成し興味ある對象を成し後者は古來村民の居住形原形を遺存す。批峴は日に開く市場ありて穀類・薪炭・生牛・日用品等の取引活潑に行はる。

ヒコ 彦島 下關海峽の西の入口に横はる島。また引島と書く。東西約六軒、南北約五軒、周圍約二四軒。北は約五〇米の小瀬戸を以て下關市に、南は約一軒の大瀬戸を以て門司市に對す。西南岸に福浦港あり。島内には造船所・鐵工所の他化學工場等多し。彦島は北方海上なる六連島と共に彦島町と稱せしが、昭和八年三月下關市に合併す。※引島

ヒコ 英彦山 北九州に於ける最高峰。西側は福岡縣田川郡彦山村に、東側は大分縣下毛郡根木村に屬す。標高一二〇〇米。北東段に巖師峰最高點・鷹ノ巣山(九七九米)嶺き、南西段に岳崎鬼崎最高點連る。西斜面は北東流する山國川の土源地たり。山體は成層集塊岩の上に舊耶馬嶺岩をいたたく熔岩メサをなし、山頂部は三箇の小峰に分れ、各峰侵蝕せられて圓形をなす。中央峰を高千穂と稱し、官幣中社英彦山神社鎮座し、天忍神を祀る。昔より靈場として名高く、中世以後は修験者の行場となり、一時は山中に三千の坊を有し、戰亂時代は他の諸嶽と同等の勢力を有したり。後豐臣秀吉神領兵器を沒收し、代りとして西國三十三箇國を禮越として與へたりと傳へ、天正年間大友氏の兵火にかりり寺坊焼失せりと云ふ。明治初年庶民は還俗し、今の高千穂男爵家を起せり。山頂よりは南方に阿蘇の噴煙を望み、南西方に久住の群山

月に至り、市制を布きて隈本市となり、同二十九年四月には龜田・託摩二郡を合して龜田郡とし、山鹿・山本二郡を合して鹿本郡とし、菊池・合志二郡を合して菊池郡として以て今日の一市十二郡となる。

【肥後二見】 鹿兒島本線の一驛(大正十四年設置)。熊本縣熊本郡二見村にあり。

【肥後深川】 山形西線の一驛(昭和九年設置)。熊本縣熊本郡深川村にあり。

【肥後伊倉】 鹿兒島本線の一驛(昭和十年設置)。熊本縣玉名郡伊倉町にあり。

ヒコ

はる島。また引島と書く。東西約六軒、南北約五軒、周圍約二四軒。北は約五〇米の小瀬戸を以て下關市に、南は約一軒の大瀬戸を以て門司市に對す。西南岸に福浦港あり。島内には造船所・鐵工所の他化學工場等多し。彦島は北方海上なる六連島と共に彦島町と稱せしが、昭和八年三月下關市に合併す。※引島

ヒコ 英彦山 北九州に於ける最高峰。西側は福岡縣田川郡彦山村に、東側は大分縣下毛郡根木村に屬す。標高一二〇〇米。北東段に巖師峰最高點・鷹ノ巣山(九七九米)嶺き、南西段に岳崎鬼崎最高點連る。西斜面は北東流する山國川の土源地たり。山體は成層集塊岩の上に舊耶馬嶺岩をいたたく熔岩メサをなし、山頂部は三箇の小峰に分れ、各峰侵蝕せられて圓形をなす。中央峰を高千穂と稱し、官幣中社英彦山神社鎮座し、天忍神を祀る。昔より靈場として名高く、中世以後は修験者の行場となり、一時は山中に三千の坊を有し、戰亂時代は他の諸嶽と同等の勢力を有したり。後豐臣秀吉神領兵器を沒收し、代りとして西國三十三箇國を禮越として與へたりと傳へ、天正年間大友氏の兵火にかりり寺坊焼失せりと云ふ。明治初年庶民は還俗し、今の高千穂男爵家を起せり。山頂よりは南方に阿蘇の噴煙を望み、南西方に久住の群山

月に至り、市制を布きて隈本市となり、同二十九年四月には龜田・託摩二郡を合して龜田郡とし、山鹿・山本二郡を合して鹿本郡とし、菊池・合志二郡を合して菊池郡として以て今日の一市十二郡となる。

【肥後二見】 鹿兒島本線の一驛(大正十四年設置)。熊本縣熊本郡二見村にあり。

【肥後深川】 山形西線の一驛(昭和九年設置)。熊本縣熊本郡深川村にあり。

【肥後伊倉】 鹿兒島本線の一驛(昭和十年設置)。熊本縣玉名郡伊倉町にあり。

【肥後大津】 豊肥本線の一驛(大正三年設置)。熊本縣菊池郡大津町にあり。

【肥後高田】 鹿兒島本線の一驛(昭和八年設置)。熊本縣八代郡高田村にあり。

【肥後高田】 鹿兒島本線の一驛(昭和八年設置)。熊本縣八代郡高田村にあり。

【肥後高田】 鹿兒島本線の一驛(昭和八年設置)。熊本縣八代郡高田村にあり。

【肥後高田】 鹿兒島本線の一驛(昭和八年設置)。熊本縣八代郡高田村にあり。

ヒコ

はる島。また引島と書く。東西約六軒、南北約五軒、周圍約二四軒。北は約五〇米の小瀬戸を以て下關市に、南は約一軒の大瀬戸を以て門司市に對す。西南岸に福浦港あり。島内には造船所・鐵工所の他化學工場等多し。彦島は北方海上なる六連島と共に彦島町と稱せしが、昭和八年三月下關市に合併す。※引島

ヒコ 英彦山 北九州に於ける最高峰。西側は福岡縣田川郡彦山村に、東側は大分縣下毛郡根木村に屬す。標高一二〇〇米。北東段に巖師峰最高點・鷹ノ巣山(九七九米)嶺き、南西段に岳崎鬼崎最高點連る。西斜面は北東流する山國川の土源地たり。山體は成層集塊岩の上に舊耶馬嶺岩をいたたく熔岩メサをなし、山頂部は三箇の小峰に分れ、各峰侵蝕せられて圓形をなす。中央峰を高千穂と稱し、官幣中社英彦山神社鎮座し、天忍神を祀る。昔より靈場として名高く、中世以後は修験者の行場となり、一時は山中に三千の坊を有し、戰亂時代は他の諸嶽と同等の勢力を有したり。後豐臣秀吉神領兵器を沒收し、代りとして西國三十三箇國を禮越として與へたりと傳へ、天正年間大友氏の兵火にかりり寺坊焼失せりと云ふ。明治初年庶民は還俗し、今の高千穂男爵家を起せり。山頂よりは南方に阿蘇の噴煙を望み、南西方に久住の群山

月に至り、市制を布きて隈本市となり、同二十九年四月には龜田・託摩二郡を合して龜田郡とし、山鹿・山本二郡を合して鹿本郡とし、菊池・合志二郡を合して菊池郡として以て今日の一市十二郡となる。

【肥後二見】 鹿兒島本線の一驛(大正十四年設置)。熊本縣熊本郡二見村にあり。

【肥後深川】 山形西線の一驛(昭和九年設置)。熊本縣熊本郡深川村にあり。

【肥後伊倉】 鹿兒島本線の一驛(昭和十年設置)。熊本縣玉名郡伊倉町にあり。

【肥後大津】 豊肥本線の一驛(大正三年設置)。熊本縣菊池郡大津町にあり。

【肥後高田】 鹿兒島本線の一驛(昭和八年設置)。熊本縣八代郡高田村にあり。

【肥後高田】 鹿兒島本線の一驛(昭和八年設置)。熊本縣八代郡高田村にあり。

【肥後高田】 鹿兒島本線の一驛(昭和八年設置)。熊本縣八代郡高田村にあり。

【肥後高田】 鹿兒島本線の一驛(昭和八年設置)。熊本縣八代郡高田村にあり。

ヒコオ——ヒコネ

安等の諸邑あり。
ヒコオキ 肥後萩
ヒコサキ 彦崎
ヒコサン 彦山

【彦山村】 福岡縣豊前國田川郡の南部。
【彦山】 省線久大線の一。大分縣日田郡夜明村の久大本線夜明驛より福岡縣朝倉郡寶珠山村の寶珠山驛に至る七、四軒。
【彦山村】 福岡縣豊前國田川郡の南部。
【彦山】 省線久大線の一。大分縣日田郡夜明村の久大本線夜明驛より福岡縣朝倉郡寶珠山村の寶珠山驛に至る七、四軒。

四六三

一塊地を掘り出す。景石中瓦石の崩落して水畔に押出せる石遺ひを見るが如き技工の巧妙、山岳地に於ける築山泉水庭の古園として佳作とすべし。
【英彦山の鬼杉】 指定天然記念物。富村より約四軒、大南神社附近にあり。胸高周囲約一、二、四米、樹高約三、八米、樹齡凡そ千二百年、材積二七、八立方米、この一樹を以て二十三戸を建つるを得と稱せらる。
【英彦山神社】 大字英彦山に鎮座。官幣中社。祭神、忍骨命。忍骨命は天照大神の御子天忍穗耳命の別名なり。彦山縁起に社地は太古の命の靈この嶺に降り給ひし神蹟なりといふ。役行者小角この霊蹟を求めて登山すといふ。中世修験道の隆盛なるに至り彦山縁起と稱し眞野・羽黒と共に修験道の大道場となり、その勢甚だ盛に、僧坊三千餘、食地一萬石を有せりといふ。爾來徳川・細川・小笠原氏等の崇敬厚く各々社領を寄す。例祭、九月二十八日。
【彦山川】 福岡縣にある遠賀川の一上流。遠賀川

東西に貫通し長岡市へバス通ず。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の際、この地に御小休あらせらる。
ヒコタニ 彦谷嶺山 京都府北桑田郡にある満徳山。畿内は宮島村と平尾村とに跨る。極く近年事業を開始したるものなれども比較的成績よく重要嶺山に列し、昭和十年には満徳嶺五二八延(價額一萬一千餘圓)を出す。
ヒコナ 彦名村 鳥取縣伯耆國西伯郡の西北部。夜見ヶ嶺半島の西南部にあり。米子市の西北に連り中海に面す。北に夜見、富益二村接す。面積四・二九方。全村概ね平坦にして耕地多し。海岸線は極めて平滑にして水産旺ならず。養蠶盛んに行はれ繭の産出大なり。米・蕎麥・牛・馬・鶏・養蠶・酒類・蠶・繭等を産す。米子市にバス通じ、爲に交通便なり。郷社粟島神社は少彦名命を祀り、村名の起原これなりと云ふ。
【粟島神社】 大字粟島山に鎮座。郷社。祭神、少彦名命。大己貴命。文永四年(一〇九三)に社殿を再建す。例祭、四月十二日。
ヒコナリ 彦成村 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の南部。吉川町の南隣にして古利根川の東岸にあり。西は沼田と相對す。全村平地にして大部分田圃をなし、米を主産す。他に蕪菜・蕎麥を産す。縣道は川沿ひに築造し又これと交叉するものは西方北足立郡草加町に通じ、バスの便あり、同町にある社線東武鐵道草加驛に出づるに便なり。

ヒコネ 彦根市 滋賀縣、琵琶湖中央部の東岸にある城下都市。北は坂田郡米原町、東は同島原村及び犬上郡彦根村、南東は久徳村、南は高宮町・河瀬村、南西は磯田村に界す。市の東部一帯は鈴鹿山脈の北端部を形成する靈仙山(一〇四三米)・鍋尻山(八三九米)等より連る一帯の山地にして、三〇〇米内外の高度を保ち、主として秩父古生層より成り粘板岩・角岩等の露頭多く、湖岸に近く平野中に孤立する城山(一三六米)またこの系統に属す。以上の山地を除く大部は湖東平野にして、芥川は中部を、犬上川は南部を流れて西に流れて湖に注ぎ灌溉に便し、各河口附近に小規模の三角洲を形成す。城山の北に接する松原内湖は松原の砂嘴によりて外湖と對せられ漸次乾拓の傾向にあり。近年綿絲・麻絲・絹絲等の紡績、製糖・セメントの各工場が建設せられ、佛壇・織器等の製造工業も盛となり、縣木産試験場、名古屋煙草専賣局出張所、商工會議所、物産陳列所等も設立され、彦根高等商業學校・彦根圖書館を始め各種の教育文化の施設も備はる。市は中仙道の西に當れる古吉の朝鮮人街道・順徳街道及び濱街道に沿ひ、八幡・日夏・稻村・多賀・久徳・大瀧・島原本・長濱等に通ずる各街道の要衝に當り、省線東海道本線の彦根驛(明治二十

ヒコネ——ヒコネ

二年改置)、社線近江鐵道は省線彦根驛に入り、更に彦根日驛(明治三十一年改置)の各驛を設け、定期バスも彦根驛を中心として松原・磯田・福満・多賀等に向ふ。彦根驛の北西五〇〇米にある彦根港は長さ約一・五軒の運河によりて外湖と通じ湖東汽船會社・太湖汽船會社の定期船が竹生島を始め沿岸諸港と聯絡す。彦根の地名は遠く神代に犬上縣主の祖活津彦根命が彦根山即ち今の城山に降臨し彦根に於てより起ると傳ふ。彦根山には後に平安朝に至り靈驗あらたかなる觀音を安置せる彦根西寺が建立せられ、白河法皇が多くの公卿等を従へて參詣せられたるを始め遠近より賽する者踵を接し版圖を極めたり。その本尊觀音は彦原房前の守護佛にて高さ一寸八分、黄金製の龜に乗れる爲、彦根山を金龜山とも稱するに至る。慶長八年(一六〇一)に舊居佐和山城より移轉し直孝に至り元和八年(一六二二)士民の邸宅等完成せり。井伊氏は當初十八萬石なりしが數次の加増により寛永十年に城附預米を合し三十五萬石となれるも外郭の増築を除き天主閣・佛・塔等十八萬石としての規模とす。本丸は松原内湖を北にし山頂に一郭をなし、天主は天津城のものに移し、之に接して西方の西丸の三層樓を築き、北端の土佐郭は長濱城の天主を移し、本丸の東に鐘丸を配し、其中間に天秤樓門を長濱より移築し、本

丸の南北に米蔵を設け、續して幅十間乃至二十數間の城濠を以てし、本丸の東の大守門に接して一郭を成し城主の館邸に充つ。城郭の石壁は安土・佐和山・長濱等より運搬せられ、瓦は小谷山の土を以て造り、満山露蒼たる樹木は防備に適するものを各園より移植し、本丸より三の丸までの城濠はみな湖水に連絡せしめ、更に南方は沼波附近より芥川の流路を人工的に變移して一外濠となせり。彦根の城下町は築城と並行して計畫せられ、北部を除き城山を中心とし東西南の三方に圓む格子狀の街衢となし、辻々に扇曲部を作り外部に通ずる要地十一箇所に門を設くる等市街を以て防備に利用せり。街衢は大體三の丸を界とし内側を内町、外側を外町と大別し、内町の傳馬町は中仙道筋の高宮・島原本間の別宿として宿驛に代用せられ馬匠人足を備へ、旅宿・問屋等に集り、外町の江戸町は朝鮮人街道筋の要衝として、川原町は商業區として城下町の中心地區なり。其他は侍屋敷と大工町・補屋町・鍛冶屋町・職人町・魚屋町等各職業による群居をなし町數五十六となり、更に町外の安濟・後三條・大橋・沼波等の近村も發達して彦根と接續し之等を新町と稱せり。寺院は主として三の丸に集中し三十三寺と稱せられ、殊に大雲寺・長純寺・宗安寺・大信寺・大玄寺等は井伊氏の舊封地上州より移轉し、妙源寺は

前居城佐和山法華丸より、北野寺は彦根山西寺を移建せるものなり。江戸時代に於ける彦根の人口は元祿及び享和頃の調査によれば町民の戸數約二千三百、約一萬五千六百人、僧侶約七百五十人、藩士約二萬人計三萬六千餘人と推定さる。かくて井伊氏の藩祖直政の子直繼より十七代直憲に至るまで二百六十餘年間藩治の中心となり、此間中央に出で大老の要職に就きしもの六人に及び幕府との關係緊密にして威徳天下を馳せり。城下町は商業より成る工業の中心となり、武器の製造殊に刀劍に於て虎徹の如き名工あり、陶器に湖東焼あり、これは文政の頃佐和山の麓の胡屋窯にて焼かれたるものを、天保十三年藩窯となし陶器方を置きて改良せしめ染付赤繪に逸品を出したが、文久以後再び民業に移し廢藩後廢滅せるも此地の陶工等が京都に移住し清水焼を興せりといふ。維新後明治元年に彦根藩が大津藩ほか六藩と共に置かれ、藩藩主が知事に任命せられしが其年の終に廢せられ、彦根は長濱縣の中に入り更に犬上縣となり、同五年滋賀縣に統一後彦根支廳が設けらる。同十二年市町村制の實施と共に彦根町以下接續村成り、大正十五年郡役所廢止となり、昭和十二年二月市制を布きて彦根町・松原村・北青柳村・青波村・千本村・福満村を合し彦根市を結成するに至る。その面積二二・

八五方軒、人口三七、九五八人(合併當時現在)にして、彦根町は全市に比し面積に於て二二・二%、人口に於て六八・八%に當る。(彦根城址) 西方湖水に臨み深三重に繞り、西南の高宮八幡宮を大手、東南の澤山切通を搦手口となし、東北に船手松原口あり、本丸の天主閣は三層樓にして、京極高次の築城にかかる大津城の天主を移建せるものなり。この西に西丸の三層樓並び、北端の土佐郭はもとの長濱城の天主なり。本丸の東に鐘丸あり、その途中に存する天秤樓門は羽柴秀吉の劍築に成る長濱城の城門を移建せしものにて外に太鼓樓門あり。而して本丸を挟みて南北に米倉を配し、本丸の東表門に接して城主の居館設けらる。内濠幅約四〇米あり、二の丸・三の丸は湖水を引きし濠を以て界せられ、三の丸に侍屋敷の外、町家・寺院等相交雜し、南方に芥川を外濠として郭内には主として侍屋敷置かる。城は明治維新後破却を免れ、のち井伊家の有となりしが、いま公開せられ、天主閣上に登れば太湖及び彦根全市を一瞬に見渡され眺望絶佳なり。(松原) 市の北西部、松原内湖と外湖の間の砂嘴より成り、市部とは運河によりて隔てられ、北方は磯田山により江内湖に接す。運河入口松原港は彦根港の咽喉に當り船舶常に輻輳す。湖岸一帯は青松白砂の勝地にして千々の松原と稱せられ、井伊氏別邸千松園あり、水泳場設け

四六三

らる。(北青柳)市の南西部、湖に面し
芹川中央部を流る。蔬菜の産地として名
高く湖岸は工場地帯となる。大字長官根
は古くより湖港として知られ、愛に名銀
治虎徹の舊跡あり、其附近に虎徹浮取の
井戸と傳ふるもの存す。(青波)市の東
部より山地に至る間を占め、舊彦根町と
接する處は早くより市街地をなし彦根驛
も本地域にあり、鐵道沿線は工場地帯と
なる。佐和山城址を始め大洞辨財天・清
涼寺・天寧寺・井伊神社等名勝舊跡に富
む。(千本)市の南東部を占め、平野山
地相半す。中仙道本地域内を貫通し、縣
道彦根多賀線之に交叉し、社線近江鐵道
の彦根口驛ありて交通の要衝に當る。野
田山の福業山靈眼院は平安朝の初期に堅
中央和尚の開山に係り行基の作と傳ふる十
一面觀音像、第九世徹徳和尚が讚岐象頭
山より持來せる金毘羅閣を安置す。(福
瀨)市の南部にあり、朝鮮人街道及び順
徳街道に沿ふ。地形平坦地味肥沃にして
農業に適しまた池沼多く養魚行はれ、大
字平田に縣水産試験場設けられ、琵琶湖
に放流する淡水魚類の産卵孵化実験に關
する各種の試験調査を行ふ。鹽場として
平田に本武本願寺別格別院明照寺あり。
光明遍照寺の分身にて藤原祐安師を開祖
とし、慶長四年山崎町より現地に移轉せ
しもの、芭蕉も長く滞在せしと傳ふ。東
方には千鳥ヶ岡(一三八米)の勝地あり。
〔佐和山〕市の北東に聳ゆる富士型の丘。

海拔二三二米、基盤は秩父古生層の角岩
より成る。戦國時代に京極氏の臣磯野丹
波守貞正の築城に係り、織田信長に攻略
せられ丹羽長秀を討す。天正十八年豊臣
秀吉の命に歸し石田三成を討じ十八萬石
を與ふ。當時本丸には五層の天守閣あり
二の丸・三の丸を備へ要害堅固を以て天
下に聞えしが慶長五年關ヶ原の敗戦と共に
陥落し、徳川家康之を井伊直政に與へ
しも水利の便悉く子直繼に至り彦根城
に移轉す、其際主要なる建物石壁に至る
まで移したるを以て今に殆ど昔日の面影
なし。(埋木倉)城東尾木公園に近く招
魂社裏手にあり、井伊直中の末子直綱が
織三郎の時代に郡屋住の舊居にして、神
を修め學を究め武を練り、茶道・歌道に
精通したる所、その師友長野義興と時事
を説いて夜を徹したるなど多くの逸話を
傳ふ。(樂々園と玄宮園)樂々園は彦根
城北三の丸の湖岸にあり、井伊直興が別
業として造營せしもの観舞殿の稱あり、
直綱愛にて誕生す。樂々園の間・書院等數
奇を凝し雅致に富む。玄宮園は其東に隣
り藩主の舊庭園にして内湖より水を引き
て琵琶湖に形どれる池を造り近江八景に
數ひて巧みに泉石・橋・樹等を配し幽雅
拘すべし。樂々園と共に今は市街に歸し
料亭旅館を營む。(觀音山・彦根山)名
稱は天津彦根命を祀れる山名より出づ。
今彦根城址のある所。往昔西寺觀音此處
にあり金龜寺とも稱せしを以てまた金龜

山ともいふ。夫木・山「彦根山あまねき
かげと聞しかど八重の雲居にまどひぬる
かな 經信」〔里根〕古へ佐波根にも作
り、永正七年江北京極氏の將上坂奉貞佐
和山城に迫りし際江南の將小河孫七郎等
千五百騎この佐波根山に據る。(佐和山
神社)大字古澤にあり。縣社。祭神、井
伊直政・同直孝。社寶國宗の太刀は國寶
に指定。例祭四月一日。文北年間井伊直
中の造營したる護國殿を社殿とし明治九
年創建す。直政は遠江の人、始め今川氏
に仕へる徳川家康に仕へて功あり、慶
長六年上野國箕輪より富國に轉封さる。
慶長十年歿。直孝は其子にて大阪陣に功
を建て、徳川三代に歴仕して三十五萬石
を領するに至る。萬治二年歿。(北野神
社)大字石ヶ崎に鎮座。縣社。祭神、菅
原道真・菅原純経。後水尾天皇元和六年
の創建に係る。慶長十一年井伊直孝彦根
藩主となるや、本社を以て彦根城守護及
びその祈願所となし社領百石を寄す。例
祭、五月八日。(千代神社)大字古澤に
あり。縣社。祭神、天字受實命。當社は
孝元天皇の皇女徳邊を奉命の御降臨によ
り創建すと傳ふ。天正年中石田三成彦根
山賊に遷座せしを慶長六年彦根藩主井伊
直政現地に復座す。舊稱、千代宮。例祭
五月十五日。(新神社)大字岡に鎮座。
舊社。祭神、大物主大神。後花園天皇永
享十二年の創建に係り、本村始め九箇村

八箇町の産土神として崇敬せしに始ると
いふ。舊藩主井伊氏累代の崇敬社。例祭
五月六日。(清涼寺)曹洞宗。群壽山と
號す。慶長年間井伊直政之を創建し、愚
明正察を講じて開山とす。爾來井伊氏累
代の菩提所なり。(宗安寺)五香町にあ
り。淨土宗。弘誓山天台院。京都百萬遍
如恩寺末。井伊直政室東梅院の創建に係
り、成譽典を請じて開山とす。明治維
新前まで徳川家康位牌奉安所として供米
千二百八俵を附せらる。(天寧寺)里
根山にあり。曹洞宗。井伊直中の開創に
て五百羅漢を安置し、また直綱の遺品を
藏す。境内の風致静れ、琵琶湖の眺望佳
なり。(東照寺)五香町にあり。淨土宗。
建久七年當國甲賀郡其郡村菅野氏の創建
に係る。爾來諸所を轉々し慶長年間現地
に移る。國寶、阿彌陀如来坐像(木造)一
軀。(大洞辨財天)里根山にあり。里根
山を二に大洞山といふは之による。賽者
多く、附近より琵琶湖を始め附近を一瞬
に收む。

ヒコハ

彦部村 岩手縣陸中宗栗波
郡の南部。西は北上川を以て日詰町に
相對し、南は得賀郡新堀村に隣接す。本
村は南北に細長く、東境に黒石山(二八
〇米)・横山、東北部に五ヶ森山嶺あり、
南部にも丘陵起伏し新堀村との境界に姉
川西流し、また赤澤川は東北赤澤村より
來り中部を西南に流れ佐比内川を入れ
西境を南流する北上川に合す。地質は主

として洪積層にして一般に砂質壤土及び
壤質壤土なり。千手堂・姉市方面は古生
層にして質壤土及び腐植壤土の箇所あり、
また大字大峽産地部落は神積層にして
塊質砂土の所あり。農業は米作を主經
營とし、昭和十二年には米(九八七二石)
大麦(一三六三石)・小麦(六二四四石)・燕
麥(二八一石)・大豆(一五二二石)・小豆
(一九五石)・甘藷・根菜類・林檎(二一
八〇圓)・木製品・菓子類・水豆腐・牛乳
クリーム(五〇〇圓)・ホームズパン等
を産し、養蠶も行ふ。縣道は山麓及び北
上川沿ひに走り、日詰町には北上川に架
橋をなしてバスを通す。〔正養寺〕大字
彦部にあり。眞宗大谷派。觀賢聖人の門
弟和賢是信の開創に係る。是信は聖人門
侶二十四尊の一。

として洪積層にして一般に砂質壤土及び
壤質壤土なり。千手堂・姉市方面は古生
層にして質壤土及び腐植壤土の箇所あり、
また大字大峽産地部落は神積層にして
塊質砂土の所あり。農業は米作を主經
營とし、昭和十二年には米(九八七二石)
大麦(一三六三石)・小麦(六二四四石)・燕
麥(二八一石)・大豆(一五二二石)・小豆
(一九五石)・甘藷・根菜類・林檎(二一
八〇圓)・木製品・菓子類・水豆腐・牛乳
クリーム(五〇〇圓)・ホームズパン等
を産し、養蠶も行ふ。縣道は山麓及び北
上川沿ひに走り、日詰町には北上川に架
橋をなしてバスを通す。〔正養寺〕大字
彦部にあり。眞宗大谷派。觀賢聖人の門
弟和賢是信の開創に係る。是信は聖人門
侶二十四尊の一。

に粘土質にして、また金礦を各所に埋藏
す。農業及び林業を主業とし、總生産年
額約二六萬餘圓に達す。その中農産は米
の五萬八千圓を主とし、麥・大豆・柿・馬
鈴薯これに續ぐ。養蠶は主要産業の隨一
にして、繭の年産額約六萬圓に及ぶ。林
産中、木炭は最も肝要にして約四萬圓を
占め、用材・薪材の産地に次ぐ。鐵産
は金の約四千圓をばらばら、石材これに續
ぐ。なほ本村西部一帯の石灰山は未だ採
掘に至らざるも、他日採掘に着手せば、
石灰業の活況を呈すべきは疑なし。ま
た製絲及び紡績工業として、或は土工と
して他に出現するものも多く、その年
收實に一萬圓を越ゆるは見出すことを得
ず。交通は水運大舟渡線・盛岡盛線の二
線道、村を縦貫し定期自動車あり。
關谷小白濱線・平山線・小通線・大森線・
舟野線・藤折線・上代線・大森横道等の
村道各部落を連絡す。延暦二十年桓武天
皇の御代、坂上田村麻呂賊を平けて國府
を設くるや、その所轄に歸して王化に沿
し、水承年中氣仙郡司金爲時の所領とな
り、文治五年源頼朝藤原氏を滅して葛西
清重を討するや、家臣新沼安藤綱清、本
村松岡を居城として之を治む。天正十八
年豊臣秀吉晴信を討伐後、木村秀俊・浦
生氏郷の封内となり、次いで伊達正宗に
領せられ、以て明治に至る。維新創始の
際、廢藩置縣の制度完からず、所屬町村

に粘土質にして、また金礦を各所に埋藏
す。農業及び林業を主業とし、總生産年
額約二六萬餘圓に達す。その中農産は米
の五萬八千圓を主とし、麥・大豆・柿・馬
鈴薯これに續ぐ。養蠶は主要産業の隨一
にして、繭の年産額約六萬圓に及ぶ。林
産中、木炭は最も肝要にして約四萬圓を
占め、用材・薪材の産地に次ぐ。鐵産
は金の約四千圓をばらばら、石材これに續
ぐ。なほ本村西部一帯の石灰山は未だ採
掘に至らざるも、他日採掘に着手せば、
石灰業の活況を呈すべきは疑なし。ま
た製絲及び紡績工業として、或は土工と
して他に出現するものも多く、その年
收實に一萬圓を越ゆるは見出すことを得
ず。交通は水運大舟渡線・盛岡盛線の二
線道、村を縦貫し定期自動車あり。
關谷小白濱線・平山線・小通線・大森線・
舟野線・藤折線・上代線・大森横道等の
村道各部落を連絡す。延暦二十年桓武天
皇の御代、坂上田村麻呂賊を平けて國府
を設くるや、その所轄に歸して王化に沿
し、水承年中氣仙郡司金爲時の所領とな
り、文治五年源頼朝藤原氏を滅して葛西
清重を討するや、家臣新沼安藤綱清、本
村松岡を居城として之を治む。天正十八
年豊臣秀吉晴信を討伐後、木村秀俊・浦
生氏郷の封内となり、次いで伊達正宗に
領せられ、以て明治に至る。維新創始の
際、廢藩置縣の制度完からず、所屬町村

ヒサイーヒサト

高堂高次、弟高通に五萬石を分ち此處に居らしむ。爾後子孫相承り後三千石を加増して以て明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月更にこれを廢して度會縣に入る。

ヒサイチ 日三市 ↓雲澤村(秋田縣仙北郡)

ヒサエタ 久枝村 愛媛縣伊豫國温泉郡の西部。松山市の北に接し西は三津濱町に界す。西南部に稍々丘陵ある外は全地形低平なり。耕地全般に發達し米の産多く黍・藁・蕪餅もあり。東部には松山市より北走する縣道、北部には之より分れて三津濱町に至る縣道、西南部には松山市と三津濱町とを結ぶ街道、何れも村を控めて過ぎ、省線豫讃線北部を通じて伊豫和氣線(昭和二年設置)あり。もと河野氏の族、久枝氏の居りし處。

ヒサオリ 膝折 埼玉縣北足立郡にありし村。昭和七年に朝霞町と改稱す。

ヒサカ 久賀島 ↓久賀島村(長崎縣)

ヒサカシマ 久賀島村 長崎縣肥前國南松浦郡の村。五島列島の中部に位置する久賀島の一島を以て構成す。面積三八・四方軒。西南は田ノ浦瀬戸を以て列島の主島なる福江島と相連たり、東北は奈留瀬戸を以て奈留島と相對す。島は馬蹄形をなして中央に北に開口する久賀灣を抱き、全島山勢にて見風・白

得たる長八寸の増光如來の靈像に感じて創建せしもの。文明年中、岩城常陸、堂宇を修築して今日に及ぶ。本堂は飛騨の匠の作と稱せられ、本堂に恵心僧都作の十二神像、仁王門に行基作の仁王像を安置す。地は波立濱といひ木奴美濱の陸望頗る佳なり。

ヒサワ 檜澤村 福島縣岩代國南會津郡の中部。田島町の西北に隣り、北は大沼郡に接す。面積一六・一方軒。北部に船ヶ鼻山(二二〇米)、東境に那須山(一〇四五米)、南境に中森(二一七米)、西境に大平山(一五四三米)七ヶ嶽(一六三六米)等あり、四圍山地連りて中央部に傾斜し、檜澤川は四圍の水を集めて村の中部を東流す。米・蕎麥を産す。道路は村の中央部を略東西に通じ、東方省線會津線會津田島線へはバスの便あり。人口密度は一方軒につき三〇人あり。

ヒサワ 檜澤村 茨城縣常陸國那珂郡の西北部。東隣山方村を隔て、久慈川に近く、北は久慈郡の一部と隣す。八溝山脈中の一部を占め、周囲には四〇〇米前後の山地連りて村内に傾斜し、中央はその都合にて、那珂川の支流猪川東南に流る。川沿ひに農業行はれて黍・粟・草を産し、殊に粟草は最も重要なり。又山地一帯に森林多く、林産盛にて、木材、木炭を産す。縣道は川沿ひに通じ、聚落もこれに沿ひて發達す。東隣山方村には

の一帯。尾瀬ヶ原の西方、群馬縣利根郡片品村と水上村との境上に位置し、標高一八六米。南方至佛光山との中間鞍部を越え、東麓尾瀬沼長瀬小屋に至る切開け通す。北麓に大白澤山(一九四二米)連る。

ヒサキ 久木村 島根縣出雲國龍川郡の東北部。龍川平野の中央に位置し、伊右岸に沿ふ。全村地形極めて平坦にして、北境に沿ひて龍川東北流し、本村をばなれてより數條に分流し約五軒東方にて突進湖に注ぐ。北方及び南方には遙に綿織たる雄峰を仰ぐ。米産を主として農産多く水産・畜産・工業も僅に出す。縣道中央を南北に縱斷し北方平田町及び西方省線山陰本線直江驛(南方二軒たらず)へバス通ふ。(都牟自神社)大字福宮に鎮座。神社、神社志部沼田領。創建年次を詳にせざるも相殿の八幡宮は尾子氏の勸請に係り、その崇敬厚く社領若干を寄せらる。例祭、十月十五日。

ヒサシタ 膝下 埼玉縣北足立郡にありし村。大正二年本村を廢し七里村を置く。

ヒサツ 肥薩線 省線鹿児島線の一。肥後國より薩摩國に通ず。熊本縣八代郡太田郷村の鹿児島本線八代驛より、八吉(熊本縣球磨郡大村)吉松(鹿児島縣松本郡吉松村)の諸驛を経由し、給良郡半人町の省線日豊本線半人驛に至る一二四・二軒。人吉驛にて省線湯前線に、吉松驛にて省線吉野線に、栗野驛(給良郡栗野町)

得にして農産に乏し。産物の主なるものは粟・稗・米・黍・麻・大麻等にして、工業には芋布あり。礦産はやや多く、保一金礦・赤金礦・東進鐵山(但し後二者は礦區の一部)等ありて金・銀を出し、福山金礦(礦區は扶餘郡外山面にも跨る)よりは金・銀・銅・鉛等を産す。道路は西方斐波より鴻山に至る三等道路中部を東西に横斷する他は何れも外線にして坂路多く且つ概れ未改修に屬し、交通・運輸便ならず。聚落密度極めて疎なり。北部の聖住里には名刹白雲寺ありて西海の諸島を一望の裡に納め風光絶佳なり。寺内の塔は一千二百餘年前の建築に係り、唐の名僧大剛律師和尚の頭陀文を刻す。文は儒者兼致遠の撰にして美文筆を以て開中。また聖住山よりは藍靑硯その他石工品に用ふる石材を出す。

ヒサトモ 久友村 廣島縣安藝國豊田郡の西南海上にある大崎下島の中央。東は大長村、西は豊濱村に接し南北は内海に面す。中央に丘陵ありて南北兩面へ傾斜す。嶺の大の低地には北岸に久比、南岸に沖友部落あり。北方前面に三角島横はり、後方遙かに中國の本土を望み、南方には遙かの沖に四國本土を望む。本村の主産物たる柑橘は全国的に其名を知られ試中、沖友部落の如きは全國類例な

にて省線山野東線に接續す。

ヒサツネ 久常村 石川縣加賀國能美郡の北部。和名抄、能美郡山上郷の内。手取川下流左岸に沿ひ、寺井野町の東北に接す。東南部僅に傾斜地あるも、概ね平坦にして北部を手取川西流し、耕地附く。農業を主産業とし米の産多く、副産物として蕎麥を出す。縣道東西に貫通し、村内に社線能美電鐵能美久驛(大正十四年設置)あり。

ヒサト 日里村 長野縣信濃國上水内郡の南部。犀川の北岸、長野市の西方約十二軒。全村高原性山地にして北より南へ傾斜す。西部には田地、南部には桑園開け、農業を主産業とす。黍の産多く次いで米・蕎麥・稗・粟・蕪餅等を産す。里道により長野市・川中島驛に至る縣道に通じバスの便あり。

ヒサトメ 久留 熊本縣天草郡にありし村。大正十年本村を廢し一町町に編入。

ヒサトモ 久友村 廣島縣安藝國豊田郡の西南海上にある大崎下島の中央。東は大長村、西は豊濱村に接し南北は内海に面す。中央に丘陵ありて南北兩面へ傾斜す。嶺の大の低地には北岸に久比、南岸に沖友部落あり。北方前面に三角島横はり、後方遙かに中國の本土を望み、南方には遙かの沖に四國本土を望む。本村の主産物たる柑橘は全国的に其名を知られ試中、沖友部落の如きは全國類例な

得にして農産に乏し。産物の主なるものは粟・稗・米・黍・麻・大麻等にして、工業には芋布あり。礦産はやや多く、保一金礦・赤金礦・東進鐵山(但し後二者は礦區の一部)等ありて金・銀を出し、福山金礦(礦區は扶餘郡外山面にも跨る)よりは金・銀・銅・鉛等を産す。道路は西方斐波より鴻山に至る三等道路中部を東西に横斷する他は何れも外線にして坂路多く且つ概れ未改修に屬し、交通・運輸便ならず。聚落密度極めて疎なり。北部の聖住里には名刹白雲寺ありて西海の諸島を一望の裡に納め風光絶佳なり。寺内の塔は一千二百餘年前の建築に係り、唐の名僧大剛律師和尚の頭陀文を刻す。文は儒者兼致遠の撰にして美文筆を以て開中。また聖住山よりは藍靑硯その他石工品に用ふる石材を出す。

ヒシ 菱 栃木縣下野國足利郡の西北部。桐生市の東北隣にて、西北は山田郡、東北は安蘇郡の一部と隣す。足尾山塊一支脈の南部を占め、東境に個人ヶ嶽(六六三米)等ありて西方に傾斜し、西境を南流する桐生川の谷に迫る。山地一帯は森林多し。川沿ひに狭き耕地ありて米・蕎麥を産し、蕎麥も行はる。南部に縣道ありて桐生市に通じ、他は山地のため交通不便なり。

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

ヒサナーヒシ

きパーカー式耕種機を米圃より購入し一日千石の獲果荷造容易に行はれ成績頗る良好なり。爲めに全國よりの調査者は一ヶ年三千名以上に達すと。尙ほまた昭和三年御大禮に際しては、大嘗祭庭積機代物として奉納せり。近海便船あり。もと久比・沖友の二村なりしが、明治二十二年合併して久友村と名づく。

ヒサナガ 久長 鳥取縣八頭郡にありし村。明治二十六年三保村と合併して河原村を建つ。

ヒサノハマ 久之濱町 福島縣磐城國雙葉郡の東南部。南は石城郡四倉町に接し、東は太平洋に面す。地形海岸に沿ひて南北に長く北部・南部は海岸に向ひて傾斜せる段丘をなし、中部は稍平坦にして大久川東流し太平洋に注ぐ。北半部の海岸は山地迫りて断崖をなし、南部は砂濱をなす。米・蕎麥を産し、また漁業行はる。陸前濱街道は東部を南北に通じ、南方四倉町へはバスの便あり。省線常磐線久之濱驛(明治三十年設置)を置く。此地は和名抄、磐城郡白田郷の内なるべし。明治三十四年町制を布く。本町の海邊を木奴美濱・好濱とも稱し、舊奥州濱街道の宿驛にして景勝に富む。大字金澤には磐出前地あり、新妻式部少輔ここに居り、文明六年落城せりと。また此地は戊辰の役の激戦のありし地なりと。(改立寺)田之圃にあり。臨濟宗妙心寺派。磐王山と號す。大同元年、徳一上人、海中より

得たる長八寸の増光如來の靈像に感じて創建せしもの。文明年中、岩城常陸、堂宇を修築して今日に及ぶ。本堂は飛騨の匠の作と稱せられ、本堂に恵心僧都作の十二神像、仁王門に行基作の仁王像を安置す。地は波立濱といひ木奴美濱の陸望頗る佳なり。

ヒサワ 檜澤村 福島縣岩代國南會津郡の中部。田島町の西北に隣り、北は大沼郡に接す。面積一六・一方軒。北部に船ヶ鼻山(二二〇米)、東境に那須山(一〇四五米)、南境に中森(二一七米)、西境に大平山(一五四三米)七ヶ嶽(一六三六米)等あり、四圍山地連りて中央部に傾斜し、檜澤川は四圍の水を集めて村の中部を東流す。米・蕎麥を産す。道路は村の中央部を略東西に通じ、東方省線會津線會津田島線へはバスの便あり。人口密度は一方軒につき三〇人あり。

ヒサワ 檜澤村 茨城縣常陸國那珂郡の西北部。東隣山方村を隔て、久慈川に近く、北は久慈郡の一部と隣す。八溝山脈中の一部を占め、周囲には四〇〇米前後の山地連りて村内に傾斜し、中央はその都合にて、那珂川の支流猪川東南に流る。川沿ひに農業行はれて黍・粟・草を産し、殊に粟草は最も重要なり。又山地一帯に森林多く、林産盛にて、木材、木炭を産す。縣道は川沿ひに通じ、聚落もこれに沿ひて發達す。東隣山方村には

の一帯。尾瀬ヶ原の西方、群馬縣利根郡片品村と水上村との境上に位置し、標高一八六米。南方至佛光山との中間鞍部を越え、東麓尾瀬沼長瀬小屋に至る切開け通す。北麓に大白澤山(一九四二米)連る。

ヒサキ 久木村 島根縣出雲國龍川郡の東北部。龍川平野の中央に位置し、伊右岸に沿ふ。全村地形極めて平坦にして、北境に沿ひて龍川東北流し、本村をばなれてより數條に分流し約五軒東方にて突進湖に注ぐ。北方及び南方には遙に綿織たる雄峰を仰ぐ。米産を主として農産多く水産・畜産・工業も僅に出す。縣道中央を南北に縱斷し北方平田町及び西方省線山陰本線直江驛(南方二軒たらず)へバス通ふ。(都牟自神社)大字福宮に鎮座。神社、神社志部沼田領。創建年次を詳にせざるも相殿の八幡宮は尾子氏の勸請に係り、その崇敬厚く社領若干を寄せらる。例祭、十月十五日。

ヒサシタ 膝下 埼玉縣北足立郡にありし村。大正二年本村を廢し七里村を置く。

得にして農産に乏し。産物の主なるものは粟・稗・米・黍・麻・大麻等にして、工業には芋布あり。礦産はやや多く、保一金礦・赤金礦・東進鐵山(但し後二者は礦區の一部)等ありて金・銀を出し、福山金礦(礦區は扶餘郡外山面にも跨る)よりは金・銀・銅・鉛等を産す。道路は西方斐波より鴻山に至る三等道路中部を東西に横斷する他は何れも外線にして坂路多く且つ概れ未改修に屬し、交通・運輸便ならず。聚落密度極めて疎なり。北部の聖住里には名刹白雲寺ありて西海の諸島を一望の裡に納め風光絶佳なり。寺内の塔は一千二百餘年前の建築に係り、唐の名僧大剛律師和尚の頭陀文を刻す。文は儒者兼致遠の撰にして美文筆を以て開中。また聖住山よりは藍靑硯その他石工品に用ふる石材を出す。

ヒシ 菱 栃木縣下野國足利郡の西北部。桐生市の東北隣にて、西北は山田郡、東北は安蘇郡の一部と隣す。足尾山塊一支脈の南部を占め、東境に個人ヶ嶽(六六三米)等ありて西方に傾斜し、西境を南流する桐生川の谷に迫る。山地一帯は森林多し。川沿ひに狭き耕地ありて米・蕎麥を産し、蕎麥も行はる。南部に縣道ありて桐生市に通じ、他は山地のため交通不便なり。

【菱ヶ岳】 越後山系の一峰。高田市の南東方二四軒前後、新潟縣東頸城郡菱里村

に時ち、南斜面に越後山系に重なる長野縣下水内郡岡山村との境界が東西に通ず。標高一二九米、山體火山岩より成る。南西斜面より保食川の一水源發して北流し水源に近く瀑布懸る。東方に野々海峯、西方に伏野の山路南北に通じ、最高點はいづれも越後山系に置き、南降して千曲川流域に至る。

【菱ヶ岳】一に平家岳。越後山系假登山塊西端部の一峰。西側は新潟縣北蒲原郡堀越村地と接し、東側は東蒲原郡下條村に属す。標高九七四米。西斜面に大日ヶ原演習地あり。

ヒシカ 日出町

郡の中部。別府町の西北部に臨みて風光明媚の地なり。北部は山地の南斜面をなし南部に沿岸平野開く。低地は水田拓けて未を出した酒の産多し。海岸に沿いて市街地東西に長く發達し之を貫きて日向街道走りバスの往來盛なり。省線日豊本線また南部を通り日出は東陽川村にあり。大阪商船船島線の寄航地なり。舊名浮津。木下氏の舊城下町。【日出藩】豊臣秀吉の室北政所に當る木下延俊關原役に従ひて功あり、慶長六年此地に封を受け爾來子孫相承けて二萬五千石を食み、明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して大分縣に入る。【若宮八幡神社】大字宮町に鎮座。祭神、仁徳天皇。社傳に天徳四年諸方三郎なるもの、創建

に係り、のち大友能直及び日出城主木下氏代々の崇敬厚く領内の總領守となす。例祭、十月十五日。【松尾寺】曹洞宗。康徳山。寺傳に慶長五年中、仁岡の創建に係るといふ。慶長五年木下延俊、日出城主となるや、豊臣秀吉夫人の母康徳寺殿松尾妙貞大姉、追福の爲め堂宇を創建し、その香華院となし寺領百石を附す。堂内に有名な大蘇鐵あり、幹の周圍約三米、枝六米、里人は泉州堺妙國寺の蘇鐵より大なりと誇る。文祿年間朝鮮征伐の際大友義統の持歸りしものと傳へ、いま天然記念物に指定さる。

ヒシカ 非持

郡。美和村(長野縣上伊那郡)。

ヒシカ 肥前

郡。愛媛縣西部にある川。東市川・喜多の二郡に跨る。その上流は宇和川と稱し、大洲盆地と卯之町盆地との分水界鼻坂時に發源し宇和川となりて南流し、宇和町に至る。川はこゝにて曲折して東流し、御在所山脈層崖下に沿うて流れ、岩瀬川・稻生川等の北より南流せる支流を合して野村町に至る。之より東北流して黒瀬川・船戸川・河邊川等東方高地より西流せる支流を合して大川村に至り、北方より来る小田川を合す。これより秋川と稱し、西北流して大洲町を過ぎ、長濱町にて伊豫海に注ぐ。内子町および野村町附近より下流は舟行の便あり。流域約一〇〇新。

ヒシカ 比地大村

香川縣讃岐郡。

ヒシカ 鏡子窩會

關東州の東北部。鏡子窩民政署の所在地。地は東部に狭長にて西南は宋家屯會、北は鏡子河會、東北は鏡子河下流を境として夾心子會に隣り、東南一帯は黄海に面す。西南と北境には低き丘陵あり、沿岸は低平の地をなす。今の市街は會の西南部丘陵の斜面より海濱にかけて位す。もと清の雍正元年(享保八年)鏡子河口西岸に開墾せられしが、土砂淤塞し船の發着不便なるため今の地に移るといふ。戎克船の出入あるも冬季は結氷の不便あり。雜穀・魚類の取引行はれ、東隣に夾心子・東老澤等の鹽業地を控へその中心都邑たり。金福鐵道に近く陸上交通も不便ならず。この地は日露戰役に際し、明治三十七年五月、奥大將の第二軍を率へて上陸せし處なり。また此地に鏡子高地名標識あり。

ヒシカ 鏡子窩會

關東州の東北部。鏡子窩民政署の所在地。地は東部に狭長にて西南は宋家屯會、北は鏡子河會、東北は鏡子河下流を境として夾心子會に隣り、東南一帯は黄海に面す。西南と北境には低き丘陵あり、沿岸は低平の地をなす。今の市街は會の西南部丘陵の斜面より海濱にかけて位す。もと清の雍正元年(享保八年)鏡子河口西岸に開墾せられしが、土砂淤塞し船の發着不便なるため今の地に移るといふ。戎克船の出入あるも冬季は結氷の不便あり。雜穀・魚類の取引行はれ、東隣に夾心子・東老澤等の鹽業地を控へその中心都邑たり。金福鐵道に近く陸上交通も不便ならず。この地は日露戰役に際し、明治三十七年五月、奥大將の第二軍を率へて上陸せし處なり。また此地に鏡子高地名標識あり。

ヒシカ 鏡子窩會

關東州の東北部。鏡子窩民政署の所在地。地は東部に狭長にて西南は宋家屯會、北は鏡子河會、東北は鏡子河下流を境として夾心子會に隣り、東南一帯は黄海に面す。西南と北境には低き丘陵あり、沿岸は低平の地をなす。今の市街は會の西南部丘陵の斜面より海濱にかけて位す。もと清の雍正元年(享保八年)鏡子河口西岸に開墾せられしが、土砂淤塞し船の發着不便なるため今の地に移るといふ。戎克船の出入あるも冬季は結氷の不便あり。雜穀・魚類の取引行はれ、東隣に夾心子・東老澤等の鹽業地を控へその中心都邑たり。金福鐵道に近く陸上交通も不便ならず。この地は日露戰役に際し、明治三十七年五月、奥大將の第二軍を率へて上陸せし處なり。また此地に鏡子高地名標識あり。

ヒシカ 鏡子窩會

關東州の東北部。鏡子窩民政署の所在地。地は東部に狭長にて西南は宋家屯會、北は鏡子河會、東北は鏡子河下流を境として夾心子會に隣り、東南一帯は黄海に面す。西南と北境には低き丘陵あり、沿岸は低平の地をなす。今の市街は會の西南部丘陵の斜面より海濱にかけて位す。もと清の雍正元年(享保八年)鏡子河口西岸に開墾せられしが、土砂淤塞し船の發着不便なるため今の地に移るといふ。戎克船の出入あるも冬季は結氷の不便あり。雜穀・魚類の取引行はれ、東隣に夾心子・東老澤等の鹽業地を控へその中心都邑たり。金福鐵道に近く陸上交通も不便ならず。この地は日露戰役に際し、明治三十七年五月、奥大將の第二軍を率へて上陸せし處なり。また此地に鏡子高地名標識あり。

ヒシカ 菱形村

熊本縣肥後國鹿本郡の西南隅。熊本市西北部より約四軒北にあり。西は玉名郡に、南は飽託郡に界す。村内概ね丘陵を成し西南部は東北方に傾斜する斜面地にして西南隅は五九六米の高度を有す。菊池川支流の木葉川に源流して中部を西北流し玉名郡に入る。農を主業とするも畑地多く麥・甘藷の産多く養蠶も亦盛なり。米・粟も出ず。北部に東方植木町と西方玉名郡高瀬町とを結ぶ縣道走り、省線鹿兒島本線は中部を横斷し東方約一軒に植木驛ありて自動車を通ず。大字木留は明治十年西南の役に官軍兩軍の對峙せし所。

ヒシカ 土方村

静岡縣遠江國小笠郡の西部。横須賀町の東に接す。村内丘陵起伏し略中央を菊川の一支出小笠川東南に貫流し、東南部河岸に多少の平地あり。農業を主産業とし米を産し、牧畜・養蠶これに次ぎ、林産類・工業類も多少あり。南北に縣道貫通し、省線東海道本線掛川驛へ約八軒、バスの便あり。この地は和名抄、城郭郡土形郷(比知加多と訓す)の内なるべく、大字入山嶺は掛川志嶺にれば、小笠山の南にありて、小笠権現の神領なりしと。また中世、入山嶺氏發祥の地なり。小笠山は徳川家康が掛川を攻むる時に本陣となりし所。【高天神城】高天神山に在る城址。鶴舞城ともいふ。慶永年間、今川氏の築く所といひ、のち徳川家康、小笠原長忠をして

ヒシカ—ヒシカ

ヒシカ 菱形村

守らしめしが天正二年武田氏のため降る。爾後徳川氏恢復せんとして争ふこと八年、天正九年陥る。【高天神社】大字上土方に鎮座。祭神、高皇產靈神・天香比命・菅原道真。一に遠江國邊等の祖、遠祖天香比命を祀れるに創るかといふ。もと菅原天香といひ、朱印領六石を有せり。例祭、三月二十五日。

ヒシカ 菱刈

【菱刈村】大隅國(鹿兒島縣)の古郡名。續紀天平御覽七年紀に給藤郡の菱刈村を以て郡となすと見ゆ。和名抄は比志加里と註し、羽野・亡野・大水・菱刈の四郷を管す。後世、郡境度々改まり明治三十年四月薩摩國に入り北伊佐郡と合して伊佐郡となる。【菱刈村】鹿兒島縣薩摩國伊佐郡の東部。川内川中流に沿ひ大口盆地の東部を占め東は給良郡の北部に接し東北部は宮崎縣西諸郡に界す。東部は東北境に變ゆる黒岡山(五六四米)一帯の山地の西斜面にして、南部は次第に高さを減す。西部は東南部山麓より二〇〇餘米の丘陵西北方へのび西南部は山地をなすも、地形峻しからず、川内川は南境に沿ひ西北境に流れ、北方より來りて西境を南流する羽月川を入れて西南隅より本村を離れて西方へ向ふ。米・麥・蕎麥を出し、山地は林産物多く、外に畜産・工業・水産もあり。縣道西部を南北に走り省線山形東線も西部及び南部を通過して湯之尾驛・菱刈驛(共に

ヒシカ 比自岐村

三重縣伊賀國名賀郡の北部。上野町の東南約六軒にして北は阿山郡に接す。東境には四〇〇米程度の丘陵連なりて西方に緩く傾がり、西部には平地開けて長田川の一支出北境に發して西部を西南流して依那古村に入る。農業を主産業とし米・麥・蕎麥を産しまた工業・畜産・鐵産・林産あり。松平の特産あり。社傳參宮急行電鐵伊賀線丸山驛へは西方約一・五軒を距つ。この地は和名抄、伊賀郡神戶郷の内なるべし。【比自岐神社】大字比自岐に鎮座。祭神、比自岐神。當社主神は皇軍に奉仕して常に殲官の事を掌り其の功績顯著なりき。式内小社に列し伊賀郡十一座

ヒシカ 比自岐村

三重縣伊賀國名賀郡の北部。上野町の東南約六軒にして北は阿山郡に接す。東境には四〇〇米程度の丘陵連なりて西方に緩く傾がり、西部には平地開けて長田川の一支出北境に發して西部を西南流して依那古村に入る。農業を主産業とし米・麥・蕎麥を産しまた工業・畜産・鐵産・林産あり。松平の特産あり。社傳參宮急行電鐵伊賀線丸山驛へは西方約一・五軒を距つ。この地は和名抄、伊賀郡神戶郷の内なるべし。【比自岐神社】大字比自岐に鎮座。祭神、比自岐神。當社主神は皇軍に奉仕して常に殲官の事を掌り其の功績顯著なりき。式内小社に列し伊賀郡十一座

ヒシカ 比自岐村

三重縣伊賀國名賀郡の北部。上野町の東南約六軒にして北は阿山郡に接す。東境には四〇〇米程度の丘陵連なりて西方に緩く傾がり、西部には平地開けて長田川の一支出北境に發して西部を西南流して依那古村に入る。農業を主産業とし米・麥・蕎麥を産しまた工業・畜産・鐵産・林産あり。松平の特産あり。社傳參宮急行電鐵伊賀線丸山驛へは西方約一・五軒を距つ。この地は和名抄、伊賀郡神戶郷の内なるべし。【比自岐神社】大字比自岐に鎮座。祭神、比自岐神。當社主神は皇軍に奉仕して常に殲官の事を掌り其の功績顯著なりき。式内小社に列し伊賀郡十一座

ヒシカ 比自岐村

三重縣伊賀國名賀郡の北部。上野町の東南約六軒にして北は阿山郡に接す。東境には四〇〇米程度の丘陵連なりて西方に緩く傾がり、西部には平地開けて長田川の一支出北境に發して西部を西南流して依那古村に入る。農業を主産業とし米・麥・蕎麥を産しまた工業・畜産・鐵産・林産あり。松平の特産あり。社傳參宮急行電鐵伊賀線丸山驛へは西方約一・五軒を距つ。この地は和名抄、伊賀郡神戶郷の内なるべし。【比自岐神社】大字比自岐に鎮座。祭神、比自岐神。當社主神は皇軍に奉仕して常に殲官の事を掌り其の功績顯著なりき。式内小社に列し伊賀郡十一座

ヒシタ——ヒスチ

(一一九米)あり、全村北へ傾斜す。東落は西部河沿ひの里道及び之に交錯して東西に走る里道に沿ひて散在し、農産・林業に従ふ。社稷頭城鎮終點浦川原群(縣道通じ、バスの便あり)。

ヒシタ 菱田

【菱田川】 鹿兒島縣鳴門郡にある川。上源二ありて前川と瀬戸間伏川とす。いづれも郡の西北部に發源して西南流し、野方・西志布志・月野三村場上に合し、これより南流して有明海に注ぐ。流程約三五軒。下流約七軒の沿岸は低平なるも他は概ね峡谷をなす。

ヒシテホアン

【菱田】 省嶺古江東線の一驛(昭和十年設置)。鹿兒島縣鳴門郡西志布志村にあり。中州員林郡二水庄鼻子頭にあり。

ヒシノ

【鼻子頭】 鼻頭(鼻頭) 臺灣總督府鐵道集集線の一驛(大正十一年設置)。臺中州員林郡二水庄鼻子頭にあり。

久郡

【比地二村】 香川縣讚岐國三豊郡の中央西北偏。西は山志保山脈を距てて仁尾町に接し、西方約二軒に備後灘に出づ。西部は西境の山脈が東方へ斜面を呈し東北部には二七七米の小山地あり。中部・東南部は平坦なる平野開け灌漑用池沼ありて土地肥沃、田畑よく拓く。農業を主業とし米・麥作及び養蠶業行はれ副業に吟を興る純農村なり。中部を縣道從經し東部には省線讃岐本線通過して上高瀬驛(大正二年設置)あり。

ヒシマ

【土高村】 兵庫縣播磨國宍粟郡の西部。千種川支流公文川の源流地を占め、南は佐用郡三日月町に界す。四周六五〇米程度の山地をなし、北境に源流する公文川は中央を南流し、沿岸に僅に低地を有す。農業を主とし米・麥・裸麥・食用農産・蔬菜・花卉・果實・茶等を産し外に鶏卵・高羽手・蠶製品・羽物・沿岸漁獲物等あり。南部を縣道東西に走り東南方山崎町へバスを通す。和名抄に宍粟郡土高郷と云ふは本村及び三河村・千種村をも含みしもの如し。

ヒシヤマ

【菱山村】 山梨縣甲斐國東山梨郡の南部。勝沼町の東北に接す。甲府盆地の東邊をなす小金澤山の山裾を占め、全村西向の斜面をなす。農業・養蠶を主生業とし、殊に葡萄の栽培盛なる地方にて、富村内勝沼驛は葡萄輸出驛として有名なり。また葡萄の産多し。省線中央

本線西部を南北に横切り、勝沼驛(大正二年設置)を置き、勝沼町より縣道を通じ、バスの便あり。村内より繩紋式・彌生式土器の發掘せられたり。村内に唯三(高三六米、市五米)・増田(高一三六米、市九米)あり。

ヒシヤモン

【毘沙門岳】 飛騨山脈南西方支脈越前山塊の一峯。東側は岐阜縣郡上郡北濃村に、西側は福井縣大野郡石徹白村に屬す。標高一三八五米、山は斑岩より成る。東麓は南流する長良川上流上ノ保川に、西麓は南西流して九頭龍川に落ちる石徹白川に洗はる。北麓に大日岳(一七〇九米)連り、中間鞍部に上ノ保川と石徹白川の流域を結ぶ槍崎の最高點(九六〇米)あり。

ヒシヨダニ

【美女谷】 小原町(神奈川縣津久井郡)。

ヒシロ

【聖岳】 型 日本南アルプス(赤石山系)赤石山脈に於ける雄峯にて、主峯赤石岳(三二〇〇米)の南方に位置す。東面は静岡縣安倍郡井川村に、西面は長野縣下伊那郡木澤村に屬す。山頂は二峯に分れ、東峯を聖岳と稱し、標高二九七八米にして、西峯を前聖岳と呼び、標高三〇一一米を算す。山容頗る雄大なり。北斜面より大井川の支流赤石澤の一支發して北流し、西斜面は大風崖打續く懸崖にして登攀不可能とせらる。この懸崖より遠山川支源西澤發して南西流す。南斜面よりは

ヒシロ

は鶴爪に作り後世郡山と稱し、のちまた日語と稱するに至る。延暦年中に坂上田村麻呂の蝦夷經營のために築きし志成城は、此地なるべく、中世藤原秀衡の一族たる比爪五郎の居館なる比爪館あり。東麓に文治五年九月十五日、比爪俊衡・其弟季衡・其子太田師衡・次郎兼衡・河北忠衡・子新田經衡等の六人、厨川に降ると見えたり。慶應三年、南部利直、郡山に移りて居す。寛永十二年、盛岡に移り、のち寛文十年に至り城を毀つ。明治天皇明治九年、奥羽御巡幸の際、及び明治十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、此地に御小休あらせらる。(勝沼院の遺構)指定天然記念物。勝沼院奥庭にあり。一株の榊にして、本幹は地上約六〇厘米の高さにて四方へ分枝し、主幹の基部の周囲約四米一、樹高約一二米七。横に擴がれる枝は鋭き屈曲を呈し、その下方に曲れる角は突出し痠軟をなせる處あり、樹形甚だ奇異にして、通常の榊と大いに成長の状態を異にす。

ヒセン

【肥前】 西海道十二箇國の一。九州島の西北の半島形の部分を占む。いま長崎、佐世保、佐賀・唐津の四市及び、佐賀・神埼・三養基・小城・東松浦・西松浦・杵島・藤津・西彼杵・東彼杵・北高来・南高来・北松浦・南松浦の十四郡に分ち佐賀・唐津二市及び佐賀以下の八郡は佐賀縣の管轄に、長崎・佐世保の二市および西彼杵以下の六郡は長崎縣の管下に屬す。この國はもと筑紫國の一部をなし、國造本紀には末羅・葛津の二國あり成務天皇の朝に夫々國造を定め給ひしこと見ゆ。これ等は國郡制定の時、松浦郡・藤津郡となりて火の國に編入され火を肥に改めこれを前後二國とし、肥前國と稱す。國府は今の佐賀郡春日村大字久池井の邊にありき。此國は早く神功皇后三韓御遠征の時にも著はれ、また遣唐使の往來にも此國の海岸、又は島嶼を通過するを常とせり。此國の國守に任ぜられたる人々の中に名の著はれたるは吉備經・源賴光等なり。續紀文武天皇の二年大宰府をして管治せしめられし三城の一なる基肆城は筑前との界にある要害なり。後一條天皇の寛仁三年三月刀伊の賊入寇するや、松浦郡にも侵入し、前肥前介源知これを擊退す。この源知の一族の子孫や外寇の防禦のため東國より太宰府に來れる將士の土著せしものの子孫や、また安倍貞任の弟宗任・則任等の如き俘囚のこの地方に配せられしもの裔などが相集まりてのちに松浦黨を形成し地方に於ける有力の團體となれり。壽永年間平家が西海に落ち來るや松浦黨は兵船を出しこれを助けて源氏の兵と壇浦に戦ふ。後堀河天皇の嘉祿元年には武藏袁頼太宰少貳にてこの國を管す。これを後に九州に威を振へる少貳氏の祖とす。文永・弘安の蒙古入寇の際に本州もまた害を蒙る

ヒシタ——ヒスチ

【(一一九米)あり、全村北へ傾斜す。東落は西部河沿ひの里道及び之に交錯して東西に走る里道に沿ひて散在し、農産・林業に従ふ。社稷頭城鎮終點浦川原群(縣道通じ、バスの便あり)。

ヒシタ 菱田

【菱田川】 鹿兒島縣鳴門郡にある川。上源二ありて前川と瀬戸間伏川とす。いづれも郡の西北部に發源して西南流し、野方・西志布志・月野三村場上に合し、これより南流して有明海に注ぐ。流程約三五軒。下流約七軒の沿岸は低平なるも他は概ね峡谷をなす。

ヒシテホアン

【菱田】 省嶺古江東線の一驛(昭和十年設置)。鹿兒島縣鳴門郡西志布志村にあり。中州員林郡二水庄鼻子頭にあり。

ヒシノ

【鼻子頭】 鼻頭(鼻頭) 臺灣總督府鐵道集集線の一驛(大正十一年設置)。臺中州員林郡二水庄鼻子頭にあり。

ヒスチ

【日土村】 大分縣豊後國北高部郡の東南部。津久見湖南岸に臨み南に南海部郡に界す。背後には山地を負ひ海岸に急斜して北岸東部に赤崎、中央西偏に辰崎、それより北へ突出して網代岡を抱き、海心に網代島あり。西北部には千怒崎の突出あり。林産・水産あり。省線日豊本線本村を通過して、日代驛(大正十五年設置)あり。もと日見浦・網代浦の二村なりしが合併して日代村を建つ。

南隅は川之石河に近し。全村山地にして東北に高く出石山(八二〇米)・浮心山・湖ヶ崎等聳えて西南部に低く、河川中央を西南流して川之石河に注ぐ。沿岸に畑地發達し米・蕎麥を産す。また富村と喜多郡の大和村・上須成村とに跨りて重要嶺山たる出石嶺山あり。鐵道は銅・硫化鐵とす(大和村参照)。八幡濱市へ縣道通じバスの便あり。此地は文治元年正月、河野通信の據りし比志城のありし處ならんといふ。平家、屋島より内則能を遣はして之を討たしむ。則能、比志城を攻むること五日間、遂に克たずして退く。(鹿島神社) 郷社。祭神、天兒屋根命外二神。創建は文徳天皇齊衡二年にて、村民はもとより近郷の崇敬者多し。例祭、十月廿六日。

ヒスミ

【比角】 新潟縣刈羽郡にありし村。大正十五年柏崎町に編入さる。同地にいま、省線越後線の比角驛(大正元年設置)あり。

ヒズミ

【日積村】 山口縣周防國玖珂郡の東南部。東北由宇町と西南柳井町とに挟まれ、東は神代村地或約一・五軒を隔てて廣島灣なり。全村山地をなし西南部及び東部に高く、西南境に琴石山(五四六米)等の諸峰そびえ、南境には城山(三五四米)あり、東境には鏡坪山(五四〇米)聳立して四周をかこみ、西北部に低くなり、北部には東西に稍々谷を見る。米・麥・木炭を産す。縣道中央を貫

きて、西北方は玖珂町に至り、東南は海岸に出て省線柳井線の大島驛に通ず。(大帯郡八幡宮) 大字宮ノ下に鎮座。郷社。祭神、豊田天皇、氣長足姫命、足仲彦天皇。豊前國宇佐宮より勧請する所と傳ふ。戦國時代より武家の崇敬篤し。

ヒズメ

【日詰町】 岩手縣陸中國紫波郡の南部。北上川の右岸段丘上にあり。面積三・三方軒にて本郡最小の町。北上川の構成する河成段丘の沖積地なるも北部はやや高く丘陵をなし、また東より西するに隨ひ高度を增す。北部の丘陵地は多く松林となり、南部・東部に墳墓少く土より成り田地・畑地拓く。面積狭少にして農産物には米その他以外に著しきものなく、また工業も發達せず特産物もなし。然し古來、本町は國道に沿ひ交通便なるを以てこの地方の經濟的中心にて商業盛なり。省線東北本線は中部を南北に貫通するも、日詰驛は南陽赤石村にあり、國道陸羽街道は東部北上川に沿うて走り、之より分岐する縣道は北上川に架波橋を架け釜石街道に合す。バスの便多く盛岡・花巻・大迫經山、釜石間の外に日詰驛に通じ交通便なり。人口は國勢調査によれば漸増し、大正九年二〇三四人、同十四年二二四四人、昭和五年二二八八人、同十年二四四六人なり。なほ同十年の一方軒密度は七四一人にして本郡第一の稠密なり。此地は本郡の中心都邑にして舊郡役所のありし所。古くは比爪また

ヒスミ

【ヒスミ】 ヒセン

【ヒスミ】 ヒセン

こと多く、此時、松浦黨は大いに戦功を擧つ。建武年間には松浦黨の一人松浦貞(定)は官軍に應ず。足利尊氏の致くや資頼五世の孫貞経がこれに應ぜしが、肥後の菊池武重勤王の師を起すに及び、この國の豪族有馬・大村二氏もまたこれに應ず。此時千葉胤貞も本國下總より來りて小城郡に居る。正平の頃、武重の弟武光が征西將軍懐良親王を奉じてこの地に來るや、全國悉くその節度に服す。武光功によつてこの國の守護となる。足利義滿これを見て今川貞世・大内義弘を遣はして九州探題として菊池氏を討たしむ。國内の豪族これに属するもの多く、千葉氏松浦黨もまたこれに降る。應永三年藤川滿頼九州探題となり、本州に來りて兼父郡の鞍部城(三榮基郡中原大字箕原)に居り本州を管す。正長元年從子滿直これに代り子教直に傳へしが、後、少貳政資の爲に城を奪はる。明應六年、政資は大内義興に破られて小城郡の多久城に自盡し、教直の子尹繁探題となり基肄郡の勝尾城に居る。これより以後少貳・藤川・大内・千葉四氏の間に小競合を演ぜしが永祿年間、佐賀の龍造寺隆信起るに及んで、國の東部七郡を定め、佐賀に居りてその城近隣に據ふ。平戸の松浦隆信、岸岳(東松浦郡の鬼塚村大字知島)の波多親等はいづれも款を通ぜしが、南部の有馬義直は附近の四郡を領して獨りこれに抗し、天正五年、隆信と戦つて敗れ、僅に

高來の一郡を有するのみとなる。天正十二年隆信は肥後に入り島津氏と戦つて敗死し、子政家不有なりしたため、その臣鍋島直茂が代りて事を執る。天正十五年豊臣秀吉の九州を征するや政家に舊領七郡を與へ、有馬晴信(高來郡日ノ江・口ノ津附近、また原城ともいふ)・大村嘉前(大村)・松浦鎮信(平戸)・波多親(松浦郡岸岳)・五島純玄(五島の福江)等、各々舊領を安堵す。次いで龍造寺政家は封を鍋島直茂に譲る。文祿朝鮮の役には大本營が松浦郡の名護屋に置かれ、秀吉はここに天下の諸侯を會す。次いで岸岳の波多氏は罪を獲て封を收められ、寺澤廣高これに代り唐津に移る。關原役起るに及び、鍋島直茂は徳川氏に屬してその封土を保ち、のち小城・蓮池・鹿島に子弟を封じて支藩とし、大村・松浦・五島の諸氏また西軍に與せざりしを以て何れも舊封を安堵して子孫相承く。既にして有馬氏は元和年間日向に移され松倉重政が島原に封ぜらる。寛永年中、天主教徒の島原亂起りし時、教徒の據りしは日ノ江の故城なりき。松倉氏は非政のため領内にかゝる叛徒を蜂起せしめし罪を以て封を奪はれ、のち數代を更へて寛文九年松平氏ここに封ぜられ、正保年中には唐津の寺澤繁高狂疾を以て國除かれ、のち數代を経て文化十四年以來小笠原氏が封を受け、また平戸にては元祿年間に平戸新田を分ち、維新の初めに於ては合せて十藩あり

き。即ち、佐賀(鍋島氏、三十五萬七千石)・小城(鍋島氏、七萬三千二百餘石)・蓮池(鍋島氏、五萬二千六百石)・鹿島(鍋島氏、二萬石)・唐津(小笠原氏、六萬石)・大村(大村氏、二萬七千九百餘石)・福江(五島氏、一萬二千六百石)・平戸(松浦氏、六萬千七百石)・平戸新田(松浦氏、一萬石)・島原(松平氏、七萬石)なり。明治四年一般廢藩置縣の時、平戸新田の本藩に合せる外みな一時それぞれ縣と稱す。之より先、江戸時代の開外國貿易を掌りし長崎の地は、安政六年六月より開港となり、明治元年長崎裁判所を置き間もなくこれを長崎府と改め、更に翌二年六月にはこれを長崎縣と改む。而して佐賀縣は明治四年九月これを伊萬里に移して伊萬里縣と改む。明治四年十一月に行はれたる縣の大分合の際、長崎・島原・平戸・福江・大村の五縣を廢して更に長崎縣を置き佐賀・高來及び松浦郡の一部を治め、伊萬里・唐津・小城・蓮池・鹿島の五縣を廢して更に伊萬里縣を伊萬里に置き肥前の殘餘の郡を管せしが、六年五月にはこれを佐賀に移して佐賀縣と改む。明治九年四月に置れば佐賀縣を廢して其所管の地を一時筑後國の三潯縣に合併せしが、間もなく八月にはこれを更に長崎縣に編入し、ここに肥前國は全部長崎縣の管下に入る。明治十三年五月には松浦郡を東・西・南・北の四郡に分ち、佐賀郡を東西二郡に、高來郡を南北二郡

に分割す。明治十六年五月に五里佐賀縣を復活す。明治二十二年四月には兼て四佐賀郡より分れたる長崎縣が市となり、佐賀市が佐賀郡より獨立し、明治二十九年四月三根・兼父・基肄三郡を併せて三榮基郡とし、明治三十五年四月佐賀保市が東佐賀郡より獨立し、昭和七年一月より唐津市が東松浦郡中より獨立して以て今日の如く四市十四郡となる。

【肥前炭田】 肥前國の西北部にある炭田。即ち佐賀縣の小城・杵島・東松浦・西松浦の四郡及び長崎縣の北松浦・西佐賀の二郡に互り、筑豊・石狩の二大炭田に次ぐ本邦の大炭田。此地方は第三紀層頗るよく發達し石炭の重要産山のみならず、十四、準重要産山は二十あり。其内、北松浦郡には前者九、後者十五存す(昭和十年)。主要産山の分布は、炭田の東部に於ては、六角川の上流・上支地方(杵島炭礦など)及び、松浦川の上流・上支地方(新屋敷炭礦・岩屋炭礦など)、西北部に於ては深江川・佐々川・相ノ浦川の流域地方、西南部にては西佐賀牛島の西海岸島嶼とす。木炭田に屬する重要産山のみを掲ぐれば別表の如し。(昭和十年の分)なほ準重要産山の嶺山名次の如し(昭和十年)。(佐賀縣東松浦郡)入野、(佐賀縣西松浦郡)大久保、(佐賀縣西松浦郡)長崎縣北松浦郡)向山、(長崎縣北松浦郡)上野、山口、國ノ鼻、平田山三坑、皆瀬、田中、鹿爪、福井、吉岡、福島、大平、

嶺山名	嶺區所在地	年産額(噸)
杵島	佐賀縣杵島郡北方村・大町町・六角村・江北村	六一一、五三六
新屋敷	小城郡多々村・南多々村	六九、三六〇
岩屋	東松浦郡相知町	一七、一四二
江里	西松浦郡相知町・殿木村	五三、七五〇
鹿島	長崎縣北松浦郡佐々村・吉井村・江迎村	二四八、四八八
小城	鹿島村・小佐々村・佐々村・江迎村	七三、八三八
鹿島	鹿島村・鹿島村	一五六、七五一
池野	世知原村	二一九、〇〇二
新中里	納木村・皆瀬村・大野村・世知原村	八七、九五八
神田	皆瀬村・大野村・中里村	一一九、七三三
住友野	吉井村・佐々村	一三六、一八九
住友大瀬	佐々村・中里村	一一二、九八二
高島	佐賀保市	九五三、一五六
	西佐賀郡時戸町・黒瀬村	四八五、〇四九
	高島村・高濱村	

中島江口・平田山二坑・岳下・中里・長崎縣西佐賀郡)松島・新松島。

【肥前旭】 鹿兒島本線の一驛(昭和六年設置)。佐賀縣三榮基郡旭村にあり。

【肥前飯田】 長崎本線の一驛(昭和九年設置)。佐賀縣藤津郡七浦村飯田にあり。

【肥前大浦】 長崎本線の一驛(昭和九年設置)。佐賀縣藤津郡大浦村にあり。

【肥前鹿島】 長崎本線の一驛(昭和五年設置)。佐賀縣藤津郡鹿島町にあり。

【肥前長田】 長崎本線の一驛(昭和九年設置)。長崎縣北高來郡長田村にあり。

【肥前七浦】 長崎本線の一驛(昭和九年設置)。

設置) 佐賀縣藤津郡七浦村にあり。

【肥前濱】 長崎本線の一驛(昭和五年設置)。佐賀縣藤津郡濱町にあり。

【肥前御厨】 伊萬里線の一驛(昭和十年設置)。長崎縣北松浦郡御厨村にあり。

【肥前山口】 長崎本線の一驛(明治二十八年設置)。佐賀縣杵島郡江北村にあり。佐賀保線の起點。

【肥前古井】 杉浦線の一驛(昭和八年設置)。長崎縣北松浦郡古井村にあり。

【肥前龍王】 長崎本線の一驛(昭和五年設置)。佐賀縣杵島郡龍王村にあり。

郡の北端に位置し、郡邑香州の北方約二〇軒にあり。集賢山(五七二米)の西境近く聳ゆる他は著しきものなく概れ百米内外の丘陵地帯を形成す。從つて耕地は丘陵面及び緩傾斜面を開發して善く發達す。ただ灌漑水に乏しき爲め水田極めて少なし。農産物は小麦・粟・棉花・米・麻等にして、工業に麻布・綿布等あり。また美川金銀礦山より金・銀を出す。道路は香州より北方険川に通ずる三等道路西部を南北に縱貫する他は何れも等外線にして交通便ならず。聚落は普遍的に分布す。西北部の安綱里には陸軍二・七の日に開く市場あれども商開狭く漸次衰微しつつあり。

國十二郡の内、北部の六郡を割きて美作國を置く。備前國は曾道鏡の窺意の心を挫きし和氣清麻呂の出身地なり。鎌倉時代此初め、幕府は土肥實平・梶原時義の國の守護とし、また佐々木盛綱に兒島郡を與ふ。建武中興の時、松田盛朝がこの國の守護とし、兒島郡は兒島高徳に與ふ。足利尊氏の致くや、田井・龜浦等の土家は皆これに應ず。勤王の士兒島高徳はこれを討ちしり克たす、新田義貞の弟義助もまた來り攻めしめ、數なく、全國悉く尊氏の有に歸す。尊氏乃ち播磨國の守護赤松則直を以て本國を授けられしめ、爾後數傳して備前に至り降せられし、山名持豊代りて守護となる。應仁二年、赤松政則はその臣浦上則宗をして山名の守護代たる小鴨氏を遣はしめ、則宗守護代となりて三石城に治す。既にして文明年中に至れば則宗京都所司代となり、永正年中には則宗の子村宗、赤松氏に背きて自立す。浦上氏の臣に宇喜多直家あり、上道郡の沼城(いま浮田村大字沼)に據り、漸次に附近の地を併せ天正元年に岡山に移り、ついで赤松氏を亡ぼして備前國を領有す。羽柴秀吉の織田信長の命を奉じて中國平定のため來攻するや、宇喜多直家は逸早く款を通じ、よりて備前・美作を領するを得たり。關ヶ原役には直家の子秀家西軍の統率となり、軍敗れて逃亡し、後捕へられて八丈島に謫せらる。徳川家康乃ち小早川秀秋を本國および美作に封

えて陶磁器を産し、殊に三五の皿は廣く
全國及び滿洲國等の需要を充し、年産出
數一億を越す。農業は米作主にて、また
養蠶の副業あり。河沿に縣道通じ中央本
線土岐津原へハスの便あり。この地は和
名抄、土岐郡檜原郷の内なるべし。大字
肥田は清和源氏、土岐氏の族、肥田氏發
祥の地にして、のち一族、尾張に移住し
て其名著る。大字淺野も清和源氏、土
岐氏の族淺野氏發祥の地。(八劍神社)
大字肥田に神社。祭神日本武尊。
社傳に貞享元年社殿再建と傳ふ。例祭、
陰曆八月十三日。

ヒタカ 飛騨

【飛騨國】東山道十三箇國の一。信濃高
原に位し、海に濱せざる國の一なり。行
政上、高山市及び大野・益田・古城の三郡
に分れ、岐阜縣の管下たり。この國は成
務天皇の朝國を定め給へる斐陀國にし
て、また工匠を以て朝廷に仕へ奉れる飛
騨工を以て著る。國名は大令には斐
陀とあるも、萬葉集には斐太に作る。今
も高山市にある縣立中學は斐太の字を冠
す。その飛騨に作るは、和銅年間以後と
す。國內は初め大野・荒城(近世古城に
改む)二郡に分れしが、清和天皇の貞觀
年間に大野郡を分ちて益田郡を置き以て
三郡となす。國府は大野郡の三枝郷(い
まの高山市の内)に置く。鎌倉幕府の末
期に信濃の守護小笠原貞宗この國を管
す。建武中興の時に公卿の跡小路高基

【飛騨小坂】高山本線の一驛(昭和八年
設置)。岐阜縣益田郡小坂町にあり。
【飛騨萩原】高山本線の一驛(昭和六年
設置)。岐阜縣益田郡萩原町にあり。
【飛騨古川】高山本線の一驛(昭和九年
設置)。岐阜縣古川郡古川町にあり。
【飛騨細江】高山本線の一驛(昭和九年
設置)。岐阜縣古川郡細江村にあり。

ヒタカ 日高

【日高支廳】北海道十四支廳の一。もと
浦河支廳と呼ばしが昭和七年改稱。北海
道の南部に於て日高山脈の西を占め、東
を河西、西を釧路、北を上川の各支廳と
接し、南は太平洋に面す。面積八〇九・
七平方軒。土地は東境に於てピロイロ岳
(二〇一七米)・戸高別岳(一九一七米)・
神威岳(一六〇七米)・十勝岳(一四五七
米)等の北より南に向つて漸次高さを減
する連峯を成る日高山脈を横とし、こ
れより西南に向ひて低下する傾斜面をな
し、沙流川・新冠川・染尾川・元浦川等
の必從河が北東より西南に向ひ略ぼ並行
して斜面上を流れ、それ等の長さは土地
の幅に比例して、南東のもの程短小とな
る。この地形に相當して地質もまたかな
り單調にして、日高山脈に並行して東よ
り花崗岩及びこれに附隨する貫入片麻岩
また接觸岩より成る深成岩地帯、古生層
地帯、中生層地帯が帯狀に排列し、最東
部に於て第三紀層が比較的廣く現はれ、
また中部以西の海岸には狭長なる沖積地

が國司(公家にして守護となれるを國司
といふ)に任ぜられ、三世を経て足利氏
の將軍高亮のために滅ぼされ、高亮が
守護となりしが、なほ跡小路氏の祀を存
し國司と稱して弘治年間に至る。高亮の
家臣三木正親なるものあり、その曾孫關
頼に至り跡小路氏を冒し國守となる。天
正十三年豊臣秀吉、金森長近を遣はし關
頼の子自綱を討たしめ、長近を高山に封
す。長近より六傳して頼時に至り、元祿
五年金森氏は出羽上ノ山に移され、加賀
の前田氏をしてこの國を管せしむ。前田
氏は代官伊奈氏を置き貢賦の事を掌らし
め、のち城池を毀ちて高山の陣屋と稱し
郡代を置き以て明治維新に至る。明治元
年五月飛騨縣を置き飛騨一國を管し、
ついでこれを高山縣と改稱す。明治四年
十一月高山縣を廢して信濃松本にありし
筑摩縣の管下に移せしが、明治九年八月
筑摩縣の廢止と共に飛騨一國は岐阜縣の
所管となり、昭和十一年高山市を古城郡
より獨立して以て今日の狀勢を示す。

【飛騨支廳】岐阜縣の北部、飛騨國三郡
の内、大野郡・古城郡を以て支廳の管轄
とし、高山市に支廳を置く。
【飛騨山脈】謂ゆる日本アルプスと稱せ
らるる本邦第一の高大なる山脈の内、北
アルプスと稱せらるる部分に相當し、そ
の地域は長野・富山・新潟・岐阜の諸縣
に跨る。*日本アルプス
【飛騨高地】岐阜縣大野郡・益田郡・古

發達す。氣候は北海道の他の部分に比し
て溫和、夏季には相當の雨量と濕氣を示
す。また東南風に伴ひて海霧を見るも、
秋は空晴れ、冬季は積雪比較的少し。土
地の開拓はなほ不十分にして、總人口七
五三八八人。うち約五千はアイヌ人にし
て、北海道中にて最もアイヌの多き地方
をなし、到る處にその特徴ある生活が見
受けらる。産業中最も重要な地位を占
むるは水産業にして河川及び沿海よりハ
鱈・昆布及び鮭の産多し、遠洋漁業も盛
なり。農業は主として海岸の平野にて行
はれ、蕎麥・稗・米・大豆・馬鈴薯及び菜豆
を主要收穫物とす。牧畜は馬を主とし、
ここに我國第一と稱せらるる宮内省の新
冠牧場及び農林省の日高種馬牧場あり。
一方山地の森林よりは木材の産多し。こ
れに對し、工業は未だ發達せず、鐵産物
も少く、沙流川流域の鐵をやや著しきも
のとす。交通は未だなほ不便にして、鐵
道としては古小牧より靜内に達するもの
と、その支線たる佐理太・平取間の一小
線あるに過ぎず。支線は浦河町に置く。
【日高國】北海道の一國。同道の中部の
南邊を略ぼ南北に走る日高山脈の西の斜
面にして海に面す。行政上、沙流・新冠・
靜内・三石・浦河・樺似・幌泉の七郡に
分ち、いま日高支廳の所管たり。この國
は沙流郡の平取村を中心として蝦夷創業
の地として知られ、沙流の古郡なる新冠
に南方の女神瀧著して蝦夷人の祖先とな

城郡に互り、高山市をほぼ中心として發
達せる一〇〇米乃至一五〇〇米の高臺
狀の山嶺地帯の地帯。飛騨高原ともい
はる。東方は謂ゆる北アルプスの名にて呼
ばるる飛騨山脈と、中央アルプスと稱せ
らるる木曾山脈の一部に接し、西方は加
賀の白山を中心とする加賀・美濃の山地
なり。この兩山脈の間に挟まれる地形的
の高原は飛騨の一國に止まらず、北部は
越中の富山平野に面し、南方は濃尾平野
より三河の臺地に達り、ほぼ南北に本州
を横斷して發達する臺狀凹地にて、内部
はほぼ三つに分れ、富山平野後背山地よ
り高山市・古川町を含む谷盆地と、吉田
川・八幡町附近の二線をその界となすを
得、正しくは越中・飛騨・美濃高原と稱す
べきものなり。この地域は前述の如く山
地は甚しく高峻ならざるも、飛騨の持つ
山川の景は我國にて最も壯大にして純
美なるものなり。地形的に多くの浸蝕面
の残存する地域にて、土地の隆起と共に
河川は此等の浸蝕面を開發し、深く壯大
なる峡谷を到る處に發達せしむ。この若
き河谷は此地域の交通を阻害し、最近ま
で本邦中最も交通不便にして文化の及ば
ざる地域なり。所謂飛騨高原の中心と
さる高山市に出づる交通路としては、南方
の岐阜市より木曾・飛騨川の諸谷に沿ふ
飛騨街道(益田街道)・郡上街道あり、中
央本線中津川驛より北上する南北街道、
富山市より神通川の諸谷に沿うて高山市

れりといふ傳説、及び源義經に關する假
言に因める古蹟に富む。即ち平取村の義
經神社、新冠郷の判官館等はなり。從つ
てアイヌの部落も他の地方より比較的
に多く、且つよく蓄積を存す。幌泉以西
の地方を日高夷と呼び、以東の地方を奥
夷といひ、體裁時を界として風俗・習
慣・言語等多少異なるものあり。松前藩
の統治の時代には佐理太・新冠・靜内・
三石・浦河・樺似・幌泉の七領とし、こ
れが家臣の領地とせり。寛政十一年浦河
以北・知床間を幕府の領地とし、享和年
間諸藩奉行に屬せしむ。その後幾多の變
遷を経て現在の如く七郡となる。

【日高郡】北海道日高國(主として)にあ
る省轄。膽振國勇拂郡古小牧町の省轄室
蘭本線古小牧驛より太平洋岸に沿ひ日高
國樺似郡平取村の樺似驛に至る一四四・
四軒。沿線の佐理太驛(日高國沙流郡門
別村)にて札幌沙流軌道に接続し、靜内
驛(日高國靜内郡靜内町)よりば自動車に
て新冠の御料牧場に至り得。浦河郡浦河
町の浦河驛より樺似驛までは昭和十二年
に開通す。
【日高山脈】北海道中央脊梁山脈中の南
部を占むる山脈。日高國と十勝國の國境
山地をなして、樺似より北方野幌峠に
至り、十勝火山脈に續く。山地の中央部
の分水界をなす地帯は花崗岩及び閃綠岩
等の深成岩によつて構成され、その兩側
に古生層・中生層・第三紀層が並び、地

に至る越中西街道・越中街道、高岡市よ
りする東白川街道、福井市より東する西
白川街道、松本市より東する木曾街道(野
麥峠を通過する)により、野麥街道ともい
ふ)等あり。これ等の線は何れも深き谷
谷の壁を越する難路なるも近時自動車道
は驚くべき發達を遂げ、加ふるに省線高
山本線全通して東海と北陸とを連絡し、船
津町より東方の高原川に沿ひては碓氷線
の西麓の平湯温泉に達し、また高山市よ
りは乗鞍岳西麓の久手附近まで自動車道
し、安房峠の四軒を越すれば直ちに梓川
沿岸に出られ松本市に連絡する自動車道
に接続するに至り。この地域は山深く
人口も極めて稀薄にて、産業も氣候その
他の制約を受けさせられて興らず。林業は第
一の産業にて、樟・ひば・さばら・まき・く
るべの五種は五木と稱し、良材多し。鐵
業もまた古より發達す。即ち神岡・平
金・高根・大倉・森部・天生・尾神・六瓶等は
金・銀・銅・鉛・亜鉛・錫・水銀・水晶・石灰
等を産す。一位の木の細工・春鹿塗漆器
また古來の名産なり。産産としては米は
平地少く産額少量なり。養蠶は副業とし
て行はれ、外に麻布・楮紙等の産あり。
【飛騨一ノ宮】高山本線の一驛(昭和九
年設置)。岐阜縣大野郡宮村にあり。
【飛騨金山】高山本線の一驛(昭和三年
設置)。岐阜縣益田郡下原村にあり。
【飛騨國府】高山本線の一驛(昭和九年
設置)。岐阜縣古川郡國府村にあり。

實情を見るに五色の長旗の如し。南端
雲峠より約三〇軒北に於て廣尾嶽(一二
三〇米)あり。それ以南の地は一〇〇
米以下の同一高度の山頂群より成り、東
に鏡留川、西に歌別川・ニカシメ川等
が必從谷をなす。廣尾嶽の北に於いて高
度を増し、集古岳(一四七二米)・十勝岳
(一四五七米)・神威嶽(一六〇一米)を起
す。この附近は一五〇〇米級の山頂をな
し、その西側には中生層を中間に介在し
て古生層あるを以て山相は複雑となり、
この間を流るる鏡別川・元浦川・染尾川
等の上流は複雑なり。神威嶽の西方ヒ
カイ山(一六七米)・セトウ山(八五
九米)・ヒセナイ山(一〇二六米)の山脊及
びその北方なるイトンナツツ岳(一七四
八米)より笹山(八〇六米)に至るもの等
は特に著し。神威嶽より北西に延ぶる主
脈は次第に高度を増して、幌尾岳(二〇
五二米)・札内嶽(一八九六米)・美唄呂
岳(二〇一七米)等の二〇〇〇米級の山地
をなす。幌尾岳より分岐する支脈は、貫
氣別山(一三二八米)・ヒベラ山(一二九
二米)を主幹としてその南に新冠川が峽
谷を作る。この西方支脈との間を流るる
諸河川の中流は構造に従つて必從谷を作
る。ルテンハツ澤(春別川の支流)・ニシ
ユオオマナイ澤・シロカシメツ澤(元浦
川の支流)・コイボクシユシベツ川・
イトンナツツ川(染尾川の支流)等は著し
きものにして、更に西南に於て東南—西

北に必從河津郡あり、第三紀層と第三紀前層との境界に沿ふ。西方山麓が以上の如く複雑なるに反し、東側は必從谷が見事に並び出て流出し中川、帯廣の扇状地を形成す。それ等古期岩層の東に第三紀層が廣く傾斜に分布せるがために、やがてはこれらの緩傾斜地をなす扇状地は最初に開拓する地域となりしものとす。

【日高三石】 日高線の一驛（昭和八年設置）。北海道日高國三石郡三石村にあり。【日高門別】 日高線の一驛（大正十三年設置）。北海道日高國津路郡門別村にあり。【日高村】 茨城縣常陸國多賀郡の南部。日立町の北端にて、東は太平洋に臨む。阿武隈山脈東斜面の一部を占め、西北境に石登山（三八六米）あり。これより次第に東方に低下し、海岸附近に積平地ありて農業行はれ米・麥を産し、特産物には高嶺・苹果・松苗等あり。海岸は單調なる砂濱をなし漁業盛なり。陸前濱街道は東部を北走し、省線常磐線またこれに沿ひ小水津（明治四十三年設置）を置く。この地は和名抄、多珂郡道日高の内なるべく、風土記に見ゆる飽田村は大字小水津の相田の地なるべしといふ。

【日高】 群馬縣群馬郡高尾村の大字。兩毛線の日高驛（昭和十二年設置）あり。【日高町】 兵庫縣但馬國城崎郡の南部。農業にして米麥二毛作に兼藤蓆・果樹栽培等の副業を持ち餘業に今治市の工場に働く子弟相當あり。今治市へ道路走り省線常磐線本線今治驛（東北約二軒）に近し。もと村の東中を日吉池、西中を高橋池と云へり、よつて日吉・高橋の頭文字を取りて日高村と名づく。（泰山寺）大字小泉にあり。舊宮宗廟附設。金剛山。四國八十八所第五十三番札所たり。寺傳に空海の草創にして本尊に自刻の地藏菩薩坐像を安置すといふ。御詠歌「みな人の参りてやがてたいさん寺來世の引導願ひおきつ」

【ヒタカミ】 日高見（國） 書記發行紀に見ゆる古地名。蝦夷の根據地。開紀の廿七年に「武内宿禰自東國一還之奏言、東夷之中有日高見國……亦土地沃壤而曠之、擊可取也」とあり。開紀四十年日本武尊東夷御征伐の條に「蝦夷既平、自日高見國一還之、西南歷常陸一至甲斐國」とあり。延喜式神名帳の中に陸奥國桃生郡日高見神社あり、また仙臺平野を流るる大河に北上川あり。キタカミとは蓋しヒタカミの轉訛なるべし。かく擧げれば發行紀に見ゆる蝦夷の根據地日高見國は今日の仙臺平野の邊なるべく、關東平野以北に於て土地廣く沃穡なる地方は仙臺平野を除きて他になければなり。

【ヒタキ】 日瀧 長野縣上高井郡にありし村。昭和十一年須坂町に編入さる。

ヒタカ——ヒタチ

圓山用に誇り、豊岡町の西南五軒餘にあり、南は釜父郡に界す。北境には山脈東西に連り、東南境に須賀山（四四九米）聳ゆ。西南部も約四〇〇米程度の山地の北對面地をなす。南方より流れ来る圓山川は須賀山麓を繞りて東北部より國府村に出て途中西方より東流し来る支流を合す。沿岸低地はひらけ、特に東北部に廣し。米の産多く蔬菜・花卉・大麥・食用農産・小麥・粟・果實等の農産もあり。また繭糸の産額著しく皮革製品・製菓・製物・醬油等の工業も出し、外に水産養殖・養蠶等あり。縣道河谷に沿ひて三方に通じ、一は豊岡町へ、一は南方釜父郡八咫町方面へ、他の一は西方津邊村方面へ向ふ。省線山陰本線東部を過ぎて江原驛（明治四十二年設置）あり、社線出石鐵道これに連絡す。大字日置は和名抄、氣高郡日置郷の遺稱なりといふ。大字國保は但馬國分寺のありし處。蓋し國保は國分の轉訛なるべし。本町は大正十四年町制を布く。

【日高郡】 和歌山縣（紀伊國）七郡の一。縣の中部に位し、西南は太平洋に面し、東北は奈良縣吉野郡に界し、地形稍東北より西南に長し。北・東・南の三面は山脈を繞らし、地は東北部に高く西南部に高さを減す。鹿ヶ瀬山脈は東北より西南に連り護摩ノ塚山（一三七〇米）・城ヶ森山・若敷山・白ヶ岡山・石堂山・白井山・白馬山・長者ヶ峯等を起して北境を

ヒタチ 日立

【日立町】 茨城縣常陸國多賀郡の南部。東は太平洋に臨み、西は久慈郡と隣る。阿武隈山脈東斜面の一部を占め、北境に神山（五九四米）、西境に高崎山（六二四米）あり。山地は海岸附近まで延び、海岸附近に狭き平地あるのみ。西部に日立鎮あり、町は之によりて發達せしものなり。日立鎮山の鎮區はこゝより四方に延びて廣大なる範圍を有し、金・銀・銅・硫化鐵等を製出す。また日立製作所の日立工場あり。同工場は本町より助川町に亘る大工場にして、水・火力發電に關する諸機械・發電機・電動機その他各種の電氣器具等大規模の製作をなす。海岸平地には農業行はれ、米・麥・蔥・甘藷を産す。陸前濱街道は東部の平地を北走し、兼落は之に沿ひて南部に發達し、宮田川を挟みて助川町の聚落に接し、此處に大鐵山町を現出す。省線常磐線は海岸に沿ひて通ずるも町内に穿なく、南隣の助川町に助川驛ありてバス通ず。この地は和名抄、多珂郡道日高の内なるべし。明治二十二年、宮田村と助川村とが合併して日立村と稱す。同三十四年赤澤鐵山（日立鐵山の舊稱）が創立せられしも振はず、同三十八年久原鐵業（いま滿洲重工業開發會社）の手に移り、漸く活況を呈す。日立村は大正十三年町制を施き以て今日の盛況を見るに至る。

【日立鐵山・製鐵所】 日立鐵山の鎮區は

限り護摩ノ塚山より南方に連る針尖嶽・大崎山・牛越山等は東境を劃し、南境には果無山脈が東北より西南に延びて和田・笠塔山・持平山・虎ノ峯等聳ゆ。中央部にも高甲良山（一一三二米）・年中嶽・大久保山・清冷山・矢野嶽・大ヶ丈山・眞妻山等重疊す。郡内の水は日高川となりて東北部に發し丹生ノ川・寒川等の支流を入れて南に北に迂回しつつ中流以下は西北部を西南流し、御坊町より海に注ぐ。其他に切目川・南部川等西南流するあり。一帯に低地乏しく、日高川河口にやや平野開く。海岸は西北部紀伊水道岸に屈曲多く白崎・小浦崎・日ノ崎等突出し山良の好漁地あり。其他日高川河口に御坊港、其東南岸に印南港あり。主産物は林産にして中部に弓木国有林あり。水産も多し。郡内御坊町・南部町・印南町の三町外三十四箇村を含み、人口密度一〇五人にして最も大なるは御坊町の四八二人なれども、能神村の如きは僅に一五人を算するに過ぎず。御坊町を中心に縣道放射状に走り、海岸には無野街道あり。西南岸の南部町より東北部能神村を過ぎて有田郡に通ずる龍神街道あり。省線紀勢西線西部を走る。書記神功皇后紀に日高の名見ゆ。之は後の郡名なるべし。續紀大寶三年の條に紀伊國高郡と見え、同紀天平寶字八年の條に紀伊國永高郡とあるは日高郡に同じ。和名抄は日高に作り、比太加と註し時部・清水・

茨城縣多賀郡の日立町・助川町・黒前村及び久慈郡の中里村に誇りて一七九高餘坪、阿武隈高原の南端部なる神峯・高崎の二峯これを擁し、採鐵所は標高三百餘米、常磐線の助川驛より約七軒の地點に存す。地質は秩父古生層および御荷鉾層にして、花崗岩質の侵入岩によりて貫かる。最も發達せるは角閃片岩と絹雲母片岩にして、鐵床は之を母岩とし層狀をなして夾在する含銅黃鐵礦床なり。本鐵床は花崗岩の侵入よりして、氣體時代より熱水時代にかけて鐵化作用行はれたるものと推定せられ、大體に於て交代鐵床にして、主として黃鐵礦・黃銅礦を産する謂はゆる銅山とす。産額はいま詳かにするを得ざれども小坂・足尾・別子と共に我國四大銅山の一にして重要鐵山中の首座に近し。宮田川上流の溪谷の平地（宇大鐵院）に事務所及び製鐵所あり。東洋一を誇る佐賀製鐵所の煙突よりはやや低けれど、本邦第二の煙突は實に當製鐵所の約一五五米の煙突とす。昭和十年に於ける當製鐵所の産額は、總金額に於て本邦の首位たり。細別すれば金三、五四八、八一六元（一一一萬餘圓）、銀三七、八六四、二五九元（二七四萬餘圓）、銅一〇、二六一、二七四元（七六八萬餘圓）、硫化鐵一一、四七四元（一一八萬餘圓）とす。當鐵山は四五百年前の發見にて佐竹藩に於て始めて採行し、また文久の頃に大塚源吾藩門なるもの水戸藩の許

可を得て採掘したることありといふ。明治三十四年の頃より赤澤鐵山として知らる。蓋し赤澤は宮田川上流の溪谷とす。同三十八年に久原房之助の經營に移るや日立鐵山と改稱す。これより大發展を遂げ、爲に日立町は大正十三年町制を施して至る。現在は日本鐵業會社の經營にて鐵夫等の従業員は三千數百人、助川町には當鐵山の荷役所ありて當鐵山の咽喉部をなし、こゝより事務所・製鐵所方面へは鐵山専用の電車あり、總延長二〇軒に餘る。専用電車の芝内停留場附近には七八百の電解槽を有する電解場ありて、粗鋼を精製するのみならず金・銀を分離す（當製鐵所は日立鐵山の鐵石を製鍊するのみならず、他鐵山の金銀鐵・銅鐵等を合併製鍊す。而して前記の産額は日立鐵山のみ鐵石に依る製産額にあらず。なほ宮田川上流の谷を利用して従業員住宅、商賣等多くあり、更に鐵山經營の劇場・病院・學校等立派なる建物目立ちて、宛然山間に都市をなす。

ヒタチ 常陸

【常陸國】 東海道十五箇國の一。いま水戸市及び東茨城・西茨城・那珂・久慈・多賀・鹿島・行方・新治・筑波・眞壁の十一郡を含み、茨城縣の管下に屬す。この國は上世蝦夷の居住の地にしてその名義の起原は詳かならざるも、或は日高見國に至る路の意にして、日高路の條略ならんといふ。發行天皇の朝、日本

ヒツフー—ヒトツ

ヒツフー 比布村 北海道石狩國上川支庁上川郡の北部旭川市の東北約一〇軒に存し省線宗谷本線比布・蘭留驛所在地。東南境を石狩川西流して富麻村を界し、西は東麻村、北は天鹽國に接す。面積八七・三一方軒。東部北部は山地に占められ西北に丘陵起伏す。南半部は比布川外流小川南流して、石狩川に注ぎ平地展げ、旭川盆地の北部を形成せり。水利に恵まれて耕地頗る拓げ馬鈴薯・米・蕎麥等の産額多し。牧畜・工業稍行はる。省線宗谷本線貫通し比布・蘭留驛を置く。本村は明治三十九年、豊村の内字比布を割きて置けるもの。

ヒツホ 筆甫村

宮城縣磐城國伊具郡の西南部。丸森町の南に隣り、西及南は宮城縣に接す。面積七四・二四方軒。阿武隈山地の東斜面に屬し、西南境に副釜山(七八三米)、東境に動平山(五一六米)あり、全村概ね山地をなし、阿武隈川の支流内川は西南部に發源し村の中央部を東北に流る。木炭・米・蕎麥を産す。角田軌道丸森驛へは東北約一〇軒につき交通便ならず。人口密度は一方軒につき二八人なり。村内に不動堂あり、高さ一五米、幅六米。この地は戊辰の役に仙臺岳が官軍を拒みし地なり。

ヒツレ 日連村

神奈川縣相模國津久井郡の北部。桂川の南岸にある小村にて、川を隔てて與瀬町・吉野町と相對す。大部分山地にて、桂川の流域のみ稍平地ありて農業行はれ、麥・甘藷・馬鈴薯等を産し、養蠶も行はる。縣道ありて、與瀬町・吉野町に通じ、與瀬町に省線中央本線與瀬驛あり。

ヒツロク 畢祿山

臺灣中央山脈北部の一高峯。東側は花蓮港、西側は臺中州に屬す。標高三三九米。北麓に中央尖山(三七三五米)、南麓に合歡山(三三九四米)續く。西斜面よりは大甲溪の一支、東斜面よりハツキリ溪發源す。

ヒテヤ 日出谷村

新潟縣越後國東蒲原郡の北部。阿賀川中流に沿ひ、北は北蒲原郡に接す。津川町の東北約五軒の山村。飯登山境の一部に屬し、北部中部には一〇〇〇米前後の山岳重疊し土地一般に高燥なり。阿賀川は南部を東より西へ流れ、概ね峡谷をなすも僅かに耕作地を置く所もあり、粟落此處に散在す。阿賀川南流にて飯登山に發源せる川を合流す。林業を主産業とし、次で米・麥・粟・稗等の耕作、養蠶行はる。其他畜産・工業僅かにあり。南部河沿に省線磐越西線走り、日出谷驛(大正三年設置)あり。

ヒトイ 埤頭庄

臺灣臺中州北斗郡二街六庄中の一。郡の中央部に位置し、東は田尾庄及び北斗街、西は二林街及び竹寮庄、南は溪洲庄、北は二林街にそれぞれ境を接し、土地極めて平坦にして丘陵を見ず。廣袤東西六軒餘、南北約一二軒、面積四四方軒餘。農耕地多く且つ水利に恵まれ、純農村を形成し、米・甘藷・甘藷の三大農産の外、蔬菜・落花生・黃麻の栽培盛からず。畜産は勞働用の水牛・黄牛を除き、豚・山羊・鶏・鴨・鵞等の家畜高類甚だ多く、一般家庭に於て副業的に背く飼育せらる。鹽水港製糖の田中・二林間社線は南端部を、北は東隣、二林(西隣)間の道路は中央部を横斷し、前者は路口驛驛を置き、後者にはバスの便を有す。管内の内、北端の周厝崙がもと二林下堡に屬せし外は總て東鄰西隣に屬し、清の康熙末年頃より粵人によりて開墾に着手せられしが、雍正以來乾隆年間に至り、閩人の大量移來によりて粵人は壓迫せられ、今の東勢郡方面に退去せり。爾來漸次部落の形成を見て今日の基礎を築かれ、明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に地方制度の根本的改革と共に、清領時代より存続し來りし堡を廢せられ、埤頭庄となり臺中州北斗郡に編入せられたり。

ヒトイ 鼻角頭

臺灣本島の東北端なる三貂角の西北にあり、三貂角と三貂灣を挟みて相對す。高さ一二〇米餘の半島にして、遠望寬く孤島の如し。鳴鶴閣志に、「鼻頭山、俗呼鼻鼻、以形得名」と見ゆ。臺北基隆那瑞芳街に屬す。

ヒトイチ 一日市場

長野縣南安曇郡明盛村の大字。大糸南線の一日市場驛(大正四年設置)あり。

ヒトツギ 一木村

石川縣加賀國石川郡の西部。松任町の西南に接す。加賀平野の中部を占め土地平坦にして肥沃水

哭空

(鼻角頭燈臺) 鼻角頭の突端頂上にあリ。其の構造は鐵造六角形白色とし、等級及び燈質は第四等回轉白色、毎三十秒時間に一光を發す。明氣は南八九度東より南・西を経て北一度西まで二五八度間、燈火の高さは基礎より一二米餘、水面より約六四米、光達距離二一哩なり。

ヒトイチ 一日市町

秋田縣羽後國南秋田郡の西北部。五城目町の西方約四軒。西は八郎湯に面す。面積四・〇九方軒。全村平坦にして馬場目川は南境を西流す。農業を主産業とし米を産す。又佃農の特産あり。道路は東部を南北に通じ自動車便あり。奥羽本線一日市驛(明治三十五年設置)を置き、五城目軌道線これより東に分岐す。人口密度は一方軒につき七九人あり。この地の禪宗の清源寺は三浦兵衛盛永の菩提所にして、盛永は天正年間、楡山の大明禪院に殺されその子盛末本町に居住せり。大正十四年町制を布く。清源寺は、明治天皇、明治十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際御泊あせられたり。

ヒトイチバ 一日市場

長野縣南安曇郡明盛村の大字。大糸南線の一日市場驛(大正四年設置)あり。

ヒトコト 一言坂

↓井通村(靜岡縣)

ヒトツギ 一木村

石川縣加賀國石川郡の西部。松任町の西南に接す。加賀平野の中部を占め土地平坦にして肥沃水

田多し。農業盛にして米を主産とす。國道南北に貫通し松任町・石川村間バス通す。省線北陸本線松任驛へ約二軒。(本村井神社)大字村井に鎮座。神社。祭神少彦名命外三柱。大寶二年の勸請と傳へ式内の古社。國司及び武家の崇敬社。例祭、九月八日。(楨本神社)大字宮丸に鎮座。神社。祭神伊弉諾命。社記。石川誌等に據るに、本社は創始は天武天皇四年なりとす。式内社として古來楨本一村(宮丸村の古名)の産土神たり。例祭八月十八日。(米永菅原神社)大字米永に鎮座。神社。祭神、菅原大神外四柱。往古は大宮と稱する古社なりしが、関關天皇延長年中雷火に罹りて炎上し舊記を失ひ、由緒を詳かにせず。例祭、九月九日。

ヒトツギ 一ツ木

愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年本村外三箇村を廢し富士松村を置く。

ヒトツグリ 一栗村

宮城縣陸前國玉造郡の東南部。岩出山町の北に接し、北は栗原郡に接す。村の東北及西南は山地をなし、荒雄川は中央部を東南に流れ沿岸に耕地拓く。米・蕎麥・木炭を産す。道路は村の中央部を西北より東南に通す。陸羽東線池月驛(大正三年設置)を置く。村内に一栗館あり、大崎家の臣、氏家長部隆春の居りし所にして、西館は兵部の父、放牛の居りし所。東館は兵部の家士、千田雅樂の居りし所。小館は千

ヒトツギ 一ツ木

田土佐の居りし所なり。(荒雄川神社)大字池月に鎮座。神社。祭神、遠祖佐之男尊。勸請の年次詳ならざれど延喜式玉造郡三座の一。陸奥守藤原秀衡これを信し本郡の總領守となすと。例祭、陰曆七月七日。

ヒトツセ 一ツ瀬川

宮崎縣のほぼ中央部にある川。西臼杵郡の西南部豊原山(一三六七米)の東側斜面の水を集めて南流し、兒湯郡に入る。西米良村大字村所にて右岸に小支流を合せ、これより東南流し同村大字越野尾にて小川を左岸に入れ、更に鏡元川を左岸に合せこれより流路を東南に轉じ佐土原町の北に於て西方より來る財川と合し宮崎郡境を東流し、兒湯郡富田村の地内にて日向灘に注ぐ。流程約五六軒。流域の地形は中流部以上と下流部に於ては著しく異り、前者は急峻なる懸崖の間を急流するも、後者の下流部は平野を作る。

ヒトツマツ 一松村

千葉縣上總國長生郡の東部。九十九里濱に臨み、一宮町の東北隅にあり。九十九里濱沿岸平地の南端を占め、南境を一宮川流れ村内に海に注ぐ。西部には沼澤地散在す。農業行はれて、麥・米を産し、蕎麥の産額も多く、養蠶も行はる。縣道一宮町に通じバスの便あり。同町に省線房総東線上總一宮驛を置く。この地に元祿十六年十一月二十二日、大地震あり、海嘯起り附近は村落被害甚大にして、溺死するもの幾

千人、その死屍を集め各所に埋葬す。萬岡郡御宿に千人塚、本村の本興寺境内供養あり、死屍三百八十四を合葬す。(一松神社)大字一松に鎮座。神社。祭神、高泉産靈尊・神皇産靈尊・健甕名方命。領主内藤氏崇事し、古來當村の領守たり。例祭、十月一日。

ヒトリバシ 人取橋

↓青田村(福島縣安達郡)

ヒトノ 人野

大隅國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に大隅郡人野あり、その他今の肝屬郡牛根村の邊に當るか。

ヒトノセ 飛渡瀬村

廣島縣安藝國佐伯郡の東南海上、廣島灣に位する東能美島の中央東部。本島より北方へ延ぶる江田島と飛渡瀬にて相接し、其地頸を稱越とも舟越ともいふ。南は大柿町に界す。村内臺地・丘陵をなす。農産・工業・畜産あり、又水産もあり。大柿町及西北隅中村へ道路通す。此地は要塞地帯の一部に屬す。

ヒトマツ 人舞

北海道十勝支庁上川郡にありし村。昭和二年清水村と改稱。清水村は昭和十年町制施行。

ヒトマル 人丸

山口縣大津郡斐波村にあり。五年設置。山口縣本領の一驛(昭和五年設置)。

哭空

一箕村 福島縣岩代國北會津郡の北部。若松市の東北に隣り、北は河沼郡に接す。東部に吹屋山(四九二米)、中部に飯盛山あり、西方に傾斜し、西北部は會津盆地に屬して平坦なり。米・麥・大豆・蕎麥等を産す。道は村の中部を略東西に通じ、西方若松市、東北方磐越西線會津驛へはバスの便あり。本村はもと靈養村と稱せしが、明治三十四年現稱に改む。明治戊辰の役に、激戦ありし地なり。(白虎塚)飯盛山の中段、會津平野及び會津若松市街を一時に收むる眺望廣闊の地あり。明治元年戊辰の役に死力を盡して官軍に抗せし會津藩士が、朱雀・青龍・玄武・白虎の四隊を編成して戦ひし時、十五歳より十七歳までの少年が白虎隊となり、八月二十三日死を決して戦ひしが、力及ばず、最後まで踏み止りし十九名は瀧澤村より退却して飯盛山に登り、城を拜して自刃し、悲惨なる最期を遂げし處なり。昭和三年ここにイタリ首相ムツツリニの寄贈せし記念碑及び獨逸青年士官より贈られし記念碑建つ。(八幡神社)大字八幡に鎮座。神社。祭神、品陀別命。社記に用命天皇御宇の創祀と傳ふ。寛治元年源義家出羽長清原兄弟征討の際本社に戦捷を祈り、凱旋の後社殿を造營し神像を奉ず。のち五徳年中若狭守直盛安社なる社殿を造營し、社領三百町を寄す。直盛氏また先規に準ず。爾來、歴代領主の崇敬厚し。例

祭、四月廿六日。(「榮耀堂」飯盛山上にあり。一に圓通三原堂と稱す。寛政年中部堂の建てし所にして、その造構六段三層にして旋回して昇降し、宛も榮耀の敬の如きを以てこの名あり。塔に近く白虎隊士自刃の墓あり。場内九十餘坪にして瑞垣を以て繞らし、石門あり。左右の門柱に「精忠貫日月・勁節凌風雷」の十字を備む。舊藩主松平容保の書する所なり。また場内の中央に松平容保の篆額、山川清將軍撰、南摩綱紀の書なる高さ一丈餘の碑を建つ。(「妙國寺」) 遺澤にあり。願本法華宗。妙法寺日什上人の私廟を置きし所にして會津法華の靈場たり。會津城主眞備の廟、當寺に起居せりと云ふ。寺傍に覺題目の碑あり。宮本武蔵の筆と傳ふ。境内には日什上人の墓あり。

ヒトミ 人見

【人見原】 ↓府中町(東京府北多摩郡) 【人見岳】 阿蘇火山脈に屬する一峰。別府市の北西方約二〇軒に當り、南面は大分縣玖珠郡森町に、北面は宇佐郡南院内村に屬す。標高九二一米。山體は輝石安山岩より成る。南麓は日出生の高原をなす。

ヒトヨ 一夜山

↓一夜山(長野縣上水内郡)

ヒトヨシ 人吉

【人吉盆地】 熊本縣の南部、球磨川上流にある盆地。盆地の北は古生層・中生層の水成岩より成り、山頂は北に高く、南

に低夷する隆起準平原にて、盆地の北縁にまで拗曲して低下し、處々に小斷層を伴ひ盆地底と成す。盆地の南縁は白髮岳(二四一七米)北麓なる階段層により低下し、見事なる三角稜線が滑らかなる弧状をなして拂列し、その崖下に高柱川・水無川・強田川・思川等の必登谷の作る扇状地あり、切原野・中原・神原・小田原・前原・中原・野中田等の聚落あり。盆地の北側は稍不規則なる山麓をなし、川邊川・平山川・松ヶ野川・柳野川・小川内川等あり。その東部は球磨川の浸蝕により五〇—六〇米の急崖を作る。この急崖の北側に大久保・茂原・里掛・高原等の泥流岩臺地あり。之と同様のものは川邊川の西に別府の臺地、原田の臺地及び南麓西部の鳩飼川の兩岸にある水畑・奥水田の臺地にて、これ等は南方肥・廣・隅の三國境附近より盆地内に流入せしものと考へらる。以上の地形により耕作地は三様に區別さる。南北兩側山地は高温多湿と相俟つて松・杉・檜・栗等の用材及び樺・椎等の薪炭材を供給す。これ等の用材は球磨川を夜流して人吉・八代等の市場に出され取引行はる。盆地の中央を東西に走る省線南側の南側は斷層下陷狀地にて畑・草地及び雑木林あり、竹村・甘藷等を産す。泥流岩臺地は草地をなすもの多く、放牧行はる。球磨川氾濫原と、南北より流入する小川川沿岸には水田多し。球磨川上流水上村に

は樺茅の特産あり、大久保・多良木村等の臺地には桑園・茶園・梨畑等あり。盆地の北方、川邊川の支流には史上有名な五箇荘があり、南方、肥後縣大畑の近くに「カキ」ブ線あり。輪狀の長さ二軒餘、交叉點に於ける上・下の比高五四米なり。その南矢野峠は海抜五三三米にて南に約二五〇〇米の一大陸道あり。肥後線はもと肥後島本線なりしが、かかる不便ありしため海岸線の開通後、その地位を奪はれたり。盆地の出口に近く人吉の城下町あり、中央には馬場(多良木)の聚落ありて、盆地内の經濟的中心をなす。【人吉町】 熊本縣肥後國球磨郡の中央西南偏。人吉盆地の西部に位し球磨川に跨る。東北部は山地を占め、西南部に小丘陵ある外は地形平坦にして南部に球磨川西流す。其北岸に市街地發達す。土地肥沃にして穀物を産し、名産には焼酎あり。近年茶園發達して紅茶の製造場となれり。また熊本縣に於ける林産の主産地を擁して主要なる市場なり。人口一八、四六九人を擁し密度は一、七四二人にして郡中最高地なり。球磨川北岸に市街地を貫きて縣道東西に走り省線肥後線南側を通過しその人吉驛より下方へ省線南側を分岐す。もと相良氏の城下町。淨理瑠伊賀越道中に落着く先は九州相良云々の名文句にて名高き相良は此地なり。西南の役に舊軍一時本營をこの地に置く。昭和八年大村を編入。また球磨川下りの登

驛馬十五疋とあり。これ筑前國に於ける最初の驛次なり。其の地は今評定ならざれども、恐らくは遠賀郡那珂の邊に當るべし。 【ヒナ 姫名】 駿河國(静岡縣)の古地名。また比内にも作る。共に東鑑文治五年の條に見ゆ。即ち藤原泰衡源頼朝のために破られ肥内郡那珂に至り部下に殺さるるとあり。贊は即ち二戸と相通するを以て、肥内郡は大體今日の青森縣二戸郡の邊ならん。

【ヒナガ 日永村】 三重縣伊勢國三重郡の東南部。四日市市西南部の西に接し東北は〇・五軒たらずにして伊勢海に達す。西南部に稍々丘陵ある外は地形概ね平坦にして北部に東流する河川あり、北境を東南流する河川と合して伊勢海に入る。全戸數八五九戸中農業に従事するもの四六三戸、商業を營むもの一三六戸、工業を行ふもの二四戸、其他二三六戸なり。産物は米・蕎麥・鶏卵・畜産・織産・水産・林産等にして四日市市に接する爲綿工業盛にして工産額首位を占む。伊勢街道中央を縦斷し、桑藩之に並び、東部には省線參宮線通過して四日市驛(東北約二軒)に近く、西部には社線三重鐵道線通じて日永(大正五年設置)、南日永・

時に林温泉ありて風光の美と温泉の豊富とを以つて知られしが、近年齊藤主相良氏の下屋敷に温泉を掘鑿して相良温泉の涌出を見しより、温泉熱益々盛んとなり本町内に於て内湯として掘鑿せられしもの既に三十餘箇所を數へ、風景の美を以て知らる。本町は更に温泉地として發展の勢ひを見るに至り、林・相良・町内かの昭和・地獄・新堀尾・青柳・大入吉ほか數湯を掘鑿して人吉温泉と稱す。「青井阿蘇神社」 大字青井村に鎮座。地社。祭神、健甕神外三柱。平城天皇大同元年の創立と傳へ、後冷泉天皇天喜年中の再興に係る。建久年中相良長頼當郡を領するやこれを氏神として當郡二百五十有社の宗社となす。社殿中本殿・幣殿・樓門は慶長十五年の造營に係り桃山時代の華麗なる手法存し何れも國寶たり。(「人吉神社」) 人吉城址に鎮座。相良家累代の靈を祀る社。境内に林蔭左衛門正盛・高橋七郎兵衛政重の領德碑あり。何れも水利の功勞者にして、正盛は寛文中球磨川に舟楫の便を開けり。「水國寺」 曹洞宗。蓬萊山。應永十七年相良前藏の創建に係り、開山を實成とす。爾來相良家の菩提所にして今なほ郡内の大伽藍。(「觀音寺」) 臨濟宗妙心寺派。正法山と號す。元中二年領主相良近江守前頼の京都より歸國の際、京都惠日山東福寺の前住無座玉清禪師を同伴し來り、玉徳年中、伽藍を建立し、開導師を以て開山とし寺領五百石を

附し、その菩提所となす。大永六年、瑞隆藏主の謀叛するや宇左左衛門正盛、のち相良氏これを再興し、慶長二年十二月再度焼失し、寛文五年再建。明治維新後、故ありて一旦廢寺とせしを同十四年に信徒協力して之を再興す。本尊釋迦如來を安す。蓋し郡内屈指の巨刹なり。【觀音寺】 宇村山にあり。眞言宗大覺寺派。本尊聖觀音を安す。俗に村山觀音と稱し靈名高し。治承年中、小松内大臣重盛の平氏の武運長久を祈らんため建立せしものと傳ふ。數度の火災に舊記を焼失しその沿革を詳かにせず。人吉町を去る二軒に位置し、眺望佳絶なること當地第一の稱あり。殊に觀月の勝地とし、人吉八景の一に數へらる。(「觀成寺」) 大村にあり。古義眞言宗。傳法山と號し大覺寺末なり。天福元年人吉城主相良長頼の創建に係り僧弘秀を開山とす。金堂本尊に阿彌陀如來を安置す。後陽成天皇の勅願所となり、慶長年間勸修寺權僧正に任ぜられしより、勸修權僧正を寺格とし繼日參内を格例とせり。本尊は鎌倉時代の作にして國寶なり。(「人吉別院」) 眞宗本願寺派。明治十三年本願寺二十一世明如の開創。初め説教所なりしを同廿六年別院となり、大正八年講堂を改修増築す。 【ヒトリカッブ 單冠山】 ↓櫻井島(北海道) 【ヒトリミ 獨見】 筑前國(福岡縣)の古地名。延喜式兵部省式に筑前國獨見驛

驛馬十五疋とあり。これ筑前國に於ける最初の驛次なり。其の地は今評定ならざれども、恐らくは遠賀郡那珂の邊に當るべし。 【ヒナ 姫名】 駿河國(静岡縣)の古地名。また比内にも作る。共に東鑑文治五年の條に見ゆ。即ち藤原泰衡源頼朝のために破られ肥内郡那珂に至り部下に殺さるるとあり。贊は即ち二戸と相通するを以て、肥内郡は大體今日の青森縣二戸郡の邊ならん。

【ヒナガ 日永村】 三重縣伊勢國三重郡の東南部。四日市市西南部の西に接し東北は〇・五軒たらずにして伊勢海に達す。西南部に稍々丘陵ある外は地形概ね平坦にして北部に東流する河川あり、北境を東南流する河川と合して伊勢海に入る。全戸數八五九戸中農業に従事するもの四六三戸、商業を營むもの一三六戸、工業を行ふもの二四戸、其他二三六戸なり。産物は米・蕎麥・鶏卵・畜産・織産・水産・林産等にして四日市市に接する爲綿工業盛にして工産額首位を占む。伊勢街道中央を縦斷し、桑藩之に並び、東部には省線參宮線通過して四日市驛(東北約二軒)に近く、西部には社線三重鐵道線通じて日永(大正五年設置)、南日永・

ヒナク——ヒナテ

治ひて鹿見島街道走り、ハスの往來頻繁なり。その東に省船鹿見島橋通過して日奈久津(大正十二年設置)あり。堂行天皇熊襲を誅して筑紫の國を巡行し給ふ時、

【ヒナク】 日名倉山・雄倉山 中山脈の一峯。岡山縣英田郡東倉山村・兵庫縣栗東郡千種村・佐用郡石井村の三郡境に跨る。標高一〇四七米、山體粒狀安山岩より成る。北麓に遺仙寺山(一三四五米)嶺き、東麓は南流する千種川上流に洗はる。

【ヒナゴ】 雛子 愛知縣春日井郡にありし村。明治三十九年本村を廢し、津本村・高藏寺町に分割編入す。 【ヒナシ】 日生町 岡山縣備前國和氣郡の南部。片上川の出口の北岸にあり、

なる漁邑にて水産多し。其他米・麥及び生柿・酒類の特産あり。伊里村を経て西方片上町へハスの便あり。海上は汽船便にて牛車に至る。明治廿九年町制施行。 【春日神社】 宇日生に鎮座。郷社。祭神武甕槌命外三柱。創建年次詳かならざるも、大和國春日神社を勧請せしものなるべく、當村の産土神として古來崇敬の社なり。例祭、十月十五日。 【ヒナシキ】 日奈敷 臺灣東線の一路(大正十一年設置)臺灣東線南區橋樑間にあり。

【ヒナシロ】 蟻城村 福岡縣筑前國朝倉郡の中央南部。甘木町の東南方約四軒にあり、筑紫平野東北の一部を占むる農村。全村地形低平にして南方約一軒に筑後川西流するあり。純農村にして米・麥・菜種・蕎麥等を産し特産物には促成胡瓜・促成トマト等あり。東北を社福朝倉軌道線が通る。神功皇后三尊御在

【ヒナタ】 日向村 長野縣信濃國東筑摩郡の北部。北部は東筑摩郡大岡村に隣接す。北境に聖山(一四四八米)聳立し、本村はその南斜面に當り南部を岸川小支西流するも平地乏しく、中腹までは耕地として開き、米・麥・蕎麥を産す。街道は南小流に沿うて東西に通ずるも粟落の多きは中腹にありて交通便利ならず。この地は和名抄、東筑摩郡麻績郡の内。 【ヒナタ】 陽田 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄、度會郡に陽田郷あり、比奈多と訓す。其の地は今の宇治山田市に當る。 【ヒナタヤマ】 日當山 鹿兒島縣大隅國始良郡の南部。約三軒にて鹿兒島縣北岸に出づ。全村凹凸多き臺地の丘陵をなし、東境を南流する新川の谷に稍急傾す。西南部は十三原原の一部にして平坦なる臺地をなす。平野は東南部河岸に開けたり。村内

四六六

社領三十五石を寄進す。例祭、九月二十一日。 【ヒナタ】 日奈田峠 剣山山脈を南北に乘越す交通路の一。最高點は主峯剣山(一九五五米)の東麓約六軒にあたり、一八四六米を算す。北側は徳島縣麻植郡木屋平村に、南側は那賀郡深谷村に屬す。東麓は天神丸(一六八二米)に嶺き、西麓は一ノ森(一八八〇米)を経て剣山に連る。 【ヒナタ】 日向村 長野縣信濃國東筑摩郡の北部。北部は東筑摩郡大岡村に隣接す。北境に聖山(一四四八米)聳立し、本村はその南斜面に當り南部を岸川小支西流するも平地乏しく、中腹までは耕地として開き、米・麥・蕎麥を産す。街道は南小流に沿うて東西に通ずるも粟落の多きは中腹にありて交通便利ならず。この地は和名抄、東筑摩郡麻績郡の内。 【ヒナタ】 陽田 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄、度會郡に陽田郷あり、比奈多と訓す。其の地は今の宇治山田市に當る。 【ヒナタヤマ】 日當山 鹿兒島縣大隅國始良郡の南部。約三軒にて鹿兒島縣北岸に出づ。全村凹凸多き臺地の丘陵をなし、東境を南流する新川の谷に稍急傾す。西南部は十三原原の一部にして平坦なる臺地をなす。平野は東南部河岸に開けたり。村内

に山の湯温泉・日當山温泉等湧出す。米・蕎麥等の農産をほじめ工業・林産、畜産等多く又水産もあり。東部には縣道南北に走りてバス通じ、省線肥後線中央を縱斷して嘉例川驛・表木山驛あり。もと西興山村と云ひしが昭和五年現名に改む。 【日當山】 ↓國分町(鹿兒島縣始良郡) 【ヒナタワタ】 日向和田 ↓青梅町(東京府)

【ヒナチ】 比奈知村 三重縣伊賀國名賀郡の中部。長瀬川に跨り名張町の約二軒東にあり。東境は約四七〇米餘の高さを有し山地次第に臺地狀に西方に極めて緩慢に傾斜し南方より流下し来る長瀬川は中央を西に貫流す。米・蕎麥の農産を主とし外に工業・林産・畜産・水産・礦産あり。省線參宮急行電鐵伊賀線の名張驛は西方約三軒にあり。 【ヒナツ】 日夏村 畿内縣近江國大上郡の西部。東隅の一點彦根市の西南隅に接し、西は約一・五軒にて琵琶湖岸に出づ。西隅に小丘陵ある外は、地形平坦にして西部を河川西北に貫く。田畑よく拓けて農産を主とし米・雜穀用作物・麥・桑葉等を産し林産・水産もあり。彦根市(ハスの便あり)。省線東海道線川瀬驛へは東南約一軒を距つ。この地古くは和名抄、大上郡安食郷に屬す。 【ヒナテ】 日撫村 滋賀縣近江國坂田郡の西部。長瀬川の南方約五軒。東部に

【ヒネ】 日根 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に佐野郡日根郷あり、比根と訓す。その地、今の小笠原郡日根村・栗本村・東山村・西郷村の邊に當る。 【日根(郡)】 和泉國(大阪府)の古郡名。續紀實錄二年紀に河内國日根等の三郡を割きて和泉國を置くと見ゆ。和名抄は比根と註し近義・實美・呼喚・鳥取の四郷を管す。明治二十九年四月北方の南部と合して泉南郡を建て郡名を失ふ。 【ヒネイチ】 日根市 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎谷村と改む。 【ヒネノ】 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を經井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども最も重要な工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはハスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

ヒナモ——ヒネノ

【ヒナン】 卑南 臺灣東部臺東郡の北部。臺東街に隣り、北は新港郡蘭庄及び岡山郡鹿野庄に接す。東部に海岸山脈、西部に中央山脈あり、中部は臺東平野にして

【ヒニン】 庇仁 朝鮮忠清南道舒川郡の西北部。郡邑舒川の西北約一〇軒。東北方は車嶺山脈に屬する丘陵地帯を控へ、西南方一帯に庇仁灣に臨み、沿岸地帯は一般に低平にして地味肥沃、良質米を産し、また

【ヒヌイ】 日貫村 鳥根縣石見國邑智郡の西南部。西南部は那賀郡に界し西南方約四軒に今市村あり。東南境は約八〇〇米餘の山地東西に延びて村境を限り、東南隅には原山(八八八米)聳え、その他丘陵山地所々に起伏して四周を圍み、北境には(松原山)日野城山(七一三米)屹立す。中央には覆嶺狭長なる低地ありて細流流れ西境附近にて隣村を北流する江ノ川一支流に合す。木炭・米を産す。道路中部を東西に横斷し西方日本海岸の濱田

【ヒネノ】 日根野村 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を經井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども最も重要な工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはハスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

四六七

【ヒナモリ】 夷守 美守村(新潟縣) 【夷守】 筑前國(福岡縣)の古地名。萬葉集・四に夷守郡家と見え、延喜式兵部省式にも筑前國夷守郡馬十五疋と見ゆ。その地いま詳かならざるも糟屋郡仲原村の邊ならんか。同村の大字阿惠の地名に日守ありといふ。 【夷守】 日向國(宮崎縣)の古地名。延喜式兵部省式に日向國夷守郡馬十五疋と見ゆ。いま西諸縣郡小林町の邊なるべし。同町の地名に夷守あり。西南に夷守岳あり。 【卑南庄】 臺灣東部臺東郡の北部。臺東街に隣り、北は新港郡蘭庄及び岡山郡鹿野庄に接す。東部に海岸山脈、西部に中央山脈あり、中部は臺東平野にして

【卑南大山】 臺灣中央山脈南部の一峯。東側は臺東州に、西側は高雄州に屬す。標高三三〇五米。東斜面より卑南溪支流パンカラ溪及びシンプロ溪支流發源し、西斜面よりは芝濃溪支流濁口溪源流す。 【庇仁町】 朝鮮忠清南道舒川郡の西北部。郡邑舒川の西北約一〇軒。東北方は車嶺山脈に屬する丘陵地帯を控へ、西南方一帯に庇仁灣に臨み、沿岸地帯は一般に低平にして地味肥沃、良質米を産し、また

【日根】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に佐野郡日根郷あり、比根と訓す。その地、今の小笠原郡日根村・栗本村・東山村・西郷村の邊に當る。 【日根(郡)】 和泉國(大阪府)の古郡名。續紀實錄二年紀に河内國日根等の三郡を割きて和泉國を置くと見ゆ。和名抄は比根と註し近義・實美・呼喚・鳥取の四郷を管す。明治二十九年四月北方の南部と合して泉南郡を建て郡名を失ふ。 【日根市】 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎谷村と改む。 【日根野村】 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を經井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども最も重要な工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはハスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

【日根】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に佐野郡日根郷あり、比根と訓す。その地、今の小笠原郡日根村・栗本村・東山村・西郷村の邊に當る。 【日根(郡)】 和泉國(大阪府)の古郡名。續紀實錄二年紀に河内國日根等の三郡を割きて和泉國を置くと見ゆ。和名抄は比根と註し近義・實美・呼喚・鳥取の四郷を管す。明治二十九年四月北方の南部と合して泉南郡を建て郡名を失ふ。 【日根市】 大阪府中河内郡にありし村。明治四十五年孔舎谷村と改む。 【日根野村】 大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の南に接し、南は和泉山脈の山嶺に及ぶ南北に細長き村にして、南部は山脈を隔てて和歌山縣那賀郡に界す。南半は山地をなし南境にて約五〇〇米たらずの高さを有す。中部山麓に小富士山(二六〇米)あり。その北麓を經井川西流す。西北部は低平なる地形をなし、村内處々に灌漑用池沼あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く外に畜産・林産・礦産・水産もあれども最も重要な工業にして、大阪灣工業地帯の一部を占め状況活潑にして綿織物の産額頗る多し。西北部に社線阪和電鐵通過して日根野驛(昭和二年設置)あり。佐野町へはハスの往來あり。日根野は日根郡の原野の意に

して、尤恭・桓武二帝の屬々特選あらせられし處。日根野行宮は尤恭天皇の紀衣通姫の居りし處。〔日根神社〕大字日根野に鎮座。府社。祭神、鵜茅草不合尊・玉依姫命。社傳に神武天皇御東征の御の創建といふ。天武天皇白鳳二年に社殿の修造あり。聖武天皇當和泉國五社に神領六千八百石を賜はり、當社はその内五百石を拜受す。延喜の制、祈年の官幣に預り、歌謡一口を加へらる。爾來朝野の尊崇厚し。例祭、五月八日。〔慈眼院〕大字日根野にあり。古義眞言宗。井關山。仁和寺末。白鳳二年の創建に傳り、天平年中聖德阿闍梨勅を奉じて講堂を造立。のち空海ここに住し、弘仁八年多寶塔及び金堂を建立せしより、屢々勅願の詔を賜はり、武門の歸依また厚かりき。爾來千年の星霜、兵火にも恙なき多寶塔・金堂はいま國寶たり。

ヒノ 日野

【日野村】群馬縣上野郡多野郡の北部。東西に細長き大村にて、東北は藤岡町に近く、北は北甘樂郡の一部と隣る。全村山地にて、南端には赤久瀧山(一五二二米)・桐ノ城山(一〇二八米)・御前山(一八六六米)等連り、北端も亦約六七百米の山地連り南北より村内に傾斜し、村の中央はその都合にして越川東流す。山地は森林多く、西部は草地にて日野牧場あり。川沿ひに狭き平地ありて兼落はここに發達し、麥・米を作り養蠶も

行はる。縣道は村の中央より川沿ひに東走し、藤岡町方面に通ず。他は山間に村道あるのみにて交通不便なり。大字上日野は和名抄、多胡郡伴因郡に當り、大字下日野は越後郡高山郡に當る。大字金井には中世高山氏の居りし城址あり。

【日野町】東京府武蔵國南多摩郡の北部。八王子市の東北にあり。多摩川の南岸にて、北は北多摩郡立川町等と相對す。南端を渡川東流し、町は東南隅にて多摩川に合す。全町平地にて、米・麥を産し、養蠶盛にて繭を多産す。甲州街道は町の中央を西南に走りて八王子市に通じ、省線中央本線、また南走して、町内に日野(明治二十三年設置)・豊田(明治三十四年設置)の二驛を置く。此地は和名抄、多摩郡石津郡の内なるべく、近世は土淵庄日野領に屬す。當所の領守日野宮は日野宗頼の勤請せるものなり。宗頼は當國七黨の内、西の黨の祖、大夫宗忠の子孫なりと。明治天皇、明治十三年、山梨・三重及び京都府行幸の際、同十四年、八王子行幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇日野御小休所址及建物附御跡水は指定史蹟たり。

【日野川】群馬縣の中部を流るる川。九頭龍川の支流。古くは白鬼怒川、信濃川、または叔羅川とも云ふ。上流に二あり、一は若狭との境なる木ノ芽峠に發する坂取川、一は美濃境に近き夜叉ヶ池に發する白鬼川にして、兩者合して日野川

となり、なほ南條郡の諸水を兼ねて北流し、日野山(七九五米)の西麓を經、今立郡との境を流れ、次で丹生・今立の郡境を劃し、天主川を合せて後、足羽・丹生の郡境を流れ、足羽川を容れ、依然北流を續け、坂井・吉田兩郡境にて九頭龍川に入る。流程七二軒餘。今立郡丹津村白河より下流に舟楫の便あり。流域の洪瀧原は縣下主要の農業地帯をなし、機業また盛に行はれ、下流には蠶・鮭・鮎等の産あり。支流足羽川に跨りて福井市發達し、また主流沿岸には鯖江・武生の名邑あり。

【日野村】長野縣信濃國下高井郡の西南部。中野町の南に隣り、南は上高井郡山田村に接す。南境には千米に及ぶ山地東に連り、山麓は東・西南境を各々北に延び、中間に廣き谷地ありて北部の中野盆地に續く。北部は低地は耕地開け、米・麥・蕎麥を産す。中部を南北に街道通じ中野町に至るも交通便ならず。社線長野電鐵村内を通じ日野・村山の二驛を置く。此地は中世高梨庄に屬し、信濃源氏、高梨氏の出身地なり。の高梨氏は下高井郡中野城にありて高梨庄を治せり。大字新野に天和・元祿の頃、武家の代官所の置かれしことありきと。〔関山豊宮神社〕大字関山に鎮座。祭神、天照大神。元慶六年の創立に傳ると傳へ、いま本村の産土神たり。例祭、十月十五日。【日野】岐阜縣稲葉郡にありし村。昭和

六年本莊村と共に岐阜市に編入さる。【日野町】滋賀縣近江國蒲生郡の南部。八日市町(神崎郡)の東南方約八軒にして蒲生川に跨る。北部及び南部は丘陵をなすも中央には廣き平野開け蒲生川南郡山麓を西流す。田畑よく拓けて米・麥・雜穀用作物・茶・栗・桑・桑葉等を産し外に蠶産・水産・林産等あり。また感應丸・寶母散等の特産あり日野の産地として知らる。縣道東西南北に通じてその集中點に市街地發達し人口密度五四一人を算す。社線近江鐵道の日野驛は西方約一軒にあり。往古日野と云へるは今日の西大路村を指し、牧ありて日野牧と云へり。市街は蒲生氏に城せるより拓けたりと云ひ、いま城址は西大路村の地縁に屬す。町の特産日野梅の行商を發せる日野商人は近江商人の最たるものとして知らる。※湖東平野〔馬見阿彌神社〕大字村井に鎮座。祭神、天穗日命外二神。神武天皇の御代、彦瀲尊心命、出雲國より天穗日命を地阿向山に奉進して齋き祀れるに創まるといふ。式内小社に列し、當時社遷座にして社領三千貫を有せしも、吉野朝時代に神主朝朝に與せしを以つて將軍足利義滿より社領を奪はれ、社殿荒廢せしが、のち領主蒲生社殿を造營し社領百石を寄す。國寶、天津日子根命坐像(木造)一軀。同天戸間見命坐像一軀、他六軀。例祭、五月三日。〔願證寺〕大字村井にあり。眞宗大谷派。も

【日野村】群馬縣上野郡多野郡の北部。東西に細長き大村にて、東北は藤岡町に近く、北は北甘樂郡の一部と隣る。全村山地にて、南端には赤久瀧山(一五二二米)・桐ノ城山(一〇二八米)・御前山(一八六六米)等連り、北端も亦約六七百米の山地連り南北より村内に傾斜し、村の中央はその都合にして越川東流す。山地は森林多く、西部は草地にて日野牧場あり。川沿ひに狭き平地ありて兼落はここに發達し、麥・米を作り養蠶も

と法然の弟子空阿の遺跡と傳ふる伊勢國桑名郡長島の地にあり、親覺の弟子祐信を以て開基となす。住時は寺領一萬石を有し寺門隆盛を極めしが、元龜元年、本山、織田信長に抗するに及び、當寺また長島・中絶屋・大島居・篠橋等に築城して信長の軍を阻む。天正二年長島遂に陥り、住持願忍當寺に逃れ本誓寺に寓す。同十一年本願寺願如の命を受け、本誓寺淨宗坊・西田次郎兵衛等相謀り現地に一字を創して長島願證寺と號す。〔興仙寺〕大字大谷にあり。眞宗本願寺派。清雲山と號す。寺傳に聖德太子親高階氏の族此地に來り仙を修して昇天せし遺跡傳るといふ。本誓阿彌陀如來は圓仁作と傳ふ。〔金剛寺〕大字大谷にあり。別稱、山寺。さつき寺。臨濟宗永源寺派。聖德太子の開創といふ。延享三年曾懷州の再興。國寶に聖觀音立像(木造、鎌倉初期作)一軀あり。〔信樂院〕大字村井にあり。淨土宗。佛智山。初め聖武天皇信樂殿宮の後、その内道場、本誓阿彌陀如來を當國信樂の牧村假堂に奉置せしが、のち三轉し、明應七年蒲生貞秀これを香羽城内に移して一字を興し、靈譽を請じて開山たらしむ。境内に貞秀の墓あり。〔正明寺〕大字松尾にあり。黃葉宗。法輪山。寺傳に聖德太子の開創に傳り、當時支院九十三坊を擁せりといふ。のち織田信長の爲め一院を残すの外諸堂悉く一炬に附せられ、寺領亦沒收せらる。後水尾上皇、正

ヒノ——ヒノ

保元年一絲の時銀二百枚を賜ひ、更に翌二年清涼殿書材を下賜ありて本堂大慈殿を建立す。中興は龍藏にして、後水尾上皇勅額を寄せらる。國寶、本誓寺手親香並に脇侍不禮明王・毘沙門天立像一軀。〔正崇寺〕大字大谷にあり。眞宗本願寺派。寺傳に親覺の法弟圓覺の草創に傳るといふ。圓覺は俗名佐々木高綱末子源高吉なりといふ。寛政六年・明應二年の兩度本願寺蓮如山徒の難を避けて當寺に留錫す。蒲生氏累代の歸依厚し。〔毘沙門堂〕大字松尾にあり。いま日野町大字松尾の所管たり。觀音堂本尊十一面觀世音立像一軀は藤原期の作にして國寶。〔本誓寺〕大字日田にあり。眞宗大谷派。即登山。親覺の門弟性信の開創に傳る。のち日野家士野田貞國・本願寺覺如の門に入り淨憲と號し本寺を中興す。

【日野村】兵東縣播磨國多可郡の南部。松原川に跨り、西脇町の西北に接し、北は中町に隣る。西南部は加西郡に界す。東西兩部は約二一三百米の山地にして北方より南下し來る杉原川中央を貫流して沿岸低地開く。米・粟・麥・小麥・蕎麥・蔬菜・花卉・藥草・食用農産・果實・茶等の農産物を主とし鶏卵・林産・沿岸漁獲物・水産養殖の外木製品・蠶製品・醬油・双物・履物・疊・竹製品・瓦等の工業産物も多し。縣道中央を南北に貫き西脇町及び北隣中町へパスの便あり。社線播丹鐵道敷設屋敷通過して市原驛(大正十

年設置)羽取驛(大正十二年設置)あり。この地は和名抄、多可郡那珂郡の地に當る。〔天日〕神社。大字大木に鎮座。村社。祭神、天日一箇神外數社。式内社。例祭、十一月八日。【日野】因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に亘瀧郡日野郷あり、その地今の岩美郡網代村の邊に當る。【日野川】鳥取縣日野・西伯の兩郡を貫流して美保津に注ぐ。雲伯備三國境の三國山(〇〇四米)の東北斜面に發源して東北流し、日野郡黒坂町にて左岸に印貫川を合せ、根雨町にて右岸に小流を合せ、江尾村の邊より西北に流路を轉じ旭村にて野上川を左岸に入れ、これより西伯郡に入り米子市の東にて北方に流れ美保津に注ぐ。流程約八〇軒。江尾村以南の流域地方は五―六百米の隆起準平原發達し、牧牛盛んに行はる。川は三―四百米深入して峡谷を成し吾福村地内にては石段溪の景勝あり。また江尾村より北は東側は大山火山の裾野にして、河岸に大平原・新平原・水無原・後原等の丘陵平原あり放牧行はる。河口附近には砂丘内側の濕地に水田拓げ、その外側の砂丘には煙草の栽培行はる。【日野郡】鳥取縣六郡の一。伯耆國の西南隅。東は大山の西南麓より西南に延び鳥根縣境に涉り、南及び東境は岡山縣に接す。北隣に西伯・能義二郡あり。面積七二五・七五方軒。郡内に溝口・根雨・

村内農業を主とし米・蕎麦を産し、また木材・牛馬の産あり。省線伯備線と縣道は川沿に貫通し、根雨・黒坂線にバス道も交通便なり。中世この邊を日野郷と稱せり。もと渡・安井の二村に分れしが大正二年に合併して日野村を建つ。(長樂寺)大字下根にあり。曹洞宗。曹洞山。黒坂泉龍寺。もと黒坂村にありて天台宗に屬せり。文治年間現地に移る。薬師如来及び兩脇侍像(木造)三尊。毘沙門天立像(木造)は國寶なり。

ヒノエマタ 檜枝岐村

代國南會津郡の西南隅。西は新潟縣、南は群馬縣、栃木縣に隣接す。面積三九四・三二方軒の大村。村の中央部を東北より西南に惣明山(一八四二米)・駒ヶ嶽(二一三二米)・大杉嶽(一九二二米)・燧嶽(二三四六米)連りて分水界をなし、その東斜面には檜枝岐川南流に發源し東北に流れ、東南端より實川・舟岐川等を合す。その西斜面には大津岐川・袖澤等發源し西北に流れ只見川に合す。只見川は西境を北流す。村の東端及び東南端には北より白身山(一七六九米)・常磐山(二〇六〇米)・靈倉高山(二〇六七米)・黒岩山(二一六三米)等あり。山岳重疊せる僻村にして、兼落は檜枝岐川に沿ひて發達せるも、水田皆無なるため畑の耕作を主となす。

す。各戸とも川の上流・下流或は支流に出作り小屋を持ち、夏は此處に住居して耕作に従事す。此他、木工品製作の山小屋を持つる者もあり。栗・稗・大豆・蕎麥・木工品等の産あり。沼田街道は檜枝岐川に沿ひて東より南に通ず。交通の便よろしからず。人口密度は一方軒につき僅に二人なり。

ヒノオカ 日岡

【日岡】京都市東山区の町名。東山を横斷する日岡峠の東口に當る。京阪電氣鐵道大津線の日岡驛を置く。

ヒノカケ 日ノ影線

【日ノ影線】省線日豊線の一部。九州東部中央にあり。延岡市の日豊本線と同線より東臼杵郡を経て西臼杵郡七折村の機井驛に至る二九・〇軒。

ヒノカミ 氷上山

北上山脈の一端。岩手縣氣仙郡大船渡町・高田町・猪川村の境上に在り。標高八七五米、山體は花崗岩より成る。東麓には大船渡、南麓には廣田町に臨む。山上よりはこれ等の湖に浮ぶ數多くの小島を俯瞰し、眺望景佳なり。

ヒノカミ 日野上村

鳥取縣伯耆國日野郡の西南部。日野川の上流に沿ひ、石見・福榮二村の西北に接す。面積四三・五平方軒の大村。日野川は西南・東北に中央を貫流し、川に沿うて細長き地形を有し南北兩岸ともに五・六百米の山地に蔽はる。米・蕎麥・醬油・酒類の産多く、また牛・馬・鶏・木材・木炭を産す。溪谷に部落集り縣道貫通し、西隣の多里村にバスを通ず。東部に省線伯備線南北に貫通し生山驛(大正十二年設置)を置く。大正十年に宮内村・霞村を合併して本村を置く。(石霞溪)指定名勝。大字生山と黒坂村大字覺神原にあり。石見川の日野川に合流する生山の南北凡そ二軒に互れる花崗岩の峽谷なり。石見川に臨める處殊に奇巖怪石に富み、天狗岩・疊岩・獅子岩・神天岩・蓬萊岩等の巨巖、溪を壓して聳立す。また日野川に臨める處に鐘巖・摩天岩・廣畑岩等あり、崖下に水神澤懸る。(榮々福神社)大字宮内に鎮座。縣社。祭神、若吉備津彦命外三神。崇神天皇朝、祭神若吉備津彦命、その兄君の四遺將軍大吉備津彦命と共に此地に來り、鬼賊を平け給ひしに依り、里民その恩澤を感謝して祀りしところなりと傳ふ。例祭、五月一日。

ヒノカワ 樋川

石川縣羽咋郡にありし村。昭和八年志保町に編入せらる。

ヒノカワ 藏川

鳥取縣十三郡の一。出雲國の北部。西南部は稍南方に延びて三瓶山頂に及び、北は鳥根半島西部と藏川平野を含みて日本海に面し、東部は尖道湖に臨む。南部は中國山地にて丘陵起伏し、南境中央に王院山(五五四米)・三子山(四八九米)等あり。西南部は地形高くして満珠山(六五九米)屹立し西南隅にはトイアの形状を有する秀峰三瓶山(二二六六米)聳立す。中國山地は西部にて日本海に迫り中央及び東部は藏川平野に臨む。北部には三條の雁行せる鳥根山脈あり。平均高四〇〇米の地壘性山脈にてその西部地塊と中部地塊の西半が本郡に屬し、兩者は船川の斜斷層によりて絶たれ、西部の地塊は藏川平野に臨層し、西端三角状に西に突出して日御崎となる。中部の地塊は日本海に臨層して西部と相返する傾動ブロックをなし、西端尖塔状に海中に突出し十六島嶼となる。鳥根山脈と中國山地との間は謂はゆる尖道地溝帯の地にして、山陰第一の藏川平野(一五〇方軒)を開く。斐伊川は東南方に發して東南部より西北流して本郡に入り、藏川平野に出で新川を分ち共に東流して尖道湖に注ぐ。西南方に發する神戶川は西南隅より本郡に入りて東北流し、平野に出でて西北折して日本海に注ぐ。斐伊川上流は以前砂礫採取のため流砂多く現在國道邊に於て川底は耕地面より約五尺高く調ゆる天井川をなす。故に川尻にては枝川をつけ、或は留枝や砂俵や漕の根等の人工媒介によりて流砂の滞

の積る處に起伏して平地と稱すべきもなし。米・蕎麥の農産の他に工業、林産あり。生柿・高嶺を特産とす。成羽町に至れば各方面へ自動車の便あり。本村出身の歴史的人物に阪谷素(贈正五位)及び坂田丈平(贈從五位)あり、前者は江戸末期の儒者にして興業の建立者、明治十四年歿、年六十。後者は漢學者にて明治に至り衆議院議員となり、また文政の初めに大いに盡力す。明治三十二年歿、年六十二。

積に努め以て夥しき新田を得つつあり。而し新しきアルタの事故地盤が次第に下り、川床は依然として高く、故に川堤の一側を切開して砂下用や切通しの土管を通じて土砂を導き地上げしたる所多し。三角洲の地先は年々進出しつつあり。かつて尖道湖岸には出來山・瀧分・鳥村・中島・中洲等の地名が興へられ末廣がりの畦道が出來、新田には次々に獨立家屋が増し來り調ゆる藏川平野東部の開墾地を物語る我國典型的の散村をなす。藏川平野は山陰には珍らしく開けたる平野にして殆ど全部水田なり。而し低温なるため肥沃なれども夏作に特有な高畦耕作を行ふ。また低温の故に水貫感く低き川は悪水川の固有名詞さへあり。従つて各戸は殆ど濾過装置を有す。本郡の主産物は米・蕎麥・木炭・生糸とす。郡内は今市町・大社町・平田町の三町外四十三村を含み、藏川平野地帯は交通都邑の連る開けたる人口密度高き地方にて、平均密度二五四人に對し今市町は七八九二人を有す。中國山地の北に今市町を貫きて山陰道走り今市町より西北岸の大社町と東北方の平田町を通りて尖道湖岸に縣道通じ、其他處々に道路四通し、省線山陰本線中央を東西に横斷し出雲今市驛より省線大社線が大社町へ延ぶ。また今市町より東北方へ走る社線一知縣道ありて東北隅東村の山頂にある一知縣師へ及ぶ。本郡は明治二十九年四月、出雲・備前・神門

ヒノキ 檜ヶ山

中國山地の一端、一に妙見山とも云ふ。北面は岡山縣吉田郡中谷村・郷村に、南面は久米郡大井東村に屬す。標高約六〇〇米。西接して矢倉山(六六〇米)時。東麓は南流する吉井川に臨み、南麓には作備東線と出雲街道東西に並走す。

ヒノキナイ 檜木内村

秋田縣羽後國仙北郡の西北部。田澤湖の西北に在り、北及び西北は北秋田郡、西南は河邊郡に隣接す。面積一九一・六五方軒の大村。北境に高榮森(八七六米)、高崎森(九三三米)、西境に大森(八五七米)、大佛嶽(一一六七米)、黒崎森(八二二米)、大石嶽(一一〇五九米)、東境に龜崎森(七三三米)、高森(七九六米)、天狗森あり。全村概れ山地をなし、檜木内川は北境に發源して村の略中央部を南流す。村民の生業は主に製炭業にて木炭の産出多く、また米を産し、干せんまいの特産あり。大覺野街道は村の中央部を南北に貫通すれど、交通便ならず。人口密度は一方軒につき一八人なり。

ヒノキヤマ 檜山村

京都府丹波國船井郡の西部。須知町の西に接し南は多紀郡に界す。四周山地を繞らし特に南部に高く南境には櫃ヶ嶽(五八〇米)屹立して約五・六百米の山地連る。由良川に注ぐ高屋川の支流が東北を東南方へ貫き

て流る。米・蕎麥等の農産最も多く、工業にれに次ぎ林産・水産あり。東北部の河谷を中心に縣道四通し東南方國郡町へ至るもの、東隣の須知町市街地へ向ふもの、西西北方の福知山市に出づるもの及び西北方何鹿郡津部町へ至るもの等ありて、各自動車を通す。

ヒノクマ 日前

紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に名草郡日前神戶郷あり、その地今の海草郡和歌山市の一部に當る。

ヒノクマ 檜前

武蔵國の古地名。延喜兵部省式に檜前馬牧あり。其址いま明かならず。或はいふ、いま東京市淺草區の内ならんと。いま区内に馬道あり、駒形あり、これ昔の檜前牧に因るものなるべし。

ヒノコン

臺灣臺中州新高郡にある蕃社。丹大溪支流ヒノコン溪左岸に在り。アモン族の丹蕃に屬する高砂族の部落。戸數八、人口八四(昭和十一年調査)。

ヒノサト 日里村

岡山縣備中國川上郡の南部。成羽町の南に接し、南部は小田郡に界し、西南隅は僅に後月郡に隣る。全村四〇〇一五〇〇米程度の山地丘

の積る處に起伏して平地と稱すべきもなし。米・蕎麥の農産の他に工業、林産あり。生柿・高嶺を特産とす。成羽町に至れば各方面へ自動車の便あり。本村出身の歴史的人物に阪谷素(贈正五位)及び坂田丈平(贈從五位)あり、前者は江戸末期の儒者にして興業の建立者、明治十四年歿、年六十。後者は漢學者にて明治に至り衆議院議員となり、また文政の初めに大いに盡力す。明治三十二年歿、年六十二。

ヒノサワ 日澤鎮山

埼玉縣蔵國秩父郡の北部。吉田町の北隣なり。全村山地にて西境には城峯山(一〇三八米)、南境に破風山(六二七米)あり。中央部は僅にこれ等山地の山合ひをなし、村道ありて兼落はこれに沿ふ。山地一帯森林多く林産あるも耕地は少く、僅かの蕎麥を産し、一般に養蠶盛にて繭・生糸を産す。山間の村落なるため交通不便なり。村内には秩父三十四ヶ所の一たる水清寺(曹洞宗)あり。

ヒノシタ 日下

神奈川縣久良岐郡にありし村。昭和二年に横浜市に編入せらる。

ヒノシマ 日島村

長崎縣肥前國南松浦郡の村。五島列島のほぼ中央に在り若松島の西半部と、同島の西北に散在する日ノ島・有願島・漁生島・相島等よ

り成り、西南は瀧河原瀬戸を隔てて奈留島に、北は中通島西部の半島に對す。面積二・六方軒。若松島に屬する部分は中部に深き灣入りあり。瀧島三支に散れ、これと南岸の瀧河原浦と日ノ島・漁生島間等に良備地を有す。城内は老年性地象を呈する丘陵地にして平地に乏しく、村民は漁業を主とし農牧に従事す。

ヒノシマ

樋島村 熊本縣肥後國天草郡の東端。天草上島の東南端に接して八代海中に位する樋ノ島及び附近の竹島其他の無人島より成る。樋ノ島は東西一・五軒、南北四軒、面積三・五方軒にて中部南端に地狭部あり。全島白亜層より成り南部に泊山(一九三米)、北部に高嶺約二三五米の峰あり。地狭部は卑低なるを以て遠方より望めば恰も二島の如く見ゆ。島岸は北西部を除けば概し崖岸を成し、天草上島との間の水道に臨みて洲ノ崎、西南側の小灣内に上瀬川の漁村あり、洲ノ崎より八代・三角等へ渡船機船の便あり。昭和十年の人口二〇九人、人口密度は一方軒當り五九二人にして天草諸島中最も稠密なる部に屬す。本村は對岸の高戸村と組合村をなす。

ヒノタニ

日谷野村 徳島縣阿波國那賀郡の中央南部。那賀川中流に跨り、重敷町の西南約四軒、南は海部郡に界す。八郎山(九二〇米)等の海部山脈に屬する山地南端に高く聳えて南部はその北方傾斜地をなし山岳重疊す。北部も五〇〇米

ヒハ

日羽 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に賀夜郡日羽郷あり比波と訓す。その地今の吉備郡池田村・日美村・富山村・大和村の邊に當る。

ヒハ 比波

【比波郡】 廣島縣十六郡の一。備後國の東北隅。北は島根縣に東北は鳥取縣に東は岡山縣に界す。北境には中國山脈の主脈備前と連り大万木山(二二八米)・毛無山・覆取山(二六八米)・鳥帽子山・道後山(二六九米)・三國山等の高峰聳立し、南方へ數條の山嶺を延ばし郡内到處所山地起伏し總じて地形南に低し。江ノ川支流西城川は北境東端三國山に發して中央を西南流し、途中北境鳥帽子山に原流して、南下する比和川を合し雙三郡に出で西南方にて江ノ川に合す。東部には川邊の支流東城川の北境に發して東南流するあり。西北部は江ノ川支流神瀬川の流域にして北境高野山に發する同河は西北部を西流し西境附近に於て南に折れ雙三郡に入る。流域所々に低地あるも峠・

以下の山地をなす。那賀川は中央北偏を迂回しつゝ東流し、沿岸に稍々低地を見る。米を産したまふ・藪もあれど全村概ね山地なれば産額少し。中央河谷に沿ひて街道東西に通じてバスの便あれど、概して交通不便なり。

ヒノト

日頭 武蔵國(東京府)の古地名。和名抄に豊島郡日頭郷あり、比乃度と訓す。その地今の牛込區戸塚町の邊に當る。

ヒノハラ

檜原村 東京府武蔵國西多摩郡の南部。五日市町の西方約六軒にある大村にて、南は神奈川縣津久井郡及び山梨縣北都留郡の一部と隣す。關東山脈中の一部を占め、西境より北境にかけて三頭山(一五二七米)・御前山(一四〇五米)・大嶽山(二六七米)等の諸山連り、南境にも一〇〇〇米前後の山地連り、村内はこれ等山地の斜面またはこれ等に續く小山地をなし、全村森林多し林産あり。秋川は東北部に發源して東流し、流域には狭き耕地ありて麥を産し製麦行はる。府道は東部より東走して五日市町に通ずるも、大部分は山間に村道あるのみにて交通不便なり。本村は小田原北條氏の頃、平山氏の領地たり。此地より相模國津久井郡と甲斐國都留郡に通ずる兩條の道あり、徳川氏の時、關所を此處に設け、日留番所と稱せり。〔神戶省〕指定天然記念物。秋川の支流が古生層の角岩を貫きて高さ八〇—九二米、幅六一—一〇米

ヒノハル

日野春村 山梨縣甲斐國北巨摩郡の中部。八ヶ嶽の南麓、釜無川の左岸に沿ふ。八ヶ嶽の裾野に當り高原状を呈し、南部を釜無川東南に流るるも平地に乏し。一般に山林多く、水利の便なる所には耕地發達し、米・麥・藪を産す。村内には縣立北農學校・日野春養老院・甲府區裁判所出張所・長坂壱社あり。省線中央本線は渡間を縫うて通じ、日野春驛(明治三十七年設置)・長坂驛を置き、縣道また略々これに沿うて走り、交通便なり。

ヒノボリ

日登村 島根縣出雲國大原郡の西南隅。木次町の南に接し、西は飯石郡三刀屋町・飯石村に、南は仁多郡温泉村に隣接す。概し三百米餘の山地にして、西境を北流する斐伊川及び北部を西北流する支流治津界に僅に耕地開く。未の外に製蠶も盛にして僅に木材・木炭の産も多し。街道は小支流に沿うて木次町に至りバス通ず。此地は和名抄、大原郡來次郷の内なるべし。

日御崎 三尾村(和歌山縣)

ヒノミサキ

日御崎村 島根縣出雲國鹿川郡の西北隅。島根半島の中軸をなす穴道山脈の西方海上に盡くる先端を占め、三角狀に西方へ突出し日ノ御崎に終る。燈臺あり。西方の海上に嶋島の孤島あり。東部のみ陸につゞき東南部は大社町に界す。中央には三六四米の山地峙ち、海岸は多く斷崖をなして巨岩海に迫り、奇岸怪石散在して日本海の荒波飛沫をあげ、低地は西北岸日御崎の東に狹大の地ありて村落をなす。水産漁獲物多く村民多く之に従ふ。外に藪を主とする農産・工業・林産・畜産あり、また素乾の特産あり。部落より大社町へ道路ありてバスを通ず。日御崎燈臺(明治二十八年設置)は白色圓形鐵造、燈質燈閃白光、光達距離二三・五哩に及ぶ。古くは日御前と云ひしが明治二十二年宇都浦と合併し日御崎村と改むといふ。宇都浦は尾子氏の頃は明國の商船を招來して貿易したる處といふ。〔日御崎の大森嶽〕指定天然記念物。福性寺境内にあり。一株、根元周圍約四米、地上一米の高さにて兩支幹に分れ高さ約四・二五米に達す。森嶽の巨樹として有数なり。〔經島うみねこ蕃殖地〕指定天然記念物。日御崎頭面に聳ゆる海中の巨巖に(文島とも云ふ)棲息せる鴨に類似せるうみねこの幾千となく群集して奇聲を發して鳴交はし居る様は

和十年には石炭三七、四〇〇噸を出す。〔三美美唄炭礦〕 礦區は美唄町と三笠山村とに跨り、即ち美唄川の上流及びその支流たるワアンシツアンヒイ川の流域にありて礦區六三一萬餘坪、礦區内の夾層層は下部第三紀層にて、砂岩及び頁岩の互層より成り、その間に十數層の石炭層介在す。炭層は東西に走る大斷層によりて自然に兩分せられ、南部の炭層は傾斜比較的緩かにして、北部の炭層は南部よりも傾斜急なり。昭和十年の産額は塊炭三二八、五〇七噸、粉炭三九七、二〇四噸、切込炭一三二、六六八噸、粗炭九、一八九噸にして、この總價額七二二萬餘圓、同年六月末の使役職夫一、九一八人とす。本礦山は明治中期の發見なるも第一坑の間坑は大正二年なり、同四年に三菱の手に移りてより活發なる發展を遂げ、我國有数の炭礦となる。現に三菱炭業會社にて採行。〔三井美唄炭礦〕 礦區は美唄町と三笠山村に跨りて五四六萬餘坪、地質・炭層は三美美唄と略同じ。昭和十年の産額は塊炭一、二〇、六六四噸、粉炭一七五、三〇四噸、切込炭二〇、三八八噸、粗炭一一、〇三〇噸、この總價額は二一九萬餘圓、同年六月末の使役職夫八〇二人とす。現在、三井礦山會社外一の經營たり。〔美唄炭礦〕 ※三笠山村〔空知神社〕 大字美唄に鎮座。蘇社。祭神、天照皇太神・大己貴神・少彥名神。明治二十七年の創立に係る。

丘陵・臺地等に遮られし不規則なる山間盆地にて、南部西城川流域の庄原盆地やや著し。本郡は純農業地帯にして大麥・麻・粟・藪等を産したまふ良牛の産地なり。郡内は西城川流域の西城町・庄原町、東城川流域の東條町及び比和川に沿ふ比和町の四町十八ヶ村を含む。中部には庄原町・西城町を貫きて縣道あり。東北は山陰地方、米子市方面に通じ、南は尾道市・廣島市方面に及ぶ。西條町より東南にのび東城町を過ぎて南方福原市へ到るものあり。又庄原町より西北比和町を経て高野山村に達する縣道もあり。省線備前線は南部と東部を通過しその備後落合驛より北方穴道へ至る省線木次線あり。本郡は明治三十一年十月に奴可・三上・惠蘇三郡を合併したるなり。記に伊弉冉尊を伯耆・出雲國境の比波山に葬るとあり、舊惠蘇郡比和村を以て比波山陵墓の地とする傳説に因み郡名起る。【比波山】 中國山脈南部の峰。美古登山とも云ふ。島根縣仁多郡と廣島縣比波郡との境界に跨り、標高一二七三米。山體は圓錐形を以て掩れる。山頂よりはも北方に鳥根半島及び穴道湖を望み、東方視野開く。頂上に俗に伊弉那美尊の御陵と稱するものあり。

ヒバイ

美唄 北海道石狩國空知支廳空知郡の西部。砂川町の南に接し、西は石狩川を以て樺戸郡に對す。面積三〇七・九五

米・大豆・粟等を主とする。鐵道北...

ヒホー 飛鳳

【飛鳳】 朝鮮京畿道水原郡の中北部...

【飛鳳】 朝鮮京畿道南道青陽郡の北部...

棉花・糖草・薪炭・金・銀(飛鳳山金礦)等...

ヒマガシマ 日間賀島村

【日間賀島村】 愛知縣尾張國知多郡...

ヒマツリ 日奉

【日奉】 筑後國(福岡縣)の古地名...

ヒミ 日見村

【日見村】 長崎縣肥前國西彼杵郡...

ヒミ 日野

【日野】 信濃國(長野縣)の古地名...

ヒミ 氷室

【氷室】 栃木縣下野國安蘇郡の北部...

ヒミ 氷見

【氷見】 富山縣越中國八郎郡の一...

赤松が長野縣大町・新潟縣糸魚川町の兩方面より漸次開通しつつあり。

【姫】 省線太多線の驛(大正八年設置)。

【姫岳】 九州山脈の一峯。一に紫雲岳とも云ふ。白杵湖・津久見湖の西岸に近く大分縣北部郡白杵町・津久見村・南津留村の境上に在り。標高三八三米、山體は秩父古生層より成る。永享年間(大友親朝)に將軍足利義隆の命を奉ぜざりしかば、河野通久來り征めし、大友氏この山に據りて通久勢を破る。

【ヒメガミ】 姫神岳 北上山脈の一峯。盛岡市の北東方一八軒前後、東北本線好摩驛より約八軒、岩手縣岩手郡玉山村に時つ。標高一二五米、山體は花崗岩より成る。圓頂の山姿を有し、中腹以下樹木に掩はるるも山頂部は露出せる岩石重疊す。頂上よりは眺望廣闊にして、絶好の四圍觀望臺をなす。ここに姫神社の小有り。初夏の頃は山麓に鈴鹿吹き亂れて美し。

【ヒメコリ】 姫社 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に基肆郡姫社郷あり、その地今の三養基郡基肆村の邊なるべし。

【ヒメシ】 姫治村 岐阜縣美濃國可兒郡の西部。廣見町の西南に隣接し、南側は尾張國東春日井郡に接す。南北に長くして南部に四〇〇米内外の丘陵ありて北へ傾斜し、北境を可兒川西流し、東北側にて村内に發する一支を會流す。農

耕を主として養蠶を副業とする純農村にして米・麥・蕎麥の産あり、果の特産物あり。村の東部を南北に省線太多線および多治見街道並走し、前者の姫驛(大正八年設置)を置く。この地は中世に姫庄と稱せし地にして、建武二年、西園寺家領目録には「美濃國郡戸庄内下切」とあるは此地なるか。

【ヒメジ】 姫路市 兵衛縣播磨國中央南部の商工都市。播磨平野の中部、市川下流の右岸に在り、東は飾磨郡谷外村・花田村・四郷村、南は飾磨町、西は八幡村・曾左村、北は眞栗村・神崎郡香呂村、豊富村なり。もと略中央部に在る酒井氏の舊城池田白鷺城を中心に發達せる城下町たりしが大正十四年に城北村、昭和八年に水上村・砥堀村、同十年に城南村・高岡村、同十一年に安室村・荒川村・手柄村等の隣接諸村を編入し、現在市域は東西八・三軒、南北九・六軒、面積五・一五方軒餘に擴大し、人口また一〇八〇〇〇人を數ふ。北部に廣峰山(三二一米)、増位山(二五九米)、廣峰山の西南に八丈岩山(一七三米)等の丘陵性山地あり、その餘は東境を南流する市川、西北部を潤す夢前川による沖積地にして土地概ね平坦なり。中國街道と省線山陽本線は東西に貫き、後者は姫路驛(明治二十一年設置)を置く。但馬街道と省線播磨線はこれに交りて略南北に通じ、播磨線には龜山驛(明治三十年設置)・京口驛(明治三十

一年設置)・野里驛(明治二十七年設置)・仁豐野驛(明治二十九年設置)あり。また省線姫新線は姫路驛より分岐して西北に走りて、播磨高岡驛(昭和五年設置)を設け、明石市より来る社線山陽電鐵は龜山御坊・手柄の二驛を經、省線姫前驛に接する姫路驛前驛(以上三驛、大正十二年開業)に達し、市は播磨中部に於ける交通運輸上の要衝たり。もと城下町として發達せし、近時、紡織工業を第一に化學・機械及び器具・製材及び木製品・飲食品等の諸工業次第に興りて工業都市と化し、工場數二二〇、職工數一〇〇〇〇人を數へ、生産額は四六〇〇萬圓に近く(昭和十一年)、生産總額の九三%を占む。これに伴ひ商業また隆盛となり、會社數二四三、公稱資本一四二萬圓に上る。主なる官署・歩兵第十師團司令部・第八旅團司令部・歩兵第三十九聯隊・騎兵第十聯隊・野砲兵第十聯隊・輜重兵第十大隊・地方裁判支所・姫路高等學校などあり。姫路の名は神代の末期、市川の沖積地帯の未だ河海の狀を呈し居りたる頃、十四丘點在せし其の中の一、今の城山が嶺の形狀をなしたりしより日女造匠と呼ばれしに起りしものと傳へらる。蓋しひめは葦の異名、ち海よりいふ陸地の意にして、もと姫と書きしこともありしといふ。この地の里を成したるは景行天皇の御代、針間別皇子、伊和部(安樂郡)の民を率へ移住し來り、伊和部の里

は白國の里といひ、往古、新羅人の來住せし所なるを以て、その名起ると傳ふ。【姫路公園】 姫路城内の東北部に在り、本市唯一の公園にして、面積七一六アールを占む。西方に約五十の樹種を算する森林繁茂し、園の中央に噴水池を湛へ、池畔には豊公の銅像、姫路藩大目録合符、岡田山の須磨碑あり。園内に梅・櫻・桃・藤・躑躅・楓その他花卉多く、櫻は數百本ありて花の一名所をなす。(射籠兵主神社(總社) 本町に在る。神社。祭神、射籠神(五十猛命)・兵主神(大己貴命)。飲明天皇二十五年、御郡伊和里なる水尾山に始め兵主神を鎮祀せるを、延暦六年國衙小野江に奉遷し、射籠神を合祀す。近世寺領百五十三石餘。社費中、太刀一口(綾小路定利作)は國寶。例祭、十一月十四日より同十六日まで。(高岳神社) 今宿町に在る。祭神、住吉大神・應神天皇・崇神天皇等十一柱。天長三年の創立と傳ふ。延喜の制、國幣の小社に列し、播磨國の五宮にて古來安室郷の惣氏神たり。世々五社權現・國司・領主の尊崇篤し。もとは五社權現・三社明神・高岳明神と云へり。例祭、十月八日。【白國神社】 大字白國字山田に在る。祭神、阿多津姫命。白國家の祖阿曾武命の室神、吾田津姫命の神壽に依り奉祀せしに起り、白國神または白國々主明神・日の宮と稱す。元慶元年正五位下に叙せられ、延喜の制、國幣の小社に列し

一年設置)・野里驛(明治二十七年設置)・仁豐野驛(明治二十九年設置)あり。また省線姫新線は姫路驛より分岐して西北に走りて、播磨高岡驛(昭和五年設置)を設け、明石市より来る社線山陽電鐵は龜山御坊・手柄の二驛を經、省線姫前驛に接する姫路驛前驛(以上三驛、大正十二年開業)に達し、市は播磨中部に於ける交通運輸上の要衝たり。もと城下町として發達せし、近時、紡織工業を第一に化學・機械及び器具・製材及び木製品・飲食品等の諸工業次第に興りて工業都市と化し、工場數二二〇、職工數一〇〇〇〇人を數へ、生産額は四六〇〇萬圓に近く(昭和十一年)、生産總額の九三%を占む。これに伴ひ商業また隆盛となり、會社數二四三、公稱資本一四二萬圓に上る。主なる官署・歩兵第十師團司令部・第八旅團司令部・歩兵第三十九聯隊・騎兵第十聯隊・野砲兵第十聯隊・輜重兵第十大隊・地方裁判支所・姫路高等學校などあり。姫路の名は神代の末期、市川の沖積地帯の未だ河海の狀を呈し居りたる頃、十四丘點在せし其の中の一、今の城山が嶺の形狀をなしたりしより日女造匠と呼ばれしに起りしものと傳へらる。蓋しひめは葦の異名、ち海よりいふ陸地の意にして、もと姫と書きしこともありしといふ。この地の里を成したるは景行天皇の御代、針間別皇子、伊和部(安樂郡)の民を率へ移住し來り、伊和部の里

(のち伊和の里)と稱したるに始まり、大化の新政に國府を置かる(いま城東町に國府遺址あり)。降りて鎌倉時代の末年元弘の亂の時、赤松則村は播磨に義兵を擧げ、勤王の軍を進むるにあたり姫山に據りしが、これ姫路が極要なる地たりしが故にして、室町幕府成立するや、その子貞範によりて城築造せられ、戰國の世に羽柴秀吉は中國の藩鎮として三層の城郭を構ふに至る。斯くて姫路は武族興隆の地となり、江戸時代は徳川幕府の親藩もしくは譜代大名配置せられ、池田・本多・松平・橋原の諸侯を経て、酒井家十代二百十年に互りて藩政を布きしより、能く封建都市としての發達を遂げ、明治維新後に興りし新造都市には見られざる風格と一種の落着きを備へ、封建文化の遺象たる城郭はいま史蹟に指定せられ、その現存建造物は擧げて國寶たり。明治維新に姫路縣・飾磨縣たりしことあるも、同九年兵庫縣に編入せられ、同二十二年市制を實施せしより、こゝに五十年を閱す。其間、明治四十五年國衙村及び市町村の一部、大正十四年に城北村、昭和八年水上村・砥堀村、同十年に城南村・高岡村、同十一年安室村・荒川村・手柄村を併合して現在の市域となり、姫路都市計畫區域内に今や本市と飾磨町あるのみにて、日々繁榮中の飾磨港を姫路港と改稱するの日も遠からざるべしと見られ居り。【姫路城】 古くは姫山と稱す。その起原

を詳にせず。或は赤松貞範の築城といひ或は小寺頼秀の創始といふ。爾後赤松・小寺の諸氏この城を守りて天正年間に至る。羽柴秀吉は織田信長の命を奉じて中國を經營するに當り此地を根據地とし天正八年大に城地を營む。關原役後、池田輝政の此國に封ぜらるるや今日現存する五層天主閣を營む。爾來、本多・松平・榊原の數氏交々此地に封ぜられ寛延二年以來酒井氏の居城となりて明治維新に至り陸軍省の所管となり、十師團の司令部を置く。城址は指定史蹟たり。【姫路藩】 關原役後、池田輝政此地に封ぜられ、爾後、諸侯交々封を此地に受け寛延二年酒井忠恭上野殿(前藩)より轉じて十五萬石を食み、爾後子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して縣を置き、十一月これを廢して更に姫路縣を置く。【明治天皇姫路行在所】 指定史蹟。明治十八年八月、山陽道御巡行の際に御泊あらせられし所。明治三十六年皇子行幸の際及び同四十四年、久留米行幸の際に併行社に御泊あらせらる。(好古堂) 江戸時代、姫路城南大手門前にありし姫路藩の藩學の名。寛延二年藩主酒井忠恭、元祿四年以來舊封上野國前橋にありしものを、移封に際し之を移したりといふ。【白國梅林】 増位・廣峰兩山麓に相接する所に在りし開闢幽靜の地にして、枝振り面白き數百株の老樹ありて、播州第一の梅林と稱せられ、花時は賑ふ。この地

は白國の里といひ、往古、新羅人の來住せし所なるを以て、その名起ると傳ふ。【姫路公園】 姫路城内の東北部に在り、本市唯一の公園にして、面積七一六アールを占む。西方に約五十の樹種を算する森林繁茂し、園の中央に噴水池を湛へ、池畔には豊公の銅像、姫路藩大目録合符、岡田山の須磨碑あり。園内に梅・櫻・桃・藤・躑躅・楓その他花卉多く、櫻は數百本ありて花の一名所をなす。(射籠兵主神社(總社) 本町に在る。神社。祭神、射籠神(五十猛命)・兵主神(大己貴命)。飲明天皇二十五年、御郡伊和里なる水尾山に始め兵主神を鎮祀せるを、延暦六年國衙小野江に奉遷し、射籠神を合祀す。近世寺領百五十三石餘。社費中、太刀一口(綾小路定利作)は國寶。例祭、十一月十四日より同十六日まで。(高岳神社) 今宿町に在る。祭神、住吉大神・應神天皇・崇神天皇等十一柱。天長三年の創立と傳ふ。延喜の制、國幣の小社に列し、播磨國の五宮にて古來安室郷の惣氏神たり。世々五社權現・國司・領主の尊崇篤し。もとは五社權現・三社明神・高岳明神と云へり。例祭、十月八日。【白國神社】 大字白國字山田に在る。祭神、阿多津姫命。白國家の祖阿曾武命の室神、吾田津姫命の神壽に依り奉祀せしに起り、白國神または白國々主明神・日の宮と稱す。元慶元年正五位下に叙せられ、延喜の制、國幣の小社に列し

播磨國の四宮と稱せらる。永萬元年聖刀を神祇官に納む。例祭、十月九日。(姫路神社) 本町に在る。祭神、酒井正親。明治十二年の創建。社費中、太刀一口(包水の銘あり)は國寶。例祭、四月十二日。(廣峰神社) 廣峰山に在る。祭神、素戔鳴尊・五十猛命。俗に廣峰天王といひ、山城國坂田牛頭天王の根本なりといふ。聖武天皇天平六年の創建といふ。近世、社領七十二石を有し、播磨國中第二位に在る。例祭、四月十七日。(荒川神社) 井ノ口字宮山に在る。祭神、水波能女命・手置帆具命。彦左知命。創立年代詳かならず。赤松氏以下歴世領主の崇敬あり。もと荒川大明神・若宮とも云へり。例祭、十月十六日。(十二所神社) 十二所前町に在る。祭神、少彦名神。別稱、十二所權現。諸病平癒に靈驗ありとて祈願者多し。境内には播州風屋敷のお宿の祠堂と稱するものあり。また藤の名所として開ゆ。(覺福寺) 吉田町に在り。曹洞宗。明徳四年通幻寂靈の開創に係る。のち姫路城主池田輝政本寺を崇敬しこれを中興せしむ。松平大和守また本寺に歸依すること深く吉田町にありし寺基を現地に移す。今本寺四十七箇寺を有す。(正明寺) 五軒驛にあり。天台宗。姫路山。廣治二年正覺房道遠の開創に係る。建治二年後醍醐法皇の御願寺となる。のち新田義貞・池田輝政等歸依して寺領若干を管す。(隨願

寺) 白國にあり。天台宗。用明天皇朝、厩戸皇子の遺骨に係り、開山を高麗國の歸化僧惠法法師とす。天平七年行基菩薩勳を奉じて諸堂を建立す。爾來朝野の崇信厚く、山内に寺坊百餘を有し、寺運隆盛なるものありしも、中世戦亂に際し衰頹す。近世は朱印地三百石、墨印地二百石の寺領を有せり。寺費中、毘沙門天立像(本造)一軀は國寶。(姫路別院) 地内町にあり。萬宗大谷派。本徳寺。本願寺八世蓮如、後善をして當地に教化せしめしが、明應年中に富國英賢に一寺を創して弘教の道場となす。是れ本寺の靈廟たり。豊臣秀吉寺領三百石を管す。元和三年本多忠政の姫路城主となるや寺地を寄せて當地に移らしむ。慶安八年龜山本徳寺第六世昭澄の室、貞照院良春尼故ありて本寺三十六箇寺を率ふ當派に歸し、本寺に入る。明治十八年明治天皇の行在所に充てらる。

【ヒメシマ】 姫島村 大分縣豊後國東國東郡の北方海上に浮ぶ姫島を占む。國東半島東北方周防灘海上約四軒にあり、東西の長さ六軒半、南北の幅最も廣き中央部は二軒半にして東西兩部は狭く、最狭部は僅に二〇〇米餘に過ぎず。中部に大岳(矢筈岳、二八七米)ありて平地なく東部には柱ヶ岳長く突出す。西部は四音時・ス鼻長く突出して概ね平地なり。水産物多し。西南方の國東半島北岸伊美村へ鐵路通じ、海底電線の設備あり。古

事記に二神大生女島、赤名謂天一根」とあり、伊弉諾・伊弉冉の二神生む所の諸島の一なる女島はこの島ならんといふ。

ヒメト

古來富村の産土神として崇敬他に異れり。例祭、十月九日。

ヒメド

熊本縣肥後國天草郡天草上島の東部。八代海に臨み東北部は海岸に沿ひて細長く東北方へ延ぶ。全村山地をなし西端に念珠岳(五〇三米、西南方には龍ヶ岳(四七〇米)聳ゆ。東方海上に丸山(二〇九米)は半島状に突出して尖端雨龍岬となる。その南の沿岸に積平野あり。東部の西端には鹿見岳(二八五米)、白嶺(三七三米)等ありて山地海に迫る。農産最も多く水産これに次ぎ、産第三位を占め林産もあり。八代灣を狭みて對岸八代町へ汽船の便あり。

ヒメヌ

姫沼 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に八名郡姫沼郷あり、その地の浮羽郡姫沼村の邊に當る。

ヒメノエ

姫江 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に刈田郡姫江郷あり、比女乃江と訓す。その地は今の三豊郡豊濱町・和田村の邊に當る。

ヒメノエ

姫ノ江 香川縣三豊郡にありし村。明治三十一年豊濱町と改む。

ヒメノハラ

姫原 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に和氣郡姫原郷あり、比女乃原と訓す。この地の今の松山市の一部に當る。

ヒメハル

姫治村 福岡縣筑後國厚羽郡の東南部。吉井町の東南約三軒にありて西南は八女郡と界し、東南及び東は大分縣日田郡に開かれ東方約七軒に日田町あり。全村山地にして西・南・東の三面は山脈に圍まれ西隅には鹿取山(八〇二米)聳ゆ。東南部に源流する巨勢川中央を西北流するも沿岸低地乏し。林産多し。河谷に沿ひ吉井町へ出づる道路ありてバスの便あり。省線久大本線筑後千足驛へは北方約二軒餘にして自動車を通ず。大字津川に御坐石と稱するものあり、景行天皇の遺跡なりと傳ふ。古くは姫治郷に作り、和名抄に生葉郡姫治郷と見ゆ。井上城址は三善清行の遺裔、岡注所康行が正和二年鎌倉より下向し富郷を領して此處に居りし處と傳へ、子孫相承けしが天正年中に廢城となる。

ヒメマツ

姫松村 宮城縣陸前國東原郡の中部。一迫町の北に隣る。東部に僅少の低地ある外は概ね百米内外の丘陵性産地を成す。二迫川の支流、南部及び北縁を何れも東より西に流れ沿岸地を灌漑す。主生業は農にして米の産額多し、また丘陵地には桑園拓けて蠶業も行はる。交通は社線仙北鐵道の愛宕驛(愛宕町所在)へ約五軒にして鐵道通ず。また一迫町にも鐵道通ず。

ヒモサシ

紐差村 長崎縣肥前國北松浦郡平戸島の東部。東は海を隔てて北松浦半島鹿町村(西北部)を望む。南南北

に細長し。地形概ね山地に屬し、西北端に彌ノ鼻、西南端に有智郡岳、南端には慈眼岳等あり。中部には稍低地開け入江深く東方より灣入す。山地海に迫り北半島・野島等の小島嶼數多散在す。南半は概して單調なる崖汀にして北に白戸鼻あり。米・麥の農産及び水産・林産あり。西部に平戸島を縱斷する縣道走り自動車通ず。

ヒモンヤ

碑文谷 東京府在原郡にありし村。塔婆に碑文を書きて埋めしより村名起るといふ。昭和七年に東京市目黒區に入りてその町名となる。

ヒヤキ

日鏡 伊田縣の貨物驛(明治三十一年設置)。福岡縣直方市にあり。

ヒヤクサイ

百済 福岡縣直方市にあり。

ヒヤクスカ

百塚村 富山縣越中國婦負郡の北部。富山市の北に隣り東は神通川を隔てて上新川郡と接す。地は富山平野の一部を占め、南部に奥羽丘陵の一部縮減たるほかは全村低平なり。概して南部に桑園多し北部に水田拓く。神通川の分流東部を灌漑しつつ北流す。農産に米・麥を出し、また藥品の製造・行商に携はる者多し。南部を省線北陸本線東西に走り城内に驛を置かざるも社線越中鐵道は村内を走り八ヶ山驛(大正十三年設置)を置く。富山市に近く交通至便なり。此地は和名抄、婦負郡同本郷の内なるべく、中世は倉垣庄に屬す。富山

ヒヤクチヨ

百町 佐賀縣の一縣(昭和十二年設置)。福岡縣山門郡三橋村の大字百町にあり。

ヒヤクネ

百年嶺山 朝鮮黃海道谷山郡東部の嶺山。鐵道は開郡伊寧面・東村面及び成龍南道源豐下面に跨がる。鐵道は金・銀・タンクスンにして昭和十年の産額はタンクスン四七四〇〇(價額七八・五萬圓)あり、同年六月末現在使役人員は五五七人。

ヒヤクレ

百嶺面 朝鮮平安北道寧邊郡の東部。郡邑寧邊の東方約三〇軒。北境には妙香山脈の主峰、妙香山(一三六五米)を始め、兄弟峰(一二九米)等相連りて一大陣壘を成し、東境

には加馬峰(一三〇五米)・寺頂山(九九一米)等聳え、險峻域内に及びて山岳重疊し、中部を清川江支流の百嶺川西流しその流域に僅に小低地の散在を見る。住民は農産に従事し、婦人は機織に従事する者少からず。産物は大豆を主とし、大麥・粟・馬鈴薯・蕎麥等にして、明神・生牛・牛皮等の産あり。道路は面邑東倉を中心として四方に通ぜりも、面境に於て牛嶺(六六九米)・草嶺(三三四米)・於業嶺(六二五米)等の諸嶺ありて坂路多く交通不便なり。尙ほ東倉には陰曆三・八の日に開く市場ありて雜穀・薪炭等の取引行はれ、附近に鍾乳洞あり。聚落は大部分溪谷に沿ひて分布す。

ヒヤシ

ヒヤマ

路は四方長調より東の三等道路は面の略中部を横斷し、東方津川・金谷に通じ、金谷・長調間にバスの便あり、また臨津江に舟楫の便ありて、南部の沿岸地域は運輸便なり。聚落は臨津江岸と前記街道とに沿うて分布し、後者は面邑平日場あり。市場は陰曆二・七の日に開き大豆の取引殊に盛る。

ヒヤナン

社 臺灣臺北州羅東郡にある神社。宜蘭湖水溪の上流左岸支流モモン溪との合流點西北方約二軒の地に在り。約三十年前、頭目トライアヌは原社の地味渡海にて失墜すると人口の漸増に將來を憂慮し、現在の比較的肥沃なる土地を選定し、戸數二〇戸、人口一〇二を以てて移住し來り當社を形成せり。アマヤル族の漢頭番に屬する高砂族。戸數六五、人口三四六(昭和十一年調査)。

ヒヤハウ

社 臺灣臺北州蘇澳郡にある神社。大海水北溪の右岸スカオカン溪との合流點より南方約八百米の臺地に在り。アマヤル族の南漢番に屬する高砂族の部落。約百六十年前戸數七、人口二五人を以て臺中州龍高郡より移住し來り。既往に於て當社の屬する南漢番は天險の利を恃み、番丁の多數と銃器彈藥の豊富なるを誇り、傲慢にして常に兇暴を逞しうす。故に明治四十一年全番は新設したる隘勇線外に封鎖せられ、多大の苦痛を感じたれどもなほ多數の武器彈

ヒヤマ

檜山

【檜山支廳】北海道中島郡西岸にある支廳。東と南は函館支廳、北は後志支廳と接し、西は日本海に面す。江差・濱柳の二町と上ノ國・泊・厚澤部・乙部・鹿石・貝取調・久遠・奥尻・太櫛・東瀨部・利別の十一村より成る。人口八〇、九四五、面積二、八四九・一六方軒、一方軒の人口密度二八人(昭和十年現在)。南方、松

ヒヤマ

檜山

前との境に木無山(八九二米)・後倉山(六三一米)・大千軒岳(一一二八米)・七ヶ岳(九六四米)等の何れも安山岩より成り高山連立し、その北には石崎川・天野川流れて、下流に小海岸平野を形成す。更に北の八幡岳(六三九米)は第三紀層と安山岩地域との境に突出し、天野川と厚澤部川流域となつて、厚澤部川流域は城内北部の利別川流域の平野とともに二大平野をなすものなり。中島地峽部に花崗岩類より成るユラップ岳(一一三七米)聳え、その西方には毛無嶺(八八〇米)が海岸に迫り、帆越嶺・オナナ嶺を作る。北部後志支廳との境には花崗岩類より成るカニカン岳(九九五米)・噴出岩より成るメツプ岳(一一二二米)・野場嶺(一一五三二米)あり、海岸は茂津多岬を以て境とす。海上には帆越嶺の沖に奥尻島あり。なほ此地は古くより本州西海岸の住民が出稼に行きし所にて、その移民の歴史は古く、人口密度も北海道中にては大なる方にて一方軒二八人なり。出稼人は多く漁業に従事し、帆越嶺附近より北に於ては、江差附近に於て昆布を採取す。海上一帶より島嶼・岬・スケツクを産し、奥尻島の海岸にては鮑等を産す。これ等漁獲物は年額約二百五十萬圓にて、水産製造物を加へて約八百萬圓に上る。漁港としては、南に江差、北に瀨部あり。厚澤部・利別の二平野は農耕地にて、米・大豆を栽培するほか麥類等も行はる。

ヒヤシ

ヒヤマ

【檜山支廳】北海道中島郡西岸にある支廳。東と南は函館支廳、北は後志支廳と接し、西は日本海に面す。江差・濱柳の二町と上ノ國・泊・厚澤部・乙部・鹿石・貝取調・久遠・奥尻・太櫛・東瀨部・利別の十一村より成る。人口八〇、九四五、面積二、八四九・一六方軒、一方軒の人口密度二八人(昭和十年現在)。南方、松

ヒヤシ

ヒヤマ

【檜山支廳】北海道中島郡西岸にある支廳。東と南は函館支廳、北は後志支廳と接し、西は日本海に面す。江差・濱柳の二町と上ノ國・泊・厚澤部・乙部・鹿石・貝取調・久遠・奥尻・太櫛・東瀨部・利別の十一村より成る。人口八〇、九四五、面積二、八四九・一六方軒、一方軒の人口密度二八人(昭和十年現在)。南方、松

【檜山村】 北海道渡島支庁檜山支庁管下六郡の一。渡島半島西南部を占め、日本海に面す。北及び東は渡島支庁に接し、南は檜山町に接す。面積一〇五五・五六方...

【檜山村】 島根縣出雲國松江郡の東北部。島根半島に位して平田町の北に接し、東...

【日向】 日向郡の西。薩摩國境の千貫岳(四一八米)東南麓に發源し、東南流する...

【日向】 西海道十二箇國の一。九州島の東南部にあり。いま國内を宮崎・都城・...

四世の孫老男なるものを任命し給ふ。國郡制定の時、この國は筑紫七國の一となり、國府は今の宮崎郡佐土原附近に置かれしもの如くなるが、その位置詳かならず。奈良時代に至り和銅六年に日向の肝野・贈於・大隅・始福四郡を割きて大隅國を置く。鎌倉時代の初め島津忠久が日向・大隅・薩摩の守護となる。建武中興の時には忠久五世の孫貞久この國の守護を兼ね。足利尊氏の叛するや、國内の諸氏尊氏に従ふ。之より先、伊豆の伊東氏時この國に來り其の高島津氏と本州を争ひしが、州の北部日杵郡縣莊には土持氏があり州を三分して互に相率制す。天正の初めに至り島津久・義久等大舉して來り侵すに及び、伊東義祐等拒ぐ能はずして豊後に走り大友宗麟に寄り、土持氏また島津氏に降りしを以て島津氏は伊東氏の故地を合併す。ここに於て天正六年大友宗麟は兵を發して日向に入り、先づ土持氏を降せしが島津氏と戦ひて敗れ、本州は全部島津氏の有となる。天正十五年豊後吉吉の九州を征伐するや島津氏の侵略地を収め薩・隅の二國及び日向の一部(諸縣郡)を島津氏に與へ、秋月種實を高嶺(財部)に、伊東義祐を飯肥に、高橋元種を縣(延岡)に封せしが、慶長十八年除封、有馬貞純を経て内藤政綱に至る。關ヶ原役後、慶長八年に徳川氏は更に島津以久を佐土原に封す。爾後、江戸時代の間諸侯の轉廢等ありしが、幕末に...

【日向】 九州島の南部、日向國東方の海。陸棚の發達は著しからず、即ち陸部を距る約二〇軒にして二百米線に達し、更に東するに従ひ急激に深度を増し、百軒の沖にて殆ど三千米線に達す。海岸は北部にてキラス状の地層に鈣走する礫入と突出と交互するも、延岡以南は殆ど直線状をなして南走し、大淀川河口の南、青島の邊にまで延び、海岸砂丘發達す、而して青島以南は都井岬まで第三紀丘陵の海に迫るを以て再び小出入に富む海崖を示す。此の海上は恩賜の漁路に當り、羅の我國を防る最初の漁港を授けし、トローレ漁業・機織漁業發達す。【日向大東】 志布志線の一驛(昭和十年設置)。宮崎縣南那珂郡大東村にあり。【日向北方】 志布志線の一驛(昭和十年設置)。宮崎縣南那珂郡北方村にあり。【日向住吉】 日豊本線の一驛。宮崎縣南那珂郡住吉村にあり。もと夫郎別府驛(大正二年設置)と云ひしが、のち現名に改む。【日向長井】 日豊本線の一驛(大正十一年設置)。宮崎縣南那珂郡北川村大字長井にあり。

【日向】 日向郡の西。薩摩國境の千貫岳(四一八米)東南麓に發源し、東南流すること約二〇軒、加治木町の西にて鹿兒島灣に入る。その氾濫原は未産多く、帖佐嶺と米山嶺に名高き帖佐村は川口に近き山手にあり、上流には蒲生の大隈及び寺師の梅林あり。【日向】 千懸山麓國山武郡の西部。成東町の西隣にあり。全村丘陵地に於て森林あり。中部には地川東南に流れて、その流域のみ狭き低地に沼田をなす。農業行はれて米・麥を産し、養蠶・養鶏も盛なり。縣道は川沿ひに成東町に通じ、省線徳武本線また之に沿ひ、西部に日向驛(明治三十二年設置)を置く。この地は和名抄、武射郡屋敷の内なるべし。寛正二年伊達政綱、今の大字権崎の地に城を築き、子孫権崎氏を稱し千葉氏に屬せしが、天正十年千葉氏に滅さるといふ。【日向】 福井縣三方郡の西北部。日本海岸に近き鹹水湖。三方湖・木月湖・久...

【日向】 西海道十二箇國の一。九州島の東南部にあり。いま國内を宮崎・都城・延岡の三市と宮崎・南那珂・北諸縣・西諸縣・東諸縣・兒島・東日杵・西日杵の八郡に分ち、宮崎縣の管下に屬す。この國は古の瓊國の一部にして天孫降臨の神地といはれ、從つて高千穂峰を始め、神代・上代の遺跡に富む。往昔、神武天皇この國の高千穂宮にましまし、諸皇兄・皇子等を率ゐて東征の途に上り給ひし後、この國は永く熊襲の巢窟となり、景行天皇御親征あらせられ、この國の高屋行宮に在して熊襲を討ち給ふ。この時日向の國名を得しが、その地はひとより今日日向のみならず大隅・薩摩の地をも包含せるものなるべし。この國に國造を置かれしは鹿野天皇の朝にして景行天皇...

二二二

あれば注意を要す。
二二二 概陽面 朝鮮京畿道安
城郡の西南部に位置し、郡邑安城の西南
方に隣接す。城内に小丘陵起伏すれども
著しきはなく概ね平坦にして耕地よく拓
け安城川の灌漑あり、附近に於ける重要
農業地をなす。主要農産物は米・小麦・
豆類・粟・黍・甘藷・馬鈴薯等なり。ま
た馬場盛産砂金・現山砂金の産出の
一部にして砂金の産多し。社稷京南鐵道
京畿線は面の略中部を南北に縦貫し、
陽驛・古地驛(大正十四年設置)ありて直
接その恵に與る他、安城・天安間道路は
東部を縦貫し自動車を通じ交通・運輸便
なり。葉落密度は極めて大にして且つ普
遍的分布を見る。

二二二 表木山

二二二 表木山 省
更産線の一驛(大正九年設置)。鹿兒島縣
始良郡日當山村にあり。

二二二 兵庫

二二二 兵庫 福井縣越前國坂井郡のほぼ中
央。三國町の東南約七軒。面積四・八方
軒。越前平野中に位して地頗る低平、且
つ南境を對する兵庫川(九頭龍川の小支)
によりて灌漑の便よろしく、水田造く連
る。米の産多し其他に茄子・西瓜・胡瓜等
の農産あり、近時、絹織物・人絹織物の
生産大に行はるるに至る。社稷三國電
鐵城内を通じて下兵庫驛(昭和三年設置)
あり、また福井市・蘆原温泉へ縣道を通
じてバスの便あり。昭和十年の人口一五

八三人にして、一方軒當り三三二人の稠
密さを示す。この地は謂ゆる春日領河口
庄十郷の一なる兵庫郷と稱せし地なるべ
し。(春日神社)大字下兵庫に鎮座。郷
社。祭神、天兒屋根命。寛弘八年の勸請
にて當十郷の總社たり。往昔は宮殿・樓
閣・七堂伽藍・坊舎等を並べ、また種
種の実物・古文書等多かりしが、天正年
中、織田氏の兵火に罹りてより廢損す。
例祭三月八日。

二二二 近畿地方の西部。東は京都・
大阪の二府に接し、西は岡山・鳥取の二
縣に隣接し、北は方日本海に面す。また
南は大阪府・播磨灘に臨み、その間には
ほぼ南北に長く淡路島横たはり、島の東
南部は紀淡海峡を隔てて和歌山縣と相對
し、西南部は徳島縣との間に鳴門海峡を
挟み、南岸は紀伊水道の水に洗はる。攝
津の一部(神戸・西宮・尼崎の三市、武
庫・川邊・有馬の三郡)、丹波の一部(多
紀・水上の二郡)と、播磨(明石・姫路
の二市、明石・美郷・加東・多可・加
西・加古・印南・飾磨・神崎・揖保・赤
穂・佐用・栗原の十三方の五郡)および
淡路(津名・三原の二郡)五郡の五市二十
五郡を管し、縣廳を神戸市に置く。面積
八三二二方軒餘、人口約二九四萬、一方
軒の密度は三五一人を算し、内地道府縣
中、面積は第十二位、人口は東京府・大
阪府・北海道に次ぎて第四位、密度は第

十位に居る。(地形)構造上よりいへば
本州南嶺山系内帯の一部にして、瀬戸内
の陥没によりて成れる中國半島の頸部に
當る。曾て第三紀中葉に於て一時は全く
準平原化し、その後地塊運動の激しかり
し部分なれば地層の配列は頗る複雑にし
て、太古層は淡路南方の小島島沼島に限
られ、秩父古生層は播磨の中部と南但馬
に、中生層はそれらの北と丹波の徳山附
近及び淡路の南部とに、第三紀層は播磨
の東南部より攝津にかけ、また但馬の中
部に、花崗岩は六甲山・淡路の北半に、
流紋岩・石英斑岩は播磨・攝津の北部
に、安山岩・玄武岩は但馬の各所に分布
す。地形的に見れば東隣の丹波高原より
西方に連る中國山脈ありて縣の中部を略
東西に延び、その主分水嶺は播磨・但馬
の國界をなし縣を南北の兩斜面に分つも高
度は大ならず。概ね高原状をなし海拔一
千米以上の山岳地帯は廣からず。最高峰
をなすは但馬・因幡の國界に跨る白山火
山帯に屬する水ノ山にて標高五一〇米
を示す。武庫川・加古川・市川・揖保川
千種川は南流し、關山川(朝來川)・矢田
川は北流す。武庫川流域には徳山・三田
の二盆地と武庫平野、加古川・市川・揖
保川の下流域は即ち播磨平野をなし、
關山川流域には出石・豊岡の二小盆地、
淡路西南部には三原平野あり、これらの
盆地と平野は共に主要農産地帯をなす。
海岸は、日本海岸は山嶺直ちに海に迫り

七段二級弱なり。農産總額は一億二千六
百萬圓にして全生産總額の九・二%を示
す。米は農産物の大宗にしてその質良く
清酒醸造の原料に用ひらるるもの多し。

二二二 邊・飾磨二郡の葡萄・桃、川邊・明石二
郡の無花果の如き地方的に名高きものあ
り。工業農産は概して盛ならずも、攝
津・播磨・丹波・淡路の葉煙草、但馬の
把持は名高く養蠶・畜牛は但
馬を中心とし、牛は謂ゆる但
馬牛の名あり、近年は丹波・
西播・淡路にも畜牛は普及さ
れ、神戸肉となる肥育牛のほ
か、乳牛の頭數も増加せり。
(工業)工業は本縣の最重要
産業にして神戸市を中心とそ
の近傍、尼崎・西宮・武庫・
川邊・加古・明石・飾磨の各都市
に集中し、揖保・赤穂・多可・加西・津
名の各郡これに次ぎ、工場數四千七百四
十を超え、従業者總數二十二萬七千人に
達し、昭和十一年の工業額は實に十二億
圓を突破し、生産總額の八八%に近く、
大阪・東京に次ぎて全國第三
位に居る。産額順に云へば紡
織・金屬・化學・機械及び器
具・食料品工業等にして、紡
織工業は大阪・愛知に次ぎ、
綿糸紡績には織物の兵庫・高
砂・洲本、大日本紡の尼崎・
明石、福島紡の姫路・飾磨・
東洋紡の赤穂の各工場を始め
日の出・内外綿・大阪合同・
龍田・喜多等諸會社の工場あ
り、毛糸には伊丹製織所・今

二二二

今やバスの交通を見ざる處は殆ど無きに
至れり。今これらの主要路線を見るに、
國道の中國街道は大阪より來りて攝津・
播磨二國の南部を東西に貫き、作州街道
は姫路より起りて西北津山方面に向ひ、
山陰街道は京都より來りて但馬を西北に
貫きて鳥取縣に入る。また鐵道幹線には
東海道本線とこれに連る山陽本線はほぼ
中國街道に沿ひて西に走り、山陰本線は
始め山陰街道に沿ひ、ついで關山川左岸
を北走し、更に日本海岸に近く西に向ひ
てまた鳥取縣に入る。これら南北の鐵道
幹線を繋ぐものに尼崎に起る關山線、
姫路に發する播磨線あり。また省線新
線は姫路に起りて作州街道に沿ひ、津山
を過ぎて伯備線新見に達し、有馬線は福
知山線三田より有馬に、宮津線は山陰本
線豊岡より宮津方面に延ぶ。社線には加
古川に沿ひて南北に通ずる播丹鐵道とそ
の支線あり、神戸・姫路間には山陽電鐵
あり。特に神戸・大阪間とその附近には
東海道本線の外に、北には阪急電鐵神戸
線、南には阪神電鐵本線と同國道線(阪
神國道上に通ず)あり、阪急電鐵には伊
丹・甲陽・上筒井・今津の諸支線、阪神
電鐵には傳法線・尼崎海岸線・甲子園線
の諸支線あり、神戸よりは鈴蘭臺・有馬
温泉・三田に至る神有電鐵ありて交通至
便の地域をなす。淡路島には洲本・福良
間に淡路鐵道ある外、國・縣道上にはバ
スの柱來ありて交通また便利なり。海上

交通は神戸港その一大中心をなし淡路・
四國・九州諸港への近海航路は勿論、鮮
滿支諸港より歐米に至る航路を有す。其
他、明石・洲本・西宮・飾磨等の諸港灣あ
りて船舶の出入多し。(産業)土地の豊
饒、氣候の溫暖、位置の良好、交通の便
利等の自然的條件に恵まれ農工商の諸産
業活動盛にて昭和十一年の生産總額は十
三位七千萬圓の巨額に達し、大阪・東京・
愛知に次ぎて全國府縣中の第四位を占め
一戸當り約二千二百七圓、一人當り約四
百五十九圓を示す。(農業)縣の北部は
氣候やや寒冷なるも養蠶・牧畜に適し、南
部は氣候溫暖、土質肥沃にして耕種農業
の發達せる地なり。但し近年阪神地方商

Table with 3 columns: 種別, 金額, 千分比. Total amount 1,204,757千円, Total percentage 1000.

Table with 3 columns: 種別, 金額, 千分比. Total amount 7,110千円, Total percentage 1000.

津紡毛・日本毛織・山陽絹毛の工場、相承紡績には東洋紡、麻糸には小泉製麻、大阪製麻神崎の工場あり。綿織物は多可郡を中心として播磨の諸町村に普及し、毛織物・毛布類は日本毛織の加古川・米田の工場及び伊予製織所の生産にかゝるもの多し。化学工業には神戸市を中心とするゴム製品、加古郡別府の多木製肥工場をはじめ尼崎・武庫郡・神戸市にて生産せらるゝ人造肥料の外、製紙・海苔・樟腦・植物油・製革等を主なるものとなす。金属・機械及び器具等の重工業は近來特に發展し、川崎・三菱造船所・神戸製鋼所・住友伸銅鋼管工場・川西航空機製作所・川崎車輛工場・三菱電機製作所等の世界的大工場を有し、鋼塊・鋼線・造船鐵金・特殊鋼・釘類・板製品・船舶・原動機・紡織・車輛・自轉車・電気機械器具・農工具等を主要製品とす。また美濃郡三木の刃物は古來世に著る。その他、食料品工業は西宮市・武庫郡の御ゆる灘五郷の清酒を第一に、西宮の大日本麥酒、尼崎の麒麟麥酒、排保郡龍野の醬油、排保・飾磨二郡の素麺等名産あり。工業中の機織は大岡マツチ工場及び同社系の工場にて主として製造せられ年産額約一千萬圓にして全産額の約七五%に達し、行李・籠・バスケケット等を主とする杞柵製品は産額大ならざるも城崎郡の特産品として機織と共に全国的にその名を馳す。また縣下到處製材業行はれて

板・角・丸・ベニヤ板等を産し、西宮市及び武庫郡に於ける清酒醸造は桶樽類の木製品製造を發達せしめたり。(三)商業。縣下農工業の旺盛と世界的の間港神戸を擁して内外物資の出入頻繁を極むるにより商業・貿易また甚だ盛大に行はる。本店を縣内に有する會社数は六千五百に近く、その公稱資本金(または出資額)は十三億六千萬圓に達し、これを營業別に見れば商業會社は六〇%、工業・運輸の會社これに次ぎ最も少きは水産會社なり。また分布上より見れば神戸市は約三分の二を占有し、武庫郡・姫路市・西宮市・尼崎市等これに次ぎ、縣の東南部が如何に商業的に重要な地域たるかを如實に物語るを知るべし。神戸港の貿易は年々異常の伸張を示し、昭和十一年には輸出九億七千萬圓、輸入は約九億五千八百萬圓、總額十九億三千萬圓に近く、大阪・横濱と共に我國の三大重要開港たり。輸出品は綿織物・生糸を主とし、人絹・絹織・毛織・運動靴・メッキ品等これに次ぎその大部分は全製品なり。輸入の主要品は米・英領印度・埃及よりの棉花を筆頭に、アルパ・羊毛・機械類・生ゴム等これに次ぎ、大部分は原料品に屬し、全製品輸出状況に對比して我國が如何に原料外國依存の加工業國たるかを察知するに足らん。神戸港はかく主要開港たるに止らず、西國・中國・九州より北海道・樺太・朝鮮・臺灣・南洋等の各港

との取引旺盛にして、内國貿易上の重要港たり。國鐵業。主要嶺山は生野及び明延(養父郡南谷村)にして、鐵産物に金銀・銅・鉛・鋳等あり、その總額約一千五百六十萬圓に上り、外に石材・砂利・花崗岩・安山岩等の石材・土石等の産額三百二十餘萬圓あり。(四)水産。南に瀬戸内海、北に日本海を控へ水産また少からず。昭和十一年の新業者は三萬人、漁船一萬一千艘を超え、沿岸漁獲物約六百萬圓、水産製造高約三百三十萬圓、養殖高十八萬圓、寒天約七十五萬圓、水産總額一千四百四十萬圓に上る。(治平)明治四十七年七月廢藩置縣行はれ、地方行政區劃の基礎新たに制定せらるゝや、同年十一月二日に豊岡縣を置き、丹後・但馬二國及び丹波國のうち多紀・水上・天田の三郡を管轄し、次いで十一月九日に姫路縣を併合し、改稱し播磨國一國を、十一月十五日には名東縣を置き阿波・淡路二國を十一月二十日には兵庫縣を置き攝津國のうち八部・荒原・武庫・川邊・有馬の五郡を各管轄す。總して明治九年八月に飾磨縣・豊岡縣及び名東縣を廢し、飾磨縣播磨國一國と豊岡縣但馬國一國、丹波國のうち多紀・水上二郡及び名東郡淡路國一國を兵庫縣へ合併し、豊岡縣丹波國一國と、丹波國のうち天田郡とを京都府へ、名東縣阿波國一國を高知縣へ夫々合併せり。明治十三年攝津國八部の内を割きて神戸區を置き、同十二年神戸區

を改めて神戸市と爲し、飾磨郡の一部を割きて姫路市を置き、何れも同年より市制を施行せり。次いで明治二十九年三月に攝津國のうち八部・荒原・武庫の三郡を廢しその區域を以て武庫郡を置き、播磨國飾磨・飾磨・排保・神崎の三郡を廢し、その區域を以て武庫郡を置き、播磨國の六郡及び多可郡の一部とを廢しその區域を以て飾磨・排保・神崎の三郡を置き、但馬國城崎・美含・氣多・七美・二方の五郡を廢し、その區域を以て城崎・美含の二郡を置き、同年これを實施せり。また明治二十九年岡山縣管下、美作國吉野郡石井村及び讚甘村大字中山を播磨國佐用郡に編入す。かくして本縣の管轄區域は現今の状態に於ては落つき、爾來四十年餘年その境界を變ぜず。【兵庫】山陽本線の一駅(明治二十一年設置)。神戸市兵庫區の一駅(明治二十一年設置)。神戸市兵庫區兵庫突堤にあり。【兵庫村】佐賀縣肥前國佐賀郡の東部。佐賀市の東北約〇・五軒にあり、東は神崎郡に界す。地形極めて平坦にして水田よく拓け米産多し。東南部には佐賀市と東北方神埼町とを結ぶ國道通過してバスの往來繁しく中部には省線長崎線斜めに横切りて伊賀屋驛(昭和三年設置)を置く。村名は慶長年中、佐賀藩の成宮兵庫の開墾せしに因む。【ヒョーズ】兵主村 滋賀縣近江國野洲郡の北部。野洲川と日野川に挟ま

れて其の河口近くに位し、北部僅に琵琶湖に臨む。前記二川の三角洲上に位する爲め地形極めて平坦にて、西端に沿ひて野洲川北上し、中洲村に入りて湖水に注ぐ。日野川は東端にて稍々境界に沿ひて北上し北里村に流れ入りて湖に注ぐ。北部には南方へ侵入する二三の湖あり。農産を主とし米・蕎麥・穀類用作物・桑葉・茶葉等を産し、また水産及び林産あり。縣道縱横に通じ南方野洲川へバスの便あり。中世は兵頭莊と呼ばれ、【兵主神社】大字五條に鎮座。縣社。祭神、大己貴命。飲明天皇御代の鎮座と傳ふ。元正天皇養老二年社殿の造替あり、式内名神大社に列せらる。源賴朝本社に武運を祈り、天下第一の神社殿を造替し、三千餘石の神領を寄す。近世は振はず。例祭、五月五日。(法藏寺)大字六條にあり。淨土宗。慶長年間、當國安土淨土院の僧清閑來りて本寺を開創し、以て念佛弘道の道場となす。毘沙門天立像(木造)一軀(慶應末制作)は國寶。(藥師堂)大字須原にあり。淨土宗。同村西徳院に屬す。本尊、藥師如來坐像(木造)一軀は慶應末制作に係り國寶。(佛法寺)大字井口にあり。淨土宗。桓武天皇御宇最澄の草創なりと傳ふ。元龜二年織田氏の兵火に罹りて衰頽せしを、慶長四年再建せらる。寺寶中、聖觀音立像(木造)一軀(藤原初制作)は國寶。

【兵主神社】大字五條に鎮座。縣社。祭神、大己貴命。飲明天皇御代の鎮座と傳ふ。元正天皇養老二年社殿の造替あり、式内名神大社に列せらる。源賴朝本社に武運を祈り、天下第一の神社殿を造替し、三千餘石の神領を寄す。近世は振はず。例祭、五月五日。(法藏寺)大字六條にあり。淨土宗。慶長年間、當國安土淨土院の僧清閑來りて本寺を開創し、以て念佛弘道の道場となす。毘沙門天立像(木造)一軀(慶應末制作)は國寶。(藥師堂)大字須原にあり。淨土宗。同村西徳院に屬す。本尊、藥師如來坐像(木造)一軀は慶應末制作に係り國寶。(佛法寺)大字井口にあり。淨土宗。桓武天皇御宇最澄の草創なりと傳ふ。元龜二年織田氏の兵火に罹りて衰頽せしを、慶長四年再建せらる。寺寶中、聖觀音立像(木造)一軀(藤原初制作)は國寶。

【屏風】石狩川上流の右岸に臨み、北海道上川支廳愛別村に峙つ。石狩川上流を隔てて南方約二〇軒に石狩岳(一九八〇米)、南西方十二軒前後に大雪山(一九八〇米)、南西方十二軒前後に大雪山の諸峰峙つ。標高一七九二米。山體は鬱蒼たる森林を以て掩はる。登山は試みられず。いま大雪山國立公園地域に屬す。【屏風時】石川縣鹿島郡龍登島の西南に斗出する岬角。西島村に屬す。七尾灣内の勝地にして、南は屏風嶺を隔て石崎に對す。その距離一軒に及ばず。沿岸諸崖を成し屏風を立つるが如し。

【屏風】石狩川上流の右岸に臨み、北海道上川支廳愛別村に峙つ。石狩川上流を隔てて南方約二〇軒に石狩岳(一九八〇米)、南西方十二軒前後に大雪山(一九八〇米)、南西方十二軒前後に大雪山の諸峰峙つ。標高一七九二米。山體は鬱蒼たる森林を以て掩はる。登山は試みられず。いま大雪山國立公園地域に屬す。【屏風時】石川縣鹿島郡龍登島の西南に斗出する岬角。西島村に屬す。七尾灣内の勝地にして、南は屏風嶺を隔て石崎に對す。その距離一軒に及ばず。沿岸諸崖を成し屏風を立つるが如し。

成りし臺灣府志(續修)に見え、特海紀述は鹿里智口、臺灣使徒録及び蕃族六考は鹿里即吼に作る。

苗栗

【苗栗郡】臺灣新竹州の一部。州の南端に位し、南は大安溪を隔て、臺中州に、北は後龍溪によりて竹南郡と境す。東は大湖郡に隣接し、本島唯一の石油鑽たる出磺坑は本郡の東端大湖郡界に位す。西は廣く臺灣海峡に臨み、海岸線延長一九九軒に達するも、向少なく良港に乏し。管内山岳丘陵に富み、大安溪、後龍溪、打那叭溪の三溪の流域に於ては相當廣大なる平地を有す。氣候は概ね温和にして雨量多く、地味も亦肥沃なるを以て、平地、山地共に各種の産物に富み、水産物に於ても將來を期待せらる。管内面積五二五・九四方軒にして、苗栗街・頭屋庄・公館庄・銅鑼庄・三叉庄・苑裡庄・通霄庄・四湖庄の一街七庄を管轄し、總戸數一八七五七、人口一二六二二六を有す。住民は内地人・本島人・外人(支那人)にして、海岸地方には福建系本島人、其他の地方には廣東人多し。郡下に於て重要な産業は農業・畜産業・林業・水産業・製鹽業・蠶業及び商工業等に於て、農業に於ては年産約三八〇萬圓を生出し、米・茶・甘蔗・甘藷・柑桔等を其主要なる産物となす。本郡は由來畜産業の適地にして、特に牛畜は其の肉質優良なるを以て名あり、年畜産總生産額は約一

六〇萬圓に達す。郡の東部山地には自然林・造林多く其の成績良好にして、林業生産額としては木炭二五萬圓、薪一八萬圓を主とし、生龍眼・生柿・樟皮等を合して約五萬圓の副生産あり。本郡沿海は魚類豊富なるも漁獲法極めて幼稚なると、沿海に適當なる漁船の建造なきため、殆んど全部が竹筏に依つて沿海漁撈をなすに過ぎず。従つて漁獲高は五つて僅少にして、年四萬圓前後なり。本管内はまた地勢、氣候的關係上養蠶地帯として全島的に名實共に著名にして、山手方面に多くの自然生糸の山桑葉茂せる外、桑園の新設等も行はれ、養蠶戸數は逐年増加し養蠶界に目覚めし發達を遂げつゝあり、近年は年三萬圓に達する蠶業生産額を有す。蠶業に於ては管内に石油・石炭を有するも、石炭は品質良好ならず又礦區遠隔の地にありて搬出に不便なり。本島有数の石油坑として名高き出磺坑は大湖郡界にありて噴油量多く、其質また良好なり。農業地たる本郡の商業は其の盛なむべからざるも、商取引は相當行はれ、その輸出品の主なるものは米・木炭・砂糖・茶及び帽子等に於て、殊に三角帽子及び紙を材料として造らるる、帽子は婦女の家庭副業として稱揚せられ、年産約三十萬圓に達し、其の大部分は海外諸國主として米國に輸出せらる。また其他に苗栗地として知らるる陶器、竹製品等も主なる工業に屬す。交通に於ては、郡下

ありて山麓村内を走り、村の大部分は山地をなし、ただ東北部の一部のみ低平なり。信濃川の支流黒川は東部低地を北流し灌溉に便す。純農村にして米・蠶等を出さ。交通は社長長岡鐵道の越後原驛(東陽原町地内)に近く、比較的便利なり。本村の大字七日市は近世、羽州上山藩(松平氏)の陣屋を置き、附近一萬五千石の邑を治せし地なり。

日吉村

【日吉村】千葉縣下總國香取郡の南隅。多古町の東南方にて栗山川に沿ひ、東部は鹿嶋郡、西南は山武郡の一部と隣す。東部は丘陵地をなすも、西部は栗山川流域の平地をなして農業・養蠶行はれ、米・蠶・麥を産し養蠶も行はる。縣道は多古町及び南方山武郡横芝町に通ず。横芝町に省線武本線横芝驛あり。北隣吉田村には成田鐵道下總吉田驛を置く。

【日吉村】岐阜縣美濃國土岐郡の北部。和名抄、土岐郡日吉郡の内。木曾川の左岸に沿ひ、北は木曾川を境に加茂郡に、西は可見郡に、東南は土岐町に接す。北部に高根山・高根権現山等、五百米餘の山岳連なり木曾川へ絶壁を以て臨み、南へは緩傾斜をなす。全村高原性にして可兒川の水源をなし、別に小支流を南方土岐川へ源流す。農業を主とし蠶業・蠶業に従ふものも多少あり。舊中山道は略中央を東西に走り、南北へ道路を分岐す。土岐津・御嵩兩町へ縣道通じ土岐津驛よりバスの便あり。(鬼宮溪)指定名跡・天然記念物。東美鐵道御嵩驛の東約八軒にあり。俗に鬼岩といふ。朝鮮の金剛山、甲斐の昇仙峽等と同種の花崗岩の溪谷にして、磊々たる巨巖谷の兩岸に峙ち、清流その間を走る。巨巖下に岩窟あり、昔、秘代の兎窟の棲みし址なりといふ。花崗岩の風景地として日本有数のものなり。(鬼岩噴泉)東美鐵道御嵩驛の東南約六軒の地にあり。硫化水素を含有

する硫黄泉にして加熱浴用に供す。附近に顯興寺・鬼岩公園等あり。(酒波神社)神社。祭神不詳。美濃國神名記に土岐郡七社、正一位酒波大神と見ゆるもの即ち是なり。社傳に高倉天皇の御宇、源三位頼政の勳功に褒ると。例祭、九月十五日。

【日吉村】岐阜縣美濃國美濃郡の北部。高田町の北約二軒にあり、北は不破郡に接す。西北部に養老山脈の末端僅かに含む外、村内概ね平坦肥沃なる耕地をなし、西南部を掛兼川の一支牧田川貫流す。主産業は農業にして米・麥・蔬菜類を産す。中央を南北に縣道走り、高田町へバスの便あり、之より大垣市へ參宮急行電鐵の便あり。

【日吉】愛知縣八名郡にありし村。明治三十九年兼本村と合し舟着村を置く。

【日吉】鳥取縣日野郡にありし村。明治四十五年、本村及び吉壽村を廢し、その地域を以て八郷村を建つ。

【日吉村】愛媛縣伊豫國北宇和郡の東北隅。本郡東北部に廣大な面積を占め、北は東宇和郡に、東は高知縣高岡郡に界し宇和島市より東北約一三軒にあり。四周は高峻なる山脈により圍繞され、東北境に高研山(一〇五三米)、南境に長山(九四〇米)、西南隅には戸紙御前山(九四七米)、西北隅には御在所山(九〇八米)等の峻嶒屹立し、村内山岳重疊して險峻なる地形を呈す。中央には東北境高研山に發して屈曲しつゝ西流する廣見川

あり。沿岸に低地らしきもの殆どなし。農業を主産業とし米・麥・蠶を産す。特産物には松茸・木炭あり。河谷に沿ひて西に走る縣道ありてバス通す。寛政五年熊田武左衛門を首領とする百姓一揆あり吉田藩家老安藤顯明の引切切腹等によりて事件落着せしといふ。

【日吉】愛媛縣越智郡にありし村。大正九年今治市に編入す。和名抄、越智郡日吉郡の地なり。

【日吉】山田町(福岡縣嘉穂郡)あり。沿岸に低地らしきもの殆どなし。農業を主産業とし米・麥・蠶を産す。特産物には松茸・木炭あり。河谷に沿ひて西に走る縣道ありてバス通す。寛政五年熊田武左衛門を首領とする百姓一揆あり吉田藩家老安藤顯明の引切切腹等によりて事件落着せしといふ。

【日吉】福岡縣手郡にありし村。明治四十一年、吉川村と共に廢し、その地域を以て新に吉川村を置く。

【日吉村】熊本縣鹿兒島郡鹿野郡の南部。熊本市の南に接し南は隴川を隔てて下益城郡に對す。地形低平にして南部に田無川西流し、南境に沿ひて隴川西に流る。西北部熊本市の境界には白川の南流するあり、やがて村境を離れて西折す。地味肥沃にして耕地頗る發達し米・麥の産多し。西部に熊本市と西南隣川尻町とを結ぶ縣道走り省線鹿兒島線川尻驛へは西約一軒、熊本驛へは西北約一軒にして交通の便よし。大字世安の邊の白川の徒涉點を且過り瀨といひ、天正八年阿蘇大宮司の家老甲斐宗運、大友氏のために城・赤星等二心あるものと戦つて勝つし處なりといふ。明治天皇熊本行幸の時、明治三十五年十一月十三日、本村役場に御小休あらせらる。(日吉神社)大字十軒寺に

備後。郷社。大山寺外六神。仁平二年、石浦河内守經國、江州阪本山王を勧誘すと傳ふ。倒祭、十月九日。〔大慈寺〕大字野田にあり。曹洞宗。大慈山と號し、永平寺末。弘安年中、寒巖義尹の開創に係る。寒巖は後鳥羽天皇皇子といひ一に順徳天皇第三皇子とも傳ふ。往昔朝野の尊信厚く寺領等も多し、寺運隆盛を極めしといふも、永正十七年兵火に罹りて炎上す。洞春これを再興し後奈良天皇より勅額を賜はるといふ。爾後、加藤・細川氏等寺領を寄す。いま國內門葉三百八十二箇寺を有し、九州に於ける同宗圓一の名刹。

ヒライ

日美村 岡山縣備中國吉備郡の西部。高梁川の左岸に沿ひ、郷社の西北北二軒餘。村形西部は細長く高梁川に沿ひて西方へ延ぶ。全村山地をなし北部に高く南部に低く南端に沿ひて高梁川扇面しつつ東南流す。米・麥・蕎麥を生植す。薄荷・酒類の特産あり。河川に沿ひて藪道及び省備伯備通過して後者は美袋驛(大正十四年設置)を置く。この地は和名抄、真夜那日羽郷の内にして日美は日羽の轉訛なりといふ。

ヒライ

日美村 長野縣信濃國西筑摩郡の中東部。岡島町の東北約三軒、東南は上伊那郡伊那町に隣接す。東境に茶白山(二六五三米)・大瀬入山(二三七五米)の連峰南北に連り、大瀬入山の西に水澤山(二〇〇三米)聳立す。西北部を木

曾川の上支西南に流れ沿岸に僅に低地ありて耕地開く。米・麥・蕎麥を産し、水澤山と大瀬入山の山中は日義御料林と成る。岡道中山道は木曾川に沿うて通じ、省備中央本線また之に沿うて走り、宮ノ越驛(明治四十三年設置)を置く。この地の大字宮越は善中仙道の宮越宿にして、木曾川の右岸に臨濟宗徳善寺あり、木曾義仲の菩提寺たり。明治天皇、明治十三年山梨・三重及び京都行幸の際、この地に御休あらせらる。(宮の越)宮ノ越驛所在地。巴ヶ淵と稱する木曾川の急湍は北方八〇〇米の地にあり。宮ノ越城は木曾義仲の本城たりし所にして、附近に義仲の元服せし八幡宮及び今井兼平の邸址あり。川の對岸徳恩寺に義仲の位牌安置せられ、境内に巴御前の墓なるものあり。

ヒライ

比良 愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年本村ほか四村を廢し、山田村を置く。〔比良山脈〕濃尾關西部の山脈。琵琶湖の西岸に屏風の如く屹立して南北に連なり、南は和通川を以て北畠山脈に地し、西は安曇川の深き構造谷を以て丹波高原に接す。北より蛇ヶ峯(九〇二米)・武奈ヶ岳(二二四米)・蓬萊山(一一〇三米)・打見山(一一七四米)・權現山(九九五米)・龍仙山(七五二米)等の諸峯連り、殆んど花崗岩を以て構成せられ、北部西側には古生層を合して一山塊をなす。

ヒライ

比良 愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年、本村ほか七村を廢し高橋村を置く。〔平井〕愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年、本村ほか二村を廢し東郷村を置く。〔平井〕兵庫縣丹波郡にありし村。明治四十二年本村及び桑原村・布庭村を廢しその地域を以て揖西村を置く。〔平井〕岡山縣上道郡にありし村。昭和六年岡山市に編入さる。〔平井町〕香川縣讃岐國木田郡の中央東北部。高松市の東南方約六軒。東北部は大川郡志度町に接す。北部には低き丘陵ありて北方に瀬戸内海、西北方に尾島を望み、中部及び南部は高松平野の東部を占むる平地にして、中央に大きな瀬戸沼あるを初め所々に灌漑用池沼あり。西南部には西北流する河川ありて約七軒先にて瀬戸内海に注ぐ。全戸数千二百數十戸の中約七割は農家にして穀物・野菜等を栽培し、残りの三割は商業を営む。南部には東西に走る阿波街道ありて西方丸龜市に至り、また之より分れて西北方高松市に向ふ縣道あり、市街地之に沿ひて發達す。社線高松電氣軌道線南部を横斷し鹿伏・妙徳寺・平木・田中道・池戸の各停留所あり。もと平木・井上・池戸・鹿伏の四箇村を合併して平木・井上の頭字を取りて平井村とし、大正八年町制を布く。また此地の人奈良博士は農學家にして稻

山頂が一面の平原をなせるは準平原の隆起して生ぜし地盤なることを明示するものにして、山中到る處花崗岩の礫層のあつと奇峯斷崖を連続せしめ、從つて東面の懸崖下にはその土砂の堆積を以て標式的なる扇狀地を展開し、白砂青松の湖岸美をなす。山脈は丹波高原の東の縁邊となる關係上、裏日本よりの吹雪を悉く吸收し、晩春に至るもなほ白雪を被きて華雪の風景を形成し、また野個のスキー場を提供す。なほ八景を以て知らるる比良山はその南部なる蓬萊山の稱にて、こゝより山嶺を北に縱走して最高峯武奈ヶ岳に至るものを近江アルプスともいふ。〔比良山〕↓比良山脈

ヒライ

比良 加賀國(石川縣)の古地名。延喜式兵部省式に加賀國比良郡馬五正と見ゆ。いま石川郡石川村の邊が即ちその地ならんといふ。手取川をもと比良川と呼べり。〔比良〕鹿羅 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に松浦郡鹿羅郷あり、その地、今の平戸島に當り、貞觀十八年、この郷を上近郷・下近郷に分けしが、久しからずして中止す。延喜式に鹿羅馬牧あり、往時放牧の場を置かれしものなるべし。

ヒライ

平ヶ岳 越後山系清水山塊の一峯。利根川水源地の左岸に位し、東斜面は新潟縣北魚沼郡湯之谷村に、西斜面は群馬縣利根郡水上村に屬す。標高二一四〇米。北西麓は銅ヶ倉山(一九九八米)・

大水上山(一八四〇米)・兎岳(一九二六米)を経て、中ノ岳(二〇八五米)・駒ヶ岳(二〇〇三米)に連なり、南麓は白澤山(一九五三米)・東白澤山(九四二米)を経て至佛山(二二二八米)・笠ヶ岳(二〇五八米)に續く。西斜面は南流する利根川の上源地たり。山頂は平坦なるに因り、山名出づと云ふ。山頂東部に小池を湛へ、池畔に珍奇なる毛氈苔・白山小蘗など生育して美し。また卵石と稱する卵に似たる瓦岩あり。大正四年、高瀬式氏の初登頂に成功後、次第にこの山の幽邃味を求めて登山者の増加するに至れり。登山は銀山平より只見川の一支流を南西方に廻るか、大水上山方面より尾根傳ひにて行はる。

ヒライ

比良居村 山口縣周防國大島郡大島の中。廣島灣に臨み西北は久賀町に接す。背後に山を負ひ西北端に嵩山そびえ前面は海に臨む。海岸中央に丘陵東北に突出して岬をなし其の東に丘陵低地ありて部落發達す。東南部は約半軒南に到れば海岸に出づ。海上處かに浮島・頭島等浮島、其の前面に我島・ハンド島・飛瀨島等の小島散在す。水産・農産・林産あり。久賀町へ海岸を傳ひて道路走り、沿岸には便船あり。(白鳥八幡宮)大字日前に鎮座。郷社。祭神、應神天皇外二神。創建年次詳ならずも、山城國男山八幡宮よりの勧誘といふ。倒祭陰曆八月十五日。

ヒライ

平井 群馬縣上野國多野郡の東北部。藤岡町の西南隅にて、鑛川の南岸。西境附近には山地あるも、他は平地にて、鑛川の支流結川北流す。農業行はれて米・麥を産し、また養蠶盛にて繭の産額大なり。縣道藤岡町に通じ、岡町に省線八高線群馬縣岡野を置く。この地は和名抄、絲野郡佐味郷の内なるべく、戦國時代の名城として知られし平井城のありし所。麻産興業・灌漑に盡力せし大谷新左衛門(贈從五位)及び幕末、齋藤大之進(贈從五位)は本村の人。(平井城)山内上杉氏の居城。城址は大字西平井の結川の西崖にあり。上杉顯定が此處に築き平井城とより移り、爾來上杉氏相次ぎて居城とせしが、寛政の時、天文二十年北條氏康に攻められ防戦及ばず城後に走る。氏康即ち北條長綱を置く。永祿元年、上杉(長尾)景虎これを復せしも防備に缺くる所あり、既橋城(前橋)に移りて城廢す。

ヒライ

平井村 東京府武蔵國西多摩郡の東南部。五日市町の東方約四軒にある小村なり。北境は約二七〇米の山地をなすも、南部は平地にて麥・米を産し、一般に養蠶盛んにて繭を多産す。府道は五日市町及び南隣西秋留村に通じ、同村に五日市鐵道線西秋留驛を置く。〔平井〕省線總武本線の一驛(明治三十二年設置)。東京市江戸川區平井三丁目にあり。

ヒライ

愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年、本村ほか七村を廢し高橋村を置く。〔平井〕愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年、本村ほか二村を廢し東郷村を置く。〔平井〕兵庫縣丹波郡にありし村。明治四十二年本村及び桑原村・布庭村を廢しその地域を以て揖西村を置く。〔平井〕岡山縣上道郡にありし村。昭和六年岡山市に編入さる。〔平井町〕香川縣讃岐國木田郡の中央東北部。高松市の東南方約六軒。東北部は大川郡志度町に接す。北部には低き丘陵ありて北方に瀬戸内海、西北方に尾島を望み、中部及び南部は高松平野の東部を占むる平地にして、中央に大きな瀬戸沼あるを初め所々に灌漑用池沼あり。西南部には西北流する河川ありて約七軒先にて瀬戸内海に注ぐ。全戸数千二百數十戸の中約七割は農家にして穀物・野菜等を栽培し、残りの三割は商業を営む。南部には東西に走る阿波街道ありて西方丸龜市に至り、また之より分れて西北方高松市に向ふ縣道あり、市街地之に沿ひて發達す。社線高松電氣軌道線南部を横斷し鹿伏・妙徳寺・平木・田中道・池戸の各停留所あり。もと平木・井上・池戸・鹿伏の四箇村を合併して平木・井上の頭字を取りて平井村とし、大正八年町制を布く。また此地の人奈良博士は農學家にして稻

の改良、碎塊器の創製、洋種蔬菜の栽培等、我國農業界に裨益するところ多し。明治二十五年歿、年七十一。贈從五位。〔平井村〕熊本縣肥後國玉名郡の西部。東西に細長く西北北は西北方大牟田市南部との間に約二軒を隔つ。北は福岡縣三池郡に界し、西は豊後町を隔てて有明海なり。東南部に鶴ヶ岳(五〇一米)ありて四周へ傾斜し、村内丘陵地をなす。北部には諏訪川ありて東半は村境に沿ひ、西半は境界の僅か南を西に向つて流れ、西北部流域に稍々低地を見る。米・麥・粟・甘藷の産あり。三池街道中央を縱貫し省線鹿兒島本線高田驛は西方二軒餘にてバス便あり。この地は和名抄、玉名郡爲多郷の内なるべし。

ヒライ

飛來峯 朝鮮平安北道の山。梁瀋郡・昌城郡に跨り、一四七〇米の最高點は碧瀾郡松西面・城南面と昌城郡祐西面との境上にあり。山の北斜面に南洞川、西斜面に興洲川發源して鴨綠江に注ぎ、南斜面には大寧江の支脈なる飛來峰山脈の主峰とす。同山脈は東縁は蓋馬高臺に續き、平安北道の北部を鴨綠江の通谷に沿うて西南に走り、東北より慈城江・禿魯江・忠滿江等の鴨綠江支流により横ぎられ、飛來峰の西南四〇軒に天摩山(一六九米)の峻峰を聳立せしむ。

ヒライ

平石 栃木縣下野國河内郡の東部。〔平石村〕

宇都宮市の東隣にて、鬼怒川の西岸。東は川を隔て、芳賀郡の一部と相對す。全村平地にて鬼怒川附近は水田多く、他は畑地をなす。農業行はれて米を主産し、他に麥・蕎麥を産す。近年、製糸業發達す。陸羽街道は宇都宮市より來り、村の西北部を東北に走り、その他にも二條の縣道宇都宮市に通ず。南部の縣道は、宇都宮市・茂木町間の省費自動車茂木線の通路なり。陸羽街道に沿ひて省線東北本線通ずるも、村内に疎なく、宇都宮市に宇都宮驛、北隣古里村に同本驛を置く。村内に宇都宮高等農林學校あり。大字石井は横田系團に出羽守時(頼業の子)の次男五郎左衛門尉業澄は此の地を知行すと見ゆ、業澄は石井氏の祖たり。

ヒライ

平泉村 岩手縣陸中國西磐井郡の東北部。一關町の北約三軒、東は東磐井郡長島村、北は鹽澤郡衣川村・前澤町に隣接す。面積四四・〇三方軒。中部東西に百米乃至二百米の丘陵性山地連互し、東部末端に高館・中尊寺・毛越寺等あり。北上川は衣川・太田川等を入れ東部を南流し、各河川沿岸には廣き沖積低地あり。米(一八六千圓)。

ヒライ

平石 栃木縣下野國河内郡の東部。〔平石村〕

宇都宮市の東隣にて、鬼怒川の西岸。東は川を隔て、芳賀郡の一部と相對す。全村平地にて鬼怒川附近は水田多く、他は畑地をなす。農業行はれて米を主産し、他に麥・蕎麥を産す。近年、製糸業發達す。陸羽街道は宇都宮市より來り、村の西北部を東北に走り、その他にも二條の縣道宇都宮市に通ず。南部の縣道は、宇都宮市・茂木町間の省費自動車茂木線の通路なり。陸羽街道に沿ひて省線東北本線通ずるも、村内に疎なく、宇都宮市に宇都宮驛、北隣古里村に同本驛を置く。村内に宇都宮高等農林學校あり。大字石井は横田系團に出羽守時(頼業の子)の次男五郎左衛門尉業澄は此の地を知行すと見ゆ、業澄は石井氏の祖たり。

ヒライ

平泉村 岩手縣陸中國西磐井郡の東北部。一關町の北約三軒、東は東磐井郡長島村、北は鹽澤郡衣川村・前澤町に隣接す。面積四四・〇三方軒。中部東西に百米乃至二百米の丘陵性山地連互し、東部末端に高館・中尊寺・毛越寺等あり。北上川は衣川・太田川等を入れ東部を南流し、各河川沿岸には廣き沖積低地あり。米(一八六千圓)。

ヒライ

平石 栃木縣下野國河内郡の東部。〔平石村〕

妻(五四千圓)・大豆(一七千圓)・馬鈴薯(四千圓)・桑葉(一三三圓)・野菜(八千圓)を産し、山間部には梨・柿・葡萄等の果樹(二千圓)を栽培す。養蠶も盛んにして春繭(一七千圓)・夏秋繭(一七千圓)を挙げ、なほ郡内に於ける特産物として大麻を東部低地より産し、原料として輸出するもの多かりしも、今は開田等による畑地減少により昔日の如き産なし。外に用材(松・杉)・薪炭材・木炭(約一四千圓)を出す。(数字は昭和十一年現在)。

もなく亡びし爲めこれを除いて三代といへるもの。この藤原氏は鎮守府將軍藤原秀郷四代の孫頼遠といふもの下地に下りその子藤原清原氏の地に移りて互權大夫となりしが、安倍頼時的女婿たりし關係より前九年の役に安倍頼氏に當り誅せらる。然るにこの役、源頼義を援けて殊勳を奏し、鎮守府將軍となりし出羽の清原武則は、経清の妻とその子清衡とを連れ歸り、妻を己の子武貞に妻せしむ。かくて清衡はここに清原氏を移せしが、この後に後三年役清原氏亡ぶるに及び、本姓に復し藤原氏を稱せりといふ。清原氏亡びてその遺領はそのまゝ清衡の手に歸して陸奥六郡を領し、更にその勢力は安倍・清原二氏の上に出で居居豊田館を出で衣川を越えてその南なる平泉に根據を構へ、その勢力奥羽二州に及ぶ。かくて清衡は、その富に任せて榮華を極め、中尊寺の壯麗は人目を驚かす。中尊寺建立は清衡が京都の文化を憧憬して、これを陸奥に移して東國に文化の中心を造らんとせる具體的表現の一にて、當時堂塔四十餘宇、禪房三百餘宇ありと云ひ、今僅に遺れる金色堂はその贅美當時の文都に於ても、これに匹敵する程の建物は無かりしといふ。子の基衡に至りては、勢力更に父に過ぎ南方遠く信夫郡の事にまで干渉を試みるに至る。基衡は別に毛越寺を建立せしが、規模は更に中尊寺より大に、堂塔四十餘宇・禪房五百餘宇に

及べりと云ひ、當時基衡が京都の名工運慶に囑して、本尊藥師如來の像を彫刻せしむるについで、その支持へる報酬が、黄金百兩・菩提石百斤・七間中庭水豹皮六十餘枚・安達胡千疋・希婦細布二千疋・錦部鞍馬五十疋・白布三千疋・信夫毛地摺一千疋に、その外に山海の珍物を添へ、成功に至る三年間、これを京に送る人夫駄馬が、山道・海道の間、片時も絶えざりしといふ。それにも不足と思ひてか別殿として生業相を船三艘に積んで回送し、のち更に維新三艘を送りしといふ。基衡の子秀衡は、宇治の平等院に模して無量光院を建つ。これ等の寺院はいづれも當時の中央に於ける建築美の粋を集めしものにして、豊隆夷落と呼ばれし奥州にも、平泉の文化は京都につぐ程のものなりしものならん。この外に藤原三代頼朝二州に於ける造立の堂宇、幾千萬字なるを知らずと東鑑に見ゆ。秀衡はまた當時の權勢なる平清盛に運動して、鎮守府將軍に任ぜらる。右大臣九條實家はその日記「玉葉」嘉應二年五月二十七日の條にこれを記して「奥羽夷狄秀平(衡)任鎮守府將軍、亂世之基也」と歎ぜり。新く秀衡は平氏と結託せる爲め、源頼朝鎌倉に起つて平家討伐に當りても、常に秀衡がその後を顧みざるを恐るれば鎌倉を離れ得ず。されば源頼朝が兄頼朝と不和となり、遂に身を置くに處なきや、遂々陸奥に下りて秀衡を訪ひ、以てその保護を

請ふ。而して頼朝も遂に手を下すを得ざりしが、文治三年十月秀衡没するや、子泰衡の時恩にして兄弟の間隙をならざるに樂じ、文治五年頼朝自ら大軍を率ゐてこれを征し、遂に藤原氏を滅す。清衡以來四代約百年、中央政局の變遷以外にありて、よく土民の懐俗を深げ、以て太平を樂しむを得しも、その弊として淫靡柔弱の風に陥り、されば頼朝との戦に於いても華々しき決戦もなく、恰も落葉の秋風に弄ばるが如くに亡び、ここに平泉の榮華も終を告げ、後世芭蕉をして「夏草やつばものどもの夢の跡」の嘆をなせしむるに至る。(中尊寺)大字中尊寺にあり。天台宗。關山弘誓院。松島瑞巖寺と共に東北屈指の古刹。寺傳に、初め關仁の草創に係り、陸奥守藤原興世、堂宇を造營、のち下野大慈寺の住僧榮信、大いに寺基を擴張、貞觀元年に清和天皇勅して中尊寺の號を賜ふ。のち天喜、康平の頃、源頼朝、安倍貞任討討の時、當寺に職徒を新調し、鎮西の後鳥羽・小前澤兩邑の地を寄進すと見ゆ。堀河天皇長治二年藤原清衡を奉じて堂宇を再興、のち漸次諸堂を建立、朱漆磨崖繪象として雲に接し巍然として傲を懸するに至る。清衡再興のことは、再興と稱するも蓋し史實的には創建にして、關仁草創説は恐らく藤原再興の假託なるべし。のち基衡・秀衡相次いで寺基を擴張し、遂に堂塔四十餘宇、禪房三百餘宇に達し一大伽藍を

形成するに至る。後鳥羽天皇本寺を以て勸願の御祈禱所に充て給ひ、僧徒部別當となりて一山を統轄し、寺運の隆盛奥州に冠たり。文治五年平泉藤原氏の滅亡後源頼朝寺領を安堵し、また堂宇を修理せらるも、爾後寺門次第に衰頹に向へり。加之、建武四年野火に罹り、金色堂・經藏を毀すのみにて他は大牛灰燼に歸す。正應元年、鎌倉將軍頼朝親王、金色堂の廢頹を惜み給ひ保存の爲め覆堂を造立せしめ給ふ。文明年間葛西滿信、寺領十二箇村を五箇村に減す。豊臣秀吉朱印地七箇村を附す。寛永の始め後水尾天皇勅して金色堂を修葺せしめ給ふ。のち兼光再興を企圖し伊達氏の援助を求めて經營に努めしも尙ほ往昔の盛衰に及ばず。寛文五年以後東叡山直末となりしが、維新後比叡山直末となる。堂宇中、金色堂本堂、同覆堂・經藏は圓寶。寺寶中、圓寶に指定せらるゝもの枚舉に過なく、一字金輪坐像一軀(木造)・大日如來坐像(木造)一軀等をはじめ、其他二十數點に及ぶ。金色堂は天治元年藤原清衡及び女壇三氏が清衡の遺骸を収むるために造營せし拜堂にして藤倉時代に修葺せられし覆堂によりて保護せらる。その規模は小なるも内外の裝飾華麗を極め金色極然たるを以て一に光堂とも呼ばる。佛聖芭蕉の「五月雨の降り残してや光堂」の句は夙に人口に膾炙する所なり。構造手法上斗拱間に我國最古のものといふべき本蓋殿を設けたる外

は特に留意すべきものなしと雖も、其内外の裝飾に至りては當時工藝の粋を更めたるものといふべし。即ち堂の内外上下四面に悉く紗布を掛け、黒漆を塗りて其地を重厚にし、その上に金箔を施し、また内部中壇の四隅に一に七寶卷柱と稱せらるゝ柱を立て、柱身に十二光佛を高輪にて表はし、金剛の光背を附し、間地に菩薩の七寶文、螺鈿の寶相華、唐草を嵌入し、柱脚は金剛の蓮華を礎とす。内陣中央と左右兩隅に須彌壇各一基あり。中央須彌壇下に清衡、左に基衡、右に秀衡の棺ありと傳へ、また秀衡の棺間に忠衛(秀衡の子)の首桶ありといふ。而してこれ等三基の須彌壇中、中央のものに最もその結構優秀なり。壇は方形をなし、側面に香狹間形を造り、孔雀・草花・胡蝶等を金銅にて打出せり。壇上には螺鈿の華文を嵌入せる紫壇鼓りの勾欄を繞らし、地覆下に金剛の蓮座を設く。壇上に安置せる圓陀三尊二天像は後世の修補により、大いに尊容を損傷せり。なほこの壇に圓寶の木造經案を置く。その製作年代は堂と同時代と思はる。當初は漆塗に螺鈿を嵌め、透金具を裝したりしも、今は破損著るし。以上説くが如く堂宇裝飾の均麗華麗なること、宇治平等院を凌駕し、その規模は小なりと雖も、藤原後期裝飾工藝の粹粋といふべく、同時に平泉三代の廟堂建築として特に注目すべき遺構なりとす。金色堂覆堂は金色堂の類殿

を防がんため、正應元年鎌倉將軍頼朝親王が平良時及び正應に命じて造立せしものにて、金色堂の四面を圍ふ屋方を覆ふ。その細部に鎌倉時代の手法認められ圓寶たり。(毛越寺址)指定史蹟。現毛越寺本堂の東方に南大門址あり、礎石残存。それより東方に土壘あり、今の山門の傍にて北折し山隈に至り更に四折す。土壘の内部に東西に長き大泉池あり、池中に中島あり。西北方に優美なる塔山聳え、昔は山麓と池との間に主要建造物存在せり。第一は金堂圓寶寺址にして土壇上に五間四面の建物の礎石残存し、その前面左右に鼓樓・鐘樓址あり、いづれも礎石残存し、更に金堂に連なる廻廊の土壇址あり、その西方に大土壇ありて、五間四面の建物の礎石あるは根本中堂の嘉祥寺址たり。金堂の東に江戸時代再建せし常行堂あり、その東に法華堂址残存。その一區劃の東隅に道を隔てて老松の繁茂する土壇は、親自在王院址にしていま二小堂あり。ここはもと大阿彌陀堂のありし位置にて、その東に小阿彌陀堂址あり。遺址の南方の田圃中に低く一劃をなせし所は即ち舞鶴池の址にして、池畔の庭石跡々に遺存す。また上述の遺址を圍みて地社・日吉・白山・祇園・北野・稻荷等、當時京都にて信仰の盛なりし神を勧請して鎮守となし、その宏壯なる規模は蓋し中尊寺を凌駕せし平泉第一の大伽

藍にて、奥州藤原氏の宮址を示して餘ありしも、爾後次第と衰頹していま僅にその礎石のみを遺すに至る。親自在王院址の北に千手院と號する草庵あり。もと舞鶴池の中島に建てられし鐘塔の塔身及び臺座を所藏す。塔身に文和四年の銘文録出せり。更に千手院の北金剛山の東麓に總社金華山址あり。その附近に大礎石十數箇點在し古瓦の破片散在す。これ即ち藏王堂址にして、當時吉野の藏王堂に模して造りし所のものといふ。(無量光院址)指定史蹟。驛の北約八〇〇米、中尊寺に至る途中部落の西方田圃中にあり。院は藤原秀衡の建立にかゝり新伽藍とも稱せり。大苑池を相り、庭石を配し、池の北畔に阿彌陀堂を建て、丈六の本尊を安置し、前方に殿堂を連れ、規模全く宇治の平等院、鳳凰堂に類似し居りしといふ。いま尙ほ苑池の址を認むべく、また堂の土壇礎石など遺存す。(平泉館址)驛の北方、高館部落の東より北に互る。嘉保元年、藤原清衡が江刺郡豐田館(いまの岩谷堂町字餅田)より移り、居館を構へて以來、基衡・秀衡を経て、泰衡が文治五年源頼朝に滅さるゝまで四代九十九年の間居住せし處なり。その北部は清衡・基衡の御所のありし所といふ。なほ毛越寺山門の西に八花形と呼び、秀衡の長子圓寶の(高館)と稱する處あり。(高館址(衣河館))平泉驛の北一軒。中尊寺に至る

道路の東側にある老杉鬱蒼たる小丘を高館山と名づけ、いま丘上に義経堂と稱する小堂あり、伊達村の建立にして、義経の木像を安置す。高館は源義経が居住し、文治五年、藤原泰衡に攻められて戦敗れ、英雄の末路はかく自刃せし處と傳へ、高館山より東方に及ぶ地を占め居たりしが、今は北上川河道の變遷によりて舊址全く失はる。(達谷館) 驛の西南約六軒。最良溪に至る途中に高さ約一〇米、長さ約一七米の岩窟あり。此地昔蝦夷の酋長路王の據りし所、のち坂上田村麻呂これを征服し、こゝに京都の鞍馬寺に擬して堂を建て、名づけて西光寺と號し毘沙門天の像を安置すといふ。いま洞内に毘沙門堂あり、舞臺造りにて側面の階段より堂内に上るを得。窟の左右の岩壁に摩崖佛の如きものあり。(金鶏山) 高館の西南にあり。藤原秀衡が富士山に擬して築きし山にして、平泉の儀として黄金の鶏雄一香を頂上に埋むと傳へ、その他種々の傳説あり。(平泉の御舞) 十三人の獅子が面を被り、劍・扇等を持ち、笛太鼓に合せて踊る。その始めは平泉にて死せし義経主従の霊を慰むるにありしといふ。

し、南部に漁港ありて繁華はこの部分に發達す。この地は常陸に於ける最大の漁業地と云はれ、漁業繁栄。また海岸は海水浴に適し、磯崎・阿字ヶ浦名高く夏は旅館營業盛なり。縣道浜町に通じ社線浜鐵道線また之に沿ひ、町内に平磯・磯崎の二驛(大正十三年設置)を置く。この地は和名抄、那珂郡幡多郷の内なるべし。元治元年九月、水戸藩の諸生黨、及び那珂河津の天狗黨が大發黨を攻撃し、この地に戦へり。(酒列磯前神社) 大字磯崎に鎮座。國幣中社。祭神、少彦名命。創立を大洗磯前神社の創祀と同じうす。祭神少彦名命を俗に乳母神と稱へ、當社を一に乳母様ともいふ。天安元年大洗磯前神社と共に官社に列し、延喜の制名神社に列す。建久二年源頼朝筑波山に詣りて磯前神社の神威を仰ぎ神馬三十頭を納め、更に那珂河津以西の地一百二十町歩の神領を寄す。文和二年佐竹貞義深く崇敬し、神田を増し社殿を修築す。のち元祿年中徳川綱條當社に參詣し、水戸光圀の遺命を受けて社殿を造替す。例祭、十月十五日。

ある外は平坦なる沃野開く。西南隅は東北へ深く侵入せる水場灣澳に臨み、灣頭良蹟地をなして市街地あり。米・麥の農産及び水産あり、鹽を特産す。柳井町より来る縣道中部を西南に横斷し、また田布施町に至る道路もあり。省線山陽本線柳井驛(東北一、五軒)・田布施驛(西北約二軒)へ共に自動車通す。此地は和名抄、熊毛郡多仁郷に屬せるもの如し。明治三十六年町制を布く。(沼八幡宮) 大字平生に鎮座。祭神、應神天皇外四神。社傳に後朝河天皇の元仁元年登前國宇佐より分靈し創祀すといふ。例祭陰曆八月十日。

【平岡村】千葉縣上總國君津郡の東北部。北より東は市原郡睦崎町および戸田村と隣す。大部分丘陵地に於て森林多し。西南部は小櫃川流域平野の一部にて、水田多く米を主産し他に麥・蕎麥等を産す。睦崎町に縣道通じバスの便あり。南隣中川村には省線久留里線横田驛ありて縣道を通す。

ヒライイ 平磯町

茨城縣常陸國那珂郡の東南部。鹿島灣に臨み、浜町の東北隣にあり。大部分低き臺地をなし、海岸附近に平地あり。農業行はれて麥・米を産す。海岸は車道にて大部分磯灘をな

ヒライイ 平井手

山口縣周防國熊毛郡の東部。水場灣に臨み田布施町の東南に隣る。北は玖珂郡に界し、東北隅は柳井町に接く。北部に赤子山(二八一米)、東部に南方より延び来る丘陵の北麓

越え、白根山の中道を巡り草津温泉に出で、更に深波・四萬・河原等上州の諸温泉に達す。夜間瀬川に沿うて社線長野電鐵通じ上條驛・湯田中驛(昭和二年設置)を置き、湯田中より上林までは積雪期間を除き自動車通す。(平磯温泉) 本村及び磯波村の二村に散在せる湯田中・安代・湯・上林・地獄谷・發咄・熊ノ湯・角間・磯波の九湯を總稱して平磯温泉といふ。これら温泉群は高山・幽谷・高原の間にあり、大澤・湖沼・渓流・瀑布等これに加はり局部々々の雅趣あつて春花秋葉の美あり、佐久間象山これを「小桃源」と推賞せし一郷なり。(安代温泉) 星川に臨みて湧出。泉質、鹽類泉。湯田中温泉より半軒餘の地にあり、海拔四八〇米。東に笠・横手・岩菅、西に戸隠・飯綱・黒坂・妙高の諸山を望む。附近一帯蘆の葉成盛んにして、鶯客の食糧にこれを供す。(湯田中温泉) 星川に臨みて湧出。泉質、無色透明の硫酸泉及び鹽類泉。當温泉は平磯温泉の關門ともいふべく、天智天皇の御代僧知由の發見と傳ふ。附近に佐久間象山の碑・果亭文庫・湯平山遊園地及び湯田中遊園地等あり。(湯田中温泉) 星川の清流に臨みて湧出。泉質、白濁濁の鹽類泉。神龜年間、行基の發見と傳へられ、古來有名なる温泉場にして、海拔七五〇米の地にあり、内湯旅館、土産物日用品等の商店道を拵みて併立して一小市街をなし、華やかなる湯治場情調を醸

りなす。(上林温泉) 横湯川に沿ひし小丘に湧出。泉質、鹽類泉。別荘地として知られ、海拔約九〇〇米。平磯温泉中の最高所なり。前に黒坂・飯綱・戸隠の高峯展開し、湯・安代・湯田中・角間を一帯に收め、星川を望み、山水の勝を坐ながらに眺るを得。附近一帯またスキーに適しジャンプ臺設けらる。附近の廣業寺は、明治量壇の瓦匠寺崎廣業のアトリエをそのまゝ寺院とせしものにして陶磁味を帯び展望に富む。(發咄温泉) 岩菅山の懸崖に臨みて湧出。泉質、無色透明の鹽類泉。平磯温泉中、熊ノ湯と共に最もかけ離れしところあり、海拔約一六〇〇米、全く俗界を離れたる静寂地にして、眺望また廣闊にして遠く銀冠青衣の日本アルプス群峯を望むを得。(熊ノ湯温泉) 五岩の根元より湧出。泉質、硫酸泉。笠ヶ岳の麓にて海拔一七〇〇米餘、塵外の幽境たり。佐久間象山の發見といふ。(地獄谷温泉) 湯及び上林より東二軒餘。横湯川の上流の川床より、絶えず湯煙と熱湯を噴出し、霧々たる音を響かす。(地獄谷の噴泉) 指定天然記念物。地獄谷は横湯川の河谷にあり。基底を成せる岩石は輝石富士岩の變質せるものにして、直方狀節理を現はす。噴泉は左岸に近き礫積の間にありて、水滴を多く含む水蒸氣を約一〇米の高さに噴出し、霧々たる音を發す。孔口の周圍に炭酸石灰の沈澱より成る巖石堆積して噴泉塔を

形成す。水蒸氣中に炭酸瓦斯及び硫化水素を含む。この噴氣口は明治四十三年横湯川洪水の時河底を掘下げ、岩盤より温泉漏れて噴出力弱まり、大正元年五月その噴出全く停止す。よりて十数間の下流に合家村を組立て、河の水位を上昇せしめ、鐵棒を打込みしため從前の如く噴出するに至る。(琵琶池) 村内にある湖。高度は一三八九米にして面積〇・一七平方軒、長さ七六〇米、幅二二〇米。中央括れて琵琶狀をなし北半は淺く南半は深く二一米あり。笠ヶ岳の龍紋岩へ忠實火山の熔岩が衝突して生ぜし盆地に湛水せしものにして、現時は大沼池及び丸池の水を流入させ發電及び灌漑に利用す。以前は水色濃紫にして透明度一一米に及びしが、角間川の水を流入せし以來水色となり透明度も三米程に減じたり。(旭山) 上林より東約一軒、草津街道の香打茶屋より登る。海拔一五二〇米、東麓に琵琶池より發咄温泉、南に幕岩、西は妙高・戸隠等の五峰、日本北アルプス、善光寺平一帯を望むを得。(幕岩) 香打茶屋より二軒餘の地點にあり。角間川上流の南岸に聳立し、蜂の巣をたゞきつばしたるが如き一枚岩にして觀目に慣す。岩下に幕岩あり、この邊また岩多し。(調湯) 香打茶屋より右に小徑を通れば、湯見臺あり、湯は幅一九米、落差一八〇米、湯邊岩多し見らる。

【平岡村】長野縣信濃國下高井郡の南部。東部は靜岡縣に接す。天龍川は北方より東り中部より西流を劃して南流す。東南に熊伏山(六五八米)・觀音山(四一八米)等の高山連立し、其山腹村内を蜿蜒して南部に一〇五二米の山を起す。北部にもまた八百米内外の山起り村内微れ深山を成す。地形上産業見るべきものなく、天龍川河岸に開けたる小低地に耕地拓け米・麥・蕎麥等を出す。また木材、木炭等を出す。北方飯田町方面へバス通じ、また天龍川による舟楫の便あり。

ヒラオ——ヒラオ

備村の合して成れるもの。(笠原神社) 大字笠原に鎮座。祭神、少彦名神。もと宇天神前に鎮座ありしを、中古

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、西北は野口村を距てて加古川町あり。東

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

も盛にして就中針金の製産高は日本一なり。また革製品の産額も多く製粉も亦盛

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

南方より来り、南境を西流して堆物川に合す。堆物川は盆地の西邊をなして北流

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

【平岡村】 兵庫縣播磨國加古郡の中部。西南部は別府町に接して播磨灘に近く、

ヒラガ 平賀

【平賀(郡)】 中世私に陸奥國津輕郡の南に建てたる郡名。鎌倉領なり。即ち同じく私稱郡號たる鼻和郡の南に位し、その

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤町に相對し、北は北佐久郡岩村町・三井村・志賀村に隣接す。東南端に一二三五米の山ありて山脚西北に延び、東部は山地をなすも、西部は土地低平にて佐久

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

ヒラカ

地にて養蠶・農業行はれ、繭・米・蕎麦を産したる養蠶の産額行はる。縣道は川越市より来りて東北方上尾町に通じ、主なる

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

ヒラカ

に靈視所を置きて往來の船舶を監視せり。飲食物を船に乗せてこれ等三十石船に行商する「くらばんか船」は名物の一なり。

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

【平賀村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。西は中込町及び千曲川を隔てて野澤

によりかく名づけしものといふ。(寶滿神社) 大字北新開に當座。神社。祭神、玉依姫命外四神。創建は社記に據るに、天武天皇白鳳九年の創祀に係り、舊藩主代々の祈願所なり。例祭、十一月三日。

ヒラキ

【平貴】 新開鎮名郡にありし村。明治四十年本村を廢し、小野口村および北濱村に編入さる。

ヒラキ

【開開】 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に眞姓郡開開郷あり、その地今の掛宿郡眞姓村の邊に當る。

ヒラギン

【開開岳】 開開岳(鹿兒島縣)の別稱。

ヒラキタ

【開開岳】 開開岳(鹿兒島縣)の別稱。

ヒラクボ

【開開岳】 開開岳(鹿兒島縣)の別稱。

ヒラクラ

【開開岳】 開開岳(鹿兒島縣)の別稱。

ヒラサワ

【開開岳】 開開岳(鹿兒島縣)の別稱。

金浦町の東北に接し、西北は日本海に面す。東部は低き山地にて西方に傾斜し、西南部にもまた小起伏ありて中部や平坦なり。白雲川は西部を北流し、日本海に注ぐ。生業は農業、漁業及び中小商工業を主とし、米、鮮魚等を産し、また院内油田の石油を精製し年額二百數十萬圓に達す。その他鱒、鱈の特産あり。酒田街道は海岸沿ひに西南より東北に通ず。省線羽越本線羽後平澤驛(大正十一年設置)あり。この地は清和源氏、小笠原氏の族、由利氏の故城にして、慶長年間、一旦最上領となりしが、元和九年最上家斷絶となりしにより、由利十二黨(仁賀保・矢島・赤尾津・子吉・丹田・打越・石澤・巖屋・湯保・結川・下村・玉前の十二家)の一なる仁賀保兵庫領、本領を回復し、寛永三年、兵庫領はその庶子内膳に二千石、内記に千石を分地して本家となし、平澤に陣屋を置き治せしむ。是より本家本家共に徳川旗下に列し江戸に定住し、寛永九年本家の藏人良俊死して嗣なく、家斷絶し、本家のみ遠藤と明治に至る。明治戊辰の時は仁賀保氏はその舊邑平澤・三森・院内・小園を保ち秋田藩に属り、存立を謀る。幕末の勤王家、仁賀保兵庫(周正五位)はこの族なり。明治三十年町制を布く。當町と院内村に跨りて院内石油山あり、また當町と院内村西目村に跨りて旭院内石油山あり、昭和十年には前者は原油五五、三八二軒、

後者は原油一四、三七五軒を産す。何れも、重要産山に屬す。(琴ヶ浦海水浴場) 平澤町東北郊外に琴ヶ浦部あり、その前面に見らるゝ海岸一帯は砂濱遠く横き廣闊、遙に男鹿半島寒風山眞山等の連山を望み、また蟹崎島海山東南に聳立す。海底は遠淺にして眞に初心者の游泳にも適當す。省線平澤驛より數町の距離にあり。汽車を利用してこの地に來る者多きは之による處大なり。夏季本莊町遠くは秋田市より來る者多く爲に驛其他に於いて雄闊を極む。由來本莊町中心の海水浴場として適當の地なし。然るに琴ヶ浦海岸は種々の點より之に好適す。これ海水浴場として賑ふ理なり。平澤町にて海岸に脱衣場其他を設け、海中に跳込臺・浮標等を設け、浴者の便に供す。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。新潟縣北魚沼郡城川村にあり。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

野山(三〇九米)の丘陵が西境を東南より西北に限り、西北境には二〇〇米餘の瓶割山あり、東南隅にも小丘陵あれど村内概ね地形平坦にして田畑よく拓け、純農村なり。産物は米・麥・菜種等なり。縣道中央を縱斷して西北方八幡町及び東方日野町方面へ通じ、社通八日市鐵道北隅を掠めて平澤驛(大正二年設置)あり。この地に長光寺城址あり、俗に瓶割山といふ。元龜元年六月榮田時家、織田信長の命を承けて長光寺城守衛の折、佐々木承頼來りて城を圍み兵を分ちて水道を絶つ。城中水乏しく危機に瀕するや、時家は僅に蓄ふところの水を打破つて必死の志を示し、翌日、兵を勵まして城を討つて出で、承頼が大軍を破り首級七百餘を獲たり。信長その功を賞して食邑三萬貫を賜ふ。之より世に榮田榮田といふ。(長光寺) 大字下平木にあり。臨濟宗妙心寺派。延享三年僧自見の中興に係る。國寶、本尊藥師如來坐像一軀(木造、藤原末期作)。(光明寺) 大字下羽田にあり。淨土宗。天照山攝取院。正和元年京都百萬遍知恩寺八世空圓善阿の開創に係ると傳ふ。古來本邦三光明寺の一と稱し道俗の尊信厚し。いま末寺十三箇寺を有す。國寶、藥師如來坐像一軀(木造)・大黒天立像一軀(同上)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

ヒラシ

【平澤】 省線魚沼線の驛(明治四十四年設置)。

【平田町】 鳥根縣出雲國廣川郡の北部。斐伊川下流廣川平野の東北端に位して東西に細長く、東部僅に穴道湖に臨む。謂ゆる十六島斷層の凹地に位し北方に山嶺を背負ふも、城内は西北隅の山嶺を除く外は地形極めて平坦なり。北部には小河東流し、南方には斐伊川分派を造りて穴道湖に注ぐ。廣川平野は有数の農業地にて、平田町は其中心をなす。このあたり肥沃なるも低濕なる爲裏作には特有の高畦耕作を行ふ。稻の收穫後耕土をば腰の高さに横上げし謂ゆる高畦は初春首霜の白花に飾られ平野は美觀を呈す。産物は一般には米・麥を産しまた鶏卵・水産・畜産あり。工業亦盛にて清酒・醤油の産多く産出す。特に生絲・羽二重・乾魚は著し。俗に平田名物見せたいものは、出雲羽二重兩全生糸、八雲味淋に滋養の饅饅、外にないぞへ生糰糖といふ。人口密度一三九七人を算し、郡平均二五二二人に比し著しく多く、今市町の七八九二人に次ぎ第二位を占む。市街地は西部に發達し、縣道走り省線山陰本線直江驛及び今市町へバスを通ず。社通一畑電線は南部を東西に通じて雲州平田驛(大正三年設置)あり。穴道湖畔には昔ながらの湖上小型汽船もあり。(宇美神社) 縣社。祭神、布都魂命。應永年間長祖家元祖氏神に祀り國熊野神社の分靈を勧請し氏神となせしに創る。例祭、十一月二日。

【平田村】 高知縣土佐國幡多郡の西南部。て南境を東流する那賀川の河口は東方へ大きく開き河中に多くの砂洲發達す。東北に紀伊水道沿岸は松林をなせど、他は殆ど水田拓け米の産多し、また麥・蕎麥も出ず。西隣羽ノ浦町と宮岡町とを結ぶ縣道西南部を通過し、省線牟岐線の阿波中島驛は南方約〇・五軒にあり。大字古津に平島館址あり、阿波公方の稱ある足利義冬(足利將軍義隆の養子)天文年間この地に居り、子義榮は上洛して將軍となる。(西光寺) 大字赤池にあり。古義貞曾孫。同宗高野末。本尊阿彌陀如來坐像一軀(木造、鎌倉期の作)は國寶なり。

【平島村】 長崎縣肥前國西彼杵郡の西方海上の平島を占む。西は相崎瀬戸を隔てて五島列島中の中通島に對す。約七軒をへだつる東方海上には江ノ島を望む。面積五・九八軒の小島。中央に白嶺そびえて山麓は海に迫り北部海岸には黒崎・龍崎等東北方へ突出し、南部には萩ノ先西南方へ延びて西南部の相崎との間に平島洞を抱き鑛地をなす。水産物多し。汽船の便ありて中通島の魚目村に至る。

【平島】 下底村(熊本縣鹿本郡) 縣安房郡) 平砂浦 ↓ 神戶村(千葉縣安房郡) 平田 福島縣岩代國信夫郡の中部。福島市の西南約五軒。安達太郎山の東北麓に位し、西境は海拔約五五〇米にして東北方に傾斜し、阿武隈川の一支流中央

ヒラタ

宿毛町東方約二軒。全村山地丘陵起伏し、西南部高くして村境に白鳥山(四五八米)聳え、東境には具ヶ森(四五四米)あり。北部には狭き平野開け、具ヶ森に發する四万十川支流中筋川は中央を西北流し、北部にて東に折れ東北隅より中筋村に出づ。流して耕地多し。米・蕎麥の外、工業・林産・畜産あり。北部には宿毛町と東北方中村町とを結ぶ縣道通じ、中央にて東南方へ分るる縣道ありて三原村に至り、また北方山奈村に達するものもあり、共にバスの便よし。(高知生神社)大字戸内に鎮座。郡社。祭神、都味賣八重事代主命。創立年次詳ならず。延喜の制式内小社に列し、當國二十一座の一。高知はマケチ又はマカチとも訓む。例祭、十月三十一日。(延光寺) 大字中山にあり。新義眞言宗智山派。赤龜山俗に寺山と呼ぶ。四國八十八所第三十九番札所なり。詠歌「南無樂師諸病悉除の願こめて參る我身を助けまほせ」

ヒラタ 枚田

【枚田村】三重縣伊勢國鈴鹿郡の東部。鈴鹿川の右岸に沿ひ、龜山町の東北約四軒。東は河内郡に界し、東方約一・五軒に神戶町あり。全村地形低平にして北境に沿ひ鈴鹿川東北流す。米・蕎麥・鵜卵・蕎麥・工業・畜産・林産・水産・礦産あり。北部に神戶町を南北に走る伊勢街道と西北方の東海道とを結ぶ縣道通す。省縣東海道本線加佐登驛(西北約一・五軒)に

ヒラタ

近し。この地は國府村・井田川村と共に和名抄、鈴鹿郡枚田郷の地名なり。【枚田】但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に朝來郡枚田郷あり、比良多と訓す。其地今の朝來郡和田山町の邊に當る。ヒラタヤマ 平田山 長崎縣北松浦郡にあり。この地帯は肥前炭田中の小區分たる北松浦炭田地帯にて、古くより平田山炭礦ありて現在採ばず、避れて開發したる平田山二坑及び平田山三坑は、いま重要炭山に列す。昭和十年の産額等左の如し。

Table with 2 columns: 産地名 (産區所在地) and 年産額. Rows include 平田山, 小佐々村, 二田山, 江野村, 三田山, 鹿町村.

ヒラツ 平津村

郡の南部。岡山市の西北に隣る。北及び東は稍々丘陵をなせども概ね地形平坦にして、米・蕎麥を産し、蕎麥・果物の特産多し。南隅を山陽道沿ひ岡山市に接して交通の便よく、社線中國鐵道備前一宮驛へ西南約〇・五軒なり。この地は和名抄、津高郡津高郷の内なるべし。

ヒラツカ 平塚市

神奈川縣相模國南部中央の都會。西は大體花水川を境として中部大磯町に隣り、北は同大野村に接し、東は相模(馬入)川下流を隔て、高座郡茅ヶ崎町に對相し、南は相模灣に面す。東西三・五軒、南北三・一軒、面積一〇・五方軒、人口約三九、八〇〇。相模平野南端の一部にて土地概ね平坦、海岸は平滑なり。古く東西に通ずる東海道の一驛としてその名を知られ、明治二十年省縣東海道本線の平塚驛を置かれ、道路は東海道より分岐して北方厚木、西北大山及び養野に通じ今も交通の一要點をなす。市街は東海道に沿ひて發達し、西部を平塚(本宿)、中部を平塚新宿、東部馬入川に近き部分を馬入といひ、その南方を須賀といふ。明治三十八年日本爆發物株式會社(今の海軍火藥廠の前身)の創設せられしより事業家の注目を蒙り、次いで相模紡績工場(今富士瓦斯紡績平塚工場)・國東紡績平塚工場をはじめ、各種工場の設置を見、湘南唯一の工場地となり、昭和七年市制を布くに至れり。昭和十年の生産總額九三・一萬圓を超え、農産工産額は八六・九萬圓にて九三・〇%、農産額これに次ぎ三六萬圓餘、約四%を示す。主要工業品は綿糸と紡績絹糸と紡績製糸・味噌・醬油等これに次ぎ、農産の重なるものに葱・茄子・甘藷・大根・米・蕎麥等、水産漁獲物に鰻・鮎・鱒・鮎等あり。平塚海軍火藥廠・海軍技術研究所

Table titled '生産額(昭和十年)' with columns for 産産産産産 and 計. Values include 361千圓, 63, 179, 8,002, 15, 9,311.

ヒラツ 平戸

【平戸町】長崎縣肥前國北松浦郡平戸島の東北端。南北に細長く地形宛然タツノオトシゴに似、しかも南部にて東西の市を横げ、背後(東部)は平戸瀬戸一漕を隔て北松浦中島西北の南平戸村日ノ浦に對す。西南端のみ陸につゞく。北部は山岳地にして平地乏しく東北端に鐘崎ありて北方海上に度々大島等を窺む。西には長崎鼻突出して其南に海峽深く東へ灣入して灣頭は地味部をなし、反對側は平戸瀬戸をへだてて北松浦中島に對し其北に田助港の良港地ありて海日東に燈臺あり。其南に平戸町市街地發達す。

ヒラツ 平取村

北海道日高國日部には屏風岳(四三四米)あり、金島嶺ど火山岩に被覆さるるも、島の巔に沿ひ中央部に長き低地帯を見る。海岸は斷崖多く、東北岸に平戸・田助の二港、西部に江袋・海香の二港、西南部に志々伎灣あり。島内は一般に地味部を産する物には見ざるべきものなきも、附近の海より鳥賊を豊富に産す。對馬海流の影響を受けて緯度の高き割合に暖く、島内各所に熱帯・亞熱帯植物の生育を見、また我が内地に甘藷が最初に移植せられし此島なりと云ふ。行政上平戸町及び中野・獅子・紐登・中津良・津吉・志々伎の一町六村より成る。【平戸瀬戸】長崎縣平戸島の東水道の稱。その北部最も狭く六十米に過ぎざる所あり。一に雷ヶ瀬戸といふ。蓋し南方より来る上げ潮が平戸の南方なる南龍崎の隘路に入るや、黒子島を始め數箇の島嶼に衝突して分派せるものが本流と合するに際し海面の各處に高低を生じ大小の渦を卷きて濁々の音を發するに基く。また文海澤より来る下げ潮に於ても同様なり。故に潮汐の漲落時に於ける小船の航行危險にして、殊に北風が上げ潮に激する時は波浪高く、往々船舶の墜没することあり。

ヒラト

薄香澤。平戸町市街地以南は東西に巾を増し、中央に丘陵連りて東西兩岸粉々平地開け、西は開村中野村との間に北方より灣入する古江灣に臨む。農産・水産・林産あり。田助港より縣道平戸市街地を過ぎて西南方志々伎村へ通す。海上交通の便よく、對岸日ノ浦へは發動機船の便あり。西方生月島、北方大山、東方唐津港、蓋か西南方の宇久島及び日ノ浦へ定期汽船の便あり。此地古くは和名抄松浦郡鹿嶋郷の地なり。中世以降松浦氏の城下町たり。天文十九年始めてガルトガム船來りて貿易をなし、慶長十四年にはオランダ船來り、安社な商館を建て、次でイギリスも商館を建つ。寛永十八年オランダ商館が長崎に移さるるまで、本邦對外貿易の門戸として榮ゆ。明治二十二年平戸町・平戸村に分れしが、大正十四年合併して平戸町とす。(平戸城)松浦氏歴世の居城。松浦氏は本姓雄略源氏、河原左大臣源融の後と稱し、興業初めて平戸に城きてなり、十一代の孫備信に至り、天正十五年豊臣秀吉、慶長五年徳川家康の二氏より本領を安堵せられ、六萬千七百石を食み、子孫相承けて明治に至り城廢す。明治四年七月藩を廢して長崎縣に入る。(龜岡神社)大字平戸に鎮座。縣社。祭神、源大夫判官久・源兼次外十六神。當社は蟹持山・七郎神社・乙宮神社・八幡神社の四社を合併せるものにし

て、蟹持山は後水尾天皇寛永五年、當地藩主松浦棟の創建に係る。國寶、鐵頭太刀一口。例祭、十月二十八日。(正宗寺)臨濟宗大徳寺派。興國山。寛永十六年平戸城主松浦備信、先代隆信遺願のためこれを創建し、武州品川東海寺の住持江月(大隆興宗禪師)を請じて開山とし寺額百五十石を附す。爾來歴代住持、大本山大徳寺住持に任ぜられ、またその在任中必ず東海寺輪香を兼帶せり。當時伽藍輪奐の美を極めしが、今は舊觀を失ふ。(最教寺(廣護所))大字平戸にあり。新義眞言宗智山派。高野山。もと曹洞宗。中興開山は空盛なりといふ。國寶、佛涅槃圖一幅(絹本着色)。(平戸和蘭商館址)指定史蹟。時方町の東端、常灯鼻の燈臺址に續き、坂道に沿ひて石を積み重ね、具袋を交へ、メント様のものにて固めし高さ約二米餘、長さ約四〇米の和蘭塀と呼べる土塀に圍まれし一角なり。慶長年間和蘭人がこの地に於て貿易に従事せし所に、同十七年に三層の石造館舎を營むに至りしが、寛永十五年島原亂後、幕府事業に鑑み、遂に同十七年南館長アランツァカロンに命じてこれ等宏壯なる館舎倉庫を設けしめ、翌年長崎出島に移せしが、それ以前まで外國貿易上重要なる地たりき。遺址としては土塀の外に海岸に近く殘存する倉庫の殘壁、エビス埠頭に通ずる道路の傍にある、石造の和蘭井戸等あり、崖上に日蘭貿易記念碑建

つ。(英吉利商館址)いよの平戸町牧場の地。慶長十八年(西曆一六一三)より元和九年(同六一二二)まで英吉利商館の在存せし所として、庭に石造記念碑建つ。(日蘭親交記念碑)時方町にあり。舊平戸藩主松浦伯耆守と和蘭公使バプスト少將を名譽會長とする日蘭協會の建設に成り、大正十四年除幕式を舉行せり。碑文は松浦伯耆守の撰し並に書せるもの、下部に和蘭公使の撰みし蘭文を刻す。(幸橋)當町牧場の東北に存する石造アーチ橋にして、元禄十五年の架工にかかり、和蘭商館建設に従事せし大工豊前傳受によりて造られしものといふ。(神前介誕生之地)神前介は明治七年本町に生る。日露兩國の國交終に破れんとするや、當時北京にありし彼は二三の同志と共に朝北の野を游行し、内外蒙古を横斷して杜爾齊哈停車場附近に出て將に豫定の任務を遂行せんとして偶々敵兵に發見せられ、明治三十七年四月二十一日遂に哈爾濱に於て銃殺せらる。年三十一。從五位を贈らる。いまその生家遺存し、また彼の爲に記念館・記念圖書館等を營む。

【平戸島】長崎縣北松浦郡に屬する一大島。東は平戸瀬戸(平戸海峡)を隔て、北松浦中島と對す。北東より南西に長く、東西約八軒、南北約三二軒、周圍約一六〇軒。島内起伏多く、其最高峰を安瀨岳(五七六米)といひ西北海岸に聳立し、南

ヒラネ——ヒラノ

高支離沙流郡の中部。沙流川流域地方を占め、西は山地を以て豊後國に界し、南は門別村を隔てて太平洋に臨み、北は右左府村に界す。面積七二・七五平方町。村内日高山脈西斜面に属し概ね山地にして、北部にはアヤマナイ岳(一〇二一米)岩内岳(九〇四米)等聳ゆるも南方に傾斜せり。沙流川雷川を集めて村心を南流す。流域低地廣大にして耕地拓く。四周の山地は森林繁茂し林産豊富なり。馬鈴薯・大豆・蕎麥・馬等の産多し。アイヌ族の古都にして、ま何な中心部落をなせり。社線沙流川沿ひに北走し紫雲古津・河津・平取の各驛あり。此地は齊明天皇五年、阿部比羅夫蝦夷を征し、進んで向入龍に至り、後方平野に郷領を置くといへるもの即ち是ならんかといふ。村内八田嶺山あり、近年活動を開始せるもの。昭和十年には格魯鐵道五、一五〇(價額十五萬餘圓)を出だし、また同年六月末の使役員は五八人とす。大正の初期、村内の大字梶去字ニモウに格魯鐵道發見せられ、同八年日東鐵道の名を以て開坑せしを始めて、爾來多くの鐵道設定せらる。此邊の地は蛇紋岩廣く發達し格魯鐵道は其中に塊狀、粒狀或は粉狀をなして存在す。現在の主要なる鐵山左の如し(下表は昭和十年現在にて、産物は全部格魯鐵道とす。重は重要鐵山、事は重要鐵山)なほ左に掲げたるもの以外に矢張り格魯鐵道の貫氣別嶺山

(平取村) 岩内嶺山(平取村・右左府村)など存す。
嶺山名 鐵道坪数 年産額 備考
新日本 谷ノ、〇〇坪 六、〇〇〇 重
日 東 大七、三〇〇 三、二〇〇 重
八 田 八、八〇〇 五、二〇〇 重
北海格魯鐵道 九、〇〇〇 六、七〇〇 重
(義經神社) 市街北端の小丘上に鎮座。舊土人等の深く尊崇する所にして、口碑によれば寛政三年山田文左衛門、或は享和二年幕臣近藤重藏の建立といふ。神體は九郎判官義經甲冑姿の木像にして極めて精巧なる作なり。(平取舊土人部落) 平取はヒラウトに於いて、二つの崖の間の村の意なりといひ、古くより開えたる部落にして、古風の存するもの比較的多く、人口約百二十を算す。後方の斷崖はハロヒラと名付けらる。磐石にて、オキタルミ(源義經)を祀る義經神社あり。なほ沙流川沿岸に舊土人の居住するもの多く、河津・紫雲古津・二風谷等の諸部落あり、特に二風谷は人口二百八十餘を有する大部落なり。
ヒラネ 平根村 長野縣信濃國北佐久郡の中野郡。岩村田町の東に隣接す。八風山肢の末端、富士山(一五六米)は東部に聳え、北方に淺間山を望む。千曲川の一支湯川は北部より西部を貫流し、西部には低地ありて佐久平の北縁をなす。米・蕎麥・蕎麥を産す。街道は低地を南北に通じ岩村田町に出づれば交通便となす。

この地は和名抄、佐久郡大井郷の内にして、いま横根村・上平尾村・下平尾村の舊三箇村を合併して、本村をなす。村内に山古城・里古城・延壽城等あり。(諏訪社) 大字横根に鎮座。郷社。祭神、御穂須々美命。口碑に、創建を後鳥羽天皇の文治元年なりといひ、のち建久年中、守護職小笠原長清の一子横根法眼再建すと傳ふ。
ヒラノ 平野
【平野村】 山形縣羽前國西置賜郡の東部。長井町の西に隣り、北方は西村山郡に接す。地形は西北より東南に長く弧狀をなし、西境には、北方より平岩山(一六〇九米)・大玉山(一四三八米)・觀瀛山(一四一七米)・榮倉山(一二六三米)・三體山(一二五六米)ありて東方に傾斜す。野川は西北境に發源し村の東境をなして南流し、流路を變じて東北に流る。村の西部は高峻なる山地をなすも、東部は長井盆地に屬して平坦なり。米・蕎麥・蕎麥を産す。道路は村の東南部を斜斷し、東方長井線長井驛、東南方面臨時驛(各三軒あり)。
【平野村】 福島縣岩代國信夫郡の北部。飯坂町の西南に隣る。西北部には低き山地ありて東南に傾斜し、東南部は福島盆地に屬して平坦なり。小川は北境を東流し指上川に合す。米・蕎麥・蕎麥を産す。道路は村の中部を南北に通じ、北方飯坂町、南方福島市へはパスの便あり。(警

王寺) 大字崎野にあり。新義真言宗豊山派。天長年中、弘法大師の開創に係り自刻の薬師如来を安置すといふ。佐藤氏の菩提所にして、境内薬師堂後方に佐藤基治夫妻及び同職信・忠信の墓と傳ふるものあり。
【平野村】 埼玉縣武蔵國南埼玉郡の西北部。蓮田町の北隣にて元荒川の東岸。西は川を隔てて北足立郡の一部と隣す。全村平地にて農業行はれ、米・蕎麥・蕎麥を産す。縣道は蓮田町及び東北久喜町、北方葛西町等に通じ、蓮田町に省線東北本線蓮田驛、久喜町に同線久喜驛ありて、久喜驛へはパスを通す。
【平野村】 長野縣信濃國下高井郡の西南部。中野町の西に隣接す。面積五・九四方町にして本郡最小の村。西部に丘陵ある外は土地低平、僅に東南に緩傾斜する扇狀地にて善光寺平に續く。東北部に桑園開け、その他耕地平に開け米・蕎麥を産し、また林産を發揚す。縣道は中野町に至るものに二條ありてパスを通じ、また社線長野鐵道は東北部を掠め信州中野驛(中野町)に近く交通便なり。この地は東鐵、文治二年、左馬寮領の牧の中に、高井野牧・吉田牧・笠原牧とある吉田牧はこの地なるべく、また一に中野牧とも稱せられ、東鐵・承久元年の條には信濃國住人、中野太郎助能とあるも、此の中野牧に在るを稱せしものなるべし。
【平野】 長野縣諏訪郡にありし村。昭和

四三三

ヒラノイワサワ 平野岩澤嶺山

岩手縣和賀郡岩崎村大字山口字岩澤にある石青山。昭和十年には一、一五〇(應)を産す。本嶺山に近接し矢張り石青山にて岩澤嶺山あり、昭和十年には四、〇八八(應)を産す。
ヒラノゴ 平野郷 大阪府東成郡にありし町。大正十四年大阪府市制に編入す。
ヒラノマチ 平野町 大阪府の町名。現今の東區平野町、一丁目より五丁目に至る。東横堀川に架する平野橋より西に通じ、北に道修町、南に淡路町と各隣接す。即月の潤色・上「私も若いに鐵業つけて、逃れし寒の河原町、三途の瀬戸の淡路町、越れば親の古里の、名にも別れる平野町、晴なき時太鼓、どう道修町これやこの、修羅の太鼓の響かど、共に驚く袖と袖」關取千雨稿・八「生れかばりて又愛へ、親の便りを備後町、永き米來を瓦町、かく成り果つる我々は、いつの因果を身にうけて、共に憂き目に淡路町、悔むは愚痴と平野町、とは思へども棄つる身を、替めてはゆる犬の聲、道修町船過ぎ行けば、はや晝夜中の月代の、空恐ろしく行き悩む、しばしば爰に伏見町」

す。米・蕎麥の産多く、賣藥の特産あり。社線大阪電氣鐵道東部線を掠めて走る。村名はこの地落政の頃、田原本藩主平野氏の所領たりしに因む。大字飯高に小字部連の祖、神八井耳命を祀る子部神社、飯高堂(瑞花院)などあり。(鏡作伊多神社) 村社。祭神、石許利止賣命。式内社。例祭、九月二十一日。(瑞花院) 大字飯高にあり。淨土宗。一に飯高堂。嘉古三年在原重若丸の建立と傳へ、奉樂寺と號せらるる古刹。本堂は國寶。
【平野】 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に都濃郡平野郷あり。その地、いまの都濃郡福川町・夜市村・湯野村の邊に當る。延喜式に平野驛馬廿疋とあり、和名抄に都濃郡驛家二所あり、その地今の福川町の平野宿なり。
【平野村】 愛媛縣伊豫國喜多郡の西南部。八幡濱市の東北に接し、東北部は大洲町に界す。全村山岳地をなし、西北境には鞍掛山そびゆ。低地は東北隅に僅に開けて大洲町の低地につゞく。純農村にして米・蕎麥を主とし、一部養蠶其他の副業に従事す。縣道中央を横斷し八幡濱市及び大洲町へはパスを通す。また豫讃本線の伊豫平野驛(昭和十一年改称)を設く。もと平地・野田の二村なりしが合併して平野村と名づく。宇和郡に屬せしが明治三十二年本郡に編入し以て今日に至る。
ヒラノ 日良野嶺山 下山村(山形縣西村山郡)

ヒラハタ 平幡 愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年本村及び穂原村を廣し新に八幡村を設く。
ヒラハタ 平端 奈良縣生駒郡にありし村。昭和十年本多村と合併して昭和村を建つ。
ヒラバヤシ 平林 新潟縣越後國岩船郡の西南部。岩船町の南に隣り、荒川河川の右岸に位し、西は日本海に面す。村形は西北より東南に狭長なり。東境には朴坂山(四三八米)ありて其の山肢西方に走りて東部に要害山(二八一米)を起し、東半は概ね山地を成す。西部沿岸には岩船町に連なる砂丘發達し、其の間に肥沃なる低地開く。純農村にして米産多く、東部山地にありては桑園よく拓けて養蠶業行はる。省線越後本線中部低地を南北に走り城内に驛を設かざるも坂町驛・岩船町驛に近く交通便なり。この地は色部氏の舊邑なりしといひ、北越軍記に、平林内藏助なる人あり、色部一族なるべし。
【平林村】 山梨縣甲斐國中巨摩郡の西南部。東南は南巨摩郡増穂・穂積・五開の諸村に、西南は同西山村に隣接す。西部には丸山(一九一〇米)聳立し、一般に高山地帯にして高原狀をなす。耕地は水利の便なる所に發達し米・蕎麥・蕎麥の外に木材・木炭を出す。街道は中部を貫通するも險路をなし、交通便ならず。村内に義丹澤(高三〇米、幅四米)・物留澤(高二七米、幅四米)あり。(平林の大杉及び大樺) 高尾山米室神社境内に大杉あり、樹幹周囲日通り八米、根廻り一〇米餘、多數の他の杉とともに密林をなす。大樺は

りし村。昭和十年本多村と合併して昭和村を建つ。
ヒラバヤシ 平林 新潟縣越後國岩船郡の西南部。岩船町の南に隣り、荒川河川の右岸に位し、西は日本海に面す。村形は西北より東南に狭長なり。東境には朴坂山(四三八米)ありて其の山肢西方に走りて東部に要害山(二八一米)を起し、東半は概ね山地を成す。西部沿岸には岩船町に連なる砂丘發達し、其の間に肥沃なる低地開く。純農村にして米産多く、東部山地にありては桑園よく拓けて養蠶業行はる。省線越後本線中部低地を南北に走り城内に驛を設かざるも坂町驛・岩船町驛に近く交通便なり。この地は色部氏の舊邑なりしといひ、北越軍記に、平林内藏助なる人あり、色部一族なるべし。
【平林村】 山梨縣甲斐國中巨摩郡の西南部。東南は南巨摩郡増穂・穂積・五開の諸村に、西南は同西山村に隣接す。西部には丸山(一九一〇米)聳立し、一般に高山地帯にして高原狀をなす。耕地は水利の便なる所に發達し米・蕎麥・蕎麥の外に木材・木炭を出す。街道は中部を貫通するも險路をなし、交通便ならず。村内に義丹澤(高三〇米、幅四米)・物留澤(高二七米、幅四米)あり。(平林の大杉及び大樺) 高尾山米室神社境内に大杉あり、樹幹周囲日通り八米、根廻り一〇米餘、多數の他の杉とともに密林をなす。大樺は

ヒラノ——ヒラハ

十一年岡谷市に編入さる。
【平野】 平安京の頃、洛北七野の一。紙屋川の西にして、大將軍の北に位す。官幣大社平野神社鎮座す。平野はこの附近なり。
【平野】 關西本線の一驛(明治二十二年設置)にして片町線の接續點。大阪市住吉區平野元町にあり。
【平野村】 兵庫縣播磨國明石郡の中部。明石川の西に隣り、明石市の北方約三軒。東西兩部は東北より西南に連れる丘陵地にして、中央には明石川同じく東北より西南に貫流し、沿岸に廣潤なる低地開く。米・小麥・蕎麥・大豆・蕎麥・花芥・業種草・食用産産・果實等の農産の外に醤油・蠶製品及び水産産産・林産物等あり。明石川に沿ひて縣道走り、之より分れて北方へ向ふ縣道もありてパスの便よし。此地、中世は平野莊と呼ばしといふ。
【平野】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に播磨郡平野郷あり、比良乃と訓す。その地今の姫路市の邊に當り、風土記に牧野里とあるも此れなり。
【平野】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に美濃郡平野郷あり、比良乃と訓す、その地今の美濃郡久留美村の邊か。
【平野村】 奈良縣大和國磯城郡の西部。田原本町の西南に接し、曾我川東岸に沿ひ對岸は北葛城郡なり。南は高市郡に界す。全村地形低平にして西境に沿ひて曾我川北流し、中部には飛鳥川北方へ貫流

す。米・蕎麥の産多く、賣藥の特産あり。社線大阪電氣鐵道東部線を掠めて走る。村名はこの地落政の頃、田原本藩主平野氏の所領たりしに因む。大字飯高に小字部連の祖、神八井耳命を祀る子部神社、飯高堂(瑞花院)などあり。(鏡作伊多神社) 村社。祭神、石許利止賣命。式内社。例祭、九月二十一日。(瑞花院) 大字飯高にあり。淨土宗。一に飯高堂。嘉古三年在原重若丸の建立と傳へ、奉樂寺と號せらるる古刹。本堂は國寶。
【平野】 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に都濃郡平野郷あり。その地、いまの都濃郡福川町・夜市村・湯野村の邊に當る。延喜式に平野驛馬廿疋とあり、和名抄に都濃郡驛家二所あり、その地今の福川町の平野宿なり。
【平野村】 愛媛縣伊豫國喜多郡の西南部。八幡濱市の東北に接し、東北部は大洲町に界す。全村山岳地をなし、西北境には鞍掛山そびゆ。低地は東北隅に僅に開けて大洲町の低地につゞく。純農村にして米・蕎麥を主とし、一部養蠶其他の副業に従事す。縣道中央を横斷し八幡濱市及び大洲町へはパスを通す。また豫讃本線の伊豫平野驛(昭和十一年改称)を設く。もと平地・野田の二村なりしが合併して平野村と名づく。宇和郡に屬せしが明治三十二年本郡に編入し以て今日に至る。
ヒラノ 日良野嶺山 下山村(山形縣西村山郡)

ヒラハタ 平幡 愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年本村及び穂原村を廣し新に八幡村を設く。
ヒラハタ 平端 奈良縣生駒郡にありし村。昭和十年本多村と合併して昭和村を建つ。
ヒラバヤシ 平林 新潟縣越後國岩船郡の西南部。岩船町の南に隣り、荒川河川の右岸に位し、西は日本海に面す。村形は西北より東南に狭長なり。東境には朴坂山(四三八米)ありて其の山肢西方に走りて東部に要害山(二八一米)を起し、東半は概ね山地を成す。西部沿岸には岩船町に連なる砂丘發達し、其の間に肥沃なる低地開く。純農村にして米産多く、東部山地にありては桑園よく拓けて養蠶業行はる。省線越後本線中部低地を南北に走り城内に驛を設かざるも坂町驛・岩船町驛に近く交通便なり。この地は色部氏の舊邑なりしといひ、北越軍記に、平林内藏助なる人あり、色部一族なるべし。
【平林村】 山梨縣甲斐國中巨摩郡の西南部。東南は南巨摩郡増穂・穂積・五開の諸村に、西南は同西山村に隣接す。西部には丸山(一九一〇米)聳立し、一般に高山地帯にして高原狀をなす。耕地は水利の便なる所に發達し米・蕎麥・蕎麥の外に木材・木炭を出す。街道は中部を貫通するも險路をなし、交通便ならず。村内に義丹澤(高三〇米、幅四米)・物留澤(高二七米、幅四米)あり。(平林の大杉及び大樺) 高尾山米室神社境内に大杉あり、樹幹周囲日通り八米、根廻り一〇米餘、多數の他の杉とともに密林をなす。大樺は

りし村。昭和十年本多村と合併して昭和村を建つ。
ヒラバヤシ 平林 新潟縣越後國岩船郡の西南部。岩船町の南に隣り、荒川河川の右岸に位し、西は日本海に面す。村形は西北より東南に狭長なり。東境には朴坂山(四三八米)ありて其の山肢西方に走りて東部に要害山(二八一米)を起し、東半は概ね山地を成す。西部沿岸には岩船町に連なる砂丘發達し、其の間に肥沃なる低地開く。純農村にして米産多く、東部山地にありては桑園よく拓けて養蠶業行はる。省線越後本線中部低地を南北に走り城内に驛を設かざるも坂町驛・岩船町驛に近く交通便なり。この地は色部氏の舊邑なりしといひ、北越軍記に、平林内藏助なる人あり、色部一族なるべし。
【平林村】 山梨縣甲斐國中巨摩郡の西南部。東南は南巨摩郡増穂・穂積・五開の諸村に、西南は同西山村に隣接す。西部には丸山(一九一〇米)聳立し、一般に高山地帯にして高原狀をなす。耕地は水利の便なる所に發達し米・蕎麥・蕎麥の外に木材・木炭を出す。街道は中部を貫通するも險路をなし、交通便ならず。村内に義丹澤(高三〇米、幅四米)・物留澤(高二七米、幅四米)あり。(平林の大杉及び大樺) 高尾山米室神社境内に大杉あり、樹幹周囲日通り八米、根廻り一〇米餘、多數の他の杉とともに密林をなす。大樺は

四三三

ヒルター—ヒロ

のみ開けて木曾川西流す。平流川は北部に登源し...

四軒を隔つる大井町・茄子川附近よりも明かに之を見るを得。古くより中仙道往還の旅客の眼に入り...

村にあり。ヒレフル 領巾振山 ↓鏡村(佐賀) ヒロ 廣

門等、官と謀りて堤防を築き道路を改修して復興の基をなせりといふ。橋渡は明治後諸公職に就き功あり...

より開拓せしものといふ。(二級の港) 廣の大瀧と稱へ、縣下第一の大瀧にして上下二級をなし...

五七米、廣尾(一三三〇米)等の高峰西北へ東南に連なりて高峻を極め、人跡未踏の山林地帯をなし...

としての面目を一新せり。村内未だ人口乏しく原野山林の開墾せざるもの多き

黄金道路にして、果てなき太平洋の怒濤断崖に激し、コンクリート敷設なく樹き、登降頗る難事なり。近畿重慶道路開墾記に記せる海岸の險峻は留連津より近き、谷崎を経て日勝國境のピタメソク川を渡るまでにして、右は断崖絶壁、左は怒濤岩礁を洗ふところ、その間九箇のトンネルを穿てて自動車ドライブに快適なる海岸貴賓道路となる。(オコッヘ海水浴場)オコッヘ岬にあり、夏期は臨時列車出づ。附近に立石・フンペ瀨等あり。

【廣尾】 北海十勝國の南部。十勝支廳六郡の一。十勝國の南端を占め、西南は日高山脈、東南は太平洋海岸線に挟まれ、北は十勝、中川二郡に接する。頂點を南にせるほぼ正三角形の大郡なり。郡内北に大瀧、南に廣尾の二村を含む。面積一四二六・二方新。地勢は略々三別するべし。西南端は日高山脈の十勝岳(一四

【廣尾村】 北海十勝國十勝支廳廣尾郡の南端。東は弓状海岸をなして太平洋に面し、北は大瀧村、西南は日高國に界す。面積五九五・五三方新。地形略々三角形をなし底邊をなす西南國境に日高山脈連なり、東北海岸に向つて地勢徐々に傾斜す。東北海岸は十勝平野の一部をなし、西南山中に發したる豊似・野塚・廣尾等の諸川灌漑す。海岸線出入乏しきも各河川の口に漁業業落あり。特に廣尾港は近時修築工事によりて漁業・交通上の良港

【廣尾村】 北海十勝國十勝支廳廣尾郡の南端。東は弓状海岸をなして太平洋に面し、北は大瀧村、西南は日高國に界す。面積五九五・五三方新。地形略々三角形をなし底邊をなす西南國境に日高山脈連なり、東北海岸に向つて地勢徐々に傾斜す。東北海岸は十勝平野の一部をなし、西南山中に發したる豊似・野塚・廣尾等の諸川灌漑す。海岸線出入乏しきも各河川の口に漁業業落あり。特に廣尾港は近時修築工事によりて漁業・交通上の良港

【廣尾村】 北海十勝國十勝支廳廣尾郡の南端。東は弓状海岸をなして太平洋に面し、北は大瀧村、西南は日高國に界す。面積五九五・五三方新。地形略々三角形をなし底邊をなす西南國境に日高山脈連なり、東北海岸に向つて地勢徐々に傾斜す。東北海岸は十勝平野の一部をなし、西南山中に發したる豊似・野塚・廣尾等の諸川灌漑す。海岸線出入乏しきも各河川の口に漁業業落あり。特に廣尾港は近時修築工事によりて漁業・交通上の良港

【廣尾】 北海十勝國の南部。十勝支廳六郡の一。十勝國の南端を占め、西南は日高山脈、東南は太平洋海岸線に挟まれ、北は十勝、中川二郡に接する。頂點を南にせるほぼ正三角形の大郡なり。郡内北に大瀧、南に廣尾の二村を含む。面積一四二六・二方新。地勢は略々三別するべし。西南端は日高山脈の十勝岳(一四

【廣尾村】 北海十勝國十勝支廳廣尾郡の南端。東は弓状海岸をなして太平洋に面し、北は大瀧村、西南は日高國に界す。面積五九五・五三方新。地形略々三角形をなし底邊をなす西南國境に日高山脈連なり、東北海岸に向つて地勢徐々に傾斜す。東北海岸は十勝平野の一部をなし、西南山中に發したる豊似・野塚・廣尾等の諸川灌漑す。海岸線出入乏しきも各河川の口に漁業業落あり。特に廣尾港は近時修築工事によりて漁業・交通上の良港

【廣尾村】 北海十勝國十勝支廳廣尾郡の南端。東は弓状海岸をなして太平洋に面し、北は大瀧村、西南は日高國に界す。面積五九五・五三方新。地形略々三角形をなし底邊をなす西南國境に日高山脈連なり、東北海岸に向つて地勢徐々に傾斜す。東北海岸は十勝平野の一部をなし、西南山中に發したる豊似・野塚・廣尾等の諸川灌漑す。海岸線出入乏しきも各河川の口に漁業業落あり。特に廣尾港は近時修築工事によりて漁業・交通上の良港

【廣尾村】 北海十勝國十勝支廳廣尾郡の南端。東は弓状海岸をなして太平洋に面し、北は大瀧村、西南は日高國に界す。面積五九五・五三方新。地形略々三角形をなし底邊をなす西南國境に日高山脈連なり、東北海岸に向つて地勢徐々に傾斜す。東北海岸は十勝平野の一部をなし、西南山中に發したる豊似・野塚・廣尾等の諸川灌漑す。海岸線出入乏しきも各河川の口に漁業業落あり。特に廣尾港は近時修築工事によりて漁業・交通上の良港

ヒロ—ヒロ

ヒロカ

武蔵國(東京府)の古地名。和名

抄に豊島郡廣岡郷あり、その地今の東京市板橋區練馬の邊か。

ヒロオカカミノ 弘岡上ノ村

高知縣土佐國吾川郡の東南部。仁淀川河口近くの左岸に沿ひ、對岸は高岡郡高岡町なり。北部は低き丘陵の南方傾斜地をなし、南部は仁淀川河口附近の廣き平野の一部を占め、地形平坦にて西南端に沿ひて仁淀川東南流し約五軒先に土佐側に入る。低地は田畑よく拓け米産多く、蕎麥・大豆・柑・柿等もあり、また工業・水産・畜産及び林産あり。鐵道四通し山麓を東西に走る鐵道は西北方伊野町へ通じ、また東部よりは之より分れて東北高知市へ至る街道ありバスを過す。幕末の勤王家宮田節齋は此地の人にて、元治年間、清岡等と藩政改革を唱へ野根山に據り、のち捕へられて奈半利河原に斬らる、年二十五。

ヒロオカシモノ 弘岡下ノ村

高知縣土佐國吾川郡の東南部。高知市の西南方約三軒。北は土佐郡に接し南方約四軒にて土佐側岸に出づ。北部に二五〇米以下の五領寺山脈連り、南半は肥後なる平野拓け、米・蕎麥等の外に大豆・燕・梨・西瓜の産多し。道路よく發達し、南部に東西に走る鐵道は東部に二つに分れ、一は東南南方浦戸村龍王碑に至り、一は東方浦戸村に出でて高知市に入る。いづれもバス通ふ。

ヒロオカナカノ 弘岡中ノ村

高知縣土佐國吾川郡の東南部。高知市の西南方約四軒。北は土佐郡に昇す。北部には五領寺山脈連りて南方へ緩き傾斜をなし、南部は廣き沃野ひらけて新川西流し、約二・五軒西方にて東南流する仁淀川に合す。米産多く蕎麥・瓜類・果實等の産も多く、また工業・畜産・林産あり。道路よく發達し南部を東西に走る鐵道は西北方伊野町、東方長濱町を結び、東部にて北走し東北高知市に至る鐵道もあり、高知市及び西南方高岡郡須崎町方面へ殆ど間斷なくバスの便あり。弘岡城址あり、吉良森といふ。築城年次不詳。戰國時代、吉良氏此處に據り、長曾我部氏と戦ふ。永祿年間、宜直の本山梅庵に殺さるるに及び廢城す。〔寛倉神社〕大字弘岡中ノに鎮座。祭神、天照靈大神。創建年次詳ならずも、古より境内の靈應神にして、舊稱を寛倉三社大明神と稱す。例祭、八月四日・十月三十一日。

ヒロカタ 弘形村

愛媛縣伊豫國上浮穴郡の中郡。仁淀川上流河川と縣界川との合流點に位し、久万町の東南に接する山村なり。西南端には大川嶺(一五

ヒロキ 弘紀

武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に那珂郡弘紀郷あり、その地の兒玉郡松久村の邊に當る。

ヒロコジ 廣小路

東京の地名。上野廣小路・兩國廣小路・淺草廣小路・中橋廣小路等あれど、單に廣小路と稱すれば上野廣小路をさす。いま下谷區上野公園入口前の廣き街道。江戸時代筋違橋(いま萬世橋)より東叡山寛永寺に至る大通を御成街道と稱し、三橋を經、黒門口までを、特に廣小路と云ふ。現今は東側に廣小路町・三橋町の名を存す。世説新語茶・千年の鶴吉が品玉に足をと

ヒロサキ 弘前市

青森縣陸奥國西南部の都市。津輕平野の南端部に位し、四周は中津輕郡の地にて、東は豊田、南は黒越・千年・清水、西は駒越・藤代、北は和徳の諸村に接す。昭和三年清水村の一部を、同十一年和徳村の和徳・高崎・堅田の三大字を編入し、現在の市域は東西四・三六軒、南北四・四八軒、面積一四・二五方軒、人口約五一、〇〇〇人を有す。西北端を掠めて北流する岩木川、東方を北流する支流平川の造る二屈狀地の間に位し、流れ低平なるも東南より西北にかけてやや高く、北部と西部はやや低し。高き部分には上町、北部は中町、西部は下町とよばる。もと津輕氏十萬石の城下町として發達せし處、明治初年廢藩後一時衰れたりしも、省領奥羽本線開通し、明治二十七年弘前(當時は和徳村内)設けられ、同三十年、第八師團置かれまた次第に發展せり。弘前城址は北西部にあり、いま一ノ丸・二ノ丸・三ノ丸の一部は弘前公園(豊揚園)として保存せられ、三ノ丸の東南部は第八師團兵器部・火藥庫等の敷地となる。城の東側は南北に學校・官街をなし、その東側

ヒロサワ 廣澤

群馬縣山田郡にありし村。昭和十二年桐生市に編入さる。清和源氏、足利の一族、廣澤氏を稱せし所。

ヒロシ 廣路

愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年本村外一村を廢し御器所村を置き、御器所村は大正十年、名古屋市に編入さる。

ヒロシマ 廣島

の親方町。一番町より東南に延びる土手町は市の最繁華街なり。市の南部より郊外にかけて第八師團司令部・歩兵第四旅團司令部・歩兵第三十一聯隊(千年村)・騎兵第八聯隊(福越村)・野砲兵第八聯隊・輜重兵第八聯隊(清水村)・青森地方裁判所支部・弘前高等學校・弘前警察署等の公署あり。酒類・織物(絹木綿・絹木綿など)・菓子類・木製品・服物・味噌等の工業行はれて工業總額七八〇萬圓に近し。商業また榮えて苹果・米・味噌・薬工品・酒等を移出し、織物・穀類・海産物・肥料等を移入す。名勝舊蹟には豊揚園・最勝院五重塔、社寺に八幡宮・熊野真照神社・東照宮の縣社、津輕氏の菩提寺長勝寺あり。〔豊揚園(弘前公園)〕弘前城址の一部にして、園名は大正天皇が皇太子にあらせらるる時に命名し給ひしものといふ。中央に藩祖津輕信綱の銅像及び三鳥發揚文の豊揚園記碑あり。舊西郭に蓮池、舊門外郭に武徳殿、舊北郭に招魂社・贈正四位西宮孤清碑・乙種公認競技場等あり。明治三十一年及び三十六年に植みつげし二千株の櫻は老松古杉と反映して毎春美觀を呈す。〔神明宮〕小人町に鎮座。祭神、天照大神。創建年次詳ならずも、津輕家累代の崇敬厚く、社領若干を寄せ、社殿の修補、再建等間然する所なかりき。例祭、九月十六日。〔八幡宮〕田町に鎮座。祭神、譽田別尊外二神。別稱、大浦八幡宮。當社は中世

ヒロサト 廣里

津輕郡八幡村に鎮座し、天文年中社殿を再興すと傳ふ。のち藩主津輕家累代の崇敬厚く、眞言宗最勝院にして三百石を賜はりて本社に別當ならしめ、津輕全部百十餘所の社人を統管せしむ。例祭、八月十五日。〔熊野真照神社〕田町に鎮座。祭神、熊野氣野命・伊弉諾命外四神。崇神天皇六十七年の創建と傳ふ。津輕家累代の崇敬厚し。例祭、五月十五日。〔東照宮〕性善町に鎮座。祭神、徳川家康。後水尾天皇元和三年津輕藩主信敬、國家鎮護の爲、弘前城内に勧請せし所。例祭、四月十七日。〔稻荷神社〕字和徳町に鎮座。祭神、倉稻魂命外二神。社傳に桓武天皇の御宇、坂上田村麿東夷征討の後社殿を再建すと傳へ、その後藩主津輕家の崇敬厚く代々その祈願所たり。例祭、六月二十日。〔華秀寺〕曹洞宗。慶長十七年津輕信牧、父爲信追福のため草創せし寺にして、長勝寺八世格翁の開基、瑞祥殿と呼ばれる爲信の靈屋あり。門前に池泉あり、池畔の小祠は華彦稻荷と稱し藩主の崇敬厚かりしといふ。〔最勝院〕洞屋町にあり。新義眞言宗智山派。金剛山光明寺。天文年中の創建に係り、もと八幡神社別當として寺領三百石を有すと傳ふ。堂宇中、五重塔婆はもと大圓寺に屬せしもの、寛文中津輕信政の建立に係り江戸時代の優秀なる建築として現に國寶たり。〔普願寺〕新町にあり。慶長年中表願上人の開創にし、

ヒロサト 廣里

て、寛永年、中京都賀願寺に擬して造られしが、のち屢々火災に罹る。表門は江戸時代初期建築として優秀なるものといふ。〔長勝寺〕西茂森町にあり。曹洞宗。大永年中、大浦盛信が父先信のために大浦村裡に創建せし寺にして、のち賀田村に移され、慶長年間に至りて更に現地に移る。津輕氏の菩提所にして、本堂直後に津輕藩祖爲信の御影堂あり。なほ境内に津輕氏數代の廟あり。堂宇中、三門は國寶たり。〔報恩寺〕新寺町にあり。天台宗。津輕氏の廟所にして、明暦元年藩主津輕信義卒去の際、遺命によりて建立せられし所に、信義及び信政の墓所を營み、のち信壽以後代々の墓またここに改葬せらる。

ヒロサタ 廣定村

廣島縣備後國世羅郡の東北隅。甲山町の北方五軒餘に位し、東北より東に甲奴郡に開かれ、西北は雙三郡に昇す。村内山地丘陵地と云ふ起伏し、東南端に男鹿山(六三四米)、西南端には頭士山(六四八米)聳ゆ。低地は東北端及び西北部に開け、共に小河東北流して甲奴郡に入り江ノ川支流の上下川に合す。米・蕎麥・大豆及び林産・工業・畜産あり。南方甲原町及び北方比婆郡庄原町へバス通す。〔須佐神社〕大字小倉に鎮座。村社。祭神、建速須佐之男命。創立年代等詳ならず。神殿・拜殿・神樂殿・神輿殿・神庫等あり。

ヒロサト 廣里

山梨縣北都留郡に、どめ、萬代の魚屋が茶飯に菓をつくり、廣小路の植木に目をよるこぼしめ、佛店の蒲焼に鼻をひこつかせし六あみだ詣。三ノこで日出度おさませんと、廣小路なる長福寺にまゐりて、六番までうちおさめぬ。

廣島縣(大正十五年開港)を設け、交通不便ならず。本村は明治十六年六月、廣島縣八和郡次、開港移住を企て、月家村の内シブアツ川より島松川間の山林原野を合せ、百萬坪を選定し、谷川左衛門等と共に渡道し、同年十二月入地し翌年四月迄に開闢人十七戸を招致し、開墾に従事せしに始まる。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇島松行在所として指定史蹟たり。

【廣島縣】中國地方南面の中部に位す。東は岡山、西は山口、北は島根・鳥取の諸縣と界し、南は瀬戸内海に面しその備後灘・安藝灘を挟みて愛媛縣と相對す。東西約一三〇軒、南北約一四軒、面積八四三六方軒餘ありて内地道府縣中第十一位に居り、鹿兒島縣に亞ぎ兵庫縣に先んず。昭和十二年十月推計人口約一八五・二萬人、一方軒の密度二・九人にして中國地方五縣中最も稠密なり。安藝國(廣島・吳の二市、安藝・佐伯・安佐・山縣・高田・賀茂・豊田の七郡)と備後國(尾道・福山・三原の三市、御調・世羅・沼隈・深安・産品・神石・甲奴・雙三・比婆の九郡)を管し、縣廳を廣島市に置く。

〔地形〕北境には主として花崗岩・石英斑岩より成る中國山脈略東西に走り、東北部の備後・伯耆の境上に道後山(一、二六九米)、備後・伯耆・出雲三國界には三國山(一、〇〇四米)、それより西に渡政山(二、六八八米)、大萬木山(一、二二八米)、備後・出雲・石見の國界に三國山(約七〇〇米)、安藝・石見の境上に阿佐山(一、一八米)、大佐山(一、〇六九米)、安藝・石見・周防三國界上に冠山(寂地山、一、三三九米)等を起すも山容何れも急峻ならず。その南に位する備後の北半より安藝の東部にかけては謂ゆる中國準平原の一部にて平均高度五〇〇米を有し解折せられたる高原狀地勢を呈し、日本海に注ぐ江ノ川上流の流域に屬す。この高原の南邊はやや高まり、尾ノ居山(八三五米)・男鹿山(六三三米)・天神岳(七五八米)・鷹巣山(九二二米)等ありて南方の瀬戸内海に入る小田川・産田川・沼田川等の沿海斜面の分水界をなす。また安藝の西部は主として太田川の流域に屬し、加計・水内・三津等、東北・西南の相平行せる構造谷によりて截らるる山地をなす。從つて縣内は北備後の高原(日本海斜面)・沿岸と島嶼部を含む瀬戸内地方及び安藝西部山地の三地理區に分かる。江ノ川の上流可受川は阿佐山の東南谷に發し、始めは東流するも郷野に至りて東北に向ひ、北備後高原西部の三次盆地に至りて北より下る神ノ瀬川、東北より來る西尾川、東南より來る馬洗川等と合し、西北に向ひ、中國山脈を越りて峡谷をなし、島根縣石見國に出でて日本海に注ぎ中國第一の長流をなす。太田川は大佐山の南に發して南下し、戸河内にて西南より來る吉和川を入れて東北に轉じ、加計にて瀧山川を合してまた東南に向ひ、可部の南にて東北より來る三津川と會し、西南に折れ沿岸に沖積地をつくりその川口には廣島の大都會を發達せしむ。産田川・豊田川は沿海斜面の分水界が海岸に近きたり流路大ならざるも下流には可なり扇狀地をつくり、前者には福山、後者には三原の都市を築す。海岸は瀬戸内海の陥没によりて出入・岬角・島嶼頗る多く、吳・廣島(宇品)・三原・尾道・朝等をはじめ良港地に富む。〔氣象〕廣島市に於ける年平均気温は一四・七度、高極は三七・八度、低極は零下八・六度を示せることあるも夏季の最高平均気温は二六・八度、冬季の最低平均気温は四度に過ぎず、岡山市に比してやや高く下關市に比すればやや低し、これを山陰の濱田・境に比すれば冬季に於てやや低し。降水量は一五五二毫を示し、また岡山市(一、一三五毫)よりも多く下關市(一、六五五毫)よりも少く、特に冬季に於ては西北季節風の影響を受くること少きを以て日本海岸の濱田・境等に比すれば遙に少し。縣下全體に就て見ると南部は概して寡雨乾燥にして晴天多く謂ゆる瀬戸内式氣候に屬するも北部は南部に比して降水量も多く中國山地中にては降水量二〇〇〇毫以上に達し、また気温もやや低き部分あり。〔交通〕道路には國道(中國街道)は縣の南部を東西に貫きて沿岸の主要都

市を連ね、出雲街道は尾道より分岐して出雲に出で、別に廣島より三次を経てこれに合するもの、伯耆・石見に通ずるもの等あり。鐵道には省線山陽本線岡山縣より來りて略中國街道に沿ひ縣の南部を西方に走り、その間所々に支線を分ち、社線と會す。即ち福山線は福山驛より岐れ、北方神邊にて社線神高鐵道と會し、更に西北に向ひて産田川の谷を隔り、甲奴郡上下町を経て、雙三郡幸田村にて備後線聖町驛に達り、社線神高鐵道は福山驛に起りて南方の朝町に達し、社線尾道鐵道は尾道驛に發して、北方御調郡市村に延ぶ。省線吳線は三原驛に於て豊田・賀茂二郡の南岸を迂回し吳市を経て、北上して海田市驛に繋がる。また備後線と宇品線は共に廣島驛より分れて宇品線は廣島港(宇品港)に至り、備後線は三津川、次いで可受川の谷に沿ひ、東北上して三次町に出で、更に比婆郡の西城・東城等を過ぎ岡山縣阿賀郡に出でて伯備線新見驛に達す。更に可部線は廣川驛に始まり北上して安佐郡可部町を過ぎ四方の安藝飯室驛に終り、社線廣島瓦斯電氣鐵道の電車線は已變・宮島驛前間に通す。その他以上各鐵道線の主要驛より各地にバスの運轉行はれ、備後の東北部、安藝の西部の山地を除けば交通概ね便利なり。海上は尾道・三原・廣島(宇品)等の諸港を中心として沿岸の島嶼と香川・愛媛二縣の諸港及び九州の別府港等へ定期汽船の往來あり。

島に置き安藝一國及び備後八郡を管せしにはじまり、明治九年四月岡山縣所管の備後國の東南部六郡を併せここに備後一國を管し次いで今日に至る。

【廣島市】中國地方第一の商都市。廣島縣安藝國南岸の中部に位し、中國山脈に發し東南流して瀬戸内海に注ぐ太田川口の三角洲と、その附近の地を占め、東は安藝郡、西は佐伯郡、北は安佐郡に接し、南は廣島灣に臨む。東西一二二軒、南北九・六軒、面積六九・九方軒、昭和十一年推定人口三三・二萬人を有し、東京・大阪等の六大都市に次ぎ我國第七位の大都會たり。〔地形〕東部と西部は花崗岩より成る山地なるも市の要部をなす三角洲は沙土より成る沖積地にして北より南するに従ひ緩く低下し、南方海中には宇品島・金輪島・神島・似ノ島等の屬島浮ぶ。太田川は市の北部白島北町の北端一本木鼻にて東西二流に分る。東流する神田川は廣島町北角に至りてまた廣島川・京橋川に分れ、前者は東南流して市の東南部仁保町を貫き、後者は南流して宇品町の西に注ぐ。本流は西南に下り中島本町の北にて更に元安川を岐ちて共に南流し、その間右岸の横川町と寺町の間に他の一派を分ち、これは更に天満・福島・山手の三分流となりて共に西南に流る。かくて太田川の成す三角洲は東西六箇の中島に分れ、幾多の橋梁によりて結ばれ市は一に中國の水都・小大阪等の異

り、また大阪・下關間の汽船の寄港するあり。〔産業〕(一)農業。農家は約一八・五萬戸にして全戸数の約四八・四%を占むるも耕地面積は約一・一萬町歩(田約七・六萬町歩、畑約三・三萬町歩)にて一戸當り平均五反九畝弱に過ぎず、耕地狭小の結果集約栽培行はれたる未作のみにては農家の經濟を維持する能はざれば各種の副業盛に行はるるも農家戸数は漸減の兆あり。即ち大正元年末二四・四萬戸なりしもの、昭和五年には一九・六萬餘戸、同十一年には既述の如く一八・五萬戸となれり。産産地額は約八八〇〇萬圓、未多額その首位を占め、多額の約八〇%は裸にて概れ自給自足の状態なるも米は全縣民の需要を充すに足らず、毎年約五〇萬石内外を朝鮮・臺灣・岡山・山口等の地方より移入するを常とす。農産中の特産物に柑類・除蟲菊・高麗芋・蘭草・廣島菜・柿等あり。柑類は沿海及び島嶼部を主産地とし、特に温州蜜柑とネーアルオレンジは早熟と甘味に富むを以て著ばれ、除蟲菊は御調・豊田二郡に主として栽培せられ、年産五〇萬圓を超え北海道に亞ぎて全國第二位を占む。高麗芋は産出量全國に冠絶し、食料原料に供せらるる外工業原料として他府縣に移出せらる。蘭草も全國第二位の産額を有し主として沼隈・御調・安佐三郡より産出せられ墨表・花冠・帽子・圍座等の製品原料となる。廣島菜は慶長年間京都に種子

を求めて試作せるに始り、風土の關係により葉形圓く葉柄中肋共に廣島良品を産出するに至り却つて京阪神地方へも移出せらる。〔水産業〕海岸線長く瀬戸内海は僻靜にて漁獲に適し古來漁業は盛なりしも近年は魚獲の毒種不良となり、漁獲高年額約四百萬圓に過ぎず。この外製造物に刺繍・海苔・魚介罐詰等あり年額約五百萬圓に近し。その他豊田・沼隈・御調・賀茂四郡は有名なる製鹽地にして年額約一億斤の生産を擧ぐ。水産物中にて特記すべきは牡蠣と海苔の養殖にて、前者は廣島市を中心とする東西約四〇軒内外の瀬戸内海沿岸を主産地とし、この地方は古く冬季大阪・下關方面に船を出して牡蠣料理を營みしより牡蠣船・廣島牡蠣の名は夙く世に高し。〔畜産業〕養蠶は農家の副業にて御調・産品・雙三・深安・安佐・安藝・比婆七郡に主として行はれ、年額二六〇萬圓に達し、なほ發展の餘地少からず。飼畜産業。縣の東北部高原地帯は風土牧畜に適し、畜牛數一〇・二萬餘頭を數へ神石牛の名世に聞ゆ。この外馬約八千頭、豚約一〇萬頭、家畜一三五萬羽に及び、年々屠殺の家畜・家禽の價額三八〇萬圓に上る。〔園林業〕林野面積七一萬町歩の廣きに互るも東北部・西部の外は地力少く林相よろしからず。林産中特筆すべきはアベマキ樹皮と木炭にて前者は製紙・床敷用・リノリウムの代用品その他用ひられ、後者は年産二百

萬圓を超え、佐伯・山縣・雙三・比婆の諸郡をその主産地とす。〔工業〕工業は本縣産業中の首位を占め、生産地額は一八、〇〇〇萬圓を超え、主なる工業品は綿糸紡績を第一とし、清酒・金屬製品・織物・印刷・罐詰・水産等之に次ぎ、なほ産額百萬圓以上三百萬圓未満のものに、菓子類・水産製造物・製糖・生糸・九及び角材・木履・染料等あり。綿織物は謂ゆる備後織・備後織の名にて著ばれ、地質強靱・染色堅牢・價格低廉なるより久留米織と共に並稱せらる。清酒は賀茂・佐伯・沼隈・御調・安藝・産品・安佐諸郡に醸造せられ色澤淡白、香氣芳烈、風味温雅の點に於て濠・福岡の清酒とその芳醇を争ふ。この外特産として數ふべきものに墨表・ゴム製品・罐詰・木製品(指物)・金ペン・萬年筆・毛筆・磁針等あり。墨表は尾道市・沼隈・御調・深安・安佐諸郡を主産地とし古來備後墨として名高し。ゴム製品は廣島・吳・尾道・福山の諸市と海田市町にて、金ペン・萬年筆は廣島・吳兩市にて近年新に製造せられ俄に聲價を高め、罐詰は日清戰役以來數回の戦役の際に皇軍に供給せる幾多の試験を経て廣島市に發達せしものにかか。その他東筒・佛壇・西洋家具等の指物類はまた廣島市の特産として著れ、毛筆は安藝郡熊野町・廣島市及び賀茂郡川尻町を主産地とし生産數量・金額共に全國に冠たり。本縣は明治四年十一月廣

島に置き安藝一國及び備後八郡を管せしにはじまり、明治九年四月岡山縣所管の備後國の東南部六郡を併せここに備後一國を管し次いで今日に至る。

【廣島市】中國地方第一の商都市。廣島縣安藝國南岸の中部に位し、中國山脈に發し東南流して瀬戸内海に注ぐ太田川口の三角洲と、その附近の地を占め、東は安藝郡、西は佐伯郡、北は安佐郡に接し、南は廣島灣に臨む。東西一二二軒、南北九・六軒、面積六九・九方軒、昭和十一年推定人口三三・二萬人を有し、東京・大阪等の六大都市に次ぎ我國第七位の大都會たり。〔地形〕東部と西部は花崗岩より成る山地なるも市の要部をなす三角洲は沙土より成る沖積地にして北より南するに従ひ緩く低下し、南方海中には宇品島・金輪島・神島・似ノ島等の屬島浮ぶ。太田川は市の北部白島北町の北端一本木鼻にて東西二流に分る。東流する神田川は廣島町北角に至りてまた廣島川・京橋川に分れ、前者は東南流して市の東南部仁保町を貫き、後者は南流して宇品町の西に注ぐ。本流は西南に下り中島本町の北にて更に元安川を岐ちて共に南流し、その間右岸の横川町と寺町の間に他の一派を分ち、これは更に天満・福島・山手の三分流となりて共に西南に流る。かくて太田川の成す三角洲は東西六箇の中島に分れ、幾多の橋梁によりて結ばれ市は一に中國の水都・小大阪等の異

稱を以て呼ぶ。市街は天正十七年毛利輝元の築城に始りその廣島城を核心として發達せるものにて、城址は市の略中央部に在り、その本丸址にいま第五師團司令部あり、その東に歩兵第十一聯隊、西に野砲兵第五聯隊、輜重第五大隊、陸軍病院等、南に西練兵場あり。城址の東、神田川の西は鐵砲町・上流川町・横町等にて舊士族屋敷街、神田川の東、二葉山の南には騎兵第五聯隊と東練兵場、廣島驛等あり。西練兵場の南より南北に走る大手町、之と直交する元安橋筋附近は最も繁華なる商店街、その東方即ち土族屋敷街の南は近年俄に勃興せる歌樂街、新天地なり。商店街の南は官衙學校區をなし、廣島控訴院・同地方裁判所・縣立女子專門學校・縣立廣島高等女學校・縣立廣島第一中學校・市役所・廣島文理科大学・同高等師範學校・道徳高等女學校・山中等女學校・縣立工業學校・廣島工業學校、元安川の西岸には縣廳・縣病院、京橋川の東には師範學校、その南方には廣島高等學校等あり。中等及び之に準ずる各種學校は以上の外なほ官・縣・市・私立のもの多く總數七十一校を數へ、官衙には既記の外、廣島稅務監督局・廣島稅務署・神戸稅關廣島出張所・廣島警務署・廣島通信局・廣島鐵道局等を主なるものとし、市が學術・教育・政治及び軍事上の中心地たるを物語るものなり。(産業)市は又中國地方に於ける重要な商

Table with 7 columns: 年度, 工産, 農産, 畜産, 水産, 林産, 鐵産, 計. Rows for 昭和七, 八, 九, 十, 十一年.

工都市にして、生産總額は昭和十一年に於て一億圓を突破し、その中工業は九千四百八十萬圓に近く、生産總額の九一・五%を占む。主要生産品は機械器具(一八五五萬圓)を筆頭に、人造絹糸(四九八萬圓)・織詰(四七萬圓)・印刷製本(四七二萬圓)・ゴム製品(四四三萬圓)・洋服(三五九萬圓)・綿糸(三二七萬圓)・指物(三一九萬圓)・防雨木材(二三〇萬圓)・製紙(二〇一萬圓)等あり、その外、産額百萬圓以上のものには菓子・小巾褌・グリース・賣藥・縫針・牛肉等を舉ぐべし。なほ本市の水産物中最も特色あるは三洲の沿岸淺海地帯を利用して養殖せらるる牡蠣と海苔にしてその産額約八十萬圓に達し、廣島牡蠣の名は天下に聞ゆ。商業また活潑にして會社總數七五五、商業會社四六三、工業會社二六三、運輸會社二九、拂込資本及び出資額一億三千五百萬圓に達す。その商團は縣下の大部分より廣南島嶼部・島根縣石見國及び山口縣周防國の大半をばじめ、西は北九州一圓、東は阪神地方一帯に及び、特に市の特産たる織針・織詰・製綿・清酒・塗染・織物・機械工具・人造絹糸・佛壇等は濠洲・朝鮮並に北海道とも取引せらる。移出入品中の主なるものは飲食物及煙草・金屬及製品・礦物及製品・油脂及蠟・穀物及種子・木竹藤及製品・藥品及染料・衣類履物及附屬品・布帛及製品等に於て總額一億四千八百萬圓(内移入八五九七萬圓)に近し。また大正九年以來内國船にして外國貿易に従事する船舶の廣島港(宇品港)に出入することを許可せられしより大連及び朝鮮を經由する滿洲・天津・青島・上海その他の輸出入貨物は漸次増加し、概算輸出約五百萬圓、輸入約二百萬圓に上るに到り。(交通)國道(山陽道)は東方府中市より、市の中部繁華街を横ぎりて西方五日市に出て、四條の驛道はいづれもこれと交りて南北に通じ、市道も延長約六七七に達し、國道・縣道を初め市道の主要部は鋪裝せられ車馬の往來便利なり。鐵道には省線山陽本線は市の北邊を東西に走りて廣島・横川・已斐の三驛(廣島は明治廿七年、他は同廿年設置)を置き、吳線は廣島驛より海田市驛に至りて分岐し、宇品線・藝備線また廣島驛より起り、前者は宇品

港に至りその間に安藝安宕・大須口・東段原・女子商業前・兵器支廠前・被服支廠前・大河・丹那・宇品の九驛を設け、後者は市内に矢賀驛(昭和四年設置)を置き、三條川・可愛川筋に沿ひて東北に走り備後の三次・庄原・西城・東城等を過ぎ備中に出て伯備線新見驛に達り、可部線は横川驛より起り安佐郡可部町を経て安藝飯室驛に及び、社線廣島瓦新電軌の宮島線(電車)は已斐町の西廣島驛を起點として、省線山陽本線宮島驛前の電車宮島驛に至る。また市内電車軌道には廣島・已斐兩驛を繋ぐ本線、紙屋町・御幸橋間の西塔線、御幸橋・宇品間の宇品線、八丁堀・白鳥間の白鳥線、左官町・横川驛間の横川線の五線あり、そのほかに廣島聯合自動車自動車は市内路面を八線に分ちて運行し、更に廣島驛より横川驛を経て遠く島根縣濱田町に通ずる省管廣濱自動車線ありて市内外の交通は頗る便利なり。次に海上は、廣島港(宇品港)が軍事上の重要港たる外、愛媛縣今治及び高濱・三津濱への定期航路を有し、また吳・別府間、大阪・下關間の定期船の寄港地たり。(沿革)古くは五箇荘とよばれし漁村なりしが、天正十七年毛利輝元この地を開墾して城郭を築き五重の天主閣を起し、吉田より移りて地名を廣島と改む。これより商業・工人また漸然として來り集り都下町として繁榮す。慶長五年關ヶ原の戦により毛利氏は割封せ

られて長州族に移され、福島正則ここに封ぜられて尾州清洲より入部し四十九萬八千石を食み、在城十八箇年餘に及びしが、大いに城郭を修築せしめ信濃に左遷せらる。元和五年淺野長政紀州和歌山よりここに移封され安藝國一圓と備後八郡の國守として四十二萬六千石を食み、子孫相承くること十二世二百五十餘年、以て明治維新に至る。明治四年廣島縣第一大區となり、同十一年郡區制施行に際し廣島區となる。次いで同二十二年市町村制實施の時始めて廣島市となり、同年かれて工事中なりし宇品港竣す。明治二十七年日清戦役の起るや、恰も山陽鐵道(今の山陽本線)は本市まで開通せる時なりしを以て宇品港は直に軍隊・軍需品の發送起點となり、明治天皇には長くも大本營を廣島本丸址に進めさせ給ひしかば市は皇軍統帥の中心となりて俄然活況を呈せり。次いで同三十三年の北清事變、同三十七八年の日露戦役、大正三年の歐洲大戰に伴ふ青島攻略戦、更に昭和七年の滿洲事變、同十二年の日支事變等屢次の戦役に當り皇軍輸送の要點となりしため商業は急激に發展を見るに至り、昭和四年四月己斐町・古田村・草津町・三條町・牛田村・矢賀村・仁保村の隣接町村を編入して現今の市域に擴がり、中國第一の大商工都市となれり。(廣島城址)市内北にあり。市の略中央に位置し、外濠は埋められ、中濠は一部を残存

し、内濠は完存して本丸址を繞る。いま第五師團司令部の正門となる舊城門を潜れば本丸址にして、西北隅に天主閣遺存す。城は一名銀城と呼ばれ、天正十七年毛利輝元の築營、二宮太郎右衛門を奉行とし、文祿二年竣工。慶長五年關ヶ原役後福島正則清洲より轉じて城主となりしが、元和五年淺野但馬守長政和歌山より入り、爾來子孫相繼ぎて明治維新に至り。明治四年熊本藩藩主の第一分營を城内に設け、同六年一月廣島藩を置き、同二十一年第五師團と改稱し現今に至る。天主閣は五層、前面に二層の階段室あり、昔時の渡櫓の一部を遺存せるものにて、左方に内部一部重層の附屬建物あり、いま國史たり。(弘文館)鹿島藩の藩廳。創立年代不詳。文化二年德讓館と命名、安政六年弘文館と改め、更に明治三年館造館と改稱。(明治二十七年戦役廣島大本營地)指定史蹟。明治二十七年戦役に際し、明治天皇大營を進め給ひ大本營を置かれし所なり。舊廣島本丸にあり、もと第五師團司令部たり。御駐營中の質素なる御調度品も亦共に保存さる。軍事にいそしみ給ひし天皇の御勳章を拜し奉るに足るものあり。(明治天皇廣島行在所)指定史蹟。舊行社内あり。明治天皇、山陽道御巡幸の際、明治十八年八月一日、御假泊あらせられし處なり。(明治天皇草津御小休所)指定史蹟。明治十八年、山陽道御巡幸の際、八月一日

に小泉其右衛門宅に御小休あらせらる。(頼山陽舊居)指定史蹟。國奉寺と道を取て北側にあり。頼山陽先生日本外史著述所宅址の石標、家前に建つ。山陽の外史の稿を起せし小室は舊蹟を存し、春水・梅岡・山陽・幸徳などの遺墨を藏す。(國奉寺の樓)指定天然記念物。國奉寺の境内共同墓地に北中東南の四株あり、樹齡三百餘年、樹勢雄大崇高、各の高さ三〇米、一七米、二八米、二〇米、周圍七・三米、四・八米、五・五米、四・一米なり。傳説に依るに、元和九年國奉寺の岡山僧社大和尚の植栽せしものと云ふ。(比治山公園)段原町にあり。比治山は一に臥虎山と呼ばれ、山高からざるも視野廣く、市街を望むに便なり。(善御便殿)比治山公園内にあり。明治二十七年戦役の際、西練兵場の一部に假議事堂を建て、第七議會を召集し給ひし際、明治天皇の御座所をここに移して、同四十二年、宮殿風の堂を造り、當時御使用の敷物・椅子・卓置を保存す。(泉部)上流川町にあり。元和五年淺野長政が入國し、翌年郡部を營み、代々の國守その庭池を擴張修理す。園庭は支那の西湖を模せしより斷崖園と名づけ、俗にお泉水と呼ぶ。(日清戦役死者記念碑)西練兵場の一隅にあり。明治二十七年戦役の戦死者七百二十六名のために明治三十三年建設せるものにして、碑身は砲彈に撞し、高さ一・一米あり。(徳津神社)縣

社。祭神、淺野長政。文化七年長政二百周年祭に當りその末孫從四位上育齋の創祀に係る。例祭、九月十五日。(白神神社)宇小町に鎮座。祭神、伊弉諾大神外二柱。この地も一帯の海に於て海中に一巖石あり、船舶の航路を妨ぐることを恐らざるを以て、巖上の樹に白紙をつけて船行を警む。のち小祠を建てて白紙明神と稱す。故に今も神體は岩上にあリといふ。毛利・淺野氏等崇敬し社領を寄す。例祭、陰曆九月九日。(東照宮)二葉ノ里に鎮座。村社。祭神徳川家康。安藝藩主淺野光長正保三年一社を長尾山麓に造營し、家康の靈を祀りしに創る。爾來歴代藩主の崇敬篤く、社領三百石を寄せらる。(國奉寺)小町にあり。曹洞宗。風來山。文祿三年毛利氏京都東福寺の西堂惠瓊をして本寺を創建せしむ。惠瓊、豊臣秀吉に龍用せられ征韓の役に秀吉に従ひて彼地に渡り、多くの良材を得て歸朝し講堂建立の資材となす。中興は福島正則にして、普照(正則弟)を請じて住せしむ。近世寺領四百石。(西福院)本町にあり。古義眞言宗。御室末。文祿三年陸奥國周遊の途、當地に留まるや毛利氏寺地を寄せて本寺を創製す。のち瑞明これを中興す。國寶、寶篋印陀羅尼經一卷(紺紙金泥)。(寶願寺)材木町にあり。淨土宗西山派。紫雲山。天正年間惠空の創建に係る。往時規模雄大なりといふ。今尙ほ市内三大伽藍の一と稱

せらる。〔廣島別院〕大手町六丁目にあ
り。寛宗大谷派。龍谷山明信院。天正九
年東本願寺十二世教如の開創に係る。萬
治二年故ありて松平光胤の破却する所と
なりしが、幾許もなくこれを再興し今日
に至る。〔廣島別院(佛護寺)〕寺町にあ
り。寛宗本願寺派。長祿年中正信の開創
に係る。正信はもと原田政信と稱し甲斐
國武田氏の一族たり。いま本別院に列
す。〔不動院(安國寺)〕牛田町にあり。
古義真言宗。新日山安國寺と號し御室末
たり。天平二年行基の草創にかかると傳
ふ。當初十二支坊を擁して寺觀莊嚴なり
き。降りて曆應二年足利尊氏の本願によ
りて諸堂を造建せしがその後廢す。空室
入寺して中興開山となる。天正年間豊臣
秀吉朝鮮征伐の時當寺に遷葬し、凱旋の
勲、彼地青山山より金堂・仁王門・鐘樓
の三字を此處に移建し、同十九年寺領一
萬五百石を寄せたりといふ。爾來福島・
淺野氏等累代領主の崇敬厚し。國寶、金
堂・藥師如來坐像(木造)一軀。〔報恩坊〕
寺町にあり。寛宗本願寺派。無降山。元
和元年の創建にして、はじめは眞言宗な
りしが、文明年中現宗に改む。〔明見院〕
大須賀町にあり。古義眞言宗。高月山大
日寺。御室末。藩内五箇寺の一に列せし
名刹。福島氏封討の時、伊豫石手寺榮鏡
を請じてこれを再興す。近世寺領、三百
石。

【廣島灣】瀬戸内海西部の北側の灣入に
て、瀨頭に當り廣島市發達す。瀨の西北
岸たる廣島市より二十日市を経て小方に
達する海岸は東北—西南の直線的の方向
を示し、後背には山地である。恰も廣島
市後背地方に發達する同一方向の新舊斷
層構造と一致し、三條川の河谷に延長せ
らるる一つの斷層海岸なり。また廣島市
より吳市に至る海岸は前者とは殆ど直交
し、前記斷層線に交る稍複雑なる斷層海
岸にて、その交點に當る位置に太田川注
入し、廣大なる三角洲平野を形成し、こ
こに廣島市の發達をみるなり。上記二方
向の斷層線により採まれし南部に廣島灣
が突入するも、灣内には多くの地塊殘さ
れ、巖島・似ノ島・江田島・西能美島・
東能美島・倉橋島・阿多田島・大黒島等
を形成し、その間には大野瀬戸・那沙美
瀬戸等の海峡が形成される。廣島灣沿岸は
多く花崗岩より形成され、白砂の清潔な
る砂濱が所々に發達す。また灣内に浮ぶ
多くの島嶼には松林よく保護せられ、静
水に影する白砂青松は瀬戸内海の代表的
風景を展開す。最もよく知らるるは巖島
なり。灣内には東方尾道、或は西國高濱
方面より船隻を運ぶ字に至る航路、
字品より廣島を経て柳井方面に至る航路
等あり。なほ灣内の島嶼全部と吳市後背
地塊、草津以波後背山地を合せて吳鎮守
府の要塞地帯に指定せらる。

【廣島電氣】社線。廣島市より巖島
參詣に便せしむる電車。市内線・宮島線
とより成る。市内線は本陣前より横川終
點に至る一三・四軒。宮島線は廣島市已
斐町の西廣島驛より佐伯郡大野村の電車
宮島驛に至る一六・一軒。電車宮島驛は
省線山陽本線宮島驛に近く、巖島町航路
に連絡す。軌間一・四三五米、省線と連
帯運輸。

【廣島村】香川縣讚岐國仲多度郡の北方
海上。鹽飽諸島中の廣島・手島・小手島
より成る。廣島は最大島にして東部に二
百餘米の山地南北に連り、北方は鹽鼻の
突出となる。西部にも三百餘米の山地端
端し、東西兩山地は隘路をなす。北部海
岸は概ね海崖をなすも南部海岸にはやや
廣き海岸平地あり。南方の羽節岩に燈標
設けらる。手島は廣島の西北方にあり、
北部に二百餘米の山地ありて兩山地間は
低地をなし、その東海岸に聚落發達す。
手島の西南に小手島あり、百米以下の丘
陵にして聚落發達す。島はすべて花崗岩
より成り廣島花崗岩としてその負負なる
を以て知らる。附近の海は魚族に富み、
廣島の南海岸は漁船の夜泊地となる。羽
節岩燈標は遠く白光、光達距離一〇哩。
【廣島郡】廣島村。富山縣越中
國東礪波郡の中界。福野町の南に隣り、
西北は西礪波郡と界す。地は礪波平野の
一部に位するを以て低平肥沃なり。小矢
部川西地を劃しつづ北流し、その支流東
南方より來り村の中部を西北流し何れも
灌溉に便す。主産業は農にして米産頗る

に道路通ずるも交通未だ便ならず。本村
の起原不詳なるも北奥蝦夷征伐により開
拓的なれど開拓の緒につけるものと思惟
す。關王山祖皇寺の傳に「田村將軍依東
夷征討之御願建立」とあることより推し
得らるる如し。吉野朝時代本村を語るも
の二、三殘れど不詳。青谷觀音境内に丈
餘の石碑ありて「(先守)延文六年(天長十
月二日)教旨」の切付あり。「高氏將軍之御
祈所」廣島山三寶院奥湯下當山」或は深、
五輪、正長元年法印南泉の墓石名等々よ
り、本村を語る何物かがある如くに思は
る。葛西氏の治下になりて區三ノ關關設、
菊池掃部・經石治兵衛・菊池右馬允なる
者各三ノ關・鴨澤・經石・歌書の諸館に
據れりとなすも時代の前後不詳。葛西氏
失地離散と命を同じうし残るものなし。
明治八年舊村歌書・經石・鴨澤・一團を
合し明治二十二年更に稻瀬村の内二團・
三團を合し一自治區となし現今に及ぶ。
【廣瀬村】宮城縣陸前國宮城郡の西南郡。
仙臺市の西北約一九軒。西北は山形縣、
南は名取郡に隣接す。奥羽山脈の東斜面
に位し、西北境には關山(五九四米)あ
り、東南方に傾斜し、廣瀬川は西北境に
發源して村のほぼ中部を東南に流る。東
部には稍平地あり。米・藁・木炭を産す。
作並街道は村の略ぼ中部を西北より東南
に通じ、西北方山形縣、東南方仙臺市に
至る。仙山線は村内に陸前落合驛・愛子
驛(以上昭和四年設置)・陸前白澤驛・熊

ヶ根驛・作並驛(以上昭和六年設置)を置
く。大字愛子は今、上愛子・下愛子に分
れる。下愛子の西館は徳川忠輝に歸せし伊
達政宗の女が忠輝の死後落飾して居りし
處と傳ふ。〔作並温泉〕廣瀬川の上流
谷に湧出す。泉質、無色透明の鹽類泉。
〔風鳴瀧〕大字作並にあり、廣瀬川の上流
にかかると。一に四十八瀧と稱す。高さ約
三〇米。

【廣瀬川】宮城縣の南部にある川。山形
縣境の面白山(二六四米)の東側斜面の
水を集めて東南流し、宮城縣廣瀬村の東
南部に於て北方より來る名取川を合せ、
作並街道に沿ひて東流し、仙臺市の中部
を蛇行しつづ東南流し名取川に注ぐ。流
程約四八軒。

【廣瀬村】山形縣羽前國東田川郡の西部。
鶴岡市の東南に接す。村の東南半部は丘
陵をなし、西北方に傾斜し、西北部は
庄内平野に屬して平坦なり。赤川は村の
西境を北流す。米・藁・を産し、牧畜行
はる。松岡養蠶場は良好の蠶種を産出す
ることに於て縣下に著名なり。道路には
村の中部を西南より東北に向ふもの及び
西方よりこれに合するものあり。西北方
羽越本線鶴岡驛及び東北方同線藤島驛へ
は各バスの便あり。本村の因幡塚と松岡
社の開墾事業は特筆すべきもの。前者は
最上家の時、新關因幡守久正、多蔵川の
水を引きて灌溉工事を企てしも成らず、
よつて元祿二年郡民再びこの遺謀を承け

百本の山岳ありて村の大部分は山地を成し、ただ東南に僅少の低地を見るのみ。...

【廣瀬村】 富山縣越中国西礪波郡の中部。福光町の西に隣り、西は石川縣に境す。...

【廣瀬村】 靜岡縣遠江國磐田郡の南部。二俣町と中泉町の略に中間に位置す。...

ひ、中央を安曇川東へ貫流し平地開く。概ね農業を主産業とし、米・麥を産す。...

【廣瀬山】 多里村(鳥取縣) 安曇町の西南方約六村に位し、西は八東郡に隣る。...

【廣瀬村】 岩手縣陸奥國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、...

近年北方平野と南方山地との中間的位置の挽回に努めつつあり。産業としては製紙・製糖・製油の加工工業と富田川の清水を利用せる酒造とが老實の町を若返らすべく一道の光明にて、また本市は有名なり。...

【廣瀬村】 富山縣越中国西礪波郡の中部。福光町の西に隣り、西は石川縣に境す。...

【廣瀬村】 靜岡縣遠江國磐田郡の南部。二俣町と中泉町の略に中間に位置す。...

といふ。歴代領主の崇敬深く、祈願所、領内總社として奉祀せり。例祭、十月十五日。...

【廣瀬村】 富山縣越中国西礪波郡の中部。福光町の西に隣り、西は石川縣に境す。...

【廣瀬村】 岩手縣陸奥國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、...

○六六米、西境中央に馬ヶ嶽(九八五米)、北端に城野山(八二六米)、中央兩部には水ノ尾山等聳立す。...

ヒロセー ヒロタ

【廣瀬村】 富山縣越中国西礪波郡の中部。福光町の西に隣り、西は石川縣に境す。...

ヒロセタテ

【廣瀬村】 富山縣越中国西礪波郡の中部。福光町の西南方約二村。西は石川縣に境す。...

ヒロタ

【廣瀬村】 富山縣越中国西礪波郡の中部。福光町の西南方約二村。西は石川縣に境す。...

【廣瀬村】 岩手縣陸奥國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、...

ヒロタ

【廣瀬村】 岩手縣陸奥國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、...

【廣瀬村】 岩手縣陸奥國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、...

ヒロタ

【廣瀬村】 岩手縣陸奥國氣仙郡の南端。本縣の最東南端に位し、北部は小友村に接し、...

蹟。大船渡、廣田兩湖の間に突出せる半島の南端、廣田湖に臨める丘陵南北の兩斜面にあり砂土を以て覆はる。層の厚さはほぼ二、三米に及ぶ。層中に石器、土器及び獸骨等を包含し、よく舊態を存す。

【廣田湖】 岩手・宮城兩縣に跨る大湖。北の廣田崎と南の御崎崎の間より西北方に穿入し、湖口約九軒、穿入約一二軒。湖頭に氣仙川注ぐ。湖内は屈曲に富み長部港・三日市港・船ノ澤港・泊港等幾多の良港を擁す。

【廣田崎】 岩手縣氣仙郡東南端の岬。南方の御崎崎と相對して廣田湖口を扼す。背後には大森山(一四七米)聳え、その山脚海に迫りて、南側は殆んど低海崖をなす。東南海上に青松島・栲島浮ぶ。

【廣田】 福島縣河沼郡日橋村の大字。省線磐越西線の廣田驛(明治三十二年設置)あり。

【廣田村】 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の西南部。和名抄、埼玉郡埼玉郷の内。忍町の東南方にして、騎西町との中間にある小村なり。全村平地にして農業行はれ米・蕎麥・麥を産す。縣道は忍町・騎西町及び北方羽生町等に通ず。

【廣田】 ↓北條村(新田縣刈羽郡) 【廣田村】 富山縣越中國上新川郡の北部。西南には新庄町を隔てて富山市あり。常願寺川・神通川の構成する扇狀地にして富山平野の核心部に當る。灌溉の便よく土地肥えて米を多産し、富山市に供給すに作り、和名抄に兼田郡廣郷郷と見ゆ。大字町には備後國府の惣社小野宮明神あり。

ヒロチ 廣地村

【ヒロチ 廣地村】 樺太真岡支廳真岡郡の南部。眞岡町の南隣にして、南は本斗町に接し、西は日本海に面す。東部は西樺太山脈が四―五百米の高嶺を以て南北に走り、西に向つて數條の支脈を出すを以て城內平地に乏しく、西流する廣地川、南泊川・大瀧川・多瀧川等の下流と海岸とに狭き低地あり。海岸は單調にして且つ岩礁多きも、多瀧泊・大瀧泊・廣地附近は各々小湖形をなして舟泊に適す。沿海平地には農業行はれ蕎麥・豆類、馬鈴薯等を産し、水産は鱈・鱒等多く、特に鱈漁は一時世界的の豐漁地として喧傳せられ、廣地はその中心を成し、また多瀧泊川には鮭・鱒漁上す。河岸に沿ひ膠鐵西海岸線及び西部鐵道線走り、前者に多瀧泊(大正九年開業)・城內(昭和十一年開業)・大瀧泊・廣地・明牛(以上大正九年開業)・湯ノ澤(昭和三年開業)の各驛あり。廣地は村の特色にして郵便局・産業組合・漁業組合等存す。その北約五軒に湯ノ澤温泉あり。多瀧泊にはアイヌ人の居住する者多し。(湯ノ澤温泉)湯ノ澤驛より約〇・一軒。含硫アルカリ性強弱泉。加熱浴用。各種神經痛・慢性リウマチス・皮膚病・婦人病等に效あり、白樺の樹林に囲まれし瀧源なる温泉場なり。

ヒロチ—ヒロノ

る蔬菜を栽培し、外に藥品を製す。富山市・新庄町に近接し交通便なり。この地は和名抄、新川郡石勢郷の内にして、東鑑、文治六年の條に「越中國弘田御厨、同加納」とあるは此地にして、三州志に「れば廣田郷と稱せし地なり」と。

【廣田】 愛知縣額田郡にありし村。明治四十一年幸田村と改稱。

【廣田】 攝津國(兵庫縣)の古地名。和名抄に武庫郡廣田郷あり。その地いまの西宮市に當る。日本書紀に神功皇后が天照大神の支御魂を祀り給ひし廣田國は即ちこの地にして、いま官幣大社廣田神社あり。

【廣田村】 兵庫縣淡路國三原郡の東部。鹽鶴羽山脈の北麓を占め、東南部は津名郡洲本町の西南部及び灘村に接し、其形やや西方へ彎曲せる馬蹄型を呈し南北に細長し。南半は鹽鶴羽山脈北斜面の山地にして、西端には其の山麓より一帯に續く山地あり。東北部に廣々平野開け、東南部に發する物部川は東部を流れ中央にて西に彎曲し、東北隅より加茂村に出で東方四軒餘にて洲本町より大坂驛に注ぐ。米・裸麥の産多く蔬菜・花卉・觀賞植物・食用農産・果實・小麥・蕎麥・大豆等の農産の外、鶏卵・蠶製品・瓦等の産出あり。四國街道北部を東北より西南に貫き之より一道路分れて西岸海町へ出で社線淡路鐵道は之と並行して走り、廣田驛(大正十一年設置)あり。紀淡海峽要地帯の一部

ヒロツ 廣津村

【ヒロツ 廣津村】 長野縣信濃國北安曇郡の西南部。犀川の左岸、池田町の東に隣接す。概ね高原狀山地をなし、犀川は東部を北流し東北部に於て金魚川を合するも、沿岸低地の發達著しからず、水利の便なる所に樹林狀に耕地開け、米・麥を産し、外に木材・木炭を出す。犀川及び金魚川に沿うて街道走ると交通便ならず。この地は和名抄、更級郡廣郷郷の内か。いま北山・大日向・宇賀賀の舊三箇村を合して本村をなす。村内に古城・大日向城山・大日向城・宇賀賀城・平城及び北山四郎・仁科義重等の古蹟あり。

ヒロト 廣戸村

【ヒロト 廣戸村】 福島縣岩代國岩瀬郡の東南部。東南には西白河郡矢吹町に接す。村の北部及び南部には東西に走る丘陵あり、廣戸川は中部を東流し沿岸には耕地拓け平坦なり。米・蕎麥・粟・粟・麥・大豆等を産す。道路は村の中部を西北より東南に通じ、西北方長沼町、東北方須賀川町へはバスの便あり。この地は大屋村・教本村と共に和名抄、磐瀨郡廣門郷の地にして、戦國時代に淺賀五郎左衛門より六代、この領主たりしが、天正十七年、郡主二階堂氏と共に亡ぶ。

ヒロト 廣戸村

【ヒロト 廣戸村】 岡山縣美作國勝田郡の西北端。北より西北一帯は露谷によりて苦田郡に界し、東北部は東北方への先鋒は鳥取縣八頭郡野頭町に接す。東北部の南境には瀧山(一九七米)等の東北より西南に連なる山脈あり、更に西南

に屬す。古くは廣田郷と云ひ、和名抄に三原郡廣田郷と見ゆ。大字鮎屋に鮎屋遺あり、高さ一四米、幅二米、淡路第一と稱せらる。大字山崎の山添梅林は約百戸の農家の栽培になるもの。大字廣田に天明義民碑あり、重敵に苦しむ農民を救はんとして遂に刑死せる義民才藏の徳碑なり。(八幡神社) 大字廣田に鎮座。郷社。祭神、磐田別命・八重事代主命・神功皇后。古來廣田郷十四ヶ村の産土神にして、別當を大宮寺と云へり。社地は祇園山の麓に在りて老松繁茂す。例祭、三月十五日。

【廣田】 因幡國(鳥取郡)の古地名。和名抄に豆濱郡廣田郷あり、その地今の岩美郡東村・田後村の邊に當る。

【廣田村】 愛媛縣伊豫國伊豫郡の東南部。砥部町の南に接し、西は中山町に界し、西南は喜多郡に、南より東は上浮穴郡に隣る。四圍は山岳によつて圍まれ、東境には三浦ノ辻(九三二米)、西北境には階上山(八九九米)、村内西南部にはコクノ峯(八二五米)等の屹立するありて地形高峻にして平地を稱すべきものなし。山林面積廣く耕地乏しけれども米・蕎麥の産あり。北方松山市へ縣道及びバス通ず。

【廣田】 長崎縣東彼杵郡にありし村。昭和二年本村及び早岐町を廢し、更に早岐町を置く。 【廣田】 大隅國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に桑原郡廣田郷あり、その地は今の

ヒロトモ 廣伴

【ヒロトモ 廣伴】 陸奥國(前南宮城縣)の古地名。和名抄に伊具郡廣伴郷あり、その地今の伊具郡角田町の邊に當る。 【廣伴】 駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に安倍郡廣伴郷あり、比呂止毛と訓す。その地今の静岡市の邊か。 【廣伴】 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に吉敷郡廣伴郷あり、その地今の吉敷郡小郡町の邊に當るか。

ヒロノ 廣野

【ヒロノ 廣野】 山形縣羽前國東田川郡の西北部。酒田市の南方約八軒。西は赤川を隔て西田川郡に接す。庄内平野の西部に位し、赤川は西端を、東田川は東端を各北流し、全村平坦なり。米の産最も多く蕎麥も産す。北方の酒田市と東方の羽越本線全日驛へバスの便あり。里傳に、此地に往時國府を置かれしが、嘉祥三年の大地震、天保四年の地震に大害を受けしと。今も此地に土中より種々のものを出土すと。 【廣野村】 福島縣磐城國安達郡の南部。

ヒロタニ 廣谷

【ヒロタニ 廣谷】 兵庫縣但馬國美父郡の中央南部。南部は朝來郡に接し、東南方約二軒に和山町あり。北は僅かに八鹿町の東南隅に接す。全村山地をなし南境は八五五米の高さを有す。西方より来る河川は西部にて南方より来る河川を合し、稻津川となりて北部を東北流し、東北方約七軒にて圓山川に合す。沿岸に稍々低地開く。農産物中、蕎麥の産最も多く、米はこれに次ぎ、蔬菜・花卉・食用農産・大麥・果實・小麥・製茶・樺皮・蕪荊芋・果樹苗等の農産のほか、調味料・木製品・蠶糸・鶏卵・瓦・双物・蠶製品・水産農産等の産あり。河谷に沿ひ北部に縣道東西に走り一道路分れて南方へ通じ、省線山陽線の八鹿驛(北方約三軒)に近し。和名抄に美父郡都郷とあるはこの地なるべし。大字稻津は丹波氏氏目下部都郷氏流の稻津氏の居りし處。昭和二年町制施行。

【廣谷村】 廣島縣備後國廣島郡の中部。府中町の東に隣る。山地の傾斜地をなし北部及び西北部に高し。南部は南方を東南流する廣田川流域小平野の北端の低地にて耕地發達す。工業類最も多く農産これに次ぎ、養蠶盛にて、外に養蚕・林産あり。西南部は府中町市街地に接し、産あり。西南方へ走る縣道通過してバス往來し省線福鹽南線(電車)南境を掠めて過ぎ鶴岡驛(大正三年設置)あり。古くは廣島郡

始良郡加治木町の邊に當る。 【廣谷町】 兵庫縣但馬國美父郡の中央南部。南部は朝來郡に接し、東南方約二軒に和山町あり。北は僅かに八鹿町の東南隅に接す。全村山地をなし南境は八五五米の高さを有す。西方より来る河川は西部にて南方より来る河川を合し、稻津川となりて北部を東北流し、東北方約七軒にて圓山川に合す。沿岸に稍々低地開く。農産物中、蕎麥の産最も多く、米はこれに次ぎ、蔬菜・花卉・食用農産・大麥・果實・小麥・製茶・樺皮・蕪荊芋・果樹苗等の農産のほか、調味料・木製品・蠶糸・鶏卵・瓦・双物・蠶製品・水産農産等の産あり。河谷に沿ひ北部に縣道東西に走り一道路分れて南方へ通じ、省線山陽線の八鹿驛(北方約三軒)に近し。和名抄に美父郡都郷とあるはこの地なるべし。大字稻津は丹波氏氏目下部都郷氏流の稻津氏の居りし處。昭和二年町制施行。

久之濱町の北方約八軒

久之濱町の北方約八軒。東は太平洋に面し、西は石城郡に接す。阿武隈山地の東斜面に屬し、西部には五社山(六八五米)あり、東方に傾斜し、淺見川は村の中部を東流し太平洋に注ぐ。海岸は山地迫りて斷崖をなせり。米・蕎麥・木炭を産す。陸前濱街道は村の東部を南北に通ず。西方折木温泉へはバスの便あり。常磐線廣野驛(明治三十一年設置)を置く。この地は和名抄、磐城郡白田郷の内にして、大字淺見川には高倉山城址あり、岩城氏の族墓、猪狩流後守隆清、文明中ここに居り、慶長年中に至りて子孫離散す。明治戊辰の役に激戦のありし地なり。(稲葉八幡神社) 大字北道に鎮座。郷社。祭神、磐田別命。天喜四年、源頼義命を奉じて奥羽六郡の長、安倍頼時を征するに當り子義家密かに石清水八幡の分靈を奉じ來り當郡の檢案夕峰に勧請せしに始まる。例祭、九月十九日。(成徳寺) 大字折木にあり。淨土宗。和興山。元徳二年、如来寺良山の高弟良天の開創に係る。のち一時廢絶せしが、邑主大塚氏寺址に一寺を再興し、良漸また堂宇を重建せしが、舊觀に及ばず。 【廣野】 兵庫縣有馬郡貴志村の大字。省線福知山線の廣野驛(明治三十二年設置)を置く。 【廣野村】 岡山縣美作國勝田郡の中央西部。津山市の東方約三軒にありて加茂川東岸に沿ふ。中部・北部及び東南部に丘

廣あり。その間に低地開け西端に加茂川南流して流域の平野や大なり。南部には西流する加茂川支流あり、西幹流西に於て本流に合す。米・麥・蕎麥を産し酒類・生柿の特産あり。西部に縣道走り省線新線高野驛(西南二軒倉)へバスあり。古くは廣野郷に作り、和名抄に勝田郡廣野郷と見ゆ。

ヒロハタ 廣畑村

無本縣肥後國他託郡の東部。無本市の東北に接す。全村臺地をなし東北部に僅かに高し。農業を主業とし總戸數四三八戸中、約八割は農家にて畑地廣く約五五〇町あり、水田は約二三町にして山林は九〇町なり。主要産物は麥・粟・大豆・甘藷・米等なり。省線肥後國他託郡口は、西方約一軒にあり。村名はこの地畑多きを以つてかく名づけしものといふ。

ヒロハタ 廣橋

山形縣羽前國南置賜郡の中部。米澤市の西北に接し、北は東置賜郡に接す。村の西半部は山地をなすも、東半部は米澤盆地に屬して地形平坦なり。鬼面川は村の東南部を東北に流る。米・蕎麥を産す。道路は村の中部を南北に通じ、北方小松町、南方米澤市へはバスの便あり。米坂線西米澤驛へは南方約一軒。(一宮神社)大字上小菅に鎮座。神社。祭神、倉稻魂神・河邊突知命・城山姫命。元明天皇の和和三年、國司大野安廣、飽海郡小物忌神社の分靈を遷して創祀、のち四條

ヒロヤス 廣安村

無本縣肥後國上益城郡の西北部。西北隅は無本市東北隅に僅に接觸し、東は本山町に隣り、北は他託郡小山戸島村に界す。北半は高野約五〇米の臺地をなし、南半は平野開け中央を杉原川西流す。農業を主産とし、米・麥・粟・甘藷等を産し、西瓜の特産物あり。中部に縣道横斷しバスの往來あり。西端より順に東へ、廣崎・古岡・福富・地領・馬水・安永の六部落あり。西端廣崎、東端安永の頭文字を取りて廣安村と名づけしものといふ。

ヒロヤマ 廣山

播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に播磨郡廣山郷あり、その地今の播磨郡豊田村の邊に當る。
【廣山】美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に美多郡廣井郷あり、廣井は廣山の誤なり。その地いまの美田郡栗原村の邊に當る。
【廣山】豊前國(大分縣)の古地名。和名抄に宇佐郡廣山郷あり、その地今の宇佐郡長峯村・天津村の邊に當る。

ヒロヤマダ 廣山田村

秋田縣羽後國南秋田郡の南部。秋田市の東南に接し東南及び南は河邊郡に接す。地勢東北部に稍高く西南方に傾斜し、西南部また高きも、中央部は秋田平野に屬して平坦なり。大平川は東南端をなすつて西流す。米・野菜等を産す。富村及び上新城村・外旭川村・秋田市に跨りて旭川嶺山(石

天皇の曆仁元年、出羽國領主大江時實再興す。伊達氏・上杉氏等の崇敬また厚かりき。例祭、陰曆六月十三日・八月十三日。(八幡神社)大字成島に鎮座。神社。祭神、譽田別命。創建につきて諸説あれど、大江親秀の創建に係るもの如し。のち伊達氏の崇敬厚く、上杉氏の領土となるや、社領二十石を寄進せられ、上杉氏城下の軍神と仰がる。例祭、陰曆四月十五日・八月十五日。

ヒロハタ 廣原村

宮城縣陸前國加美郡の東北部。中新田町の北に隣り、東北は玉造郡に接す。北境を國見山(六五四米)の連嶺東西に走り、その一山肢西境を劃しつつ南走す。夫等の嶺は緩やかに東南の方向に傾斜し、東南部は沖積平地を成す。多田川は西北部山地に發源し村の中部を東南流す。また田川の一支流は同じく西北部山地に發源して南流す。住民は農業を主とし、米を多産する外、蕎麥・粟を出す。また若干の林産あり。縣道中新田町より東り北方玉造郡岩出山町方面に通ず。中新田町には社領仙臺鐵道の鳴瀧川・加美中新田の二驛あり。此地は和名抄、色麻郡相模郡の地に於て、大字狼塚に狼塚城あり、里見氏の居城か。

ヒロアチ 廣瀨村

宮城縣陸前國陸前野の西部。石巻市の西北約一〇軒。陸前野の東南部を占め、大谷地低地帯に屬し、西部に稍丘陵地ある外概れ平坦なり。米・蕎麥・粟・馬等を産す。石巻街道は村の中部を西北より東南に通じ、西北

ヒロヤス 廣安村

重要嶺山にして昭和十年には原油二〇、五八三軒、原油一三軒、瓦斯五、三〇九軒を産す。省線奥羽本線秋田驛へは西方約二軒。バスの便あり。もと廣原・楡山・柳田の三村なりしが、合併して各々その一字を取りて廣山田村と名づく。

ヒロヤ 日和村

鳥取縣石見國邑智郡の西南部。那賀郡今市村の東北方約八軒にあり。四周山を繞らし、中央に盆地あり。即ち東境には京太郎山(八二七米)、西南境には松原山(日野城山、七一三米)等の山地聳えて、峰々七〇〇—八〇〇米の山地周圍を遊り、崎或は山嶺を越えて隣村と交通す。中央の小盆地に耕地あり。米・蕎麥を産し、また林産・畜産・工業あり。北隣の川越村に出づれば省線三江線石見川越驛(北方約一・五軒)あり。(千疊溪)指定名勝。本村及び市山村に跨る。一に千丈溪とも記され、江川の支流八戸川に合流する日和川が石英粗面岩を貫穿して長さ五軒に亘る峽谷をなせるものなり。石英粗面岩はその質堅硬、且つ板状及び方状の節理に富み、これ等の節理に沿うて瀑布の懸るもの多く、瀑下に深潭を湛へ、全溪殆んど瀑布と潭潭との連鎖より成るをこの溪谷の特色とす。溪中二十四階と稱するものあり。うち紅葉潭は水量豊富、岩壁奇峭、楓樹滿溪を歴し、白藤瀧は溪中第一の瀑布にて、幅上部八米、下部二米、直下數十米なり。

合併さる。
【廣橋村】岐阜縣美濃國妻老郡の東部。高田町の南に接し、西方には南北に連りて聳ゆる美老山脈の諸峰を窺み、全村地形低平にして北境には小河東流し、東方約二軒にて揖斐川に合す。全村沃野拓けて米産多し。社領參宮急行電鐵妻老驛・美濃高田驛(西北一軒倉)に近く自動車の便あり。

ヒロハラ 廣原村

宮城縣陸前國加美郡の東北部。中新田町の北に隣り、東北は玉造郡に接す。北境を國見山(六五四米)の連嶺東西に走り、その一山肢西境を劃しつつ南走す。夫等の嶺は緩やかに東南の方向に傾斜し、東南部は沖積平地を成す。多田川は西北部山地に發源し村の中部を東南流す。また田川の一支流は同じく西北部山地に發源して南流す。住民は農業を主とし、米を多産する外、蕎麥・粟を出す。また若干の林産あり。縣道中新田町より東り北方玉造郡岩出山町方面に通ず。中新田町には社領仙臺鐵道の鳴瀧川・加美中新田の二驛あり。此地は和名抄、色麻郡相模郡の地に於て、大字狼塚に狼塚城あり、里見氏の居城か。

ヒロアチ 廣瀨村

宮城縣陸前國陸前野の西部。石巻市の西北約一〇軒。陸前野の東南部を占め、大谷地低地帯に屬し、西部に稍丘陵地ある外概れ平坦なり。米・蕎麥・粟・馬等を産す。石巻街道は村の中部を西北より東南に通じ、西北

ヒロヤ 比和町

廣島縣備後國比婆郡の北部。庄原町の北方約六軒に位し、北は鳥取縣仁多郡に接す。東北境鳥取縣界には鳥帽子山(二二五米)聳え、村内全部山地にて、四周は高峰並びて中央に向ひて下り、北境に發する日和川南に流れて溪谷をなす。この川は南方約八軒に至りて江戸川支流西川川に合す。米・蕎麥・木炭・林産・牛馬・水産等あり。河谷に沿ひ縣道走り南方庄原町へ自動車を通じ、又途中より東方西城町に至る道路ありて自動車の便あり。此地を以て伊弉册を奉る比婆山に擬する説あるも如何にや。出雲には別に比婆山あり、尊の御成なりと傳ふ。昭和八年町制を布く。

ヒロヤ 琵琶

長野縣下高井郡)【琵琶湖】滋賀縣にある本邦第一の大湖。古來その形状琵琶に似たるを以て琵琶湖と名づけたりと云ひ、また淡海と呼ばれ今に近江の名を残す。本州島の最狭部に横はり、湖面は海拔八六・三米、湖岸線の延長二三五・二軒にして、面積は内湖を除き六七四・八方軒、東西のシュネートが湖より稍大なり。その幅は異なるも平均一〇・八軒、最狭部は東岸の野洲川アルタとその對岸原田のある野洲川アルタとの間に七二〇米あり。湖岸線は概して卑調なれど、湖首には内陸に深く侵入する瀧谷の瀧を有し、また東岸の南部及び西岸の中部に於ては注入河川によ

方石巻嶺前谷地帯へはバスの便あり。本村は明治二十九年深谷村を分割し、廣瀨沼によりて廣瀨村と名づく。
【廣見町】岐阜縣美濃國可兒郡の北部。本曾川の一支可兒川に沿ひ、久々利・飯兩河は南より合流す。御嵩町の西方約三軒、今渡町の東に接す。東南部に低き丘陵ある外、土地概れ平坦にて水田・桑園開く。米・蕎麥を主産とし製糸業盛なる外、蠶の名産地なり。社領東美鐵道中央を東西に走り、學校前驛(昭和三年設置)・伏見日驛(大正九年設置)・省線太多線廣見驛(大正七年設置)は今渡町に置く。國道は北部を東西に貫通し、交通便して便なり。この地は和名抄、可兒郡大井郷の内なるべく、大正十三年町制を布く。
【廣見村】無本縣肥後國熊本郡の西北部。山鹿町の北方約六軒にあり、西は玉名郡の東北部に接す。東西兩部は山地にして即ち東部は東境に聳ゆる西岳(六四八米)の傾斜地なり。西部は周圍を山脈にて圍まれ、北境には竹ノ山(三九八米)、西境には三ツ尾山(四〇九米)、南境には赤嶽(三六一米)そびえ、中央に谷をつくる。東・西兩山地の間に菊池川支流南へ貫流し沿岸に低地開く。農業を主産とし、米・麥・粟・蕎麥等を産し、特産物に萩・木炭あり。中央河谷に沿ひて國道通じバス往來す。もと乎生・四丁の二村なりしが、明治二十二年合併して廣見村と名づく。

湖底一般、特に深底区域を占むるものは...

湖の水は大體湖の長さに沿ひ上流より...

酸性に傾き、冬季環流期に全層が同温となる...

この湖は偏前・美作・備中と共に古の吉備國をなすものにて、天武天皇の朝、吉備國の西境十二郡を以て本國を置く...

る櫻野のありし地なり。(備前温泉)...

ヒワサ 日和佐町 徳島縣阿波國海部郡の東部。太平洋に面し、半島の東北...

二百近くの湖を産み落して砂に埋め歸り...

ヒワジマ 枇杷島 新島縣刈羽郡にありし村。昭和三年始末町に入る。

ヒワタ 日和田町 福島縣岩代國安積郡の東北部。郡山市の北方約五新。東...

備後 備後國 山陽道八箇國の一。いま福山尾道・三原の三市、及び御調・世羅・深...

役後徳川氏は毛利氏の地を削り、本國を以て安藝の福島正則に加賜す。元和五年正則歿ありて改易さるるに及び、備後の八郡を割きて同じく廣島の淺野長晟に賜ひ、東郡六郡を以てこれを水野勝成に賜ひ、福山に居らしむ。長晟は寛永年間、その子長治を三次に分封せしが久しからずして嗣絶え、宗家に合す。福山はその後松平氏を経て寛永七年阿部正邦が封を受け、十萬石(後十一萬石)を領して明治維新に至る。明治四年七月一般廢藩置縣の際はこの國は福山縣及び廣島縣の治下でありき。然るに同年十一月福山縣を廢して深津縣を置き、翌五年六月にはこれを備中國小田郡の笠岡に移して小田縣と稱し、更に明治八年十二月にはこれを同山縣に合併し、ここに備後國の一部は同山縣の管下となる。明治九年四月に至り備後六郡を廣島縣の所管に移せしを以つて、備後一國は廣島縣の治下に入る。備後國は永らく十四郡を算せしが、明治三十一年四月尾道市が御調郡の中より獨立し、同年十月深津・安郡二郡を併せて深安郡とし、重田・品治二郡を合して重品郡とし、三次・三郷二郡を合して雙三郡とし、奴可・三上・惠蘇の三郡を合して比婆郡とし、以て今日の如くに九郡となる。大正五年七月、福山市が深安郡の中より獨立し、昭和十一年十一月には三原市が御調郡の内より獨立し、以て今日の形勢となる。

【備後瀨】 瀬戸内海の一部の稱。備後國の沖を指し、南は備後津に續き、東は備後諸島・三脚を限り、西は藝予島嶼群に至る。↓瀬戸内海

【備後赤坂】 省線山陽本線の一驛(大正五年設置)。廣島縣沼隈郡赤坂村にあり。

【備後落合】 省線庄原線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣比婆郡美古登村にあり。

【備後備野】 省線庄原線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣比婆郡美古登村にあり。

【備後西城】 省線庄原線の一驛(昭和九年設置)。廣島縣比婆郡西城村にあり。

【備後庄原】 省線庄原線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣比婆郡庄原町にあり。

【備後十日市】 省線庄原線の一驛(昭和五年設置)にして、備後鐵道の接続點。廣島縣雙三郡十日市町にあり。

【備後三川】 省線福鹽線の一驛。廣島縣世羅郡三川村大字伊尾にあり。昭和十三年七月設置。

【備後三日市】 省線庄原線の一驛(昭和五年設置)。廣島縣比婆郡山内東村三日市にあり。

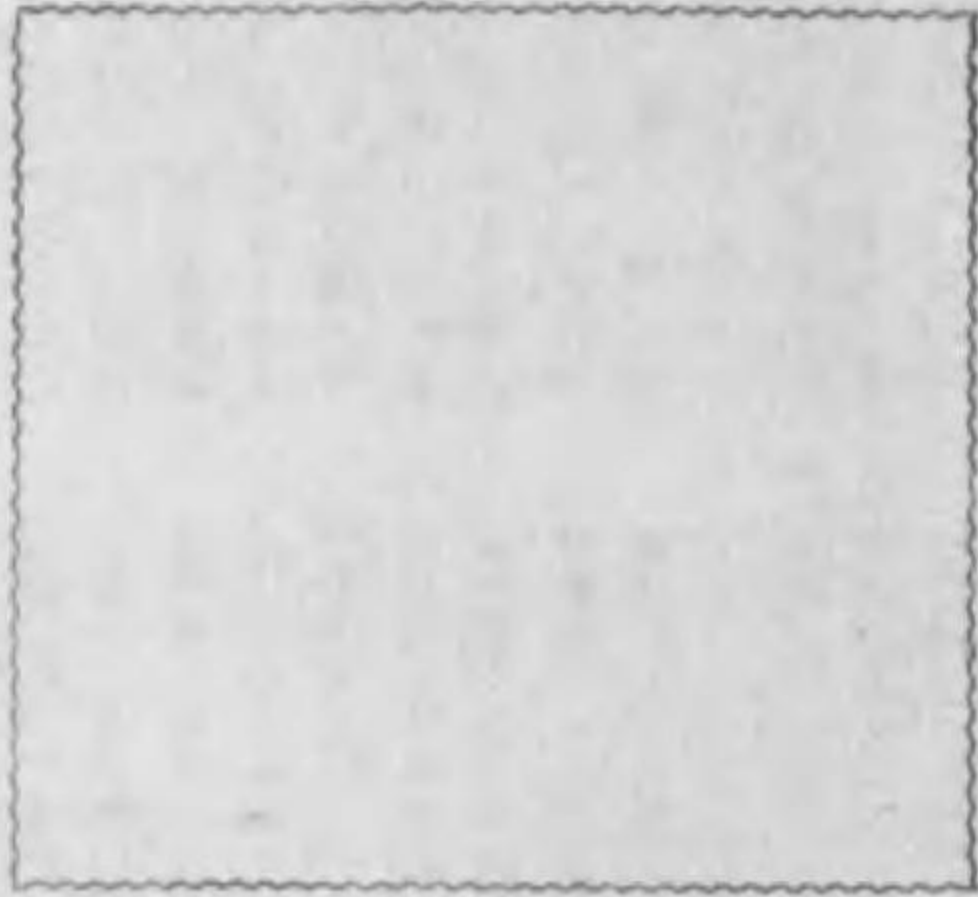
【備後安田】 省線福鹽北線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣雙三郡吉令町大字安田にあり。

【備後矢野】 省線福鹽線の一驛。廣島縣甲奴郡矢野村大字矢多田にあり。昭和十三年七月設置。

【備後八幡】 省線三津線の一驛(昭和十年設置)。廣島縣比婆郡八幡村にあり。

ヒンネシリ 敬音知 北海道北見國 枝幸郡中頓別村の大字。省線北見線の敬音知驛(大正五年設置)あり。

不許複製



昭和十三年十月十四日印 刷
昭和十三年十月十八日初版第一刷發行

【定價十二圓】

日本地名大辭典 第五卷

編輯者 澤田久雄
印刷者 君島源
發行所 日本書房
發賣元 株式會社 平凡社
共同印刷株式會社
王子製紙株式會社
村田文泉閣

740
9

終

